

Musashigaoka College
Department of Health Science
Nutrition /Sports Science /Management

SYLLABUS

2022

授業計画

武蔵丘短期大学

健康生活学科

健康栄養専攻／健康スポーツ専攻／健康マネジメント専攻

建学の精神

建学の精神

優れたプロは、優れた人格を有する。

身体で覚えた技術は、一生を貫く。

本学園は、戦後まもない昭和 22 年に市民の「衣」を充足すべく「武蔵野ドレスメーカー女子学院」を立ち上げ、その後「食」を教育する「武蔵野クッキングスクール」を設立した。時代の変化に合わせ、美から生活を豊かにするファッション教育、調理により食の文化を極める教育機関として社会へ貢献した。さらに、食から健康生活を指導できる栄養士養成機関を設立した。これに、運動・休養を加え人類普遍のテーマである「健康」を実践的に指導できる人材育成をめざして本学を開学した。

「衣食足りて礼節を知る」の言葉もある、学園の教育理念は優れた人格が育つことに重きをおいている。本学園創立者故後藤守正は、『本学の役割は社会に貢献できる人材の育成である』『学ぶ者一人ひとりに、感謝と和の気持ちを大切にすることを育てる』『人々の健康と幸せづくりに役立つための実践的に体得できる分かりやすい授業を行う』と述べている。

学園の教育理念には二つの柱がある。一つは前述したように「優れた人格を育てること」、もう一つは「実践的なわかりやすい教育を行うこと」、『体感、体験、体得』をモットーとした教育を行っている。

武蔵丘短期大学教育目標

武蔵丘短期大学 教育目標

本学は、人格教育、専門知識の習得、社会への貢献の基本理念のもと、次の目標達成を図る。

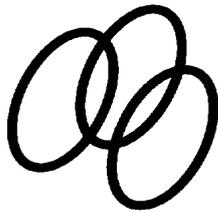
一、礼節を尊び、教養と情操豊かな人格を備えた人間性の養成

二、広い視野、深い思考力、豊かな表現力の養成

三、自分の進むべき道を切り拓く、自立心と創造力の養成

四、栄養と運動の両面から健康を支援する実践的指導者の育成

【校章】



緑豊かな環境に恵まれた武蔵丘短期大学。このマークは自然（グリーン）と本学（M）の調和を表し、そこで学ぶ若者たちへのメッセージとして、創造、勇気、慈愛という言葉をもつ3つのリングに託しているのです。本学はどんな時にでも健康生活のリーダーとして次世代を担う若者たちへ熱きエールを贈り続けているのです。

専攻別の教育目的・教育目標

本学 健康生活学科は、健康栄養専攻、健康スポーツ専攻と健康マネジメント専攻の3専攻から構成される。次に専攻別の教育目的・教育目標をあげる。

(1) 健康栄養専攻の教育目的・教育目標

① 教育目的

栄養士免許証、栄養教諭二種免許状の取得を主とした専攻として専門教科の充実を図り、健康生活を支援する実践的指導者を育成する。

② 教育目標

- 健康な体と心を食から支える力を養う
- 実験・実習で実践力・行動力を養う
- 栄養の幅広い知識やスキルを身につけ、スポーツや健康について学ぶ

(2) 健康スポーツ専攻の教育目的・教育目標

① 教育目的

スポーツ文化の享受・伝承者として、正しい知識・技能を修得させ、健康生活を支える実践的指導者を育成する。

② 教育目標

- スポーツで心身を鍛え、社会に貢献する
- 健康づくりの実践的指導者を目指す
- 運動を安全に、楽しく継続するための手法を身につける

(3) 健康マネジメント専攻の教育目的・教育目標

① 教育目的

食生活、運動、心の豊かさに基づいた健康生活を総合的にささえる力を養成し、実社会で活躍できる人材を育てる。

② 教育目標

- 食生活、運動、心の豊かさに基づいた健康生活の知識・技術を広く修得し、社会で活躍できる人材を養う。
- 社会をささえる職業人として、地域・産業界に貢献する意欲を養う。

武蔵丘短期大学 3つの方針（ポリシー）

◆ ディプロマポリシー（学位授与の方針）

健康生活学科

本学は建学の精神、教育理念に基づき、学位授与の方針を定めている。学則に明記された卒業要件を満たした以下の者に学位を授与する。

礼節を尊び、高い教養と情操豊かな人格を有した慈愛あふれる社会人となる資質を備えている者。

自ら学ぶ積極性と探究心を育みつつ、広い視野と深い思考力を身につけ、栄養科学と運動スポーツ科学の理論を基礎とした健康生活のあり方を学習し、社会に貢献できる実践力を身につけた者。

健康栄養専攻

様々な現場に対応できる栄養の専門知識・技術を身につけ、さらにスポーツに関する基礎知識を加えた総合的な健康管理の指導技術を修得している。

健康スポーツ専攻

運動スポーツ科学・栄養科学に基づき、運動を安全に効果的に楽しく継続するための幅広い知識と技能を修得し、健康づくりの実践的指導者となる能力を有している。

健康マネジメント専攻

食生活、運動、心の豊かさに基づいた健康生活を総合的にささえる知識と技術を修得し、実社会で役立つ能力を有している。

◆ カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

健康生活学科

本学は、自ら学ぶ積極性と探究心を持ち、豊かな人間性と社会性、充実したコミュニケーションスキルを有した、社会に貢献できる健康生活の実践的指導者を育成する。この目的のために、基礎教育科目等、共通専門教育科目及び専門教育科目を設置し、講義、演習、実験、実習、実技の授業形態を体系的に配置している。

基礎教育科目等を中心として、礼節を尊び、高い教養と情操豊かな人格を育み、現代に必要なコミュニケーションスキルを持ち、社会に貢献できる資質を培う。

共通専門科目で、栄養と運動・スポーツに関する理論を基礎とした健康生活のあり方を学習し、健康生活を科学する実践力を養う。

健康栄養専攻

専門科目を通して、高度で多彩な要求に対応できる栄養に関する専門知識・技術を育む。

健康スポーツ専攻

専門科目を通して、運動スポーツ科学に基づき、運動を安全に効果的に楽しく継続するための知識と技能を育む。

健康マネジメント専攻

専門科目を通して、食生活、運動、心の豊かさに基づいた健康生活を総合的にささえるための知識と技術を会得させ、実社会での実践力を育む。

◆ アドミッションポリシー（入学者に関する受け入れ方針）

健康生活学科

本学の求める学生像とは、これらの教育目標に向けて、何事にも全力投球できる人、目的意識の明確な人、そして何よりも本学において学びたいと強く希望している人です。

健康栄養専攻

栄養士資格を主として栄養の側面から、社会で即戦力として活躍したい人

健康スポーツ専攻

運動・スポーツの実践的指導の側面から、社会で即戦力として活躍したい人

健康マネジメント専攻

食生活、運動、心の豊かさに基づいた健康生活を総合的にささえ、社会で即戦力として活躍したい人

武蔵丘短期大学 学習成果

◆ 学習成果（Student Learning Outcomes）

本学の学習成果は、建学の精神である人格の育成を通して、自ら学ぶ積極性と探究心の涵養、学習意欲の向上、豊かな人間性の涵養を図り、各専攻での専門性を身につけ、実践的な指導者としての能力を身につけることである。

各専攻の学習成果は建学の精神にある人格教育に基づき定めた教育目的を達成できたかどうかである。以下に各専攻の学習成果を示す。

健康栄養専攻

食生活を中心として、健康生活を運動・スポーツを含めて総合的に支援する実践的指導者の能力を有することを学習成果とする。

健康スポーツ専攻

スポーツ文化の享受・伝承者として、正しい知識・技能を修得させ、健康生活を支える実践的指導者の能力を有することを学習成果とする。

健康マネジメント専攻

食生活、運動、心の豊かさから、健康生活を総合的にマネジメントできる力を養成し、社会人力起業力など実社会で役立つ能力を持った人材であることを学習成果とする。

授業科目及び開講年次配当表

シラバスについて

本学は、教育理念である「人格教育」→「専門知識の習得」→「社会への貢献」に基づき人材養成の目標を学則上に定めております。また、学生へのメッセージとして「創造」「勇気」「慈愛」の想いを込めた校章を公表しております。

こうした本学の基本方針及びカリキュラムポリシーを具現化していくために、各授業科目の内容を記したものがシラバス（授業計画）になります。学生は、各授業を履修するにあたり、ご活用ください。

◆アクティブ・ラーニングの要素を含む授業について

下記のアクティブ・ラーニングの要素を含む授業を行っている場合は、「授業形態」欄に「アクティブ・ラーニング」と記載されています。

- ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
- イ ディスカッション、ディベート
- ウ グループワーク
- エ プレゼンテーション
- オ 実習、フィールドワーク

◆実務家教員による授業科目

「担当教員名」の右端の欄に「**実**」と記載のある科目は、実務家教員による授業科目を表します。

◆科目ナンバーについて

科目ナンバーは、年度毎に付番するのではなく、原則として授業科目に固定したものと なります。ただし、授業科目の大きな再編等があった場合は、再付番することがあります。

科目ナンバー（例） **NSM** - **B 1 023**

① ② ③ ④

①…「開講されている専攻」を表します。

N：健康栄養専攻 S：健康スポーツ専攻 M：健康マネジメント専攻

②…「科目の種別」を表します。

B：基礎教育科目 S：専門教育科目 T：教職に関する専門教育科目

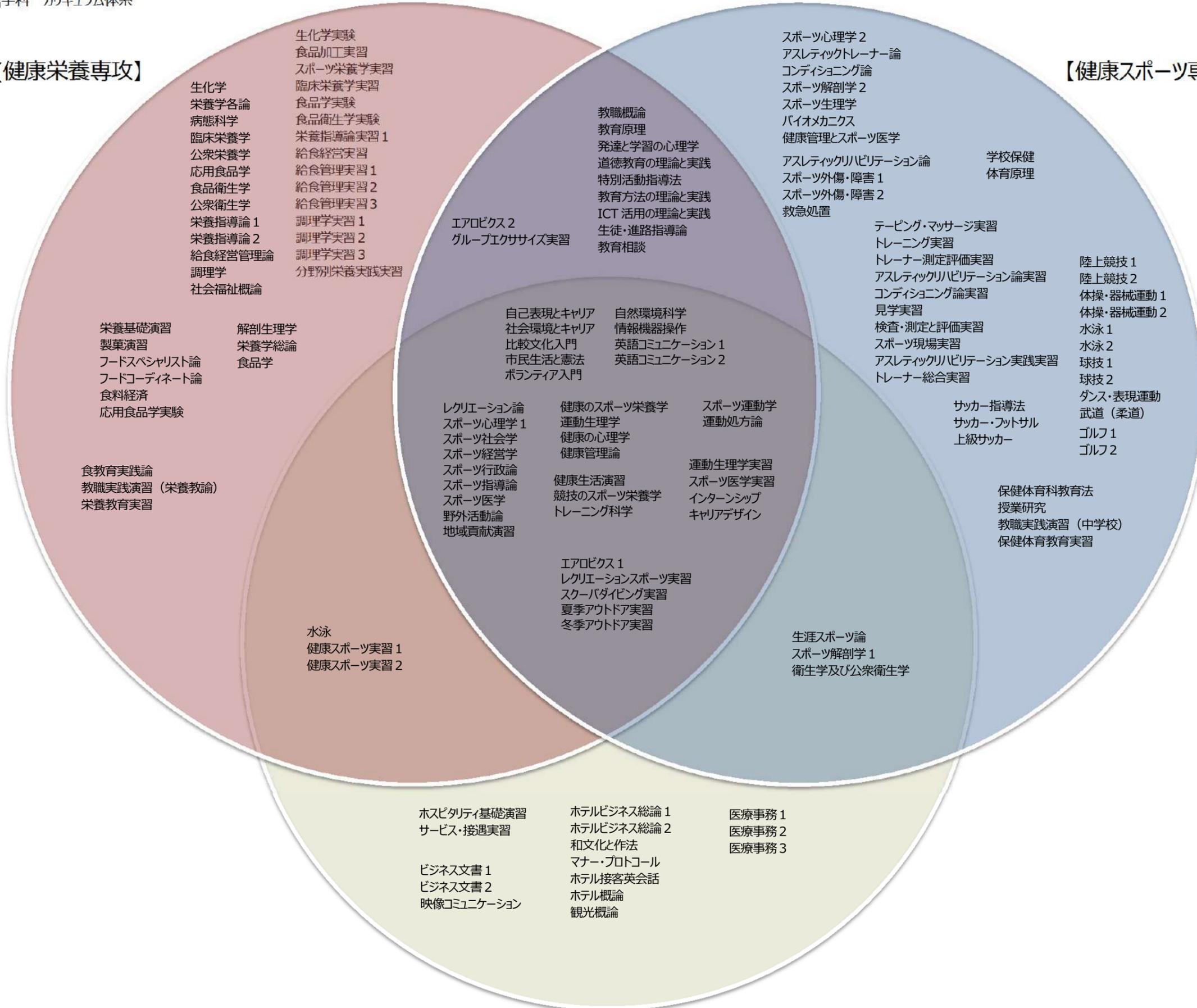
③…「科目のレベル・性格」を表します。

No.	レベル・性格	No.	レベル・性格
1	全学教育科目（英語 2 を除く）	5	発展的な演習・実習・実験・実技
2	基礎的な内容の科目、英語 2	6	健康生活演習
3	発展的な内容の科目	9	レベル分けが困難な科目 (インターンシップ、教育実習 等)
4	基礎的な演習・実習・実験・実技		

④…「分類番号（数字 3 桁）」通し番号を表します。

【健康栄養専攻】

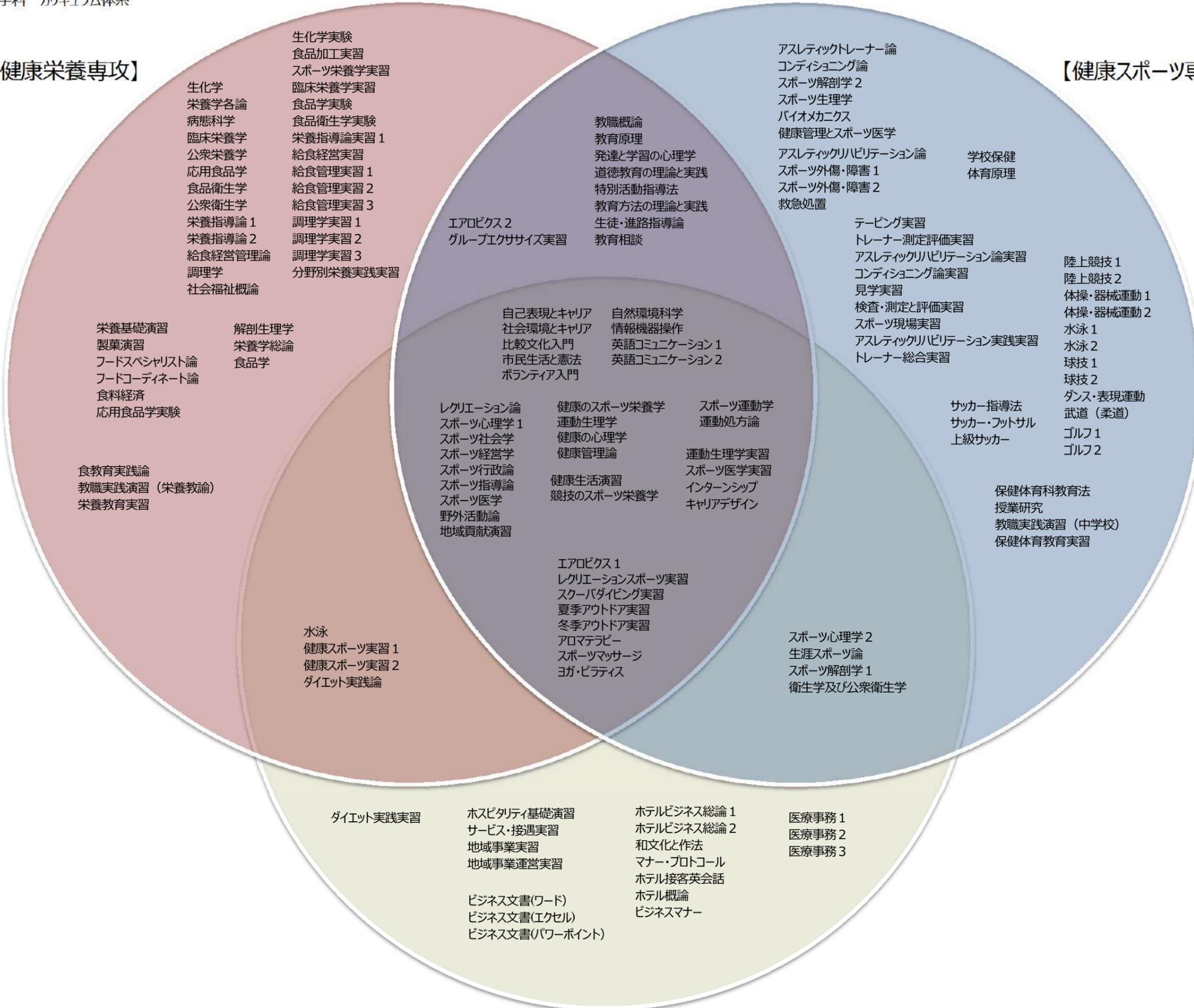
【健康スポーツ専攻】



【健康マネジメント専攻】

【健康栄養専攻】

【健康スポーツ専攻】



【健康マネジメント専攻】

授業科目及び開講年次配当表(令和4年度・2022年生)

1. 基礎教育科目等 (健康栄養専攻)

令和4年度・2022年生

区分	単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		栄養教諭 免許状	掲載 ページ	
					前学期	後学期	前学期	後学期			
基礎教育科目	人文	自己表現とキャリア	2	必修を含め 10単位以上	半期	2				29	
		比較文化入門			2	半期	2	2			30
	社会	社会環境とキャリア	2		半期		2				31
		市民生活と憲法			2	半期	2			○	33
		ボランティア入門			2	半期	2				34
	自然	自然環境科学			2	半期		2			35
		情報機器操作			2	半期		2		○	36
	外国語	英語コミュニケーション 1			2	半期		2		○	37
		英語コミュニケーション 2			2	半期			2		38
	合計		4		14						

卒業要件単位数

基礎教育科目合計	
健康栄養専攻	10単位以上
健康スポーツ専攻	10単位以上
健康マネジメント専攻	10単位以上
自己表現とキャリア	2単位
社会環境とキャリア	2単位
その他 人文・社会・自然・外国語から	6単位以上
保健体育科目	
健康栄養専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康スポーツ専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康マネジメント専攻	専門教育科目をもってふりかえる
専門教育科目合計	
健康栄養専攻	52単位以上
健康スポーツ専攻	52単位以上
健康マネジメント専攻	52単位以上
卒業要件単位数	
健康栄養専攻	62単位以上
健康スポーツ専攻	62単位以上
健康マネジメント専攻	62単位以上

2. 専門教育科目（健康栄養専攻）

令和4年度・2022年生

区分	授業科目の名称	単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		栄養士免許証	健康運動実践指導者	ピアヘルパー	GFI	フードスペシャリスト	健康管理士一般指導員	NR-ケアアドバイザー	スポーツ栄養士共通I II III	介護予防運動スペシャリスト	掲載ページ	
		必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期											
						前学期	後学期	前学期	後学期											
健康栄養専攻 専門教育科目	健康のスポーツ栄養学		2	3科目以上必修	半期		2			○	○		○						41	
	運動生理学		2		半期			2		○	○		○				○	○		42
	健康の心理学		2		半期	2							○			○				43
	健康管理論		2		半期			2			○			○					○	44
	健康生活演習	2			通年			2												45-62
	競技のスポーツ栄養学		2		半期				2											63
	スポーツ運動学		2		半期			2			○			○						64
	運動処方論		2		半期		2				○			○		○			○	65
	レクリエーション論		2		半期				2					○					○	66
	スポーツ心理学1		2		半期			2			○	○		○					○	67
	スポーツ社会学		2		半期			2											○	68
	スポーツ経営学		2		半期				2										○	69
	スポーツ行政論		2	半期				2										○	70	
	スポーツ指導論		2	半期				2										○	71	
	スポーツ医学		2	半期			2				○			○				○	72	
	地域貢献演習		1	集中			1												73	
	解剖生理学	*2		半期	2					○	○			○						74
	栄養学総論	*2		半期	2					○					○	○	○			75
	食品科学	*2		半期	2					○				○		○				76
	生化学	*2		半期		2				○										77
	栄養学各論	*2		半期		2				○				○	○					78
	病態科学(臨床栄養学、病理学含)	*2		半期		2				○					○					79
	臨床栄養学	*2		半期			2			○					○	○				80
	公衆栄養学	*2		半期				2		○										81
	応用食品学(加工学含)	*2		半期			2			○				○	○					82
	食品衛生学	*2		半期	2					○				○	○					83
	公衆衛生学	*2		半期			2			○					○	○				84
	栄養指導論	1	*2	半期		2				○										85
	給食経営管理論	*2		半期	2					○										86
	調理学	*2		半期	2					○				○						87
	生化学実験	1		半期				1		○										88
	食品加工実習	1		半期				1		○				○						89
	運動生理学実習	2		半期			2				○							○	○	110
	スポーツ栄養学実習	1		半期			1			○										90
	臨床栄養学実習	1		半期				1		○										91
	食品科学実験	1		半期	1					○				○						92
	食品衛生学実験	1		半期		1				○				○						93
	社会福祉概論	2		半期				2		○										94
	栄養指導論	2	2	半期			2			○										95
	栄養指導論実習	1		半期			1			○										96
	給食経営実習	1		半期			1			○										97
	給食管理実習1	1		半期			1			○										98
	給食管理実習2	1		半期			1			○										99
	給食管理実習3(校外実習)	1		集中			1			○										100
	調理学実習1	1	1	半期	1					○				○						101
調理学実習2	1	1	半期		1				○				○						102	
調理学実習3	1	1	半期		1				○				○						103	
分野別栄養実践実習	1		半期				1		○										104	
フードスペシャリスト論	2		半期	2									○						105	
食料経済	2		半期				2						○						106	
フードコーディネータ論	2		半期				2						○						107	
栄養基礎演習	1		半期	1															108	
製菓演習	1		集中				1												109	
インターンシップ	2		集中			2													186	
トレーニング科学	2		半期		2													○	127	
スポーツ医学実習	2		半期		2					○					○		○	○	111	
水	1		半期	1						○									112	
エアロビクス1	1	1	半期	1						○			◇						160	
エアロビクス2	1	1	半期				1						◇						161	
グループエクササイズ実習	1	1	半期		1								○						159	
健康スポーツ実習1	1	1	半期	1						○								○	113	
健康スポーツ実習2	1	1	半期		1					○									114	
スクーバダイビング実習	1		集中			1													188	
夏季アウトドア実習	1		集中	1															189	
冬季アウトドア実習	1		集中			1													190	
キャリアデザイン	2		半期			2													194	
計	3	102	52	各資格において ○=必修 △=選択 ◇=資格の種類により必修																

授業科目及び開講年次配当表(令和3年度・2021年生)

1. 基礎教育科目等 (健康栄養専攻)

令和3年度・2021年生

区分	単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		栄養教諭 免許状	掲載 ページ	
					前学期	後学期	前学期	後学期			
基礎 教育 科目	人文	自己表現とキャリア	2	必修を含め 10単位以上	半期	2				29	
		比較文化入門			2	半期	2	2			30
	社会	社会環境とキャリア	2		半期		2				31
		市民生活と憲法			2	半期	2			○	33
		ボランティア入門			2	半期	2				34
	自然	自然環境科学			2	半期	2	2			35
		情報機器操作			2	半期		2		○	36
	外国語	英語コミュニケーション 1			2	半期	2	2		○	37
		英語コミュニケーション 2			2	半期			2		38
	合計		4		14						

卒業要件単位数

基礎教育科目合計	
健康栄養専攻	10単位以上
健康スポーツ専攻	10単位以上
健康マネジメント専攻	10単位以上
自己表現とキャリア	2単位
社会環境とキャリア	2単位
その他 人文・社会・自然・外国語から	6単位以上
保健体育科目	
健康栄養専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康スポーツ専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康マネジメント専攻	専門教育科目をもってふりかえる
専門教育科目合計	
健康栄養専攻	52単位以上
健康スポーツ専攻	52単位以上
健康マネジメント専攻	52単位以上
卒業要件単位数	
健康栄養専攻	62単位以上
健康スポーツ専攻	62単位以上
健康マネジメント専攻	62単位以上

2. 専門教育科目（健康栄養専攻）

令和3年度・2021年生

区分	授業科目の名称	単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		栄養士免許証	健康運動実践指導者	ピアヘルパー	GFI	フードスペシャリスト	健康管理士一般指導員	NR・サブアルトアドバイザー	スポーツ栄養士共通I II III	介護予防運動スペシャリスト	掲載ページ	
		必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期											
								通年												
健康栄養専攻 専門教育科目	健康のスポーツ栄養学		2	3科目以上必修	半期			2		○	○		○						41	
	運動生理学		2		半期		2			○	○		○				○	○		42
	健康の心理学		2		半期	2						○				○				43
	健康管理論		2		半期			2			○		○			○			○	44
	健康生活演習	2			通年			2												45-62
	競技のスポーツ栄養学		2		半期				2											63
	スポーツ運動学		2		半期			2			○			○						64
	運動処方論		2		半期		2				○		○		○				○	65
	レクリエーション論		2		半期				2				○						○	66
	スポーツ心理学1		2		半期			2			○	○	○						○	67
	スポーツ社会学		2		半期			2											○	68
	スポーツ経営学		2		半期				2										○	69
	スポーツ行政論		2		半期				2										○	70
	スポーツ指導論		2	半期				2										○	71	
	スポーツ指医学		2	半期			2			○		○						○	72	
	地域貢献演習		1	集中		1													73	
	解剖生理学	*2		*印の科目から11科目22単位以上必修	半期	2				○	○		○							74
	栄養学総論	*2		半期	2					○				○	○	○				75
	食品学	*2		半期	2					○				○		○				76
	生化学	*2		半期	2					○										77
	栄養学各論	*2		半期		2				○				○	○					78
	病態科学(臨床栄養学、病理学含)	*2		半期		2				○				○						79
	臨床栄養学	*2		半期			2			○				○	○					80
	公衆栄養学	*2		半期				2		○										81
	応用食品学(加工学含)	*2		半期			2			○				○	○					82
	食品衛生学	*2		半期			2			○				○	○					83
	公衆衛生学	*2		半期	2					○				○		○				84
	栄養指導論1	*2		半期		2				○										85
	給食経営管理論	*2		半期	2					○										86
	調理学	*2		半期			2			○				○						87
	生化学実験	1		半期				1		○										88
	食品加工実習	1		半期				1		○				○						89
	運動生理学実習	2		半期			2			○								○	○	110
	スポーツ栄養学実習	1		半期			1			○										90
	臨床栄養学実習	1		半期				1		○										91
	食品学実験	1		半期	1					○				○						92
	食品衛生学実験	1		半期			1			○				○						93
	社会福祉概論	2		半期				2		○										94
	栄養指導論2	2		半期				2		○										95
	栄養指導論実習	1		半期				1		○										96
	給食経営実習	1		半期		1				○										97
	給食管理実習1	1		半期			1			○										98
	給食管理実習2	1		半期				1		○										99
	給食管理実習3(校外実習)	1		集中			1			○										100
	調理学実習1	1		半期	1					○				○						101
	調理学実習2	1		半期		1				○				○						102
	調理学実習3	1		半期			1			○				○						103
	分野別栄養実践実習	1		半期				1		○										104
フードスペシャリスト論	2		半期	2									○						105	
食料経済	2		半期				2						○						106	
フードコーディネーター論	2		半期				2						○						107	
栄養基礎演習	1		半期	1															108	
製菓演習	1		集中				1												109	
インターンシップ	2		集中			2													186	
スポーツ医学実習	2		半期			2			○					○			○	○	111	
水泳	1		半期	1					○										112	
エアロビクス1	1		半期	1					○				◇						160	
エアロビクス2	1		半期				1						◇						161	
グループエクササイズ実習	1		半期		1				○										159	
健康スポーツ実習1	1		半期	1					○									○	113	
健康スポーツ実習2	1		半期		1				○										114	
スクーバダイビング実習	1		集中	1															188	
夏季アウトドア実習	1		集中			1													189	
冬季アウトドア実習	1		集中		1														190	
アロマセラピー	2		集中				2												191	
スポーツマッサージ	2		半期				2												192	
ヨガ・ピラティス	2		半期				2												193	
キャリアデザイン	2		半期				2												194	
計	3	106	52	各資格において ○=必修 △=選択 ◇=資格の種類により必修																

授業科目及び開講年次配当表(令和4年度・2022年生)

1. 基礎教育科目等 (健康スポーツ専攻)

令和4年度・2022年生

区分			単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		教育職員 免許状	障がい者 初級スポーツ 指導者	掲載 ページ	
			必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期				
基礎 教育 科目	人文	自己表現とキャリア	2		必修を含め 10単位以上	半期	2						29	
		比較文化入門		2		半期	2	2						30
	社会	社会環境とキャリア	2			半期		2						32
		市民生活と憲法		2		半期	2				○			33
		ボランティア入門		2		半期	2					○		34
	自然	自然環境科学		2		半期		2						35
		情報機器操作		2		半期	2				○			36
	外国語	英語コミュニケーション 1		2		半期	2				○			37
		英語コミュニケーション 2		2		半期				2				38
	合計			4		14								

卒業要件単位数

基礎教育科目合計	
健康栄養専攻	10単位以上
健康スポーツ専攻	10単位以上
健康マネジメント専攻	10単位以上
自己表現とキャリア	2単位
社会環境とキャリア	2単位
その他 人文・社会・自然・外国語から	6単位以上
保健体育科目	
健康栄養専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康スポーツ専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康マネジメント専攻	専門教育科目をもってふりかえる
専門教育科目合計	
健康栄養専攻	52単位以上
健康スポーツ専攻	52単位以上
健康マネジメント専攻	52単位以上
卒業要件単位数	
健康栄養専攻	62単位以上
健康スポーツ専攻	62単位以上
健康マネジメント専攻	62単位以上

2. 専門教育科目（健康スポーツ専攻）

令和4年度・2022年生

区分	授業科目の名称	単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		教育職員免許状	健康運動実践指導者	ピアヘルパー	GFI	障がい者初級スポーツ指導者	スポーツ指導者等共通科目	アシスタントマネージャー	アスレティックトレーナー	レクリエーション・インストラクター	キャンプインストラクター	サッカー公認C級コーチ	スポーツインストラクター	子ども身体運動発達指導士	中高老年期運動指導士	介護予防運動スペシャリスト	掲載ページ			
		必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期																			
健康スポーツ専攻	健康のスポーツ栄養学		2	3科目以上必修	半期		2				○	○				○	○					○			41			
	運動生理学		2		半期	2					○	○		○			○	○					○			42		
	健康の心理学		2		半期	2						○															43	
	健康管理論		2		半期		2				○	○		○											○		44	
	健康生活演習	2			通年			2																			45-62	
	競技のスポーツ栄養学		2		半期				2										○								63	
	スポーツ運動学		2		半期		2				○	○		○									○				64	
	運動処方論		2		半期		2				△	○		○			○	○									65	
	レクリエーション論		2		半期		2					○		○		○	○	○		○				○			66	
	スポーツ心理学1		2		半期		2				△	○	○	○		○	○	○							○		67	
	スポーツ社会学		2		半期		2				△					○	○	○									68	
	スポーツ経営学		2		半期		2				△					○	○	○						○			69	
	スポーツ行政論		2		半期		2									○	○	○									70	
	スポーツ指導論		2		半期		2								○	○	○	○						○			71	
	スポーツ医学		2		半期		2				○	○		○		○	○	○						○	○	○	72	
	地域貢献演習	1			集中			1																			73	
	スポーツ心理学2		2		半期				2										○								115	
	野外活動論		2		半期			2												○							116	
	生涯スポーツ論		2		半期			2							○									○	○	○	117	
	運動生理学実習		2		半期		2					○	○			○										○	110	
	スポーツ解剖学1		2		半期		2								○				○								118	
	スポーツ解剖学2		2		半期		2												○								119	
	トレーナー測定評価実習		2		半期		2												○								120	
	アスレティックリハビリテーション論		2		半期			2											○								121	
	アスレティックリハビリテーション論実習		2		半期			2											○								122	
	スポーツ医学実習		2		半期		2						○			○	○	○						○	○	○	111	
	衛生学及び公衆衛生学		2		半期			2				○															123	
	学校保健		2		半期			2				○																124
	インターンシップ		2		集中			2												△							186	
	体育原理		2		半期		2				○																125	
	バイオメカニクス		2		半期			2											○								126	
	トレーニング科学		2		半期		2									○											127	
	トレーニング実習		2		半期		2																				128	
	テーピング・マッサージ実習		2		半期		2																				130	
	アスレティックトレーナー論		2		半期		2												○								131	
	スポーツ生理学		2		半期			2											○								132	
	スポーツ外傷・障害1		2		半期		2												○								133	
	スポーツ外傷・障害2		2		半期		2												○								134	
	健康管理とスポーツ医学		2		集中														○								135	
	コンディショニング論		2		半期		2												○								136	
	コンディショニング論実習		2		半期		2					○							○						○	○	137	
救急処置		2	半期			2											○								138			
見学実習		1	集中			1											○								139			
検査・測定と評価実習		1	半期			1											○								140			
スポーツ現場実習		1	半期			1											○								141			
アスレティックリハビリテーション実践実習		1	半期			1											○								142			
トレーナー総合実習		2	通年			2											○								143			
陸上競技1	*1		半期		1					○	○														144			
陸上競技2	*1		半期			1																			145			
体操・器械運動1	*1		半期		1					○													○		146			
体操・器械運動2	*1		半期			1																			147			
水泳1	*1		半期		1					○	○														148			
水泳2	*1		半期			1																			149			
球技1	*1		半期		1	1				○										サッカー					150-156			
球技2	*1		半期			1	1																		156			
武道（柔道）	*1		集中			1				○															157			
ダンス・表現運動	*1		半期		1					○													○		158			
エアロビクス1	*1		半期		1					○		◇											○		160			
エアロビクス2	*1		半期			1						◇													161			
ゴルフ1	*1		半期		1	1																			162			
ゴルフ2	*1		半期			1	1																		163			
レクリエーションスポーツ実習	*1		半期			1							○										○		187			
スクーバダイビング実習	*1		集中			1																			188			
夏季アウトドア実習	*1		集中		1																				189			
冬季アウトドア実習	*1		集中			1																			190			
グループエクササイズ実習	1		半期			1							○												159			
サッカー・フットサル	1		半期			1																	○		164			
上級サッカー	1		半期			1																	○		165			
サッカー指導法	2		半期			2																	○		166			
キャリアデザイン	2		半期			2																			194			
計	2	112		52																								

「介護予防運動スペシャリスト」は学内特別講座を別途受講する。
各資格において ○=必修 △=選択 ◇=資格の種類により必修

授業科目及び開講年次配当表(令和3年度・2021年生)

1. 基礎教育科目等 (健康スポーツ専攻)

令和3年度・2021年生

区分			単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		教育職員 免許状	障がい者 初級スポーツ 指導者	掲載 ページ	
			必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期				
基礎 教育 科目	人文	自己表現とキャリア	2		必修を含め 10単位以上	半期	2						29	
		比較文化入門		2		半期	2	2						30
	社会	社会環境とキャリア	2			半期		2						32
		市民生活と憲法		2		半期	2				○			33
		ボランティア入門		2		半期	2					○		34
	自然	自然環境科学		2		半期	2	2						35
		情報機器操作		2		半期		2			○			36
	外国語	英語コミュニケーション 1		2		半期	2	2			○			37
		英語コミュニケーション 2		2		半期				2				38
	合計			4		14								

卒業要件単位数

基礎教育科目合計	
健康栄養専攻	10単位以上
健康スポーツ専攻	10単位以上
健康マネジメント専攻	10単位以上
自己表現とキャリア	2単位
社会環境とキャリア	2単位
その他 人文・社会・自然・外国語から	6単位以上
保健体育科目	
健康栄養専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康スポーツ専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康マネジメント専攻	専門教育科目をもってふりかえる
専門教育科目合計	
健康栄養専攻	52単位以上
健康スポーツ専攻	52単位以上
健康マネジメント専攻	52単位以上
卒業要件単位数	
健康栄養専攻	62単位以上
健康スポーツ専攻	62単位以上
健康マネジメント専攻	62単位以上

2. 専門教育科目（健康スポーツ専攻）

令和3年度・2021年生

区分	授業科目の名称	単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		教育職員免許状	健康運動実践指導者	ピアヘルパー	GFI	障がい者初級スポーツ指導者	スポーツ指導者等共通科目	アシスタントマネジャー	アスレティックトレーナー	レクリエーションインストラクター	キャンプインストラクター	サッカー公認C級コーチ	スポーツインストラクター	子ども身体運動発達指導士	中高老年期運動指導士	介護予防運動スペシャリスト	掲載ページ		
		必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期																		
		3科目以上必修																									
健康スポーツ専攻	健康のスポーツ栄養学		2		半期		2			○	○		○		○	○						○			41		
	運動生理学		2		半期	2				○	○		○		○	○							○			42	
	健康の心理学		2		半期	2					○															43	
	健康管理論		2		半期			2			○	○		○										○		44	
	健康生活演習	2			通年				2																	45-62	
	競技のスポーツ栄養学		2		半期				2									○								63	
	スポーツ運動学		2		半期			2			○	○		○				○					○			64	
	運動処方論		2		半期		2				△	○		○		◎		○								65	
	レクリエーション論		2		半期			2					○		○	○	○	○					○			66	
	スポーツ心理学1		2		半期			2			△	○	○	○		○	○	○						○		67	
	スポーツ社会学		2		半期			2			△			○		○	○	○								68	
	スポーツ経営学		2		半期			2			△					○	○	○					○			69	
	スポーツ行政論		2		半期			2								○	○	○								70	
	スポーツ指導論		2		半期			2								○	○	○					○			71	
	スポーツ医学		2		半期			2			○	○		○		○	○	○					○		○	72	
	地域貢献演習	1			集中			1																		73	
	スポーツ心理学2		2		半期				2									○								115	
	野外活動論		2		半期			2											○							116	
	生涯スポーツ論		2		半期				2					○									○	○	○	117	
	運動生理学実習		2		半期	2					○	○		◎											○	110	
	スポーツ解剖学1		2		半期	2								○				○								118	
	スポーツ解剖学2		2		半期		2											○								119	
	トレーナー測定評価実習		2		半期		2											○								120	
	アスレティックリハビリテーション論		2		半期			2										○								121	
	アスレティックリハビリテーション論実習		2		半期			2										○								122	
	スポーツ医学実習		2		半期		2								○	○	○						○	○	○	111	
	衛生学及び公衆衛生学		2		半期			2			○	○														123	
	学校保健		2		半期		2				○	○														124	
	インターンシップ		2		集中		2												△							186	
	体育原理		2		半期			2			○															125	
	バイオメカニクス		2		半期			2										○								126	
	テーピング実習		2		半期			2																		129	
	アスレティックトレーナー論		2		半期		2											○								131	
	スポーツ生理学		2		半期			2										○								132	
	スポーツ外傷・障害1		2		半期		2											○								133	
	スポーツ外傷・障害2		2		半期			2										○								134	
	健康管理とスポーツ医学		2		集中			2										○								135	
	コンディショニング論		2		半期	2												○								136	
	コンディショニング論実習		2		半期		2					○						○						○	○	137	
	救急処置		2		半期			2										○								138	
	見学実習		1		集中			1										○								139	
	検査・測定と評価実習		1		半期			1										○								140	
	スポーツ現場実習		1		半期			1										○								141	
	アスレティックリハビリテーション実践実習		1		半期			1										○								142	
トレーナー総合実習		2		通年			2										○								143		
専門教育科目	陸上競技1	*1		半期	1					○	○														144		
	陸上競技2	*1		半期		1																			145		
	体操・器械運動1	*1		半期	1					○															146		
	体操・器械運動2	*1		半期		1																			147		
	水泳1	*1		半期	1					○	○														148		
	水泳2	*1		半期		1																			149		
	球技1	*1		半期	1					○												サッカー			150-156		
	球技2	*1		半期		1	1																		155		
	武道(柔道)	*1		集中		1					○														157		
	ダンス・表現運動	*1		半期	1						○													○	158		
	エアロビクス1	*1		半期		1							◇												160		
	エアロビクス2	*1		半期			1						◇											○	161		
	ゴルフ1	*1		半期		1																			162		
	ゴルフ2	*1		半期			1	1																	163		
	レクリエーションスポーツ実習	*1		半期			1							○					○						187		
	スクーバダイビング実習	*1		集中		1																			188		
	夏季アウトドア実習	*1		集中			1												1単位以上			1単位以上			189		
	冬季アウトドア実習	*1		集中			1																		190		
	グループエクササイズ実習	1		半期			1						○												159		
	サッカー・フットサル	1		半期			1															○			164		
	上級サッカー	1		半期				1														○			165		
	サッカー指導法	2		半期				2														○			166		
	アロマセラピー	2		集中				2																	191		
スポーツマッサージ	2		半期				2																	192			
ヨガ・ピラティス	2		半期				2																	193			
キャリアデザイン	2		半期				2																	194			
計		2	114	52																							

◎は「共通科目Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ」免除申請の場合さらに必要な科目。「介護予防運動スペシャリスト」は学内特別講座を別途受講する。
各資格において ○=必修 △=選択 ◇=資格の種類により必修

授業科目及び開講年次配当表(令和4年度・2022年生)

1. 基礎教育科目等 (健康マネジメント専攻)

令和4年度・2022年生

区分			単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		障がい者 初級スポーツ 指導者	社会福祉主 事(任用資 格)	掲載 ページ	
			必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期				
基礎 教育 科目	人文	自己表現とキャリア	2		必修を含め 10単位以上	半期	2						29	
		比較文化入門		2		半期	2	2						30
	社会	社会環境とキャリア	2			半期		2						32
		市民生活と憲法		2		半期	2					○		33
		ボランティア入門		2		半期	2				○			34
	自然	自然環境科学		2		半期		2						35
		情報機器操作		2		半期		2						36
	外国語	英語コミュニケーション 1		2		半期	2							37
		英語コミュニケーション 2		2		半期				2				38
	合計			4		14								

卒業要件単位数

基礎教育科目合計	
健康栄養専攻	10単位以上
健康スポーツ専攻	10単位以上
健康マネジメント専攻	10単位以上
自己表現とキャリア	2単位
社会環境とキャリア	2単位
その他 人文・社会・自然・外国語から	6単位以上
保健体育科目	
健康栄養専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康スポーツ専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康マネジメント専攻	専門教育科目をもってふりかえる
専門教育科目合計	
健康栄養専攻	52単位以上
健康スポーツ専攻	52単位以上
健康マネジメント専攻	52単位以上
卒業要件単位数	
健康栄養専攻	62単位以上
健康スポーツ専攻	62単位以上
健康マネジメント専攻	62単位以上

2. 専門教育科目（健康マネジメント専攻）

令和4年度・2022年生

区分	授業科目の名称	単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		医療事務	医事コンピュータ	健康運動実践指導者	ピアヘルパー	障がい者初級スポーツ指導者	スポーツ指導者等共通科目	レクリエーション・インストラクター	キャンパusstラクター	中高老年期運動指導士	介護予防運動インストラクター	社会福祉主事(任用資格)	MOS	マナー・プロトコル検定	ホテルビジネス実務検定	アロマテラピー検定	掲載ページ	
		必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期																	
						前学期	後学期	前学期	後学期																	
健康マネジメント専攻	健康のスポーツ栄養学	2		3科目以上必修	半期		2																		41	
	運動生理学	2			半期	2						○														42
	健康の心理学	2			半期	2							○								○					43
	健康管理論	2			半期			2				○									○					44
	健康生活演習	2			通年				2																	45-62
	競技のスポーツ栄養学	2			半期				2																	63
	スポーツ運動学	2			半期			2					○													64
	運動処方論	2			半期	2						○														65
	レクリエーション論	2			半期			2					○	○		○										66
	スポーツ心理学1	2			半期			2				○	○					○								67
	スポーツ社会学	2			半期			2																		68
	スポーツ経営学	2			半期				2																	69
	スポーツ行政論	2			半期				2																	70
	スポーツ指導論	2			半期				2					○												71
	スポーツ医学	2			半期				2				○					○	○							72
	地域貢献演習	1			集中			1																		73
	医療事務1	2			半期	2					○															167
	医療事務2	2			半期	2					○															167
	医療事務3	2			半期		2				○															168
	ビジネス文書1	2			半期		2															☆				170
	ビジネス文書2	2			半期			2														☆				171
	映像コミュニケーション	2			半期				2													☆				172
	観光概論	2			半期	2																				173
	ホテルビジネス総論1	2			半期		2																	○		174
	ホテルビジネス総論2	2			半期			2																○		175
	和文化和作法	2			半期			2															☆	☆		176
	マナー・プロトコル	2			半期		2																○	☆		177
	ホテル接客英会話	2			半期				2															☆		178
	ホテル概論	2			半期		2																	☆		179
	ホスピタリティ基礎演習	2			半期	2																	☆	☆		182
	サービス・接遇実習	2			半期		2																☆	☆		183
	野外活動論	2			半期			2																		116
生涯スポーツ論	2			半期				2					○				○								117	
トレーニング科学	2			半期		2											○								127	
運動生理学実習	2			半期	2							○									○				110	
スポーツ医学実習	2			半期		2						○									○				111	
スポーツ解剖学1	2			半期	2							○													118	
衛生学及び公衆衛生学	2			半期				2													○				123	
インターンシップ	2			集中		2																			186	
レクリエーションスポーツ実習	1			半期			1						○												187	
健康スポーツ実習1	1			半期	1							○						○	○						113	
健康スポーツ実習2	1			半期		1						○													114	
水泳	1			半期	1							○													112	
エアロビクス1	1			半期	1							○													160	
スクーバダイビング実習	1			集中			1																		188	
夏季アウトドア実習	1			集中		1																			189	
冬季アウトドア実習	1			集中				1																	190	
キャリアデザイン	2			半期				2																	194	
計	2	85	52																							

各資格において ○=必修 ☆=推奨

授業科目及び開講年次配当表(令和3年度・2021年生)

1. 基礎教育科目等 (健康マネジメント専攻)

令和3年度・2021年生

区分			単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		障がい者 初級スポーツ 指導者	社会福祉主 事(任用資 格)	掲載 ページ	
			必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期				
基礎 教育 科目	人文	自己表現とキャリア	2		必修を含め 10単位以上	半期	2						29	
		比較文化入門		2		半期	2	2						30
	社会	社会環境とキャリア	2			半期		2						32
		市民生活と憲法		2		半期	2					○		33
		ボランティア入門		2		半期	2					○		34
	自然	自然環境科学		2		半期	2	2						35
		情報機器操作		2		半期		2						36
	外国語	英語コミュニケーション 1		2		半期	2	2						37
		英語コミュニケーション 2		2		半期				2				38
	合計			4		14								

卒業要件単位数

基礎教育科目合計	
健康栄養専攻	10単位以上
健康スポーツ専攻	10単位以上
健康マネジメント専攻	10単位以上
自己表現とキャリア	2単位
社会環境とキャリア	2単位
その他 人文・社会・自然・外国語から	6単位以上
保健体育科目	
健康栄養専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康スポーツ専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康マネジメント専攻	専門教育科目をもってふりかえる
専門教育科目合計	
健康栄養専攻	52単位以上
健康スポーツ専攻	52単位以上
健康マネジメント専攻	52単位以上
卒業要件単位数	
健康栄養専攻	62単位以上
健康スポーツ専攻	62単位以上
健康マネジメント専攻	62単位以上

2. 専門教育科目（健康マネジメント専攻）

令和3年度・2021年生

区分	授業科目の名称	単位数	卒業要件	開講期	1年		2年		医療事務	医療事務 コンピュ ータ	健康運動 実践指導 者	ピア ヘルパー	緑が丘 福祉ボ ランティア 指導者	アシスタ ントマネ ジャー	スポーツ指導 者等共通 科目	レガエジョ ン・インス トラクター	キャンパ スラター	中高老年 期運動 指導士	介護予防 運動ハ ンドレ ット	社会福祉 士(任 用資格)	MOS	マナー プロトコ ル検 定	ホテル ビジネス 実務検 定	アロマ セラピー 検 定	掲載 ページ			
					前学期	後学期	前学期	後学期																				
健康マネジメント専攻	健康のスポーツ栄養学	2	3科目以上必修	半期		2					○			○	○										41			
	運動生理学	2		半期	2						○				○	○											42	
	健康の心理学	2		半期	2							○									○						43	
	健康管理論	2		半期			2					○								○							44	
	健康生活演習	2		通年				2																			45-62	
	競技のスポーツ栄養学	2		半期				2																			63	
	スポーツ運動学	2		半期			2					○															64	
	運動処方論	2		半期		2						○					◎											65
	レクリエーション論	2		半期			2						○	○	○	○	○											66
	スポーツ心理学1	2		半期			2					○	○		○	○				○								67
	スポーツ社会学	2		半期			2								○	○												68
	スポーツ経営学	2		半期				2							○	○												69
	スポーツ行政論	2		半期				2							○	○												70
	スポーツ指導論	2		半期				2							○	○												71
	スポーツ医学	2		半期			2					○			○	○				○	○							72
	地域貢献演習	1		集中				1																				73
	医療事務1	2		半期	2						○																	167
	医療事務2	2		半期	2						○																	167
	医療事務3	2		半期		2					○																	168
	ビジネス文書(ワード)	2		半期		2																	☆				-	
	ビジネス文書(エクセル)	2		半期		2																	☆				-	
	ビジネス文書(パワーポイント)	2		半期			2																☆				169	
	ホテルビジネス総論1	2		半期		2																			○		174	
	ホテルビジネス総論2	2		半期			2																		○		175	
	和文化と作法	2		半期			2																	☆	☆		176	
	マナー・プロトコル	2		半期		2																	○	☆			177	
	ホテル接客英会話	2		半期				2																	☆	☆	178	
	ホテル概論	2		半期		2																			☆		179	
	ビジネスマナー	2		半期			2																	☆	☆		180	
	ダイエット実践論	2		半期		2																					-	
	ダイエット実践実習	2		半期				2																			181	
	ホスピタリティ基礎演習	2		半期	2																			☆	☆		182	
	サービス・接客実習	2		半期		2																		☆	☆		183	
	地域事業実習	2		半期			2																				184	
	地域事業運営実習	2		集中				2																			185	
	スポーツ心理学2	2		半期				2																			115	
	野外活動論	2		半期			2												○								116	
	生涯スポーツ論	2		半期				2						○						○							117	
	運動生理学実習	2		半期	2							○				◎					○						110	
	スポーツ医学実習	2		半期		2						○				○	○				○	○					111	
	スポーツ解剖学1	2		半期	2							○															118	
	衛生学及び公衆衛生学	2		半期				2														○					123	
	インターンシップ	2		集中		2												○									186	
	レクリエーションスポーツ実習	1		半期			1							○			○										187	
	健康スポーツ実習1	1		半期	1							○								○	○						113	
	健康スポーツ実習2	1		半期		1						○															114	
	水泳	1		半期	1							○																112
エアロビクス1	1	半期	1							○																160		
スクーパダイビング実習	1	集中	1																							188		
夏季アウトドア実習	1	集中			1										1単位以上											189		
冬季アウトドア実習	1	集中		1											1単位以上											190		
アロマセラピー	2	集中				2																		☆	191			
スポーツマッサージ	2	半期				2																				192		
ヨガ・ピラティス	2	半期				2																				193		
キャリアデザイン	2	半期			2																					194		
計	2	99	52																									

◎は「共通科目Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ」免除申請の場合さらに必要な科目
各資格において ○＝必修 ☆＝推奨

3. 教職に関する専門教育科目

健康スポーツ専攻

令和4年度・2022年生

区分	授業科目の名称	単位数	開講期	1年		2年		教育職員 免許状	レクリエー ション・インス トラクター	掲載 ページ
				前学期	後学期	前学期	後学期			
教職に関する専門教育科目	教 職 概 論	2	半期	2				○		197
	教 育 原 理	2	半期	2				○		198
	発 達 と 学 習 の 心 理 学	2	半期		2			○		199
	特 別 支 援 教 育	1	半期				1	○		200
	道 徳 教 育 の 理 論 と 実 践	1	半期		1			○		201
	特 別 活 動 指 導 法	1	半期		1			○		202
	総 合 的 な 学 習 の 時 間 指 導 法	1	半期				1	○		203
	教 育 方 法 の 理 論 と 実 践	1	半期	1				○		204
	ICT 活 用 の 理 論 と 実 践	1	半期	1				○		205
	生 徒 ・ 進 路 指 導 論	1	半期				1	○		206
	教 育 相 談	1	半期				1	○		207
	保 健 体 育 科 教 育 法	2	半期		2			○		208
	授 業 研 究	2	半期		2			○		209
	教 職 実 践 演 習 (中 学 校)	2	半期				2	○		210
保 健 体 育 教 育 実 習	5	半期			5		○	△	211	
計		25		各資格における ○=必修 △=選択						

令和3年度・2021年生

区分	授業科目の名称	単位数	開講期	1年		2年		教育職員 免許状	レクリエー ション・インス トラクター	掲載 ページ
				前学期	後学期	前学期	後学期			
教職に関する専門教育科目	教 職 概 論	2	半期	2				○		197
	教 育 原 理	2	半期	2				○		198
	発 達 と 学 習 の 心 理 学	2	半期		2			○		199
	特 別 支 援 教 育	1	半期		1			○		200
	道 徳 教 育 の 理 論 と 実 践	1	半期		1			○		201
	特 別 活 動 指 導 法	1	半期		1			○		202
	総 合 的 な 学 習 の 時 間 指 導 法	1	半期				1	○		203
	教 育 方 法 の 理 論 と 実 践	1	集中		1			○		204
	生 徒 ・ 進 路 指 導 論	1	半期				1	○		206
	教 育 相 談	1	半期		1			○		207
	保 健 体 育 科 教 育 法	2	半期		2			○		208
	授 業 研 究	2	半期		2			○		209
	教 職 実 践 演 習 (中 学 校)	2	半期				2	○		210
	保 健 体 育 教 育 実 習	5	半期			5		○	△	211
計		24		各資格における ○=必修 △=選択						

注 中学校教諭の普通免許状を取得しようとする者は、必要な単位のほかに、「介護等体験」が義務付けられている。

3. 教職に関する専門教育科目

健康栄養専攻

令和4年度・2022年生

区分	授業科目の名称	単位数	開講期	1年		2年		栄養教諭 免許状	掲載 ページ
				前学期	後学期	前学期	後学期		
教職に関する専門教育科目	教 職 概 論	2	半期	2				○	197
	教 育 原 理	2	半期	2				○	198
	発 達 と 学 習 の 心 理 学	2	半期		2			○	199
	特 別 支 援 教 育	1	半期				1	○	200
	道 徳 教 育 の 理 論 と 実 践	1	半期		1			○	201
	特 別 活 動 指 導 法	1	半期		1			○	202
	総 合 的 な 学 習 の 時 間 指 導 法	1	半期				1	○	203
	教 育 方 法 の 理 論 と 実 践	1	半期	1				○	204
	ICT 活 用 の 理 論 と 実 践	1	半期	1				○	205
	生 徒 ・ 進 路 指 導 論	1	半期				1	○	206
	教 育 相 談	1	半期				1	○	207
	食 教 育 実 践 論	2	半期		2			○	212
	教 職 実 践 演 習 (栄 養 教 諭)	2	半期				2	○	213
	栄 養 教 育 実 習	2	半期			2		○	214
計		20		各資格における ○=必修					

令和3年度・2021年生

区分	授業科目の名称	単位数	開講期	1年		2年		栄養教諭 免許状	掲載 ページ
				前学期	後学期	前学期	後学期		
教職に関する専門教育科目	教 職 概 論	2	半期	2				○	197
	教 育 原 理	2	半期	2				○	198
	発 達 と 学 習 の 心 理 学	2	半期		2			○	199
	特 別 支 援 教 育	1	半期		1			○	200
	道 徳 教 育 の 理 論 と 実 践	1	半期		1			○	201
	特 別 活 動 指 導 法	1	半期		1			○	202
	総 合 的 な 学 習 の 時 間 指 導 法	1	半期				1	○	203
	教 育 方 法 の 理 論 と 実 践	1	集中		1			○	204
	生 徒 ・ 進 路 指 導 論	1	半期				1	○	206
	教 育 相 談	1	半期		1			○	207
	食 教 育 実 践 論	2	半期		2			○	212
	教 職 実 践 演 習 (栄 養 教 諭)	2	半期				2	○	213
	栄 養 教 育 実 習	2	半期			2		○	214
計		19		各資格における ○=必修					

基礎教育科目

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
基礎教育 人文	自己表現とキャリア [Self-Expression and Career] 必修		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング	高橋 勇一・植松 大介・村井 輝久・八板 将明			NSM-B1001		
この授業に関する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
一般教養やマナーの基本を身に付けると同時に、すべての学問の基礎である「言葉の力」と「自己表現力」を磨き、社会人的基礎力を身に付けることを目指す。レポートの書き方をはじめとする初年次教育を受けるとともに、キャリア教育につながる第一歩を踏み出す。						
学習の到達目標						
本学における学習や社会活動において、より積極的に取り組むために必要な一般教養やマナーを身に付けることを目標とする。また、大学や実社会で役立つ「日本語の使い方」や「基本的な知識」を習得し、論理的な表現力・レポート力を養うことを目指す。						
回	授業内容	キーワード	AL			
1 2 15	【全体授業】 ○短大のメールシステム及びメールの書き方・・・メールシステムと個別のメールアドレスの確認、メールの書き方を学ぶ ○おすすめ作品を「伝える」力 「本（評論、小説、エッセイ、マンガ含む）、映画、TV ドラマ、芸術作品」から、「為になる」作品を選び、お勧めの点を自分の言葉で「伝える力」を養う（レジュメづくり/レポート作成） ○「地域学習」に関すること ○自己PR・動画作成に関すること	メールシステムとメールアドレス メールの書き方 レジュメとレポート 地域学習 自己PR・動画作成	○			
	【グループ授業】 ○目標達成シート（マンガラット発想法）の作成/○自己紹介を考える ○図書館の利用についてのガイダンス・・・各グループでの図書館見学、利用の仕方などの説明 ○マナーの基本について学習するとともに、グループ授業を通じて自己表現力を高める ○初年次教育として、小論文・レポートの書き方の説明（研究倫理教育を含む） ・「挨拶・姿勢」「礼儀・正しい座り方」「服装」について ・「哲学入門」（考える力と自己表現力を高める） ・「レポート・論文の書き方」指導 ・文章による自己表現 ・「SDGsとSociety5.0」に関する学習 ☆課題提出・・・レジュメ・レポート・小論文・自己PR 動画の提出	夢・目標/自己紹介 図書館利用、文献検索 マナー/自己表現力 小論文・レポートの書き方 挨拶、姿勢、礼儀 哲学 研究倫理教育 教育と学習 SDGs、Society5.0	○	○	○	○
教科書及び参考図書						
参考図書：『ステップアップ日本語講座』（中級）東京書籍、『就職活動テキスト』（「社会環境とキャリア」で使用する） その他、必要に応じて、適宜教材・資料を配付・指示する						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.0 時間）：書籍やインターネット・新聞やニュース・雑誌等を通して、次回の授業内容にかかわる情報の収集をしておくこと。 事後学習（週 2.0 時間）：授業の内容を復習するとともに、一般教養を培い、マナーの向上に努めること。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
レポートやリアクションペーパーにコメントを入れて返却する。共通事項については、次の授業で還元する。						
成績評価の方法・基準						
課題のレポート・提出物 60%、授業中の理解度・態度・表現力などの平常点 40%						
評価	成績評価別の到達度					
S	日本語の使い方や基本的な知識・マナーについて十分に理解し、優れた表現力を十分に身に付けている。					
A	日本語の使い方や基本的な知識・マナーについてかなり理解し、優れた表現力を身に付けている。					
B	日本語の使い方や基本的な知識・マナーについて理解し、一般的な表現力を身に付けている。					
C	日本語の使い方や基本的な知識・マナーについて学習し、最低限の表現力を身に付けている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
基礎教育 人文	比較文化入門 [Introduction of Comparative Culture]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義	村井 輝久			NSM-B1002		
この授業に関する資格						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
本講義では、人文社会科学の知見と方法を学びながら、社会のなかの様々な文化事象の類似点や相違点を、比較検討し考察することができるようになることを目指す。						
学習の到達目標						
講義で学習した知識と技能をもとにしながら、社会のなかの様々な文化事象を調べ、自身の考えを相手に分かりやすく説明することができる。						
回	授業内容	キーワード				AL
1	オリエンテーション (遠隔)	授業の概要および進め方、成績判定の方法				
2	「考える」という行為について考える (遠隔)	考える				
3	思考法、思考を働かせるための道具 (遠隔)	思考スキル、思考ツール				
4	「比較」とは何か? ① (遠隔)	視点、基準、思考の枠組み				
5	「比較」とは何か? ② (遠隔)	特徴、特徴の示し方				
6	主観と客観① —自然科学における認識の妥当性— (遠隔)	再現可能性				
7	主観と客観② —人文社会科学における認識の妥当性— (遠隔)	再現性、価値自由				
8	「食」を支える宗教的基盤 (遠隔)	食の倫理				
9	食の倫理のあり方 (遠隔)	人間中心的発想、脱人間中心的発想				
10	「子育て」の文化 (遠隔)	教え込み型、しみ込み型				
11	人々の学ぶ場の歴史 (遠隔)	手習塾、近代学校				
12	子ども観の歴史 (遠隔)	小さな大人、近代的な子ども観				
13	企業を知ろう! (遠隔)	企業研究、経営理念				
14	生命倫理 (遠隔)	出生前診断、選択的人工妊娠中絶				
15	授業のまとめ (遠隔)	比較				
教科書及び参考図書						
教員作成資料						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 1.5 時間) : 次回のキーワードについて、インターネットや書籍等で調べる。 事後学習 (週 1.5 時間) : 授業内容を振り返り、分からなかったことをインターネットや書籍等で調べる。						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
各回講義終了後、受講者には疑問点、気になった点などの感想を書かせ、提出させる。受講者からの感想に対しては、次回の講義において補足説明や解説などのフィードバックを行う。また、受講者に対しては、オフィスアワー等で適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
レポート課題 50%、授業課題 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	文化事象について、様々な視点から調べ、それらをもとにしながら自身の考えを相手に分かりやすいように説明することができる。					
A	文化事象について、調べたことをもとにしながら自身の考えを説明することができる。					
B	文化事象の特徴について調べたことを整理することができる。					
C	文化事象の特徴を示す方法を説明することができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
基礎教育科目	社会環境とキャリア [Social Environment and Career] 必修		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング	岡崎 英規 ・ 小河原 佳子			NSM-B1003		
この授業に関係する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
自分の適性を知り、各自の能力が活かせるような企業（進路先）を探す方法を学び、インターネットでのアクセス方法（ナビ登録の仕方、エントリーシートでの応募の仕方）、就職（編入学）活動に必要な書類の作成、面接試験対策（模擬個人・グループ面接）などの準備を行い、就職活動等を含め、キャリアデザイン設計ができるようにすることを目的とする。						
学習の到達目標						
社会人として自立できるように仕事に対する意識を高め、自分に適した職業を選択し、就職するために必要な知識を身につけ、適切に表現することができる。						
回	授業内容	キーワード				AL
1	オリエンテーション	礼儀作法				○
2	就職・社会人のルール	ハローワークの支援・労働法				○
3	スマートフォン等からの就活ナビへの登録	マイナビ登録				○
4	企業情報の集め方・情報ツールの使い方	企業の検索・企業情報				○
5	分野別企業研究セミナー	企業・人事担当				
6	コミュニケーションの重要性を知る	質問力・聞く態度				
7	自己分析①自己の振り返り	自己PR・高校までのエピソード・自信				○
8	自己分析②自己PR作成	自己PR・短大生活の振り返り				○
9	履歴書作成①	履歴書の書き方のルール・各項目のポイント				○
10	履歴書作成②	学歴・自己紹介文				○
11	身だしなみセミナー	メイクアップ・服装・持ち物				○
12	面接対策①面接の目的	面接方法・マナー・評価方法				○
13	面接対策②Web面接	模擬面接・Web				○
14	面接対策③集団面接	集団模擬面接				○
15	内定者フォーラム	内定者・就職活動・体験談				○
教科書及び参考図書						
教科書：就職活動テキスト（授業で配布する）						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：授業で配布するテキストの関連ページを事前に読んで授業に取り組む。関連の情報収集をする。 事後学習（週 1.5 時間）：授業で行った内容について積極的に復習に取り組む。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
提出した課題にコメントを入れて返却する。Google Classroom にて対応する。						
成績評価の方法・基準						
授業の態度・意欲・服装で 80% 提出物（ノート・履歴書・感想文など） 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	仕事に対する意識を十分に持ち、自分に適した職業を選択し、就職するために必要な知識を十分身につけ、適切に表現することができる。					
A	仕事に対する意識を持ち、自分に適した職業を選択し、就職するために必要な知識を十分身につけ、表現することができる。					
B	仕事に対する意識を持ち、自分に適した職業を選択し、就職するために必要な知識を身につけ、概ね表現することができる。					
C	仕事に対する意識を概ね持つことができ、自分に適した職業を理解し、就職するために必要な知識を身につけ、概ね表現することができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
基礎教育科目	社会環境とキャリア [Social Environment and Career] 必修		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング	川井 明・植松 大介			NSM-B1003		
この授業に関係する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
自分の適性を知り、各自の能力が活かせるような企業（進路先）を探す方法を学び、インターネットでのアクセス方法（ナビ登録の仕方、エントリーシートでの応募の仕方）、就職（編入学）活動に必要な書類の作成、面接試験対策（模擬個人・グループ面接）などの準備を行い、就職活動等を含め、キャリアデザイン設計ができるようにすることを目的とする。						
学習の到達目標						
社会人として自立できるように仕事に対する意識を高め、自分に適した職業を選択し、就職するために必要な知識を身につけ、適切に表現することができる。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	オリエンテーション	礼儀作法			○	
2	就職・社会人のルール	ハローワークの支援・労働法			○	
3	スマートフォン等からの就活ナビへの登録	マイナビ登録			○	
4	企業情報の集め方・情報ツールの使い方	企業の検索・企業情報			○	
5	分野別企業研究セミナー	企業・人事担当				
6	コミュニケーションの重要性を知る	質問力・聞く態度				
7	自己分析①自己の振り返り	自己PR・高校までのエピソード・自信			○	
8	自己分析②自己PR作成	自己PR・短大生活の振り返り			○	
9	履歴書作成①	履歴書の書き方のルール・各項目のポイント			○	
10	履歴書作成②	学歴・自己紹介文			○	
11	身だしなみセミナー	メイクアップ・服装・持ち物			○	
12	面接対策①面接の目的	面接方法・マナー・評価方法			○	
13	面接対策②Web面接	模擬面接・Web			○	
14	面接対策③集団面接	集団模擬面接			○	
15	内定者フォーラム	内定者・就職活動・体験談			○	
教科書及び参考図書						
教科書：就職活動テキスト（授業で配布する）						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：授業で配布するテキストの関連ページを事前に読んで授業に取り組む。関連の情報収集をする。 事後学習（週 1.5 時間）：授業で行った内容について積極的に復習に取り組む。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
提出した課題にコメントを入れて返却する。Google Classroomにて対応する。						
成績評価の方法・基準						
授業の態度・意欲・服装で 80% 提出物（ノート・履歴書・感想文など） 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	仕事に対する意識を十分に持ち、自分に適した職業を選択し、就職するために必要な知識を十分身につけ、適切に表現することができる。					
A	仕事に対する意識を持ち、自分に適した職業を選択し、就職するために必要な知識を十分身につけ、表現することができる。					
B	仕事に対する意識を持ち、自分に適した職業を選択し、就職するために必要な知識を身につけ、概ね表現することができる。					
C	仕事に対する意識を概ね持つことができ、自分に適した職業を理解し、就職するために必要な知識を身につけ、概ね表現することができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
基礎教育 社会	市民生活と憲法 [Civil Life and Constitution]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義	山本 和弘			NSM-B1004		
この授業に関係する資格						
教員免許（中学校 2 種・保健体育、栄養教諭 2 種）、社会福祉主事						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
本授業は、憲法の基本原則・理念を学び、私たちの国家・社会を成り立たせている仕組みを理解するとともに、私たちに保障されている権利・自由の概要・意義を理解することを目標とする。加えて、日々のニュースなどについて、感情論ではなく、冷静に判断・評価する能力を身につけて欲しい。						
学習の到達目標						
政治的・法的問題を含め、日常の様々な問題についてそれを主体的に発見し、主観的な感情論ではなく、様々な根拠に照らして冷静かつ客観的に考察し、自らの意見を持ち、それを言語によって説得的に述べることができる。						
回	授業内容		キーワード	AL		
1	講義の進め方、講義内容の概略および評価方法の説明。加えて、憲法・法律に関する基礎知識を説明し、憲法と通常の法律との違いを理解することで、そもそも「憲法」とは何かを学ぶ。（遠隔）		憲法総論、三権分立、人権			
2	憲法の基本原則である国民主権について学び、それと象徴としての天皇の地位との関係を学ぶ。加えて生前退位の問題と憲法との関係について学ぶ。（遠隔）		国民主権、象徴天皇制			
3	人権とは何か、なぜ保障されなければならないのか、そしてどのような場合に人権が制約されるのかを学び、自分自身が権利や自由の主体であることを自覚する。加えて、男女の平等について、憲法ではどのように考えるのかを学ぶ。（遠隔）		人権の享有主体、外国人の人権、法の下での平等			
4	思想や信仰がなぜ憲法によって保障されるのか、どこまで保障されるのかについて具体的事件を素材として学ぶ。「日の丸・君が代問題」を、憲法に即してあなたならどう考えるか？（遠隔）		思想・良心の自由、信教の自由。教師・生徒の自由			
5	国家と宗教とはどのような関係にあるのか、なぜ国家と宗教との関係を、憲法で規定するのかについて、その歴史的背景を踏まえ、具体的事件を通じて理解する。（遠隔）		政教分離、国家と宗教、学校における政教分離			
6	表現の自由とは何かを理解し、デモや集会の自由、さらにはヘイトスピーチや差別表現の問題について学ぶ。（遠隔）		表現の自由、SNS での表現、わいせつ表現			
7	なぜ私たちは突然不当に逮捕されることはないのか？ 奴隷のように酷使されないのか？ 憲法に規定された人身の自由の内容とその基本原則について学ぶ。（遠隔）		人身の自由、適正手続の保障、死刑制度の是非			
8	私たちが豊かに、そして自分らしく生きるための権利・自由について学ぶ。加えて、経済的自由が制約される場合とその根拠を理解する。（遠隔）		経済的自由権			
9	「人らしく生きる」とはどういうことか？ 貧困、ブラックバイト、教育費の問題などを、憲法に照らして学び、感情論ではなく法的な根拠に基づいて理解する。（遠隔）		社会権、生存権、労働基本権、労働者としての教師の権利、子どもの貧困			
10	過去から現代に至る憲法 9 条と平和主義に関する議論を概観し、いわゆる平和安全法制などの現代的問題の本質を、憲法に照らして冷静な思考で理解する。（遠隔）		平和主義、平和的生存権			
11	「憲法を改正（変更）する」とはどういうことか、法律の改正とはどう異なるのかを理解する。加えて、憲法の改正（変更）に限界はあるのか、あるとすればそれは何かを学ぶ。（遠隔）		憲法概念、憲法改正、緊急事態条項の是非			
12	私たちの「代表」である国会の憲法上の位置づけについて学ぶ。そして選挙を通じて「代表」を国会へ送り込む仕組みを理解する。（遠隔）		国会、議会制民主主義			
13	内閣の憲法上の地位や権限について学ぶ。（遠隔）		内閣、法律による行政の原理			
14	憲法における裁判所の機能、特に違憲審査制について学ぶ。国民の代表者が作った法律が、なぜ裁判所によって無効とされるのだろうか？（遠隔）		裁判所、違憲立法審査権			
15	国家・社会における憲法と私たちの関係について総括する。（遠隔）		国家と社会、市民生活における憲法			
教科書及び参考図書						
教科書：適宜授業内にてアナウンスする。加えて、教員が作成するプリントを使用する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：新聞やニュースで気になった「事件」をメモにとる等し、どんな憲法上の問題点があるかを考えてきて欲しい。 事後学習（週 1.5 時間）：教科書や授業プリントをしっかりと読み込み、基本的な憲法の考え方、争点、判例等を改めて整理して欲しい。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、Google Classroom にて回収したコメントに、返信する。またメールでの問い合わせも随時受け付ける。						
成績評価の方法・基準						
原則筆記試験 100%。また任意の課題等で加点することもある。						
評価	成績評価別の到達度					
S	日本国憲法の基本原則を理解し、事例、争点について十分な知識を適切に用い、これに依拠して独自の考えを論述することができる。					
A	日本国憲法の基本原則を理解し、事例、争点について基本的な理解を基にして論述することができる。					
B	日本国憲法の基本原則を理解し、事例、争点について基本的な知識を習得できる。					
C	日本国憲法についての基本的な知識を習得することができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
基礎教育 社会	ボランティア入門 [Introduction to Volunteer Activities]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・ アクティブ・ラーニング	江森 孝夫			NSM-B1005		
この授業に関する資格						
障がい者初級スポーツ指導者						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
<p>生きることの意味について、そして人間と社会について幅広く考えると同時に、ボランティア活動の理念および福祉教育の考え方、社会福祉施策・障がい者スポーツ、教育など、さまざまな地域・社会貢献活動について学習する。なお、NPO やボランティア活動・福祉教育に関わる人から学ぶ機会も設定し、グループで内容をまとめる。</p>						
学習の到達目標						
<p>ボランティアに関する基本的な知識を身につけ、ボランティア精神の養成を目指すと共に、社会が求める支援や障がい者などに対する理解を深める。また、必要とされるボランティア活動や福祉教育、地域・社会貢献活動について理解し、それらの活動にチャレンジする実践力を養うことを目指す。</p>						
回	授業内容		キーワード		AL	
1	初回は、「オリエンテーション」として、授業概要・評価の方法、履修上の注意点などを説明する ※ボランティアは随時紹介する		オリエンテーション ボランティア			
2	「事始め1」として、基本用語、ボランティア精神、ボランティア理念、伝達手段としての日本語の大切さについて学習する		ボランティア精神 ボランティア理念 日本語の大切さ			
3	「事始め2」として、ボランティア活動を支える福祉教育について、共に生きる地域作りについて学習する		福祉教育 地域共生			
4	「ボランティア」について、実際の探し方やボランティアの基本的姿勢などを理解する。 ※ 体験レポートに関する説明を行う。※「ボランティア体験」は、できる範囲で各自が適切なボランティア活動を選んで参加し、体験レポートを提出する		ボランティア ボランティア体験			
5	東京オリンピック・パラリンピックにおける障がい者スポーツの課題と展望について学習する		パラリンピック 障がい者スポーツ			
6	前時の内容をもとに障がい者スポーツを体験する。（グループごとに4～5種目を体験）		パラリンピック 障がい者スポーツ			
7 ～ 11	※共に生きる地域作りのために、自分に何が出来るかを外部講師を招いて学習する (1) 児童福祉について（保育所指導員、学童保育指導員） (2) 高齢者福祉について（特別養護老人ホーム職員、介護施設ヘルパー） (3) 障がい者福祉について（視覚障がい者・盲導犬ユーザー） (4) 障がい者福祉について（聴覚障がい者・障がい者本人と手話サークルの方） (5) 障がい者福祉について（身体障がい者・車イスユーザー）		地域共生 児童福祉 高齢者福祉 障がい者福祉			
12	福祉について、五つの課題別グループに分かれて、自分たちで調べる		福祉		○	
13	福祉について、五つの課題別グループに分かれて、調べた内容をまとめる		福祉		○	
14	課題別グループ学習の発表会をする		福祉 発表		○	
15	「総合・まとめ」として、振り返り学習を実施する		まとめ 振り返り学習			
教科書及び参考図書						
授業内で使用する資料を配付する。その他、適宜紹介する。 参考図書：『ボランティア論』（ミネルヴァ書房）、『いちばんはじめのボランティア』（樹村房）、『共に生きること・共に学びあうこと』（大学図書出版）						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： 次回の学習内容として提示された課題について、雑誌やインターネット・書籍等で情報収集しておく。 事後学習（週 1.5 時間）： 授業中の内容を整理してまとめ、課題別グループ学習発表会に向けての準備を進める。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
理解度確認のレポートを回収後、解説を行う。 課題別発表会の内容にコメントする。						
成績評価の方法・基準						
平常点（授業の理解度・提出物）40% 授業内課題 30% ボランティア体験レポート 30%で総合的に評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	ボランティアに関する一般的な知識と態度を身につけ、積極的に実践し、レポート力を十分に身に付けている。					
A	ボランティアに関する一般的な知識と態度を身につけ、実践し、レポート力を身に付けている。					
B	ボランティアに関する基礎的な知識と態度を身につけ、実践している。					
C	ボランティアに関する基礎的な知識と態度を学習している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
基礎教育 自然	自然環境科学 [Natural Environmental Science]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義	高橋 勇一			NSM-B1006		
この授業に関係する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
環境問題の現状について自然科学・社会科学双方の観点から理解し、美しい地球を守るために、「宇宙船地球号」の一員でもある私たちが心がけるべきことやできることについて考察する。なお、教養教育として、自然科学の基礎力および論理力・思考力を身に付けることも重要な目的とする。						
学習の到達目標						
自然科学の基礎及び環境問題に関する一般的な知識を習得するとともに、論理的にものごとを考え、説明することができる。また、生命や自然を大切に、持続可能な開発目標（SDGs）を達成するために、諸問題の解決方法を自ら調べ、表現することができる。						
回	授業内容	キーワード				AL
1	イントロダクションとしての自然史	宇宙の歴史、太陽・地球・月、宇宙船地球号				
2	地球と生命の歴史（遠隔）	地球の歴史、生命の起源、生命とは何か				
3	環境と文明（遠隔）	地球システム、環境史、森と文明、持続可能な発展				
4	生態系（エコシステム）・物質循環（遠隔）	エコシステムの仕組み、炭素循環、エコジカル思考				
5	環境とエネルギー（遠隔）	地震・津波、資源・エネルギー				
6	食物連鎖・生物多様性（遠隔）	食物連鎖、生物多様性、じゃがいも飢饉				
7	現代の地球環境問題（遠隔）	地球環境問題、公害問題、人間圏、気候変動、温暖化				
8	地球の温暖化（遠隔）	温暖化のメカニズム、世界の温暖化、日本の温暖化				
9	オゾン層破壊・酸性雨（遠隔）	オゾン層、酸性雨、環境科学の思考				
10	森林劣化・洪水問題（遠隔）	森林の多面的機能、洪水、持続可能な森林経営				
11	砂漠化（遠隔）	砂漠化のメカニズム、黄砂、環境教育林（緑化）事業				
12	環境価値・環境ビジネス（遠隔）	生態系サービスの価値、環境はいくらか、環境ビジネス				
13	世界遺産・循環型社会（遠隔）	世界自然遺産、世界文化遺産、循環型社会、3R				
14	環境倫理・環境教育	環境倫理、環境教育、SDGs、食品ロス				
15	総合・まとめ（遠隔）	環境問題、問題と解決策、私たちにできること				
教科書及び参考図書						
参考図書・参考資料等 環境・循環型社会・生物多様性白書、Newton、日経サイエンスの他、授業で紹介する 参考 URL ; http://www.env.go.jp/						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.0 時間）：参考図書・参考 URL やインターネット・配付資料等を通して、予習をしておくこと。 事後学習（週 2.0 時間）：授業の内容をよく復習するとともに、生きた知識として活用するために、さらなる探究や調べ学習を行うこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
提出された課題などに Google Classroom のコメント等を返信する。共通の内容については授業内でフィードバックを行う。						
成績評価の方法・基準						
小レポートの内容 50%、授業内課題 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	自然や環境問題に関する一般的な知識を身に付け、諸問題の現状と解決策について論理的に十分よく説明できる。					
A	自然や環境問題に関する一般的な知識を身に付け、諸問題の現状と解決策について論理的に説明できる。					
B	自然や環境問題に関する基礎的な知識を身に付け、諸問題の現状と解決策についてある程度は説明できる。					
C	自然や環境問題に関する基礎的な知識を学習し、諸問題の現状と解決策について部分的には説明できる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
基礎教育 自然	情報機器操作 [Computer Literacy]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング	八板 将明			NSM-B1007		
この授業に関係する資格						
教員免許（中学校 2 種・保険体育、栄養教諭 2 種）						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
パソコン・インターネットに関する基本的な操作方法および用語について学習する。Microsoft office について演習を通じて操作方法を学ぶ。Microsoft office specialist 検定の出題レベルを学習し、希望に合わせて受験できる環境を整える。						
学習の到達目標						
パソコン・インターネットなどの情報機器操作環境に関する基本用語を理解する。パソコン操作演習を通じて、メールの送受信、インターネットの活用、簡単な文書、表計算、プレゼンテーションソフトを活用したビジネス文書作成ができることを目標とする。						
回	授業内容		キーワード	AL		
1	ガイダンス 授業目標やスケジュール、具体的にどのようにすすめるのかなどの説明を行う		ガイダンス	○		
2	情報機器の基本 パソコンやスマートフォンなどの情報機器操作に関する基本用語について学習する		情報機器の基本	○		
3	メールシステムの理解 メールシステムの理解（ドメイン・送受信・通信環境・マナー）・送受信演習		メールシステム	○		
4	インターネットの活用 インターネットから情報を収集する。Google・Google Classroom の活用		インターネット	○		
5	インターネットの活用 インターネットから情報を収集する。ビデオ会議ソフトの活用・IT リテラシー		インターネット	○		
6～8	文書作成（Word） 文書作成ソフトを使って文書を作成する		Word、文書作成	○		
9～11	表計算（Excel） 表計算ソフトを使って表計算・関数計算・グラフ作成を行う		Excel、表計算	○		
12～14	表現（PowerPoint） プレゼンテーションソフトを使ってプレゼン資料を作成する		PowerPoint	○		
15	まとめ これまでの内容について振り返り、内容の理解を深める		まとめ	○		
教科書及び参考図書						
参考図書：よくわかるマスター MOS Word/Excel/Powerpoint 365&2019 個別に準備するもの：USB メモリー（16GB 以上推奨）						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：タイピング練習 & 次週のテーマについての自主学習 事後学習（週 1.5 時間）：授業の内容の反復学習						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
授業終了後やオフィスアワーなどで適宜対応。習熟度から個別指導が必要な場合なども別途対応。						
成績評価の方法・基準						
提出課題の内容 90% 授業姿勢 10% （未提出な課題がある場合、成績の評価はされない）						
評価	成績評価別の到達度					
S	MS-Office の操作を十分理解し、インターネットを活用した高度なビジネス文書を作成することができる。					
A	MS-Office の操作を理解し、インターネットを活用したビジネス文書を作成することができる。					
B	MS-Office の操作を理解し、目的とするビジネス文書を作成することができる。					
C	MS-Office の基本操作を理解し、基本的な文書を作成することができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]	単位	N	S	M
基礎教育 外国語	英語コミュニケーション 1 [English Communication 1]	2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義・演習・アクティブ・ラーニング	植松 大介	国	NSM-B1008		
この授業に関する資格					
教員免許 (中学校 2 種・保健体育、栄養教諭 2 種)					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
授業の目的と概要					
自分の欲求を満たす英語表現・ジェスチャー等を身につけ、基本的なフレーズ (文語・口語) を講義とロールプレイングを通じて英語での基本的なコミュニケーションを取る。					
学習の到達目標					
日常生活の中での英語の役割を理解すると同時に、英語が身近な道具であることを学ぶ。さらに基本的な表現やフレーズを反復練習することにより、日本と英語圏の文化や、自分の欲求を満たすための簡単でシンプルな英語コミュニケーションの技術を習得することを目標とする。					
回	授業内容	キーワード			AL
1	オリエンテーション	授業の方針・進め方、評価の仕方、その他受講上の注意など			○
2	日本語はポエム、英語はソング。言語の根底を学ぶ	音域、抑揚			○
3	私は誰? あなたは誰?	自己・他己紹介			○
4	お天気ネタは万国共通! 会話の始まり	挨拶、会話の切り出し			○
5	感情と気持ちははっきりと!	意思表示、ジェスチャー			○
6	ロールプレイング①	これまでの学習成果確認			○
7	やっぱりオシャレはクウォーツ時計 時間のかつこい読み方	数字、時間			○
8	日本は「万」、英語は「千」数字の読み方を学ぶ	貨幣、金銭			○
9	方角・道案内はこれで万全!	方位、方角			○
10	米語? 英語? 豪語? 和製? 同じ言葉でも意味が違う	英米豪英語比較			○
11	ロールプレイング②	これまでの学習成果確認			○
12	分からないことは何でも聞く! 正しい質問のしかた	5W2H、命令、依頼			○
13	状況や味覚などはキチンと伝える	五感、温度			○
14	ロールプレイング③	これまでの学習成果確認			○
15	まとめと総括	総合統括			○
教科書及び参考図書					
参考図書: Kayo Shigemori 全クダメな英語が1年で話せた! アラフォーOL Kayo の「秘密ノート」 * 授業中に必要に応じて、適宜指示及び教材プリントを配布する					
準備学習・事後学習					
準備学習 (週 1.5 時間): 自分の興味のあるジャンルに対して新聞やニュース、インターネット・書籍を通して情報の収集をしておくこと。 準備学習 (週 1.5 時間): 講義内容を復習し、分からない単語やフレーズは調べて覚えること。					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
フィードバックとして各講義中に行うロールプレイング後により実践的な解説を行う。					
成績評価の方法・基準					
実技 55%、平常点 (予習状況、及び授業中の積極的な態度など) 20%、口頭試問 15%、筆記試験 10%として、総合的に評価する					
評価	成績評価別の到達度				
S	基本的な文法事項と慣用的な英語の表現を理解し、平易な英語でのコミュニケーション能力を十分身に付けている。				
A	基本的な文法事項と慣用的な英語の表現を理解し、平易な英語でのコミュニケーション能力をほぼ身に付けている。				
B	基本的な文法事項と慣用的な英語の表現を理解し、平易な英語でのコミュニケーション能力をある程度身に付けている。				
C	基本的な文法事項と慣用的な英語の表現を理解し、平易な英語でのコミュニケーション能力を最低限身に付けている。				

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
基礎教育 外国語	英語コミュニケーション 2 [English Communication 2]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング	植松 大介		国	NSM-B2009		
この授業に関する資格						
教員免許 (保健体育、栄養教諭)						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
<p>更なる自分の欲求を満たす英語表現を身につける。基本的なフレーズ (文語・口語) の確認と応用的なフレーズも講義とロールプレイングを通じて学ぶ。さらに編入学試験・就職試験などに必要な、長文読解力や文法力のアップを目指す。</p> <p>なお本講義を履修するには「英語コミュニケーション 1」の履修を必ず履修していること。</p>						
学習の到達目標						
<p>日常生活の中での英語の役割を理解すると同時に、英語が身近な道具であることを学ぶ。さらに基本から応用までの表現やフレーズを学び、更なる自己欲求を満たす英語コミュニケーションの技術と就職や編入等に必要な英語の技術を習得することを目標とする。</p>						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	オリエンテーション	授業の方針・進め方、評価の仕方、その他受講上の注意など			○	
2	英語は難解? 簡単? 英語のルーツを学ぶ	英語の歴史、日本の英語史			○	
3	握手と Hug だけが挨拶じゃない!	国別ジェスチャーとフレーズ			○	
4	場所や位置の表現方法をマスター!	方向、方位、位置、移動手段			○	
5	ロールプレイング① テーマ選定	旅行、観光、			○	
6	ロールプレイング② 入国からチェックインまで	税関、ホテル、チェックイン			○	
7	ロールプレイング③ 食べたい物を飲み食いする	レストラン、メニュー、支払い方法			○	
8	ロールプレイング④ 観光&お土産を買う	情報、移動手段、支払い、確認問い合わせ			○	
9	ロールプレイング⑤ チェックアウトから出国まで	ホテル、チェックアウト、DFS			○	
10	プレゼンテーション① テーマ選定	スポーツ、文化、食事、料理、調理法			○	
11	プレゼンテーション② スポーツ編	スポーツ、ルール、相撲			○	
12	プレゼンテーション③ 文化編	和食、日本、日本人、温泉			○	
13	プレゼンテーション④ レシピ編	調理法、作法、マナー			○	
14	総合ロールプレイング				○	
15	まとめと総括	まとめ・総括			○	
教科書及び参考図書						
<p>参考図書 : Kayo Shigemori 全クダメな英語が 1 年で話せた! アラフォーOL Kayo の「秘密ノート」</p> <p>* 授業中に必要に応じて、適宜指示及び教材プリントを配布する。</p>						
準備学習・事後学習						
<p>準備学習 (週 1.5 時間) : 自分の興味のあるジャンルに対して新聞やニュース、インターネット・書籍を通して情報の収集をしておくこと。</p> <p>準備学習 (週 1.5 時間) : 講義内容を復習し、分からない単語やフレーズは調べて覚えること。</p>						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして各講義中に行うロールプレイング後により実践的な解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
実技 55%、平常点 (予習状況、及び授業中の積極的な態度など) 20%、口頭試問 15%、筆記試験 10%として、総合的に評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	応用的な文法事項と慣用的な英語の表現を理解し、自身の英語力でのコミュニケーション能力を十分身に付けている。					
A	応用的な文法事項と慣用的な英語の表現を理解し、自身の英語力でのコミュニケーション能力をほぼ身に付けている。					
B	応用的な文法事項と慣用的な英語の表現を理解し、自身の英語力でのコミュニケーション能力を良く身に付けている。					
C	応用的な文法事項と慣用的な英語の表現を理解し、自身の英語力でのコミュニケーション能力を身に付けている。					

專門教育科目

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	健康のスポーツ栄養学 [Nutrition for Health and Fitness]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義	長島 洋介		国	NSM-S2010		
この授業に関係する資格						
栄養士免許、教員免許（中学校2種・保健体育）、公認スポーツ栄養士、健康運動実践指導者、GFI、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、子ども身体運動発達指導士						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
生活習慣病と運動、食事との関連性について深く学ぶことを目的とする。						
学習の到達目標						
健康のために必要な、運動と栄養の知識を十分に身につけることを目標とする。						
回	授業内容		キーワード			AL
1	健康づくりのためのスポーツと食事・栄養の意義		健康の定義			
2	生活習慣病とメタボリックシンドローム1 基礎		肥満 生活習慣病 内臓脂肪			
3	生活習慣病とメタボリックシンドローム2 予防のための施策		健康日本21 特定健診			
4	肥満の定義と身体組成		肥満 身体組成 徐脂肪体重			
5	エネルギー消費量の測定法		直接法 間接法 心拍数法			
6	エネルギー摂取量の評価方法		二重標識水法			
7	糖質の摂取と持久力		グルコース スクロース でんぷん			
8	たんぱく質の摂取と筋肉づくり		アミノ酸 ペプチド たんぱく質			
9	ビタミン1 水溶性ビタミンと脂溶性ビタミン		水溶性ビタミン 脂溶性ビタミン			
10	ビタミン2 活性酸素と抗酸化ビタミン		抗酸化ビタミン 活性酸素			
11	ミネラル1 鉄と貧血		鉄 貧血の種類			
12	ミネラル2 カルシウムと骨粗鬆症		カルシウム 骨粗鬆症			
13	水分補給 内容とタイミング		スポーツドリンク 組成			
14	健康補助食品の種類と使い方		特定保健用食品			
15	年代別のスポーツと栄養		思春期 成人期			
教科書及び参考図書						
参考資料：教員作成の資料を配布する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週1.5時間）：学習内容を事前に学習しておくこと						
事後学習（週1.5時間）：授業動画を Google Classroom にアップするので、復習しておくこと						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 100%						
評価	成績評価別の到達度					
S	健康のために必要な、運動と栄養の知識を十分に身につけている。					
A	健康のために必要な、運動と栄養の知識を身につけている。					
B	健康のために必要な、運動と栄養の基礎知識を身につけている。					
C	健康のために必要な、運動と栄養の基礎知識を最低限、身につけている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	運動生理学 [Exercise Physiology]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義	玉木 啓一		国	NSM-S2011		
この授業に関する資格						
栄養士免許、教員免許（中学校2種・保健体育）、健康運動実践指導者、GFI、公認スポーツ栄養士、NR・サプリメントアドバイザー、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、子ども身体運動発達指導士						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）			健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○		健康生活の知識と技術の修得		
○	健康管理の指導技術の修得			実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識			社会に貢献できる実践力		
授業の目的と概要						
生理学的な知識を理解し、健康のための運動、スポーツ競技力の向上について、理解し指導できる能力を身につける。運動中の生体内現象を、神経系・筋系ならびにエネルギー供給に関連した生理学的観点から理解する。また、体力向上の生理学的基礎について、トレーニングによる身体適応の変化を学ぶ。						
学習の到達目標						
運動生理学の基本的な知識を理解・習得し、健康やスポーツへ活かせる考え方を学び、その応用力を身につけることを目標とする。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	健康と運動生理学の関連を理解する	健康と運動、運動とからだ				
2	エネルギー代謝とは何かを、健康との関連において理解する	運動時の生理的特徴とエネルギー代謝				
3	エネルギー代謝の測定方法と意義を知る	エネルギー消費量、エネルギー代謝量の測定方法				
4	運動時のエネルギー供給を理解し、スポーツをエネルギーから理解する	エネルギー供給系				
5	呼吸・循環器系の基本を学び、運動による機能の変化を理解する	運動時の呼吸応答、運動時の循環応答				
6	運動をおこす筋の構造と筋収縮のしくみを学ぶ	筋の構造と機能、筋収縮のメカニズム				
7	筋収縮の種類、筋運動の制御を知る	筋収縮の様式、随意運動、不随意運動				
8	運動と中間代謝・内分泌の機能を学ぶ	ATP再合成、運動とホルモン				
9	筋線維タイプとその特性をスポーツ種目との関連で理解する	筋線維タイプ				
10	3大栄養素と運動の関係を学ぶ	運動と糖質、運動とタンパク質、運動と脂質				
11	ビタミン・ミネラルと運動の関係を学ぶ	運動とビタミン、運動とミネラル				
12	体力・運動能力の性差について知る	体力の男女差、体力・運動能力調査				
13	体力・運動能力の加齢変化について学ぶ	成長・発達、加齢、老化				
14	トレーニングの原理・原則とトレーニング効果について学ぶ	トレーニング原理、トレーニング原則				
15	運動と健康、運動とスポーツについて考える	運動と健康、運動不足病				
教科書及び参考図書						
教科書：「栄養・スポーツ系の運動生理学」樋口満 監修 湊久美子・寺田新 編 南江堂						
準備学習・事後学習						
準備学習（週1.5時間）：教科書を読み、自分なりの理解をし、理解できない部分は質問できるように準備すること 事後学習（週1.5時間）：授業で行った内容を復習し理解の確認（自分の言葉で他人へ説明できるか？）を試みる						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
授業中の対面でのフィードバックも予定しているが、Google Classroom を通じてのフィードバック、メールを利用した個別対応を行う						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 100%						
評価	成績評価別の到達度					
S	健康づくりやスポーツの実践・指導を、運動生理学の知識を活かして行うことができ、他人に理解させる能力を持っている。					
A	健康づくりやスポーツの実践・指導を、運動生理学の知識を活かして行うことができる。					
B	健康づくりやスポーツの実践・指導に役立つ運動生理学の知識を習得している。					
C	健康づくりやスポーツの実践・指導に役立つ運動生理学の基本的な知識を習得している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	健康の心理学 [Health Psychology]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義	高橋 勇一			NSM-S2012		
この授業に関係する資格						
ピアヘルパー、健康管理士一般指導員、社会福祉主事						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
心理学から派生した応用心理学の1つの領域である健康心理学を学習し、健康に影響を与える要因を、心理的・行動的・社会的など様々な観点から理解する。また、脳科学の成果も学習し、各自にとって適切なストレスとのつきあい方や健康法を考察し、身に付けることを目的とする。						
学習の到達目標						
人間が生活していく上で起こりうる様々な健康問題に対して前向きにとらえて解釈できる。健康と疾病には心理的要因はもとより、他の様々な要因が影響していることを理解する。そして、各自が適したストレス解消法や最善の状態（健康）を維持するスキルを応用することを目指す。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	健康心理学の定義と意義について	健康概念、心理学、健康心理学				
2	健康と心理学	脳科学、ポジティブ感情、セロトニン活性法				
3	ストレスと心の健康① ストレス理論	ストレス、ストレス理論、ストレス対処法				
4	ストレスと心の健康② ストレスとの上手なつきあい方	ストレスの捉え方、アドレナリン、オキシトシン、自己効力感				
5	健康心理アセスメント	QOL、対人関係、生活習慣、意志力				
6	健康とパーソナリティ	パーソナリティ、ユングのタイプ論、ビッグ・ファイブ論（特性論）				
7	心の健康・心の病気	統計情報、生まれてきた意味、思春期の精神疾患				
8	コンプレックスと劣等感	コンプレックス、劣等感、アドラー心理学、リフレーミング法				
9	健康教育	人間性心理学、自信、自己肯定感、未来日記				
10	健康心理カウンセリング	カウンセリング、ABCDE理論、マインドフルネス				
11	ポジティブ心理学	ポジティブ心理学、レジリエンス、人生の選択				
12	人生と健康心理学	ベストパフォーマンス、自己実現、寿命				
13	健康法	自己肯定感、リラクゼーション				
14	健康行動・幸福論	早寝早起き朝ごはん、フロー体験、幸福感				
15	総合・まとめ	健康なところ・身体・社会、振り返り				
教科書及び参考図書						
参考図書：森和代 石川利江 茂木俊彦 編 よくわかる健康心理学 ミネルヴァ書房 島井哲志・長田久雄・小玉正博 編 健康・医療心理学 入門 有斐閣アルマ						
準備学習・事後学習						
準備学習（週1.0時間）：参考図書やインターネット・配付資料等を通して、予習をしておくこと。 事後学習（週2.0時間）：授業の内容をよく復習するとともに、生きた知識として活用するために、さらなる探究や調べ学習を行うこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
提出された課題などにコメントを返信する。共通の内容については授業内でフィードバックを行う。						
成績評価の方法・基準						
授業参加態度・小レポートの内容 50%、授業内課題 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	健康の心理学全般についての知識を十分に理解し、健康法に関する応用的なスキルを身に付けている。					
A	健康の心理学全般についての知識を理解し、健康法に関するスキルを身に付けている。					
B	健康の心理学の基礎について概ね理解し、健康法に関するスキルをある程度身に付けている。					
C	健康の心理学の基礎について部分的に理解し、健康法に関するスキルを最低限は身に付けている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	健康管理論 [Health Care Theory]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義	岩井 秀明			NSM-S2013		
この授業に関係する資格						
教員免許（中学校 2 種・保健体育）、健康運動実践指導者、GFI、健康管理士一般指導員、介護予防運動スペシャリスト						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
健康増進、健康づくりの施策、健康管理の方法について学び、ライフステージごとの健康管理の実際とその予防から、健康を増進させる健康管理について修得する。						
学習の到達目標						
健康増進、健康づくりの施策、健康管理の内容と方法について理解・考察し、各ライフステージでの健康づくりを提案できる。 変容する社会とグローバル社会の進展における多様な健康問題を理解し、併せて健康に関する基礎的教養を広げられる。						
回	授業内容	キーワード				AL
1	健康増進-1 社会と健康(1章)	健康・公衆衛生の概念、社会的公正と健康格差、世界と日本の健康及び現状				
2	健康増進-2 環境と健康-1(1章)	環境と健康、生態系と人々の生活、環境汚染と健康影響、環境衛生				
3	健康増進-3 環境と健康-2(1章)	国際保健、地球環境問題				
4	健康増進-4 人間集団の健康(2章)	定義、疫学指標、方法、観察研究、介入研究、誤差、スクリーニング				
5	健康増進-5 健康指標 (3~5章)	統計学人口静態統計、人口推移、人口動態統計、生命表				
6	健康づくりの施策-1(1章)	第1次国民健康づくり対策、第2次対策（アクティブ80ヘルスプラン）				
7	健康づくりの施策-2(6章)	健康日本21（第二次）、健康増進法、新健康フロンティア戦略				
8	健康づくりの施策-3(6章)	生活習慣と健康、健康管理に関する行動と社会、食生活と栄養				
9	健康づくりの施策-4(6章)	生活習慣と健康、身体活動・運動				
10	健康管理の方法-5(7章)	生活習慣と健康、喫煙、飲酒、睡眠、休養、ストレス、歯科				
11	健康管理の方法-1(7章)	主要疾患の疫学と予防対策、がん、循環器疾患、代謝性疾患、骨・関節				
12	健康管理の方法-2(7章)	主要疾患の疫学と予防対策、感染症、精神疾患、その他の疾患				
13	ライフステージの健康管理-1(8~9章)	地域の保健予防システム、社会保障制度				
14	ライフステージの健康管理-2(10~12章)	高齢者・成人の健康管理、母子の健康管理、学校の健康管理				
15	ライフステージの健康管理-3(13章)	職場の健康管理				
教科書及び参考図書						
教科書：尾島俊之 堤明純 編 基礎から学ぶ健康管理概論 改訂第5版 2020.3（南江堂） 参考図書等：健康運動実践指導者養成テキスト、健康運動指導のための健康管理概論、学生のための健康管理学						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：次回のテーマとその内容について、指示された教科書の該当箇所を事前に読了する。 事後学習（週 1.5 時間）：講義資料の未読部分を読了し、教科書を参照しつつ、講義の振り返り課題を完成し提出する。						
課題に対するフィードバックの方法						
次回の講義冒頭時に振り返り課題、質問、感想についてフィードバックし分かち合う。更なる質問等は Google Classroom 機能を活用。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 70%、講義振り返り課題の提出（必須）及びその内容 30%を統合して判断・評価する。						
成績評価別の到達度						
S	健康管理論の基となる知識を十分に会得している。					
A	健康管理論の基となる知識を会得している。					
B	健康管理論の内容は概ね理解している。					
C	健康管理論の理解に努力が必要である。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] 必修		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実験・演習・アクティブ・ラーニング	茗荷 尚史			NSM-S6072		
この授業に関係する資格						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
<p>常に最新の情報を得る術について学び、それに基づいた栄養指導が行える真に実力のある栄養士になるための素養を身につけることを目的とする。</p> <p>例年 2~4 名程度の研究チームを編成して、チームごとに一つのテーマについて通年で研究活動を行っている。毎週一チーム 10 分程度のディスカッションの時間と 80 分程度の研究活動の時間を設けている。ディスカッションの時間では、主に前の週に行なった実験の反省・まとめおよび次週の予定決めを行っている。研究活動の時間では実際に手を動かして研究を行っている。過去の年度では、重点テーマとして遺伝子組換え食品の解析、コーヒー由来の美白成分の研究、イチゴ萎黄病に対する微生物農薬の開発および易剥性因果品種「ボロタン」の機能性、各種健康食材を利用した食品加工学的研究等について調査・研究を実施した。数年間稼働していないテーマも含めると現在 18 種と多彩なテーマを提示可能である。学術的価値のあるテーマについては学生提案の新規テーマも取り上げる。なお年に少なくとも数回ほどは、研究室全体で動く活動(サンプリング、学生企画の学外実習等)も企画している。</p> <p>なお若者の自由な発想を大切に研究なので、研究の方向性のみならず研究室の企画・運営に関しても積極的な提案を歓迎する。研究というものの性格上、規定時間通りには進行しないことがあるが、例年卒業の頃までには研究室が我が家のような感覚になってくれるようである。研究室の仲間が一生の友になる例もまま見受けられる。本研究室は 10 年連続で学生による学会発表を成し遂げた実績のある研究室である。</p>						
学習の到達目標						
研究活動の中で様々な障壁に遭遇するが、その原因と結果の関係を科学的かつ論理的に洞察し、解決の糸口を見出すことができる。						
回	授業内容	キーワード				AL
1・2	導入教育	先行研究の解説、研究テーマの説明				
3・4	研究テーマの決定	希望調査、提案受入れ、研究チーム編成				○
5・6	研究活動の開始	研究テーマについての理解熟知				○
7・8	研究活動	当面必要な技術についての説明				○
9・10	研究活動	技術的習熟				○
11・12	研究活動	習熟技術による実験				○
13・14	研究活動	新たに必要となる先行研究の洗い出し、研究環境整備				○
15・16	情報収集・整理法	文献検索の実習(図書館 & ネット)、学術論文の構成および整理法の講義				○
17・18	研究活動	次に必要となった技術の解説				○
19・20	研究活動	技術的習熟				○
21・22	研究活動	習熟技術による実験				○
23・24	研究活動	改良点の発見、再実験				○
25・26	まとめ	データ整理				○
27・28	まとめ	研究発表の準備				○
29・30	発表	研究発表				○
教科書及び参考図書						
<p>教科書：文献検索の際に収集した学術論文、図書(研究班ごとに異なる)</p> <p>参考図書：グリネルの科学研究の進め方・あり方 Frederik Grinnell 著 Haklak Rockbill 訳 共立出版</p>						
準備学習・事後学習						
<p>準備学習(週 0.5 時間)：前回の結果の整理 事後学習(週 0.5 時間)：次回の実験の下調べ</p> <p>本科目は常に毎回出たデータについて解析し、次の方針を決定し、さらなる施策を講じる科目で、計画書のようなものには書き表すことのできない流動性のある科目である。だからこそその過程の中に学ぶことが多い科目でもある。よって、テーマ毎に手順や進行度合は異なる場合もある。</p>						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法						
試験は行わないが、Google Classroom 等で指示された次回の実験に関する下調べ等を行うことがある。研究活動を通して調べた内容の妥当性を検証する。						
成績評価の方法・基準						
ディスカッションおよび研究活動に対する姿勢・貢献度 80% 研究発表の成果 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	研究活動にきわめて積極的に活動し、高いレベルで成果を上げている。					
A	研究活動にかなり積極的に活動し、高いレベルで成果を上げている。					
B	研究活動にほぼ積極的に活動し、標準的なレベルで成果を上げている。					
C	研究活動に最低限活動し、やや弱いが成果を上げている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] 必修		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実験・演習・ アクティブ・ラーニング	岡崎 英規			NSM-S6072		
この授業に関係する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
食品衛生上の問題点について調査・実験し、その結果から考察する力を身につけることを目的とする。						
学習の到達目標						
社会的に注目されている身近な食品衛生上の問題点について考察し、説明ができる。						
回	授業内容	キーワード	AL			
1	顔合わせ、過去の研究内容紹介、研究内容決定に向けて情報収集	オリエンテーション	○			
2	研究内容に関する情報収集	正しい情報の収集	○			
3	個人で調べたいことや興味のある内容を発表し、実現可能か検討	課題検討	○			
4	研究テーマの決定、テーマごとにグループ分け	研究テーマ決定	○			
5～14	グループごとに活動（勉強会、研究計画、資料調査、実験準備、実験など）	実践活動	○			
15	進捗状況をグループごとに発表（研究室中間発表会）、発表内容を学園祭で発表できるようにする	中間発表	○			
16	進捗状況から、今後の活動計画を検討（追加実験・調査の実施、論文作成など）	課題検討・計画再検討	○			
17～20	グループごとに活動（勉強会、追加実験・調査の実施、論文作成など）	実践活動	○			
21・22	全グループによる論文作成、まとめ	論文作成	○			
23～30	発表準備（発表媒体作成）及び発表	発表媒体作成・発表	○			
教科書及び参考図書						
参考図書：食品衛生検査指針、月刊食と健康・食品衛生研究（日本食品衛生協会）、食品衛生学雑誌（日本食品衛生学会）など						
準備学習・事後学習						
準備学習・事後学習（週 1.0 時間）：調査・実験するために必要な知識の向上に向けて、検索や書籍で学ぶ。 結果などから疑問に思った事を書き留める。必要に応じ考察を行う。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
研究テーマに関する論文作成 50% 研究発表 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	食品衛生上の問題点について正しく説明でき、高いレベルで考察できる。					
A	食品衛生上の問題点について正しく説明でき、十分考察できる。					
B	食品衛生上の問題点について正しく説明でき、ある程度考察できる。					
C	食品衛生上の問題点について正しく説明できるが、考察に努力を要する。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] <input checked="" type="checkbox"/> 必修		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実験・実習・演習・アクティブ・ラーニング	小河原 佳子			NSM-S6072		
この授業に関する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
<input type="checkbox"/>	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	<input type="checkbox"/>	健康づくりの実践的指導能力			
<input type="checkbox"/>	食、栄養科学の専門的知識	<input type="checkbox"/>	健康生活の知識と技術の修得			
<input type="checkbox"/>	健康管理の指導技術の修得	<input type="checkbox"/>	実社会に役立つ能力			
<input type="checkbox"/>	運動、スポーツ科学の専門的知識	<input type="checkbox"/>	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
健康の維持・増進を目的としたライフスタイルを追求し、食生活をはじめとする栄養の実態を知り、問題把握や対策・指導方法について検討し、実施できる能力を身に付けることを目的とする。						
学習の到達目標						
ライフステージ別対象者の健康・増進を目的とした食生活の栄養指導案・媒体を作成することができる。						
回	授業内容	キーワード	AL			
1	オリエンテーション	栄養指導例・模擬授業例	○			
2～6	情報収集・実態把握①～⑤	対象者・栄養問題抽出	○			
7～11	指導案の作成①～⑤	目標設定・指導案作成	○			
12～13	栄養管理計画①②	献立作成・発注	○			
14	調理実習①	試作・試食	○			
15～16	栄養管理計画の改善①②	献立見直し・発注	○			
17	調理実習②（改善）	試作・試食	○			
18～22	栄養指導教材作成①～⑤	媒体	○			
23～25	栄養指導実施①～③	栄養教育	○			
26～28	栄養指導の評価①～③	栄養評価・改善	○			
29	栄養指導のまとめ	振り返り・フィードバック	○			
30	栄養指導のまとめの発表	プレゼンテーション	○			
教科書及び参考図書						
参考図書：栄養教育論 第2版 光生館、日本人の食事摂取基準 2020年版、「八訂 食品成分表 2020」女子栄養大学出版社						
準備学習・事後学習						
準備学習（週0.5時間）：専門誌・新聞・雑誌など関連のある情報を収集しておく 事後学習（週0.5時間）：実施内容の記録・復習・次回に必要なことを準備しておく						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
Google Classroom で個別に対応する						
成績評価の方法・基準						
授業に対する積極的な態度 40%、研究テーマに対するレポートもしくはまとめ・媒体作成 40%、研究発表資料作成と発表 20%から総合的に判断する						
評価	成績評価別の到達度					
S	調査の企画・運営・調査結果の分析と、調査を反映させた栄養指導計画立案及び実施について大変よく理解している。					
A	調査の企画・運営・調査結果の分析と、調査を反映させた栄養指導計画立案及び実施についてよく理解している。					
B	調査の企画・運営・調査結果の分析と、調査を反映させた栄養指導計画立案及び実施について理解している。					
C	調査の企画・運営・調査結果の分析と、調査を反映させた栄養指導計画立案及び実施について概ね理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] 必修		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実習・ アクティブ・ラーニング	長島 洋介		国	NSM-S6072		
この授業に関係する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
食事と健康や競技パフォーマンスとの関連性について、自ら深く学習することを目的とする。						
学習の到達目標						
食事と健康や競技パフォーマンスとの関連性に関する知識や応用力を身につけることを目標とする。						
回	授業内容	キーワード	AL			
1	ガイダンス	顔合わせ 意思確認	○			
2・3	スポーツ栄養学に関する研究の概要	過去の研究内容	○			
4・5	スポーツ栄養学に関する研究のキーワードと文献検索の方法	文献検索方法 先行研究	○			
6	研究課題の設定と方法の検討	研究の背景 研究テーマ 目的	○			
7	スポーツ栄養学研究の被験者の選定	方法 被験者の設定	○			
8	調査研究の方法	研究デザイン 評価方法の検討	○			
9~15	調査・研究の準備 研究計画書 倫理審査書類の作成 スポーツ栄養学 調査・研究の実践（時間外）	研究計画書 倫理審査書類 評価票の作成	○			
16~20	データ入力	データ入力	○			
21~24	統計解析方法の学習、統計処理	統計処理方法 有意水準	○			
25・26	考察、文献収集、ディスカッション	先行研究との比較 ディスカッション	○			
27	発表資料作成	発表資料の作成	○			
28	発表練習	ポスター発表 練習	○			
29・30	研究発表会	ポスター掲示	○			
教科書及び参考図書						
参考図書：「スポーツ栄養学」市村出版 「応用栄養学」羊土社						
準備学習・事後学習						
準備学習（週0.5時間）：参考図書を読んでおくこと。 事後学習（週0.5時間）：授業中の内容を復習しておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
発表媒体の内容 70%、授業態度 30%として評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	食事と健康や競技パフォーマンスとの関連性に関する知識や応用力を、十分に身につけている。					
A	食事と健康や競技パフォーマンスとの関連性に関する知識や応用力を、身につけている。					
B	食事と健康や競技パフォーマンスとの関連性に関する基礎的知識を身につけている。					
C	食事と健康や競技パフォーマンスとの関連性に関する基礎的知識を最低限、身につけている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] 必修		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実習・演習・ アクティブ・ラーニング	小板 由美子			NSM-S6072		
この授業に関する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
食事では補えないエネルギー量や栄養素を補食として補うための食育の実践、調理方法、食選択等を通じ、食育計画を検討する。また、地域と密接な活動を通して料理を提供することにより調理法及び料理の工夫ができるようになることを目的とする。						
学習の到達目標						
研究の完成。調査・研究を通して栄養士としての見聞を広め、今後の食育に生かすことを目標とする。また、広く地域や人と関わる中で調和や協調性・積極性などを養い実施することができる。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	オリエンテーション 活動内容・活動実績の説明	食育 食育活動計画			○	
2・3	食教育 子どもの食と栄養	ライフステージ			○	
4・5	食教育 園児を対象にした食教育及び献立作成	補食 おやつ			○	
6・7	食教育 サポート用指導案作成、サポート用媒体作成	指導計画			○	
8.9	食育指導実践 1.2.3 園児を対象にした献立実習	補食 おやつ			○	
10.11	食教育 スポーツをする児童・生徒を対象にした食教育	個別指導			○	
12・13	食教育 スポーツをする児童・生徒を対象にした食教育	サポート用指導案			○	
14・15	食育指導実践 4.5.6 スポーツをする生徒を対象にした献立作成	グループワーク			○	
16・17	地域参加学習献立作成 園児を対象にした行事食	献立作成「クリスマスケーキ」			○	
18・19	地域参加学習献立作成 園児を対象にした行事食	実習			○	
20・21	行事食献立作成	行事食			○	
22・23	行事食献立作成	グループワーク			○	
24・25	行事食献立作成	グループワーク			○	
26・27	食教育実践実習 保育園にて食育授業の実施	実践 学外活動			○	
28・29	まとめ	フィードバック			○	
30	発表	プレゼンテーション			○	
教科書及び参考図書						
「食に関する指導の手引き」文部科学省 その他適宜資料配布						
準備学習・事後学習						
準備学習（週0.5時間）：指導を実施するための指導案作成、媒体作成の研究を行い、指導計画の準備。 事後学習（週0.5時間）：園児の特徴を踏まえた献立のふり返しを実施し、検討を行う。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
課題としての献立及び媒体を添削後グループごとにディスカッションを実施。						
成績評価の方法・基準						
受講参加態度・意欲 50% 研究テーマに対する課題 20% 研究発表 20% 学外活動 10%						
評価	成績評価別の到達度					
S	研究活動にきわめて積極的に活動し、高いレベルで成果を上げ、理解し実践できる。					
A	研究活動に積極的に活動し、高いレベルで成果を上げ、理解し実践できる。					
B	研究活動にほぼ積極的に活動し、標準的なレベルで成果を上げ、理解し実践できる。					
C	研究活動に参加し、やや弱い成果を上げ、理解し実践できる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] 必修		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実習・演習・ アクティブ・ラーニング	木元 泰子			NSM-S6072		
この授業に関する資格						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
食・栄養に関わる社会環境の変化や個人や集団のニーズに対応した課題解決の方法を考察し、実践的な活動を通して効果を評価する。栄養士に求められるコミュニケーション能力、表現力、社会への対応力等を向上させることを目的とする。						
学習の到達目標						
社会環境の変化や個人のニーズに対応した課題解決方法を追究する方法を身につける。コミュニケーションを図り、積極的な姿勢で取り組むことを目標とする。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	オリエンテーション	先行研究 問題提起 課題抽出			○	
2~6	研究テーマ 検討・決定	情報収集、文献検索、論文抄読			○	
7~9	研究方法 検討	量的研究、質的研究、アンケート調査、食事調査			○	
10~12	研究計画 作成	目的、背景、場所、対象、時期、手法			○	
13~15	研究活動 準備	発注表、器具点検			○	
16~20	研究活動 実施	作業工程、実施記録			○	
21~24	データ処理・分析	統計分析、比較分析、因子分析、回帰分析			○	
25・26	レポート作成	はじめに、背景、目的、方法、結果、考察			○	
27~29	研究発表準備	PowerPoint スライド作成			○	
30	研究発表	研究発表			○	
教科書及び参考図書						
教科書：臨床栄養学実習書 (医歯薬出版) ヘルスケア・レストラン (日本医療企画) 月刊雑誌 臨床栄養学 (医歯薬出版)						
準備学習・事後学習						
準備学習・事後学習 (週 1.0 時間) : 文献や資料の収集、データ解析や結果のまとめは、ゼミ時間に限らず各自の空き時間を活用して進めること。						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
研究活動 50% 研究発表会 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	研究活動にきわめて積極的に活動し、高いレベルで成果を上げている。					
A	研究活動に積極的に活動し、高いレベルで成果を上げている。					
B	研究活動に積極的に活動し、標準的なレベルで成果を上げている。					
C	研究活動に最低限活動し、やや弱い成果を上げている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] 必修		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実習・アクティブラーニング	菊地 亨			NSM-S6072		
この授業に関する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
<p>食品科学・調理科学・食品加工・感性工学分野での研究を行なう。取り組みたいテーマを自主的に考え、教員との打ち合わせを経て実験・発表準備を進めていく過程の中で、問題提起・解決能力を身につけることを目的とする。</p> <p>研究内容によって、調理のみならず、化学実験、機器を用いた測定、官能評価（人間の感覚を用いて食品の品質を評価する手法）を行う可能性がある。</p> <p>今までのゼミ生が取り組んできたテーマの例は、「食品やパッケージの色、食品添加物情報は喫食意欲や美味しさに影響するか？」、「味覚・嗅覚は生活習慣やトレーニングによって向上するか？」、「牛の品種により手作りビーフジャーキーの品質はどう異なるか？」、「にがりの種類により豆腐の品質はどう異なるか？」、「大豆以外の豆から調製した味噌の品質を調べる」、「紅茶の適切な抽出方法を調べる」、「大豆以外の豆から納豆を作って品質を比較する」、「お菓子パッケージ表記の国による特徴の違いを探る」などがある。</p>						
学習の到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 本学で学んだ調理学・食品学の知識・技術について、問題解決のために利用出来るようになる。 2. 研究活動に必要な情報を自ら適切な手段で入手し、それらを活用出来るようになる。 						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	研究を進めていく流れについて理解する	研究の目的、実験方法、結果、考察			○	
2~5	研究内容に関する情報収集を行う	文献検索			○	
6	研究テーマを決定する	研究テーマ			○	
7~9	適切な研究方法を調べる・考える	実験方法、実験手法			○	
10	研究の計画・スケジュールを立案する	研究計画			○	
11~15	研究の準備を行う	試料・試薬準備、アンケート作成			○	
16~20	研究を実行する	理化学実験、官能評価、アンケート調査			○	
21・22	データ入力・処理を行う（PC入力してまとめる）	記述統計、推測統計			○	
22~25	実験方法や結果を文章や図表でまとめる	文章作成、作図			○	
26~30	発表資料（ポスター）を作成・完成させる	ポスター、パワーポイント資料			○	
教科書及び参考図書						
参考図書：「フローチャートによる 身近な調理の科学実験」 地人書館						
準備学習・事後学習						
<p>準備学習（週0.5時間）： 研究テーマに基づく文献・資料を収集し、学習しておく。</p> <p>事後学習（週0.5時間）： 実験などで得られたデータをまとめる。</p>						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
提出された課題を添削して返却する。						
成績評価の方法・基準						
研究取り組みの姿勢 70% 成果発表 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	学習の到達目標について、極めて高いレベルで達成している。					
A	学習の到達目標について、十分に達成している。					
B	学習の到達目標について、ある程度達成している。					
C	学習の到達目標について、最低限の範囲で達成している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] 必修		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
演習・ アクティブ・ラーニング	玉木 啓一		実	NSM-S6072		
この授業に関係する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
競技力向上や健康増進にスポーツ科学（スポーツ生理学、バイオメカニクス）をどのように応用できるか？など、学生自らテーマを設定し、それらの疑問を解決することを目指し、実践しまとめていく。各自のテーマ（スポーツ技能の向上、ダイエットの成功 など）を研究成果としてまとめる。						
学習の到達目標						
各自の研究テーマを通して、その測定方法のしくみを理解し、測定結果から科学的結論を導き出す能力を体得すること、さらに、自分自身で正しいかどうかの判断ができる能力を身につけることが本科目の目標である。						
回	授業内容		キーワード			AL
1・2	科学的に考えることを学ぶ。情報から、知りたい事柄を考える。		論理的思考 観察、分析、考察			
3・4	過去のゼミ研究テーマを知る。		ダイエット、競技力向上、筋力トレーニング、健康増進			
5・6	研究論文の書き方を学ぶ。情報収集の方法と情報の取り扱いを学ぶ。		文献検索、剽窃行為の禁止、情報の妥当性			
7・8	各自が興味があるテーマの発表・討論					○
9・10	研究テーマの検討と研究方法を考える。研究手法を検討する。					○
11・12	研究手法の習得・再検討を行い、研究計画を具体化する。 研究手法を習得し、研究計画を決定する。					○
13・14	研究を実践し、情報やデータを収集し、実験・測定などを行う。					○
15・16	研究の進捗状況を検証し、結果考察に必要な情報を収集する。					○
17・18	研究の中間発表のために、資料をまとめる。					○
19・20	中間発表（ポスター発表）の準備を行う。					○
21・22	中間発表（学園祭）での、反省と自己評価を行う。 中間発表に関するゼミ内での討論会。					○
23・24	研究レポート作成について、各自の進捗に合わせた再検討。					○
25・26	各自の研究について課題解決の方法を検討し実践する。 研究の幅を広げるために、関連分野の知識から広い考察を行う。					○
27・28	科学的思考に基づき、事実に基づいた考察について学ぶ。 作成途中のレポートの改善を行う					○
29・30	レポート提出し、発表について準備を行う。研究成果発表					○
教科書及び参考図書						
教科書：特になし						
参考図書：アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門 佐藤望編著 慶應義塾大学出版会						
準備学習・事後学習						
準備学習（週0.5時間）：各自の研究テーマのための情報収集を行う						
事後学習（週0.5時間）：授業での討論を踏まえたテーマの考察を行う						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
授業中の討論が主となるが、実験・測定の現場でも様々なフィードバックを行う。						
成績評価の方法・基準						
レポート 50%、成果発表 40%、授業時の発言、討論内容 10%						
評価	成績評価別の到達度					
S	スポーツ科学（主にスポーツ生理学）の知識を活かした健康づくり、競技力向上を達成でき、科学的思考に基づき物事を判断できる。					
A	スポーツ科学（主にスポーツ生理学）の知識を活かした健康づくり、競技力向上を達成できる。					
B	スポーツ科学（主にスポーツ生理学）の知識を活かした健康づくり、競技力向上に取り組むことができる。					
C	スポーツ科学（主にスポーツ生理学）の知識を活かした健康づくり、競技力向上に向けた基礎が備わっている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] <input checked="" type="checkbox"/> 必修		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
演習・ アクティブ・ラーニング	杉山 仁志			NSM-S6072		
この授業に関係する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
バレーボールの戦術・スカウティング・練習方法等、色々な側面からバレーボールを捉え、学生自ら研究課題を設定し、課題について調べ、レポート作成を行う。						
学習の到達目標						
あらゆるスポーツ競技の中で、バレーボールに限定し、各自が研究課題となるテーマを考え、調べ、まとめる。て、その成果を発表する。						
回	授業内容		キーワード		AL	
1～3	前学期 研究課題 ○バレーボールの研究 書籍（Volleypedai）を利用し、バレーボールの用語を正しく理解する		バレーボール 専門用語		○	
4～7	書籍（バレーボール指導教本・コーチングバレーボール基礎編）を利用し、指導技術や指導理論を学ぶ		指導技術 指導理論		○	
8～11	実際のゲーム（大学リーグ戦中心）を鑑賞し、様々なチームの戦術を検討する		ゲーム鑑賞 戦術分析		○	
12～15	実際のゲーム（大学リーグ戦中心）を鑑賞し、様々なチームに対しスカウティングを行う		ゲーム分析（スカウティング）		○	
16～18	後学期 研究の実施 ○研究の実施 前学期に学んだ内容を考慮し、研究テーマを検討する		研究 テーマ		○	
19～21	研究テーマを発表し、研究グループをつくる		研究テーマ 発表 グループ作成		○	
22～25	各グループでの研究内容に沿って課題に取り組む		研究内容 課題		○	
26～30	研究課題をまとめる		研究課題 作成		○	
教科書及び参考図書						
参考図書：バレーボール指導教本（財）バレーボール協会編 大修館 コーチングバレーボール基礎編 日本バレーボール協会（編集）日本バレーボール学会（編集）大修館						
準備学習・事後学習						
準備学習（週0.5時間）：課題に取り組むにあたって必要な資料を探し、熟読しておくこと。 事後学習（週0.5時間）：自らの課題で分からなかった事を調べておく。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで対応する。						
成績評価の方法・基準						
研究テーマへの取組、課題の発表など100%						
評価	成績評価別の到達度					
S	バレーボールの研究を自分のテーマに沿って十分にいき成果を発表できる。					
A	バレーボールの研究を自分のテーマに沿っていき成果を発表できる。					
B	バレーボールの研究を自分のテーマに沿って成果を発表できる。					
C	バレーボールの研究を自分のテーマに沿って行える。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] 必修		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
演習・ アクティブ・ラーニング	高橋 琴美			NSM-S6072		
この授業に関係する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
これまでの経験を通して「グッドコーチ」とは何かを考え、指導者に必要な知識・態度を身につけることを目的とする。「スポーツ指導」に関する興味・関心のあるテーマについて積極的に調べ、より効果的な練習法や指導法を考え実践する。また「武蔵丘ハンドボールクリニック」に補助員として参加し、指導実践を行う。指導実践ではハンドボールの指導が中心となるため、「球技2（ハンド）」の履修が望ましい。						
学習の到達目標						
各自が興味・関心のあるテーマについて積極的に調べ、実践・実習を通して、練習法・指導法について考える力を身につける。 対象者が異なる講習会のサポートすることで、指導現場での実践力を身につける。						
回	授業内容	キーワード	AL			
1	授業展開、評価についての説明、演習における注意点	授業展開				
2～4	これまで頑張ってきた「スポーツ」を紹介する	スポーツの良さ、楽しさ、魅力	○			
5～6	「グッドコーチ」について考える	グッドコーチ、良い指導者、好ましくない指導者	○			
7～8	プレーヤーズドセントラードについて考える	グッドコーチ、プレーヤーズドセントラード	○			
9～10	「グッドコーチ」の条件、求められる資質能力について考える	グッドコーチ、良い指導者、資質、能力	○			
11～12	「グッドコーチ」になるために、今できることを考える	グッドコーチ、今できること	○			
13～16	各自が興味・関心のあるテーマについて調べ、その練習方法・指導方法について発表する	練習方法、指導方法	○			
17～22	各自が調べた内容をもとに練習計画を立て、練習方法・指導方法を実践する	練習計画	○			
23～25	「武蔵丘ハンドボールクリニック」に指導補助員として参加し、指導法を学ぶ	小学生、指導	○			
26～28	指導実践のまとめ	指導実践、指導法	○			
29～30	これまでの指導実践について発表する	まとめ	○			
教科書及び参考図書						
参考図書：目からウロコのシュート術、目からウロコの個人技術、目からウロコのDF戦術（グローバル教育出版） その他：適宜資料を配付するが、必要に応じて各自で参考資料等を収集すること。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週0.5時間）：ハンドボール競技規則については毎時間しっかりと予習しておくこと。 事後学習（週0.5時間）：ゼミ活動を通して興味を持った内容について積極的に調べること。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、毎時間提出された小レポートにコメントを入れ返却する。						
成績評価の方法・基準						
演習への積極的な取り組み 50% 調査・発表 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	スポーツ指導者としてハンドボールへの理解を深め、対象者に合わせたより効果的な練習法や指導法を習得している。					
A	スポーツ指導者としてハンドボールへの理解を深め、より効果的な練習法や指導法を習得している。					
B	ハンドボールへの理解を深め、効果的な練習法や指導法を習得している。					
C	ハンドボールへの理解を深め、基本的な練習法や指導法を習得している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] 必修		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
演習・ アクティブ・ラーニング	川井 明			NSM-S6072		
この授業に関係する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
バスケットボールの専門的な知識を身に付け、主にゲーム分析の方法について学ぶ。バスケットボールに関する自分の興味のあるテーマについて調べまとめる。事前に指導書などを読み、基本的な知識を学んでいることが望ましい。						
学習の到達目標						
バスケットボールの競技特性を理解し、基本的なゲーム分析を行うことができる。自分の決めたテーマについて調べ、順序立ててレポートにまとめることができる。						
回	授業内容		キーワード	AL		
1・2	ガイダンス 授業の目的や内容を理解する		授業ガイダンス			
3・4	競技特性の理解① バスケットボールの競技特性の理解を深める。歴史的な背景等について、レポートやプレゼンを行う		歴史的背景	○		
5・6	競技特性の理解② バスケットボールの競技特性の理解を深める。競技規則等について、レポートやプレゼンを行う		競技規則	○		
7・8	競技特性の理解③ バスケットボールの競技特性の理解を深める。国内的な現状等について、レポートやプレゼンを行う		国内の現状	○		
9・10	競技特性の理解④ バスケットボールの競技特性の理解を深める。国際的な現状等について、レポートやプレゼンを行う		海外の現状	○		
11・12	プレゼンテーション① これまでのバスケットボール競技特性を理解した上で、自身の興味について、プレゼンを行う		研究目的	○		
13・14	プレゼンテーション② これまでのバスケットボール競技特性を理解した上で、自身の興味について、プレゼンを行う		先行研究	○		
15・16	プレゼンテーション③ これまでのバスケットボール競技特性を理解した上で、自身の興味について、プレゼンを行う		参考文献	○		
17・18	ポスター発表準備① 研究テーマを決定		研究課題決定	○		
19・20	ポスター発表準備② 先行研究を行う		先行研究検索	○		
21・22	ポスター発表準備③ 各自の研究活動		発表準備	○		
23・24	ポスター発表 学園祭において、自身の研究についてポスター発表を行う		ポスター発表	○		
25・26	まとめ① 年間を通じた各自の活動について、プレゼンを行い、レポート提出		レジュメ作成	○		
27・28	まとめ② 年間を通じた各自の活動について、プレゼンを行い、レポート提出		プレゼン	○		
29・30	まとめ③ 年間を通じた各自の活動について、プレゼンを行い、レポート提出		総括	○		
教科書及び参考図書						
参考図書：「バスケットボール指導教本 日本バスケットボール協会（大修館書店）」その他、適宜紹介する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 0.5 時間）：バスケットボールに関する情報を、新聞やニュース・雑誌・インターネットや書籍等を通して収集すること。 事後学習（週 0.5 時間）：授業中の内容を復習すること。						
毎時間のレポート提出やプレゼンテーション回収後に、フィードバックを行う。						
成績評価の方法・基準						
レポート 50% プレゼンテーション 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	バスケットボールに関する知識を十分に身に付け、分かりやすく説明することができる。					
A	バスケットボールに関する知識を十分に身に付け、説明することができる。					
B	バスケットボールに関する知識を概ね身に付けている。					
C	バスケットボールに関する知識を最低限身に付けている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] 必修		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
演習・ アクティブ・ラーニング	辻 将也			NSM-S6072		
この授業に関する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
陸上競技のルールおよび種目特性について考察する。幅広い年代への指導方法について検討・実践し、陸上競技の実践的指導力を身に付ける。						
学習の到達目標						
各種目および対象者における課題を発見し、その課題に適した練習方法・指導方法を自ら検討し、実践することができる。						
回	授業内容	キーワード	AL			
1	授業の概要を説明する	授業の流れの説明				
2・3	陸上競技のルールおよび種目特性について学ぶ	陸上競技におけるルール、各種目の特性				
4・5	種目に適した指導法について考える 各年代の特徴について学び、適した指導方法について考える	各種目の指導方法、年代の身体的特徴	○			
6・7	コーディネーショントレーニングについて学び、実践する	コーディネーション能力	○			
8・9	小学生を対象とした走種目のコーチングについて学ぶ	小学生 走種目 指導方法				
10・11	中学生を対象とした走種目のコーチングについて学ぶ	中学生 走種目 指導方法				
12・13	高校生を対象とした走種目のコーチングについて学ぶ	高校生 走種目 指導方法				
14・15	各年代への走種目のコーチングについて検討し、まとめる	小・中・高校生 走種目 指導方法	○			
16・17	小学生を対象とした跳躍種目のコーチングについて学ぶ	小学生 跳躍種目 指導方法				
18・19	中学生を対象とした跳躍種目のコーチングについて学ぶ	中学生 跳躍種目 指導方法				
20・21	高校生を対象とした跳躍種目のコーチングについて学ぶ	高校生 跳躍種目 指導方法				
22・23	各年代への跳躍種目のコーチングについて検討し、まとめる	小・中・高校生 跳躍種目 指導方法	○			
24・25	小・中・高生を対象とした投てき種目のコーチングについて学ぶ	小・中・高校生 投てき種目 指導方法				
26・27	各年代への投てき種目のコーチングについて検討し、まとめる	小・中・高校生 投てき種目 指導方法	○			
28～30	各自が設定したテーマについて調べ、練習方法および指導方法について発表する	練習方法 指導方法 プレゼンテーション	○			
教科書及び参考図書						
教科書：陸上競技指導教本アンダー13：（公財）日本陸上競技連盟編集 大修館書店 陸上競技指導教本アンダー16・19 初級編：（公財）日本陸上競技連盟編集 大修館書店						
準備学習・事後学習						
準備学習（週0.5時間）：授業の内容に関する情報（教科書・インターネット等）を事前に読んで学習しておくこと。 事後学習（週0.5時間）：授業中の内容を復習し、わからない単語は調べて覚えること。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
演習への取り組み 60% 発表 40%						
評価	成績評価別の到達度					
S	自ら問題点を発見し、改善方法の検討・実践をし、特に優れた成果を上げている。					
A	自ら問題点を発見し、改善方法の検討・実践をし、優れた成果を上げている。					
B	自ら問題点を発見し、改善方法の検討・実践をし、成果を上げている。					
C	自ら問題点を発見し、改善方法の検討・実践をしている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] 必修		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
演習・ アクティブ・ラーニング	村井 輝久			NSM-S6072		
この授業に関係する資格						
特になし。						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
本演習では、教育目標・評価論やカリキュラム論などの知見の学習を通して、よりよい授業のあり方について自身の考えを説明できるようになることを目的とする。それとともに、本演習参加者との話し合いを通して、子どもの学びを深めるための授業のあり方を考察できるようになることも目指す。						
学習の到達目標						
教育目標・評価論やカリキュラム論などの知見をもとにしながら、子どもの学びを深めるための授業のあり方について、相手に分かりやすく自身の考えを説明することができる。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方、成績判定の方法、受講上の諸注意			○	
2	教育実践における問い	「とは何か」という問い、「いかにして」という問い			○	
3~5	教育目標・評価論	絶対評価、相対評価、目標に準拠した評価			○	
6~8	カリキュラム論	教育課程の種類、工学的アプローチ、羅生門的アプローチ			○	
9~11	「深い学び」とは何か？	知識の構造化、対話法、教育内容の習熟			○	
12~15	子どもの学びを深めるための授業のあり方	「教科する」授業、教材研究、教科の本質			○	
16~20	レポート内容の選択と発表	問いや課題の設定、単元、教材			○	
21~25	レポートの構想と作成	問いや課題の追究、授業構想、単元計画、学習指導案			○	
26~29	レポートの発表と質疑応答	発表、質疑応答			○	
30	まとめ	今後の課題の検討			○	
教科書及び参考図書						
参考図書：中内敏夫『教育学第一歩』岩波書店、1988年。 その他：必要に応じて、プリントを配布する。						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週0.5時間)：演習で議論するためのテーマやキーワード、またそれらに関連する資料を集め、発表する内容を整理しておくこと。 事後学習 (週0.5時間)：授業内容を復習し、分からない内容については配布資料などを参考にしながら授業内容を整理しておくこと。						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
授業時間内に質疑応答という形でフィードバックする。また、オフィスアワーで適宜質疑応答またはフィードバックする。						
成績評価の方法・基準						
レポート課題 50%、授業課題 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	教育目標・評価論やカリキュラム論などの知見をもとにしながら、子どもの学びを深めるための授業のあり方について、相手に分かりやすく自身の考えを説明することができる。					
A	子どもの学びを深めるための授業のあり方について、自分の考えを説明することができる。					
B	子どもの学びを深めるための授業のあり方について、調べたことを整理することができる。					
C	教育目標・評価やカリキュラム編成の種類について、要点を説明することができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	健康生活演習 [Seminar in health of Life] 必修		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
演習・ アクティブ・ラーニング	田本 育代			NSM-S6072		
この授業に係る資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
<p>【前学期】サッカーを科学的な視点でとらえ、自ら研究テーマを設定してレポートにまとめる。 【後学期】前学期の成果をパワーポイントを用いて発表し、学園祭にてポスター発表を実施する。 本ゼミは「私の専門はサッカーです」と言うためのゼミである。</p>						
学習の到達目標						
サッカーを科学的な視点でとらえ、深く理解し、対象の研究テーマを各自で探究し、理解、表現することができる。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	ガイダンス	サッカー				
2～4	先行研究の紹介	サッカー・先行研究				
5・6	研究論文の書き方	書き方・理解				
7～9	研究方法の解説	研究			○	
10～12	研究テーマの設定	テーマ・ディスカッション			○	
13・14	データ収集・処理	データ収集・処理				
15・16	結果・考察のまとめ方	データの扱い方・仮説との整合性				
17～19	研究レポート作成	研究レポート			○	
20・21	プレゼンテーション	パワーポイント・プレゼンテーションスライド				
22・23	口頭発表の説明	発表のマナー				
24・25	口頭発表会	発表・質疑応答			○	
26・27	ポスター作成	発表用ポスター			○	
28	ゲーム分析	ゲーム分析			○	
29	コーチング分析	指導実践・指導理解			○	
30	まとめ	まとめ				
教科書及び参考図書						
参考図書：サッカー指導教本 日本サッカー協会						
準備学習・事後学習						
準備学習（週0.5時間）：分析内容に関わる資料を探してくる。 事後学習（週0.5時間）：授業時間内で終わらなかった点をまとめてくる。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
レポートにコメントを入れ、返却する。						
成績評価の方法・基準						
レポート40%、平常点20%、研究発表20%、ポスター発表20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	サッカーを深く理解したうえで、レポート、研究発表、ポスター発表において各自の意見を踏まえ論理的にその理解を表現できる。					
A	サッカーを良く理解したうえで、レポート、研究発表、ポスター発表において各自の意見を踏まえその理解を表現できる。					
B	サッカーを理解したうえで、レポート、研究発表、ポスター発表において各自の感想を踏まえてその理解を表現できる。					
C	サッカーを理解したうえで、レポート、研究発表、ポスター発表においてその理解を表現できる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] 必修		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
演習・ アクティブ・ラーニング	太田 あや子			NSM-S6072		
この授業に係る資格						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
スポーツマネジメントの現場で使う指導法やコミュニケーション方法を学び、実践してまとめ、成果を振り返り、次につなげる PDCA サイクルを身につける。						
学習の到達目標						
幼児体育やスポーツマネジメントの対象領域について、情報を収集し、現場で実習を行い、イベントや事業の企画運営し、学習成果をパワーポイントのプレゼンテーションにまとめ説明できる						
回	授業内容		キーワード			AL
1	ガイダンス		ガイダンス			
2	プレゼンテーション 1 学校紹介プレゼンテーションのテーマを考える		テーマ設定			○
3・4	プレゼンテーション 2~4 プレゼンテーションの資料収集 (1)、パワーポイントによるプレゼンテーションの作成(1)、(2)		資料収集			○
5	前期イベント運営企画 1: 幼児運動指導教室 実技		幼児運動指導の指導計画準備			○
6	前期イベント運営企画 2: 幼児運動指導教室 指導案作成		指導、企画実施準備			○
7	前期イベント運営実習 1: 吉見町保育所実習 (運動遊び: サーキット)		保育園運動指導			○
8~14	前期イベント運営企画 2~8 (運動遊び: ラダー、マット、鉄棒、パラバルーン)		保育所運動指導実習			○
15	イベント運営振り返り		保育所運動指導イベント運営のパワーポイント作成			○
16・17	後期イベント運営企画 1・2: 幼児運動指導教室 指導案作成川島町スポーツフェスティバル運営企画		イベント運営企画			○
18	後期イベント運営実習 1: 吉見町保育所実習 (運動遊び: サーキット)		保育所実習運動指導実習			○
19~21	後期イベント運営企画 2~4 (運動遊び: ラダー、マット、鉄棒、パラバルーン)		保育所実習運動指導実習			○
22	幼児運動能力測定: 測定練習		幼児運動能力測定練習			○
23・24	幼児運動能力測定: 測定		幼児運動能力測定実習			○
25~27	川島町スポーツフェスティバル運営実習 1~3		体力測定イベント運営			○
28~30	幼児、川島町測定データ処理と後期パワーポイント作成		体力測定イベントデータ処理、後期成果パワーポイント作成			○
教科書及び参考図書						
参考図書: マーケティングを学ぶ人が最初に読む本 重田修治 総合法令出版(2004)						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 0.5 時間): 担当する実習の内容についてインターネット等で調べておくこと。 事後学習 (週 0.5 時間): 毎時の授業内容を日誌にまとめて、レポート作成の準備をすること。						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
学習ノートの内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う。						
成績評価の方法・基準						
平常点 50% 提出物 (パワーポイント、レポート) 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	課題やテーマを自ら発見しイベントを企画、全体を統括して実施する能力があり、実践できる。					
A	与えられた課題やテーマに即したイベントを企画、十分なイベント運営するがあり、実践できる。					
B	与えられた課題やテーマのイベントに参加し、運営する能力があり、実践できる。					
C	与えられた課題やテーマのイベントに参加し、運営を補助する能力があり、実践できる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	健康生活演習 [Seminar in Health and Management] 必修		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
演習・アクティブ・ラーニング	福島 邦男			NSM-S6072		
この授業に関する資格						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
<p>前学期はイニシアティブゲームについて調査し、体験学習について学ぶ。また、プールでカヌーを練習し、社会貢献としてボランティア活動に参加する。後学期は本学の施設や周辺の自然環境を利用して、ルディックウォーキング、アウトドアクラフトについて実践を通して学ぶ。</p>						
学習の到達目標						
<p>野外活動をはじめとした様々な活動での直接体験の重要性について説明できる。体験した活動の指導法についても学び、指導できる。体験した活動について調査し、発表できる。</p>						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	この授業の内容とその進め方についてのガイダンス	ガイダンス オリエンテーション				
2~4	イニシアティブゲームについて実践を通して学ぶ	イニシアティブゲーム 直接体験 コミュニケーションワーク			○	
5~7	イニシアティブゲームについて調査する	OBS PAJ			○	
8・9	イニシアティブゲームについて、ポスターにまとめる	ゲームのまとめ ポスター作成 発表準備			○	
10~13	カヌー (カヤック) について、その基本から、実践を通して学ぶ	カヌー カヤック セルフレスキュー			○	
14	カヌーについて、学んだことを基にボランティア活動に参加する	カヌーのまとめ 発表準備			○	
15	前学期全般についてのまとめ	ポスター作成 発表準備			○	
16~18	ルディックウォーキング (NW) の基本動作について	ルディックウォーキング ポールウォーキング				
19~21	本学周辺のコースを歩くことで実践的に学ぶ	ヘルスレベル フィットネスレベル			○	
22~23	NW について学んだことをポスターにまとめる	NW のまとめ ポスター作成 発表準備			○	
24	NW ポスターにまとめ発表する	NW ポスター発表			○	
25	自然を活用した野外活動やレクリエーション活動について学ぶ	野外活動 1				
26・27	自然の材料を活用した野外工作と安全管理について学ぶ	野外クラフトの基本			○	
28・29	野外工作を発展させ、テーブル作成に挑戦する	野外クラフトの応用			○	
30	この演習での成果を発表	発表ポスターの掲示			○	
教科書及び参考図書						
<p>参考図書：ティーチング イン ザ アウトドアーズ D.R.Hammerman 他著 日本野外教育研究会監訳 杏林書院 その他：必要に応じて資料を配布する。</p>						
準備学習・事後学習						
<p>準備学習 (週 0.5 時間)：この授業のキーワードと毎回のテーマに関する情報を新聞、雑誌、インターネット等から入手し、各回で生かせるように目を通しておく。 事後学習 (週 0.5 時間)：授業内容をふりかえり、次回に活かせるようにしておく。毎時間の資料は保管しておき、事後学習に活用できるようにしておく。</p>						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
フィードバックとしてミニレポートを回収し、解説を加えて返却する。オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
演習への積極的な取り組み 70% 調査・発表・レポート 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	野外教育とレクリエーションの意義を理解し、体験した活動について説明と発表ができるとともに、十分な指導ができる。					
A	野外教育とレクリエーションの意義を理解し、体験した活動について説明と発表ができるとともに、指導ができる。					
B	野外教育とレクリエーションの意義を理解し、体験した活動について説明と発表ができる。					
C	野外教育とレクリエーションの意義を理解し、体験した活動について発表ができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] 必修		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
演習・ アクティブ・ラーニング	植松 大介		国	NSM-S6072		
この授業に関する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
「ホスピタリティ」を商品と捉え「ビジネス」展開を行う。地域の企業と連携し商品の企画立案・提案を行う。 人の心に響き、相手を思いやる気持ちをいかに商品化・販売するためのメカニズムを学び実践する。						
学習の到達目標						
人の心に響き、相手を思いやる気持ちを商品化、ビジネス展開し「利潤」を求めるスキルを身につける。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	オリエンテーション	進め方、評価の仕方、その他受講上の注意			○	
2～14	企業連携経営実習	経営管理 バランスシート キャッシュフロー 人的サービス・アクセスポイント			○	
15	発表	実践・実施報告			○	
16	オリエンテーション	商品企画の進め方・マーケティングリサーチの仕方			○	
17～29	企業連携実売実習	マーケティングリサーチ（実地調査） 商品の企画立案（プランニング・シミュレーション） 販売予測（レベニューマネジメント） 企画提案・実売（プレゼンテーション） 展開予測（フィードバック）			○	
30	発表	実売成果報告			○	
教科書及び参考図書						
参考図書：ホテルビジネス（基礎編）（財）ホテル教育センター / 練習過去問集 700 選 授業中、必要に応じて適宜指示及び資料プリントを配布する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 0.5 時間）：学習する事項に対して新聞やニュース、業界誌・インターネット・書籍を通して情報の収集をしておくこと。 事後学習（週 0.5 時間）：講義内容を復習し、分からないところは調べて理解しておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして各講義の最後にディスカッションを行う。また連携企業より統括コメントバックを頂き、解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
発表 45%、実演 25%、平常点（演習中の積極的な態度など）20%、予習調査 10%として、総合的に評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	演習に関して、知識・技能などを深く理解し、実務に必要な項目を十分身に付けている。					
A	演習に関して、知識・技能などをほぼ理解し、実務に必要な項目を良く身に付けている。					
B	演習に関して、知識・技能などをかなり理解し、実務に必要な項目を身に付けている。					
C	演習に関して、知識・技能などの基本事項を理解し、実務に必要な項目を身に付けている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] <input checked="" type="checkbox"/>		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング	八板 将明			NSM-S6072		
この授業に係る資格						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
SDGs、Society5.0 の概念に基づき、地域活性化についての研究活動を行う。主に川島町・武蔵丘短期大学の共同研究として、町の PR 動画の制作配信活動を行う。現地調査・取材・動画の制作・配信に基づく反響を検証する (川島町との共同研究含む)。また、プレゼンテーションや動画コンテンツの配信を通じて、伝える力、発信力を養うことを目的とする。						
学習の到達目標						
SDGs、Society5.0 が示す社会について、地域や社会とのかかわりを通じて取材・研究する。研究を通じて、課題を発見し・解決する能力の向上を目標とする。						
回	授業内容		キーワード	AL		
1・2	ガイダンス・研究方法 年間スケジュール・研究内容・研究方法・目標設定方法の説明		ガイダンス	○		
3・4	研究テーマ設定 SDGs、Society5.0 の概念に基づいた、地域の課題発見と解決の考え方・実践方法の設定		SDGs	○		
5-7	取材・研究① 地域産業の活性化に関する取材・研究		地域産業	○		
8・9	プレゼンテーション① 動画制作・SNS 配信・反響の検証		動画、SNS	○		
10~12	取材・研究② 地域産業の活性化に関する取材・研究		地域産業	○		
13・14	プレゼンテーション② 動画制作・SNS 配信・反響の検証		動画、SNS	○		
15~17	取材・研究③ 人を呼び込む観光資源に関する取材・研究		観光資源	○		
18・19	プレゼンテーション③ 動画制作・SNS 配信・反響の検証		動画、SNS	○		
20~22	取材・研究④ 人を呼び込む観光資源に関する取材・研究		観光資源	○		
23・24	プレゼンテーション④ 動画制作・SNS 配信・反響の検証		動画、SNS	○		
25・26	取材・研究⑤ 地域における人の交流の活性化に関する取材・研究		地域活性化	○		
27・28	プレゼンテーション⑤ 動画制作・SNS 配信・反響の検証		動画、SNS	○		
29・30	まとめ、年度報告・研究レポート作成、提出・川島町への年度報告		まとめ	○		
教科書及び参考図書						
東洋経済 (SDGs に取り組む大学特集/ポスト 2030 に向けた知と実践/初等中等教育における SDGs・ESD の実践) セルバ出版 (SDGs を基盤にした大学連携型地域貢献)						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 0.5 時間) : 各研究項目についての情報収集・取材・発表準備 事後学習 (週 0.5 時間) : 各研究項目についての修正・ブラッシュアップ・コンテンツ制作						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
オフィスアワー・Google Classroom・slack による情報共有・ディスカッションの実施						
成績評価の方法・基準						
研究課題 100% (未提出な課題がある場合、成績の評価はされない)						
評価	成績評価別の到達度					
S	SDGs、Society5.0 を理解し、地域社会と協力した積極的な研究活動を行うことで、問題の発見および解決に十分な評価を得ている。					
A	SDGs、Society5.0 を理解し、地域社会と協力した積極的な研究活動を行うことで、問題の発見および解決に努めている。					
B	SDGs、Society5.0 を理解し、積極的な研究活動を行うことで、問題の発見および解決に努めている。					
C	SDGs、Society5.0 を理解し、研究活動に取り組むことで研究レポートを作成できる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	競技のスポーツ栄養学 [Sports Nutrition for Athlete]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・ アクティブ・ラーニング	長島 洋介		国	NSM-S3017		
この授業に関係する資格						
アスレティックトレーナー						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
アスリートに必要な栄養や食事に関する理解を深めることを目的とする。						
学習の到達目標						
競技特性、トレーニング状況、時期に応じた食事に関する知識を身につけることを目標とする。						
回	授業内容	キーワード	AL			
1	競技スポーツと食事・栄養の意義	スポーツ選手の食の基本形				
2	エネルギー消費量	身体組成 評価方法				
3	エネルギー摂取量	食事調査の方法と結果の理解				
4	エネルギー補給方法 運動前後のエネルギー補給	グリコーゲンローディング				
5	脂質の役割	脂質を摂取する意義 脂質のエネルギー量				
6	たんぱく質とアミノ酸の摂取	アミノ酸 必要量 グリコーゲンとの関係				
7	ビタミンと運動	水溶性ビタミン 脂溶性ビタミン 抗酸化ビタミン				
8	ミネラルと運動	鉄 カルシウム				
9	減量期・増量期の食事	エネルギーコントロール方法 注意点				
10	試合期の食事	消化吸収 食中毒				
11	ジュニアアスリートの栄養	思春期 学童期				
12	アスリートの抱える問題 1 低栄養の問題	貧血予防				
13	アスリートの抱える問題 2 心理的な問題	女性アスリート三主徴 月経障害 摂食障害	○			
14	国際競技力向上のための栄養士の役割 1	ハイパフォーマンスサポート活動	○			
15	国際競技力向上のための栄養士の役割 2	オリンピック 衛生状態の確認 献立作成				
教科書及び参考図書						
参考図書：「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑨スポーツと栄養」財団法人日本体育協会						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：参考図書を読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：授業中の内容を復習しておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
レポート課題 90%、授業態度 10%として総合的に評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	競技特性、トレーニング状況、時期に応じた食事に関する知識を十分に身につけている。					
A	競技特性、トレーニング状況、時期に応じた食事に関する知識を身につけている。					
B	競技特性、トレーニング状況、時期に応じた食事に関する基礎的知識を身につけている。					
C	競技特性、トレーニング状況、時期に応じた食事に関する知識を最低限、身につけている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	スポーツ運動学 [Sports Kinematics]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義	杉山 仁志			NSM-S2018		
この授業に関する資格						
教員免許（中学校 2 種・保健体育）、健康運動実践指導者、GFI、アスレティックトレーナー、スポーツインストラクター						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
社会体育指導者及び運動・スポーツ指導のために必須の項目を扱い、テーマに応じた授業を行う。又、競技指導者として必要な知識を学習する。						
学習の到達目標						
社会体育指導者及び競技指導者として必要な知識を、運動・スポーツ指導に関連付けた内容の習得を目標とする。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	授業概要を説明する					
2	競技指導者として必要な体力について学習する	トレーニング理論 体力				
3	競技指導者として必要なトレーニングの原則について学習する	トレーニング理論 原則				
4	競技指導者として必要な筋力について学習する	トレーニング理論 筋力				
5	競技指導者として必要なトレーニングと練習の違いについて学習する	運動指導法 トレーニングと練習				
6	競技指導者として必要な体の機能の向上について学習する	運動指導法 体の機能				
7	競技指導者として必要な行う内容の量と質について学習する	運動指導法 量と質				
8	競技指導において選手の限界について学習する	運動指導法 選手 限界				
9	競技指導において選手の記録の向上及び弱点について学習する	運動指導法 記録の向上 弱点				
10	ジョギング・ウォーキング指導法	各運動の基礎知識 ジョギング ウォーキング				
11	水泳・水中運動指導法	各運動の基礎知識 水泳 水中運動				
12	エアロビックダンス指導法	各運動の基礎知識 エアロビックダンス				
13	競技指導者として必要なマシントレーニングについて学習する	マシントレーニング理論 競技指導				
14	競技指導者として必要なマシントレーニングについて学習する	マシントレーニング理論 競技指導				
15	運動指導法のまとめ	まとめ				
教科書及び参考図書						
教科書：健康運動実戦指導者用テキスト（公財）健康・体力づくり事業財団						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：運動・スポーツの指導において、基礎となる部分なので、教科書等を利用し、情報収集しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：自分なりのノートを作成し、欠席等で資料を受け取っていない場合は、資料を受け取り復習しておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、授業の初めに前回の内容が理解できているか確認する。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 90% 授業への取組 10%						
評価	成績評価別の到達度					
S	社会体育指導者及び運動・スポーツ指導のために必要な知識を十分身に付けている。					
A	社会体育指導者及び運動・スポーツ指導のために必要な知識を身に付けている。					
B	社会体育指導者及び運動・スポーツ指導のために必要な知識を概ね理解している。					
C	社会体育指導者及び運動・スポーツ指導のために必要な知識を最低限理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	運動処方論 [Exercise Prescription]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義	玉木 啓一			NSM-S2019		
この授業に関係する資格						
教員免許（中学校 2 種・保健体育）、健康運動実践指導者、GFI、健康管理士一般指導員、公認スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アスレティックトレーナー						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
○	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
運動生理学の知識を基礎として、健康のために運動を役立てる方法を学ぶ。安全に健康増進をはかるための能力を高める。 配布資料を毎回すべて持参すること。欠席等の場合、次回までにスポーツ生理学研究室前のレターボックスから入手しておくこと。						
学習の到達目標						
安全で効果的な運動処方が出来るための知識を習得し、実際に運動処方を出来るような実践力を身につけることを目標としている。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	運動処方についての考え方を学ぶ	運動処方				
2	運動の種類、強度、持続時間、頻度、進め方を学ぶ	運動強度				
3	健康と運動の関連を学ぶ	運動不足病、有酸素運動、無酸素運動				
4	運動に関連する病気について理解する	肥満、循環器系疾患、糖尿病				
5	中高年者の体力と運動によるリスクについて学習する	リスクの層別化				
6	運動実施に伴うリスクについて学び、その回避方法を理解する	虚血性心疾患、血圧				
7	体力・運動強度の把握、利用方法について学ぶ	運動強度、心拍数、最大酸素摂取量				
8	各々が実施した運動強度の把握方法を習得する	HRR 法			○	
9	運動リスク把握のためのメディカルチェックについて学ぶ					
10	運動強度決定のためのメディカルチェックについて学習する					
11	運動処方（トレーニングの原理・原則）を理解する					
12	運動の種類によるトレーニングについて理解する					
13	運動プランの立案					
14	運動プランの評価・改善能力を身につける					
15	運動処方のプランを自ら検討・改善する能力を養う					
教科書及び参考図書						
必要に応じ、資料を配布（Google Classroom にも事前にアップ予定）						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 0.5 時間）：配布された資料を熟読する。授業での指示があった場合はその指示に従う。 事後学習（週 2.5 時間）：授業で行った内容を復習し理解の確認（自分の言葉で他人へ説明できるか？）を試みる。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
授業中の対面でのフィードバックも予定しているが、Google Classroom を通じてのフィードバック、E-mail を利用した個別対応を行う。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験の成績 90%、課題 10%						
評価	成績評価別の到達度					
S	運動処方の指導を、知識を活かして行うことができ、他人に理解させる能力を持っている。					
A	運動処方の指導を、学んだ知識を活かして行うことができる。					
B	運動処方の指導に役立つ知識を取得している。					
C	運動処方の指導に役立つ必要最低限の知識を取得している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	レクリエーション論 [Recreation]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・ アクティブ・ラーニング	福島 邦男			NSM-S2020		
この授業に関する資格						
ピアヘルパー、レクリエーション・インストラクター、障がい者初級スポーツ指導者、公認スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、 アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、子ども身体運動発達指導士、中高老年期運動指導士						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
レクリエーションが必要とされてきた歴史・社会的な背景について学び、生活における生きがいづくりとしてのレク支援活動を理解する。ホスピタリティレーニン グやアイスプレーキングについての知識を深め、障がい形態別のレクについても学ぶことで、豊かな人間性を備えたレクリエーション支援者となることを目指 す。						
学習の到達目標						
レクリエーションの基本原則と意義を応用したレクリエーション支援ができる。コミュニケーションをとりながらグループワークに臨み、レクリエーション支援 者として、楽しさの時間を創造できる。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	授業概要 用語の定義	労働 遊び 現実世界 非現実世界				
2	労働と遊び	レジャー レクリエーション				
3	レクリエーション・余暇の現状と課題	余暇 自由時間 レクリエーションゲーム			○	
4	レクリエーション運動の歴史と概念	砂場づくり運動 遊び場づくり運動 厚生				
5	レクリエーションの変遷と制度	戦後から現代				
6	アイスプレーキングについて	楽しさを通した心の元気づくり			○	
7	地域のきずなについて	コミュニケーションと関係づくり				
8	レクリエーション支援について	ホスピタリティレーニング コミュニケーションワーク				
9	集団に対するレクリエーション支援について	グループワーク 仲間づくり			○	
10	みんなのスポーツ	楽しむ力 障がいに対する理解				
11	障がい者のスポーツ大会	ノーマライゼーション ユニバーサルデザイン				
12	身近な生活環境の問題と世代間問題について	持続可能な社会				
13	レクリエーションでの安全管理	リスクマネジメント ひやりとした体験の話し合い			○	
14	レクリエーションの事故と責任	シーズンスポーツの事例を中心として			○	
15	これからのレクリエーション	講義で取り上げたレクリエーション理論のまとめ				
教科書及び参考図書						
参考図書：楽しさとおした心の元気づくり（財）日本レクリエーション協会、レクリエーション支援の基礎（財）日本レクリエーション協会 その 他：必要に応じて資料を配付する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： 授業のキーワードとテーマに関する情報（新聞、雑誌、インターネット等）を入手し、 毎回のミニレポート（提出課題）に生かせるように目を通しておく。 事後学習（週 1.5 時間）： 毎時間の資料は保管しておき、事後学習で活用できるようにしておく。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、ミニレポートへの返信等で前回授業の内容や質問への解説を行う。オフィスアワーでも適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
毎回のミニレポート 70% 課題・提出物 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	レクリエーションの基本原則と意義を応用したレクリエーション支援ができる。レクリエーション支援者として、楽しさの時間を創造できる。					
A	レクリエーションの基本原則と意義を理解したレクリエーション支援ができる。楽しさの時間を創造できる。					
B	レクリエーションの基本原則と意義を理解し、レクリエーション支援ができる。					
C	レクリエーションの基本原則と意義を理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	スポーツ心理学 1 [Sport Psychology 1]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義	水野 寛太			NSM-S2021		
この授業に関する資格						
教員免許（中学校 2 種・保健体育）、健康運動実践指導者、ピアヘルパー、GFI、公認スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、中高老年期運動指導士						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
スポーツ選手のパーソナリティ、あがり、動機づけ、コーチングの心理、運動感覚、運動学習、イメージトレーニングなどを学習する。						
学習の到達目標						
スポーツ心理学の基礎知識、技法を理解し、スポーツの実践および指導に活かせるようにする。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	授業概要の説明、スポーツ心理学とは	スポーツ心理学				
2	心理的要因がスポーツに及ぼす影響	スポーツ 心理的要因				
3	パーソナリティの理論、測定法	スポーツ パーソナリティ				
4	あがりと注意（外的注意、内的注意など）	あがり 緊張 注意				
5	サイキングアップとリラクゼーション	心理的コンディショニング				
6	リラクゼーション技法	心理的コンディショニング				
7	動機づけ（外発的動機づけ、内発的動機づけ）	スポーツ 動機づけ モチベーション				
8	コーチング心理学（メンタルマネジメント）	コーチング 心理 メンタルマネジメント				
9	コーチング心理学（メンタルトレーニング）	コーチング 心理 メンタルトレーニング				
10	運動感覚（固有感覚、内受容感覚、外受容感覚など）	運動感覚				
11	運動学習①（観察学習、文脈干渉効果など）	運動学習				
12	運動学習②（フィードバック、練習スケジュールなど）	運動学習				
13	イメージトレーニング	イメージトレーニング				
14	クローズドスキルの精神生理学的研究	クローズドスキル 精神生理学				
15	授業のまとめ	まとめ				
教科書及び参考図書						
参考図書：教養としてのスポーツ心理学 徳永幹雄編 大修館書店 参考図書：運動指導の心理学 杉原隆 大修館書店						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：参考図書やインターネット、配布資料などから予習しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：授業の内容を復習しておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
フィードバックとしてレポートにコメントを入れ、返却する。						
成績評価の方法・基準						
レポート課題 70% 受講態度 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	スポーツ心理学の基礎知識、技法について、大変よく理解している。					
A	スポーツ心理学の基礎知識、技法について、よく理解している。					
B	スポーツ心理学の基礎知識、技法について、理解している。					
C	スポーツ心理学の基礎知識、技法について、部分的に理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	スポーツ社会学 [Sports Sociology]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義	山本 恵弥里			NSM-S2023		
この授業に関する資格						
教員免許（中学校2種・保健体育）、公認スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
スポーツと社会の関わりについて、スポーツの歴史の変遷から生活や文化の中でスポーツがどのように変化して来たかを理解し、様々な社会的要因がスポーツに影響を与えることを学び、スポーツ指導者に必要とされる知識を習得することができる。						
学習の到達目標						
スポーツの指導者を目指すものとして必要な知識の中で、特に本授業では社会的文化的概念を中心にスポーツを理解することができる。						
回	授業内容	キーワード				AL
1	スポーツの概念（遠隔）	スポーツ宣言				
2	スポーツの歴史（1）古代ギリシャ・ローマ時代（遠隔）	美的肉体、古代オリンピック、見せ物				
3	スポーツの歴史（2）中世ヨーロッパ（遠隔）	階級分割				
4	スポーツの歴史（3）近代（遠隔）	スポーツ改革				
5	現代のスポーツ（遠隔）	アマチュアリズムの衰退、多様化				
6	スポーツ文化（1）文化とは（遠隔）	身体文化				
7	スポーツ文化（2）スポーツの文化的特性（遠隔）	身体コミュニケーション				
8	スポーツ文化（3）スポーツ文化の内容（遠隔）	スポーツ規範				
9	スポーツ文化（4）スポーツ文化から発生した価値（遠隔）	スポーツマンシップ、フェアプレイ				
10	社会とスポーツ（1）現代社会とスポーツ（遠隔）	社会変化、スポーツ需要				
11	社会とスポーツ（2）政治とスポーツ（遠隔）	公共的課題				
12	社会とスポーツ（3）経済とスポーツ（遠隔）	スポーツ産業化、コミュニティ創造、地域				
13	社会とスポーツ（4）教育とスポーツ（遠隔）	スポーツプロモーション				
14	社会とスポーツ（5）スポーツ基本法（遠隔）	スポーツ基本法				
15	まとめ（遠隔）	本授業まとめ				
教科書及び参考図書						
教科書：公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ、Ⅱ						
準備学習・事後学習						
準備学習（週1.5時間）：次回の授業範囲についてテキストを読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。						
事後学習（週1.5時間）：授業内容の復習を行うこと。加えて、日常的にスポーツに関する報道に興味関心を持ち、情報に目を通すこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
授業時間の前後にE-mail等を利用して、適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
レポート課題 70% 提出物（提出期限厳守等を含む） 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	スポーツ社会学の内容を大変よく理解している。					
A	スポーツ社会学の内容をよく理解している。					
B	スポーツ社会学の内容を理解している。					
C	スポーツ社会学の基礎的な知識を身に付けている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	スポーツ経営学 [Sports Management]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義	太田 あや子			NSM-S2024		
この授業に関する資格						
教員免許（中学校2種・保健体育）、公認スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、スポーツインストラクター						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
「スポーツを売る」、「スポーツで売る」業界の「人」、「金」、「モノ（サービス）」、「情報」を利用した売る仕組みをマーケティングの4Pを中心に学び、フィットネス・スポーツ産業の現状を経営学の視点から理解する。						
学習の到達目標						
健康、フィットネス、スポーツ、体育の管理運営に関する現状を把握し、当該業界のモノ、サービス、人、金、情報の流れを分析し、経営学的な側面を理解し、説明できる。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	ガイダンス	授業計画、スポーツ経営学の対象領域とその意味				
2	フィットネス業界(1)概要と歴史	産業の概要と現況、産業界発展の社会・経済的背景				
3	フィットネス業界(2)プログラム	プログラムのデザインと施設機器の管理				
4	フィットネス業界(3)営業システム	営業システム				
5	フィットネス業界(4)人事組織と資格	人材と資格、組織運営				
6	スポーツマーケティング(1)スポーツシューズのマーケティング	マーケティングミックスの4P（プロダクト、プロモーション）				
7	スポーツマーケティング(2)NBAの世界戦略	スポーツマーケティングの事例（プロダクト、プロモーション）				
8	スポーツマーケティング(3)Jリーグの経営	スポーツマーケティングの事例（Jリーグチームマネジメント）				
9	スポーツマーケティング(4)日本プロ野球の経営	スポーツマーケティングのまとめ				
10	スポーツ用品産業	スポーツ用品産業の概要と現況（プレイス、プライス）				
11	総合型地域スポーツクラブの経営	総合型地域スポーツクラブ経営の概要とその役割				
12	公共スポーツ施設の経営	指定管理者制度				
13	学校体育の経営	学校体育の経営（部活動指導員、コーチ派遣業）				
14	スポーツ産業の事例	スポーツマネジメントの事例研究				
15	顧客満足と従業員満足	顧客理解と従業員のモチベーション				
教科書及び参考図書						
教科書（購入）：公認スポーツ指導者テキスト（公財）日本スポーツ協会Ⅰ、Ⅱ						
準備学習・事後学習						
準備学習（週1.5時間）：次回のテーマに関するニュースをインターネットや新聞、テレビ等で収集する。 事後学習（週1.5時間）：返却されたワークシートを振り返り、キーワードを確認する。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
毎時限ワークシートを回収し、テーマごとにキーワードの確認をする。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 70% 平常点 30%（毎時のワークシートの完成度、フィットネスクラブ運営に関するレポート）						
評価	成績評価別の到達度					
S	スポーツ経営学について幅広く理解して説明でき、企業等で経営のPDCAサイクルをまわすことができる。					
A	スポーツ経営学について幅広くに理解して説明できる。					
B	スポーツ経営学について重点事項を理解して説明できる。					
C	スポーツ経営学について理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	スポーツ行政論 [Public Administration of Sports]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義	太田 あや子			NSM-S2025		
この授業に関する資格						
教員免許（中学校2種・保健体育）、公認スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、スポーツインストラクター						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
スポーツ庁・文部科学省を中心とした国のスポーツ行政について、「スポーツ基本法」、「スポーツ基本計画」を中心に学び、「競技・生涯スポーツの振興」、「総合型地域スポーツクラブ」、「暴力防止」への取り組みを事例を用いて学習して説明することができる。						
学習の到達目標						
国のスポーツ行政の根幹をなす「スポーツ基本法」、「スポーツ基本計画」を理解し、社会におけるスポーツのあり方を考えて、「する」、「見る」、「支える」形でスポーツ参加を促進する役割をこなす人材となる知識を身につける。また、アシスタントマネジャーとして総合型地域スポーツクラブで活動できる。また、スポーツ指導者としての基礎能力を獲得する。						
回	授業内容	キーワード	AL			
1	ガイダンス、スポーツ行政とは	授業計画の確認、スポーツ行政論の対象領域とその意味				
2	スポーツ行政の組織	スポーツ行政組織や機構制度				
3	スポーツ振興施策	スポーツ基本法とスポーツ基本計画				
4	地域におけるスポーツ振興	地域におけるスポーツ振興				
5	総合型地域スポーツクラブ(1)概要と課題	総合型地域スポーツクラブとは				
6	総合型地域スポーツクラブ(2)事例研究	モデルクラブの活動				
7	総合型地域スポーツクラブ(3)外国の地域スポーツクラブ	ヨーロッパのスポーツクラブ				
8	総合型地域スポーツクラブ(4) クラブマネジャーの役割	クラブマネジャーの役割				
9	国の重点施策(1)アンチドーピング	アンチドーピングとは				
10	国の重点施策(2)女性のスポーツ参加	スポーツとジェンダー				
11	国の重点施策(3)マイリティのスポーツ参加	障がい者トスポーツ				
12	国の重点施策(4)スポーツ選手のセカンドキャリア	セカンドキャリアとデュアルキャリア				
13	スポーツと法(1)	スポーツ指導者の法的責任（安全配慮義務）				
14	スポーツと法(2)	スポーツ指導者の法的責任（スポーツと暴力問題）				
15	スポーツ活動の財源	スポーツ活動の経済的基盤と助成制度				
教科書及び参考図書						
教科書（購入）：公認スポーツ指導者テキスト（財）日本スポーツ協会Ⅰ、Ⅱ						
準備学習・事後学習						
準備学習（週1.5時間）：授業終了時に示す次回の授業内容に関する教科書の章を読む。 事後学習（週1.5時間）：テーマごとのトピックをネット検索し、概要、理解したこと、感想・意見をまとめる						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
毎時前回のワークシートを返却し、キーワードを確認する						
成績評価の方法・基準						
レポート 70% 平常点（毎時のワークシートの完成度 30%）						
評価	成績評価別の到達度					
S	スポーツ行政のシステムを幅広く理解し、知識をスポーツ活動の支援に活用できる。					
A	スポーツ行政のシステムを幅広く理解し、説明できる。					
B	スポーツ行政のシステムの重要事項を理解し、説明できる。					
C	スポーツ行政のシステムを重要事項を理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	スポーツ指導論 [Coaching Method]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・ アクティブ・ラーニング	川井 明			NSM-S2026		
この授業に関係する資格						
公認スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、 障がい者初級スポーツ指導者、スポーツインストラクター						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
前半は、競技上の成功者の例から、その要素・要因を探り、毎時間、理解度確認レポート提出。後半は、指導現場に有効なロジカルコミュニケーションの基礎を学習して実際のディベートに備える。さらに、指導現場でのタイムリーなトピックスを随時取り上げてその背景とともに理解していく。						
学習の到達目標						
成功したアスリートに関する指導法を理解したうえで、過去に受けた指導との比較から現状や個人に適した指導法を探ることができる。指導者としてのロジカルコミュニケーションを理解したうえで、有効・的確・シンプルな伝え方を習得する。指導現場でのトピックスの背景を理解できる。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	ガイダンス他 コーチングとは	コーチングとは、コーチの定義、コーチングの目的、プレーヤーセンタードなコーチング				
2	コーチに求められる役割	コーチの果たすべき役割、安全なスポーツ環境の構築（予防）、問題発生時の対処法			○	
3	コーチに求められる知識とスキル	コーチング文脈、専門的知識、対他者の知識、対自己の知識			○	
4	対他者力を磨こう	コミュニケーションスキル、リーダーシップスキル、プレゼンテーションスキル、ファシリテーションスキル			○	
5	対自己力を磨こう	コーチの学び、コーチのセルフマネジメント、さまざまな思考法や伝達			○	
6	暴力・ハラスメントの根絶	暴力や暴言、ハラスメントの根絶のために			○	
7	スポーツのインテグリティ	スポーツにおけるインテグリティの確保			○	
8	スポーツの倫理	スポーツマンシップ、フェアプレーの精神、スポーツの価値を体現すべきスポーツ指導者として			○	
9	時代をリードするコーチング	ジェンダーとは、性的マイノリティ、女性コーチの活躍とスポーツを通じた女性の社会進出			○	
10	アンチ・ドーピング	アンチ・ドーピングとは？アンチ・ドーピングの歴史、国内外のアンチ・ドーピング機構について			○	
11	コーチング環境の特徴	ジュニア期のコーチングの至適年齢と留意点、性別や年齢区分から見たコーチングの留意点			○	
12	ハイパフォーマンススポーツ①	ハイパフォーマンススポーツとは何か？ハイパフォーマンススポーツにおける今日的なコーチング			○	
13	ハイパフォーマンススポーツ②	国内外のタレント（メダルポテンシャルアスリート）の発掘、タレントの選抜、タレントの育成			○	
14	障がい者とスポーツ	障がいの理解、障がい者スポーツの現状と課題、障がい者のスポーツ指導者の育成			○	
15	まとめ	良い指導者の資質と役割等についてのグループディスカッションから本科目をまとめる			○	
教科書及び参考図書						
参考図書：日本スポーツ協会 Reference Book（公益財団法人日本スポーツ協会）						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：体育・スポーツに関する情報を、新聞やニュース・雑誌・インターネットや書籍等を通して収集すること。 事後学習（週 1.5 時間）：授業中の内容を復習すること。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
理解度確認レポートの回収後、フィードバックを行う。						
成績評価の方法・基準						
理解度確認レポート 70% 平常点（グループ活動の際のファシリテーションやリーダーシップ、フォロワーシップ等） 20% 筆記試験 10%						
評価	成績評価別の到達度					
S	毎時の指導に関する課題を深く理解したうえで、各自の考えや将来の展望を論理的にまとめることができる。					
A	毎時の指導に関する課題を理解したうえで、各自の考えや将来の展望をまとめることができる。					
B	毎時の指導に関する課題を理解したうえで、各自の考えをまとめることができる。					
C	毎時の指導に関する課題を理解したうえで、各自の感想をまとめることができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	スポーツ医学 [Sport Medicine]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義	高橋 琴美・板橋 明		実	NSM-S2027		
この授業に関係する資格						
教員免許（中学校2種・保健体育）、健康運動実践指導者、GFI、公認スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、スポーツクラブインストラクター、中高老年期運動指導士、介護予防運動スペシャリスト						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
スポーツは現代社会において、人々の健康を維持・向上する上で必要であるとの認識が高く、生活習慣病等の疾病対策にも応用されている。しかしその反面、スポーツ活動に伴う事故・傷害も存在する。この授業では指導者として必要なスポーツ医学の基本的な知識を理解し、いろいろな疾患・傷害だけでなく、現場での救急対策などについて学ぶことを目的とする。						
学習の到達目標						
スポーツ指導者として、必要なスポーツ医学の知識を身につけ、いろいろな疾患に対する基礎知識や現場での救急対策について習得することを目標とする。						
回	授業内容	キーワード				AL
1	ガイダンス	スポーツ医学とは				
2	生活習慣病と運動	肥満、メタボリックシンドローム、脂質異常症、糖尿病、高血圧				
3	内科的スポーツ障害 1	体温調節、熱中症、特殊環境				
4	内科的スポーツ障害 2	過換気症候群、運動誘発性喘息、運動誘発性アナフィラキシー、貧血				
5	内科的スポーツ障害 3	スポーツ活動と疲労、オーバートレーニング症候群				
6	メディカルチェックと健康管理	内科的・整形外科的メディカルチェックの目的、方法				
7	スポーツ傷害、上肢のスポーツ傷害	スポーツ傷害と発生意因、肩のスポーツ外傷・障害、肘のスポーツ外傷・障害、手のスポーツ外傷・障害				
8	下肢のスポーツ傷害	大腿部のスポーツ外傷・障害、膝のスポーツ外傷・障害、下腿部のスポーツ外傷・障害、足部のスポーツ外傷・障害				
9	体幹のスポーツ傷害、頭・頸部のスポーツ傷害	腰部のスポーツ外傷・障害、頭・頸部のスポーツ外傷・障害				
10	リハビリテーション	アスレティックリハビリテーション、トレーニング計画				
11	スポーツ選手の健康管理	スポーツ選手の健康管理、内科的障害と対策、外傷・障害と対策				
12	発育期とスポーツ	発育期の特徴、発育期のスポーツ傷害				
13	女性スポーツ医学	女性の身体の生理的周期、月経周期とパフォーマンス、月経異常				
14	中高老年者とスポーツ	中高老年期の身体と特徴、運動器症候群（ロコモティブシンドローム）				
15	まとめ	全体の総括				
教科書及び参考図書						
参考図書：やさしいチューデントトレーナーシリーズ 4 スポーツ医学（嵯峨野書院）、はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ 8 スポーツ医学【内科】（化学同人）、健康運動実践指導者養成テキスト、公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目 I・II ※毎時間、プリントを用いて授業を行うため、各自でしっかりと管理すること。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：参考図書の該当ページを読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：返却された課題について、配布された資料等を見直しておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、毎時間授業の最後に小テスト（課題）を実施し、採点してコメントを入れ返却する。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 70% 小テスト（課題） 20% 授業への取り組み 10%						
評価	成績評価別の到達度					
S	スポーツ医学に関する基本的な知識を大変良く理解しており、その内容をスポーツ指導者として活用できる。					
A	スポーツ医学に関する基本的な知識をかなり理解しており、他者が理解できるように自分の言葉で説明できる。					
B	スポーツ医学に関する基本的な知識を理解しており、自分の言葉で説明できる。					
C	スポーツ医学に関する基本的な知識を理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	地域貢献演習 [Seminar for Contribution to Community]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
演習・ アクティブ・ラーニング	本学 専任教員			NSM-S9029		
この授業に関する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
<p>武蔵丘短期大学が持つ地域貢献のシード（種）を活かし、地域のニーズを解決し、地域貢献することを通じて自らの資質を高めていく科目である。</p> <p>事前指導を受けたのちに様々な地域貢献を体験し、事後指導を通して自らの社会貢献の能力を伸ばしていく。</p>						
学習の到達目標						
<p>地域貢献を体験し、体験の中から自分の可能性に気づきさらなる、地域貢献、ひいては社会貢献に資する能力を身につけることを目標としている。本学あるいは教員が地域に貢献する事業を体験し、自分の能力に気づき、さらに能力を伸ばして欲しい。</p>						
回	授業内容					AL
1 ～ 8	<p>この科目は、開催時期が地域貢献事業に合わせて、その前後を含めて開講される。単位取得には合計8回の地域ボランティア活動への参加が必要となる。ボランティアの内容は同一の活動でも、複数の活動でも対象とする。</p> <p>原則として一か月前に授業の内容が掲示等により公開され、その指示に従うことにより履修登録となる。地域貢献の内容により、所属専攻や、専門性によって受講対象者を制限することもある。</p> <p>事前指導、事後指導が1回別に行われる。</p> <p>異なる地域貢献事業に参加した場合、修得単位数が加算される。</p> <p>開講授業例</p> <p>地域の健康・体力測定の実施運営、地域イベント等の運営手伝い（吉見祭り、日本スリーデーマーチ等）、生涯スポーツや健康づくり教室、子育て支援事業、保育園児の栄養や運動遊び指導</p>					○
教科書及び参考図書						
<p>担当教員から、必要に応じて資料が配布される。</p> <p>参考：本学ホームページ＞学生主体の地域貢献（http://www.musashigaoka.ac.jp/campus/cam_009.html）</p>						
準備学習・事後学習						
<p>原則として、事前指導1回、地域貢献体験8回、事後指導1回の授業形態になる。</p> <p>体調を整え、体験する事業をよく理解しておくこと。</p>						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
原則として、オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
活動状況 80% 面接またはレポート 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	地域貢献での体験でその役割を果たし、将来自ら地域貢献を実施していく応用力を持っている。					
A	地域貢献での体験でその役割を果たし、将来自ら地域貢献を実施していく力を持っている。					
B	地域貢献での体験でその役割を果たし、将来自ら地域貢献を実施していく基礎を持っている					
C	地域貢献の体験を基に、社会貢献の意義を感じることができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	解剖生理学 [Anatomy and Physiology]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義	長島 洋介・板橋 明		国	N-S2014		
この授業に関する資格						
栄養士免許、健康運動実践指導者、GFI						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
細胞、器官、各組織およびホルモンの働きについて深く考えることを目的とする。						
学習の到達目標						
人体の構造と機能を理解し、各組織・器官系がどのように協同して人体機能を遂行しているかを考察できるようになる。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	細胞・組織・器官	細胞小器官 生体膜 人体組織 器官				
2	消化器系 1 咀嚼 嚥下 消化管運動のしくみ	咀嚼 嚥下				
3	消化器系 2 糞便形成 消化・吸収	消化管運動 糞便形成				
4	血液・造血器・リンパ系 1 造血器細胞 骨髄	各血球の分化と成熟				
5	血液・造血器・リンパ系 2 赤血球・ヘモグロビン 血液凝固	ヘモグロビン 血漿たんぱく質 血液凝固				
6	循環器系 1 心臓の構造と働き	心臓の構造 心電図 心臓周期				
7	循環器系 2 血管、血圧、循環系	血圧 循環系				
8	呼吸器系 気道 肺の構造と働き 呼吸機能	肺の構造 胸郭と呼吸運動 ガス交換				
9	腎・尿路系 1 腎臓の構成と働き	尿の組成 腎臓の基本単位				
10	腎・尿路系 2 体液の働き、尿生成に関するホルモン	水の出納 浸透圧の調節				
11	生殖系 生殖器の構造と働き 女性の性周期	男性器 女性器 女性の性周期 妊娠と分娩				
12	骨格系 骨の構造と働き 骨の成長と老化	骨組織の基本構成 骨の成長 骨形成と骨吸収				
13	筋肉系と運動機能 筋肉の種類と働き 筋繊維の種類	骨格筋 筋繊維の種類				
14	内分泌系 1 内分泌系の構成とホルモンの働き	ホルモン フィードバックシステム				
15	内分泌系 2 ホルモン分泌の調整と 各種ホルモンについて	視床下部・下垂体とホルモン				
教科書及び参考図書						
教科書：解剖生理学 人体の構造と機能 改訂第2版 羊土社						
準備学習・事後学習						
準備学習（週1.5時間）：教科書「解剖生理学」を読んでおくこと。						
事後学習（週1.5時間）：WEB 演習問題を用いて、学習内容を復習すること。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 100%で評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	人体の構造と機能を十分に理解し、各組織・器官系がどのように協同して人体機能を遂行しているかを十分に考察できる。					
A	人体の構造と機能を理解し、各組織・器官系がどのように協同して人体機能を遂行しているかを考察できる。					
B	人体の構造と機能に関する基礎的知識を理解できている。					
C	人体の構造と機能に関する基礎的知識を最低限、理解できている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	栄養学総論 [Nutritional Science]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義	小河原 佳子			N-S2015		
この授業に関する資格						
栄養士免許、フードスペシャリスト、健康管理士一般指導員、NR・サプリメントアドバイザー、社会福祉主事						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）			健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識	○		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得			実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識			社会に貢献できる実践力		
授業の目的と概要						
栄養の意義を説明できる。ヒトは栄養素をどのように消化・吸収しているのか、また吸収した栄養素はどうなるのか、代謝調節も含め身体全体を考え、健康の保持増進・疾病の予防・治療における栄養の役割を理解し、説明できることを目的とする。						
学習の到達目標						
栄養の意義を理解し、各栄養素の代謝および生理的役割を理解し、栄養素と健康に関して説明できることを目標とする。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	栄養と健康の、疾病の関係を学ぶ。栄養学の歴史を学ぶ	栄養・栄養素・栄養学				
2	栄養素の消化と吸収の仕組みを学ぶ	栄養素・消化・吸収				
3	炭水化物の栄養	糖質・体内代謝				
4	食物繊維の種類と働き	食物繊維・分類・はたらき				
5	たんぱく質の栄養	たんぱく質の構造・アミノ酸・栄養価				
6	脂質の栄養	脂質の分類・脂肪酸・体内代謝				
7	ビタミンの栄養①脂溶性ビタミン	脂溶性ビタミン・消化吸収・機能・過剰症・欠乏症				
8	ビタミンの栄養②水溶性ビタミン	水溶性ビタミン・消化吸収・機能・欠乏症				
9	ミネラルの栄養①多量ミネラル	多量ミネラル・消化吸収・機能・欠乏症・過剰症				
10	ミネラルの栄養②微量ミネラル	微量ミネラルの消化吸収・機能・欠乏症・過剰症				
11	水のはたらき	水の出納・水分摂取・代謝水・水分排泄・欠乏・過剰				
12	エネルギー代謝	エネルギー代謝・基礎代謝・測定方法				
13	栄養の情報収集法①栄養学の科学的視点での情報収集方法	栄養学・情報収集・EBN				
14	栄養の情報収集法②情報収集の選択の実践	栄養学・情報収集・選択方法				
15	まとめ・振り返り	栄養素・体内代謝・はたらき				
教科書及び参考図書						
教科書：栄養科学シリーズ 新・栄養学総論 第2版 講談社 参考図書：日本人の食事摂取基準 2020年版						
準備学習・事後学習						
準備学習（週1.5時間）：指定した教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。関係ある食べ物を調べておくこと 事後学習（週1.5時間）：毎回、授業の始めに前回の授業内容の小テストを行うので、要点をまとめ、復習しておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
授業内容の小テストの解答の解説を行う。質問は授業中もしくは Google Classroom で答える						
成績評価の方法・基準						
筆記試験で70%、確認テストで20%、授業への積極的態度などで10%						
評価	成績評価別の到達度					
S	栄養の意義と各栄養素の代謝および生理的役割を十分に理解し、栄養素と健康に関して適切に説明できる。					
A	栄養の意義と各栄養素の代謝および生理的役割を理解し、栄養素と健康に関して適切に説明できる。					
B	栄養の意義と各栄養素の代謝および生理的役割を理解し、栄養素と健康に関して説明できる。					
C	栄養の意義と各栄養素の代謝および生理的役割を概ね理解し、栄養素と健康に関して概ね説明できる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	食品学 [Food Science]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義	茗荷 尚史			N-S2016		
この授業に関する資格						
栄養士免許、フードスペシャリスト、NR・サプリメントアドバイザー						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
<p>健康な生活を論ずる上で、エネルギーは食品から得ていることを考えれば、食品に関する基本的な知識を得ることは必須である。食品各成分の栄養特性について学び、最近の知見を取り入れながら、健康な生活を食品とのかかわりの中で考え、説明できるようになることを目的とする。個々の食品成分に着目して、食品全体を理解する。適宜、高等学校までに学習した内容の復習と食品成分表の扱いについても学ぶ。</p>						
学習の到達目標						
食品成分の面から食品学の知識を理解し、説明することができる。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	人間と食品	食物連鎖、食品と栄養、食糧と環境問題、食品の分類				
2	食品の栄養素と成分表（その1）水	水の構造と性質、水の存在状態、水分活性				
3	食品の栄養素と成分表（その2）炭水化物	生体内での役割、構造、分類				
4	食品の栄養素と成分表（その3）脂質	生体内での役割、構造と分類、食品中の主要脂質、脂質の分解と合成				
5	食品の栄養素と成分表（その4）タンパク質	構成成分、構造、等電点、アミノ酸味、栄養素としてのタンパク質				
6	食品の栄養素と成分表（その5）ビタミンその1	定義、脂溶性ビタミン				
7	食品の栄養素と成分表（その6）ビタミンその2	水溶性ビタミン、その他ビタミン様物質				
8	食品の栄養素と成分表（その7）無機質その1	主要無機質				
9	食品の栄養素と成分表（その8）無機質その2	主要無機質(続き)、その他人体に必要な微量無機質				
10	食品の栄養素と成分表（その9）食物繊維	定義および目標摂取量、効果、食品添加物としての使用基準				
11	食品の嗜好成分(その1)	色素、香気成分				
12	食品の嗜好成分(その2)	呈味成分、毒性成分				
13	食品の変化	褐変反応、でんぷんの反応、油脂の反応、食品の物性				
14	食品の機能性	強調表示、保健機能食品、特別用途食品、栄養補助食品				
15	まとめ	全体の総括				
教科書及び参考図書						
<p>教科書：食べ物と健康 - 食品の栄養成分と加工 - 國崎直道編著 同文書院 参考図書：イラスト食品学総論 種村安子他著 東京教学社 食べ物と健康 食品学・食品機能学・食品加工学 長澤治子編著 医歯薬出版</p>						
準備学習・事後学習						
<p>準備学習（週 1.5 時間）：日頃から食品学に関連する資料を集めておく。 事後学習（週 1.5 時間）：栄養士として必要な知識の基礎となる科目の一つなので、その日に学習した知識を定着させるために、復習を中心とした授業時間外学習を励行して、次の授業に臨むこと。テーマ毎に小テストを行う予定である。</p>						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、小テストを回収後、解答の解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 70% 平常点(小テスト、発言内容、態度を含む) 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	食品成分の面から食品学の知識をよく理解している。					
A	食品成分の面から食品学の知識を理解している。					
B	食品成分の面から食品学の基本的知識を理解している。					
C	食品成分の面から食品学の最低限の知識を理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	生化学 [Biochemistry]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義	岡崎 英規			N-S2030		
この授業に関する資格						
栄養士免許						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
全ての生物は細胞から成り立ち、その細胞の中では、さまざまな化学反応 (代謝) が行われている。 このような数々の化学反応が集約されて私たちは「生きて」いる。生化学ではこの数々の化学反応について理解することを目的とする。						
学習の到達目標						
正常な人体の仕組みを、遺伝子レベル、細胞レベルについて説明できる。 摂った食べ物は体内でどうなるのか、絶えず体内で起こっている様々な物質の合成や分解、恒常性の維持の仕組みについて説明できる。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	細胞の基本構造と機能 (細胞小器官の特徴とはたらき)	細胞小器官				
2	生体膜の基本構造とその機能、受動輸送・能動輸送・膜輸送 (膜サイトーシス)	生体膜、膜輸送				
3	生体エネルギー (ATP)、異化・同化、酸化還元反応	ATP、体内の化学反応				
4	糖質の構造、種類および性質 (単糖類、二糖類、多糖類、誘導糖)	糖質の特徴				
5	グルコース (ブドウ糖) の代謝 (解糖系、クエン酸回路、電子伝達系)	糖質の代謝 (エネルギー生成の仕組み)				
6	糖質の合成や分解 (グリコーゲンの合成と分解、ペントースリン酸回路、ウロン酸回路)	糖質の代謝 (エネルギー生成以外)				
7	脂質の化学的特徴 (構造、種類および性質)	脂質の特徴				
8	中性脂肪と脂肪酸の合成・分解、イソサニド、コレステロール合成、ケトン体生成	脂質の代謝				
9	たんぱく質・アミノ酸の化学的特徴 (構造、種類および性質)	たんぱく質の特徴				
10	アミノ基転移反応、尿素回路、アミノ酸から合成される情報伝達物質	たんぱく質の代謝				
11	様々な代謝経路のつながり、コリ回路、グルコース-アラニン回路	三大栄養素の代謝まとめ				
12	酵素の種類、働き、特徴、補助因子 (補酵素)、酵素の阻害 (競合・非競合)	酵素の特徴				
13	核酸の化学的特徴と代謝、遺伝情報からたんぱく質がつけられる仕組み	核酸、たんぱく質合成				
14	ホルモンの特徴と作用機構、血液中カルシウムイオン濃度の調節、血糖の調節	ホルモンによる恒常性維持				
15	身体を守る防衛反応 (自然・獲得免疫)、(液性・細胞性免疫)、抗体、アレルギー	免疫の仕組み				
教科書及び参考図書						
教科書: <はじめて学ぶ> 健康・栄養系教科書シリーズ2 生化学 化学同人 参考図書: イラスト生化学入門 東京教学社						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 1.5 時間) : シラバスを確認して教科書を読んでおくこと。分かることと分からないことを整理しておく。 事後学習 (週 1.5 時間) : 授業で理解したこと、理解できなかったことを整理する。毎回の復習小テストで 50%以上正解を目標とする。						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
小テストの返却時に正答及び解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 90% 小テスト 10%						
評価	成績評価別の到達度					
S	摂った食べ物が体内でどうなるのか細胞レベルでの合成・分解について、様々な代謝の繋がりを理解している。					
A	摂った食べ物が体内でどうなるのか細胞レベルでの合成・分解について、個々の代謝について十分理解している。					
B	摂った食べ物が体内でどうなるのか細胞レベルでの合成・分解について、個々の代謝についてほぼ理解している。					
C	摂った食べ物が体内でどうなるのか細胞レベルでの合成・分解について、個々の代謝について最低限理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	栄養学各論 [Nutrition in Life Stage]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義	長島 洋介		実	N-S3031		
この授業に関係する資格						
栄養士免許、フードスペシャリスト、健康管理士一般指導員						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）			健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識		○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識			社会に貢献できる実践力		
授業の目的と概要						
栄養アセスメント、栄養ケア・マネジメント、食事摂取基準の正しい理解を目的に学習する。						
学習の到達目標						
ライフステージに応じた栄養ケアに関する正しい知識の習得を目標とする。						
回	授業内容		キーワード			AL
1	栄養ケア・マネジメントの定義やプロセス 栄養スクリーニング		PDCA サイクルの意義と目的			
2	栄養アセスメント 栄養ケア・マネジメントの評価		栄養アセスメントの意義 方法			
3	食事摂取基準① 食事摂取基準活用のための理論と方法		活用における注意点 個人・集団の場合			
4	食事摂取基準② 基準値の意味と活用方法		推定必要量、推奨量、目安量、目標量、耐容上限量			
5	食事摂取基準③ 各栄養素の基準値		エネルギー・栄養素別の食事摂取基準			
6	成長、発達、加齢に機能変化		スキャモンの発育曲線 老化のメカニズム			
7	妊娠期 生理的特徴と栄養アセスメント・栄養ケア		妊娠の成立 胎児付属物 母乳			
8	授乳期 生理的特徴と栄養アセスメント・栄養ケア		やせと肥満の問題 神経管閉鎖障害			
9	新生児期・乳児期① 生理的特徴		新生児期・乳児期の発育 離乳食			
10	新生児期・乳児期② 栄養アセスメントと栄養ケア		低出生体重児 ビタミンK 欠乏性出血症			
11	成長期① 幼児期の生理的特徴 栄養アセスメント・栄養ケア		幼児期の発達			
12	成長期② 学童期・思春期の生理的特徴		第二次性徴 性差			
13	成人期 生理的特徴 栄養アセスメント・栄養ケア		生活習慣病 メタボリックシンドローム			
14	高齢期① 高齢期の生理的特徴		老化 加齢			
15	高齢期② 高齢期の生理的特徴と栄養アセスメント・栄養ケア		サルコペニア フレイルティサイクル			
教科書及び参考図書						
教科書：「応用栄養学」羊土社						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：教科書「応用栄養学」を読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：授業中の内容を復習しておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 100%として評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	ライフステージに応じた栄養ケアに関する正しい知識の十分に習得している。					
A	ライフステージに応じた栄養ケアに関する正しい知識の習得している。					
B	ライフステージに応じた栄養ケアに関する基礎的知識の習得している。					
C	ライフステージに応じた栄養ケアに関する基礎的知識を最低限、習得している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	病態科学 [Pathologic Condition Science]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義	岩井 秀明			N-S3032		
この授業に関係する資格						
栄養士免許、健康管理士一般指導員						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
解剖生理学、生化学で学んだ正常な人体の構造と機能を基礎に、疾患の概要、成因・予防を学び、臨床栄養学につなげる。生涯健康には生活環境と共に生活習慣が重要であることを学ぶ。変容する社会とグローバル社会の進展における多様な疾病問題に対応し、併せて医学的基礎教養を広げる。						
学習の到達目標						
病態科学の学びにより各種疾患の概要を知り、成因を理解し、予防できる。疾患と栄養との関わりを理解し、食事療法につなげられる。						
回	授業内容	キーワード				AL
1	はじめに（序章、第1～2章）	人類の感染症との闘い、日本人に多い疾病・死因				
2	感染症（第15章）	感染（経路）、新興・再興感染症、感染症法類型、性感染症、抗生物質、耐性菌				
3	悪性新生物（がん）	がん研究の歴史、成因、各種がんの特徴				
4	動脈硬化症、高血圧症（第6章）	動脈硬化、粥状硬化（アテローム硬化）、血圧、血圧値の分類、高血圧症、				
5	循環器系疾患（第6章5～7.）	狭心症、心筋梗塞、不整脈、肺塞栓、心不全				
6	脳血管障害、神経疾患（第9章）	脳内出血、脳梗塞、クモ膜下出血、認知症、パーキンソン病				
7	メタボリックシンドローム（第4章1.）	肥満、メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)、概念の根拠、成因				
8	糖尿病（第4章2.）	概念、病態、分類、症状、慢性合併症、診断、治療（食事・運動療法）				
9	脂質異常症（第4章3.）	病態、脂質、リポたんぱく、診断、食事療法				
10	高尿酸血症（痛風）（4章4.） 先天性代謝異常症（4章5.）	病態、プリン体、分類、痛風、食事療法第、 先天性代謝異常、糖質代謝異常、先天性アミノ酸代謝異常、種類と病態				
11	消化器系疾患（第5章）	胃・十二指腸潰瘍、クローン病、肝炎、肝硬変、脂肪肝、NASH、膵炎				
12	腎・尿路系疾患（第7章）	糸状体腎炎、ネフローゼ症候群、慢性腎臓病（CKD）、透析				
13	呼吸器系疾患（第10章）運動器系疾患 （第11章）内分泌系疾患（第8章）	呼吸器系疾患、肺炎、慢性閉塞性肺疾患（COPD）運動器系疾患 骨粗しょう症、サルコペニア、ロコモ、フレイル内内分泌系疾患				
14	血液系疾患（第13章）	血液細胞、貧血、種類、血友病、白血病				
15	免疫・アレルギー疾患（第14章）	炎症、免疫、予防接種、ワクチン、食物アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全				
教科書及び参考図書						
教科書：田中 明、加藤 昌彦編 疾病の成り立ち：臨床医学（第4版）（建帛社） 参考図書等：その他の参考資料は適宜紹介し、必要に応じてプリントを渡す。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週1.5時間）：次回のテーマとその内容について、指示された教科書の該当箇所を事前に読了する。 事後学習（週1.5時間）：講義で提示された資料の未読部分を読了し、教科書を参照しつつ、講義を再度振り返りまとめる。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
次回の講義冒頭時に振り返り課題、質問、感想についてフィードバックし分かち合う。更なる質問等は Google Classroom 機能を活用。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 70%、授業態度・取り組み姿勢 30%を統合して判断・評価する。欠席：欠課レポートを提出。						
評価	成績評価別の到達度					
S	病態科学の基となる知識を十分に会得している。					
A	病態科学の基となる知識を会得している。					
B	病態科学の授業内容は概ね理解している。					
C	病態科学の授業内容の理解に努力が必要である。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	臨床栄養学 [Clinical Nutrition]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義	木元 泰子			N-S3033		
この授業に関する資格						
栄養士免許、健康管理士一般指導員、NR・サプリメントアドバイザー						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
臨床栄養学の概念及び意義を理解し、各種疾患の病態生理と栄養・食事療法に関する基礎的知識を習得し、各種病態に応じた食事管理を中心とした栄養管理を実践するための知識や技術を学ぶ。						
学習の到達目標						
さまざまな疾病、病態について理解し、それに適した適切な食事管理を中心とした栄養管理の基礎的な知識や技術を身につける。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	臨床栄養学の概念	医療、福祉、介護、臨床栄養				
2	栄養アセスメント	身体測定、栄養スクリーニング、栄養アセスメント				
3	栄養補給法	経口栄養、経腸栄養、静脈栄養、治療用特殊食品				
4	消化器系疾患① 胃・十二指腸潰瘍	消化性潰瘍、ヘリコバクター・ピロリ菌、NSAIDs、				
5	消化器系疾患② 肝疾患	中性脂肪、NAFLD、NASH、BCAA、多価不飽和脂肪酸				
6	消化器系疾患③ 膵疾患	アルコール、内分泌、膵性糖尿病				
7	代謝・内分泌系疾患① 糖尿病	インスリン、ランゲルハンス島β-細胞、1型、2型、血糖値				
8	代謝・内分泌系疾患② 脂質異常症、肥満症、メタボリックシンドローム	高LDL-Cho、高TG、低HDL-Cho、BMI				
9	循環器系疾患① 高血圧症	本態高血圧、二次性高血圧、食塩、運動				
10	循環器系疾患② 動脈硬化症、虚血性疾患、脳血管障害	酸化LDL-Cho、脳梗塞、脳出血、狭心症、心筋梗塞				
11	腎・尿路系疾患① 慢性腎症(CKD)	ネフロン、エリスロポエチン、貧血、クレアチニンクリアランス				
12	腎尿路系疾患② 糖尿病性腎症、慢性腎不全、透析	尿毒素、人工腎臓装置、治療用特殊食品				
13	血液系疾患 食物アレルギー疾患	鉄欠乏性貧血、抗原、抗体、IgE、アナフィラキシーショック				
14	運動器系疾患 骨粗鬆症、サルコペニア	ロコモティブシンドローム、ADL、要介護				
15	まとめ	全体の総括				
教科書及び参考図書						
教科書：新臨床栄養学 栄養ケアマネジメント第4版（医歯薬出版）糖尿病食事療法のための食品交換表（文光堂） 腎臓病食品交（医歯薬出版）日本人のための食事摂取基準（2020年版） 栄養士実力認定試験過去問題集 2021年版（建帛社）						
準備学習・事後学習						
準備学習（週1.5時間）：新聞記事等を読み、臨床栄養に関する最新の情報を収集しておくこと。 事後学習（週1.5時間）：授業プリント、確認テストの内容を復習しておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
確認テストを行い、採点后、解答の解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 70% 確認テスト 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	各疾患、病態およびそれらに対する適切な栄養ケアの基礎的な知識や技術を十分身につけている。					
A	各疾患、病態およびそれらに対する適切な栄養ケアの基礎的な知識や技術をかなり身につけている。					
B	各疾患、病態およびそれらに対する適切な栄養ケアの基礎的な知識や技術を概ね身につけている。					
C	各疾患、病態およびそれらに対する適切な栄養ケアの基礎的な知識を最低限身につけている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	公衆栄養学 [Public Health Nutrition]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・ アクティブラーニング				N-S3034		
この授業に係る資格						
栄養士免許						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
公衆栄養の概念、公衆栄養活動、健康・栄養の現状と課題、栄養施策、公衆栄養プログラムを中心に学び、健康増進と疾病予防を目指す公衆栄養活動を理解する。						
学習の到達目標						
我が国や諸外国の健康・栄養問題に関する動向とそれに対応した栄養施策について理解する。また、社会・生活環境の特徴に基づいた公衆栄養活動について、基礎的なことが理解できる。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	公衆栄養学の概念	健康、栄養・食生活、保健・医療・福祉システム				
2	健康・栄養問題の現状と課題①	人口構成、死因別死亡、平均寿命、健康寿命、疾病構造の変化				
3	健康・栄養問題の現状と課題②	食事・食生活・食環境の変化、地域包括ケア				
4	栄養政策①	公衆栄養活動の歴史、公衆栄養法規、栄養士の社会的役割				
5	栄養施策②	栄養士法、地域保健法、健康増進法、食育基本法				
6	栄養政策③	健康日本 21、食生活指針、食事バランスガイド				
7	栄養政策④	食育推進基本計画、食事ガイド、特定検診、特定保健指導				
8	栄養疫学①	栄養疫学の概要 栄養疫学の種類と方法				
9	栄養疫学②	栄養疫学のための食事調査法、食事摂取量の測定方法				
10	栄養疫学③	食事摂取量の評価方法、食事摂取量の測定方法				
11	公衆栄養マネジメント	集団の評価、PP モデル				
12	公衆栄養プログラム①	問題抽出、優先課題、地域目標、資源、評価の種類				
13	公衆栄養プログラム②	演習 食環境づくり：適切な食情報に関する企画考案			○	
14	公衆栄養プログラム③	課題発表 グループディスカッション			○	
15	まとめ	全体の総括				
教科書及び参考図書						
教科書：公衆栄養学（第7版） 南江堂 参考図書：日本人の食事摂取基準（2020年版）、国民健康・栄養調査結果						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：新聞記事等を読み、栄養に関する最新の情報を収集しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：授業プリント、確認テストの内容を復習しておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
確認テストを行い、採点后、解答の解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 70% 確認テスト 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	健康・栄養問題に関する動向及び栄養施策、公衆栄養活動について基礎的な知識を十分に理解し、公衆栄養プログラムへの応用力を持っている。					
A	健康・栄養問題に関する動向及び栄養施策、公衆栄養活動について基礎的な知識を十分に修得し、公衆栄養プログラムの実際を理解している					
B	健康・栄養問題に関する動向及び栄養施策、公衆栄養活動について基礎的な知識を概ね、理解している。					
C	健康・栄養問題に関する動向及び栄養施策、公衆栄養活動について基礎的な知識を最低限、理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	応用食品学（食品加工学を含む） [Applied Food Science]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義	茗荷 尚史			N-S3035		
この授業に関係する資格						
栄養士免許、フードスペシャリスト、健康管理士一般指導員						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
<p>個々の食材に着目して、食品全体を理解することを目的とする。食品の種類は非常に多く、現在食品成分表に記載されたものだけでも 2,000 品目以上、さらに世界各地より食材や加工品が入り、その種類は増加しつづけている。また魚類の中には稚魚から成魚になるときに名称が変化したり、地方により呼称が異なったり、調理方法により栄養成分値が変動するものがある。野菜・果実などは年々改良されている。これら詳細を食材ごとに学ぶとともに、近年増えつづけているバイオ食品についても学習する。</p>						
学習の到達目標						
各食材の概要、品質の鑑別、栄養特性、加工や調理などを系統的に学ぶことにより、各食品の特徴、季節、栄養バランス、嗜好性、経済性等を加味した食品選択が可能となる。						
回	授業内容	キーワード				AL
1	食品の貯蔵・加工による変化	褐変反応、ミオグロビンの変化、クロロフィルの変化				
2	穀類と加工品	種類と性状、成分と栄養価、加工品				
3	イモ類、豆類と加工品	種類と性状、成分と栄養価、加工品、機能性				
4	種実類、野菜類と加工品	種類と性状、成分と栄養価、加工品、機能性				
5	果実類と加工品	種類と性状、成分と栄養価、加工品、機能性				
6	キノコ類、藻類	種類と性状、成分と栄養価、加工品、機能性				
7	肉類と加工品	種類と性状、成分と栄養価、加工品、機能性				
8	乳、卵と加工品	種類と性状、成分と栄養価、乳加工品と殺菌法、鶏卵の構造、機能性				
9	魚介類と加工品	種類と性状、成分と栄養価、加工品、鮮度判定、機能性				
10	油脂食品	種類と性状、食用油脂の製造工程、油脂の酸化、加工品、機能性				
11	甘味料、調味料、香辛料、嗜好飲料	種類と特性、成分、機能性				
12	微生物利用食品	発酵乳製品、漬け物、みそ、しょう油、アルコール飲料、食酢、納豆				
13	新しい加工法による食品	レトルトパウチ食品、超高压処理食品、凍結乾燥食品、コピー食品				
14	バイオ食品	遺伝子工学を用いたバイオ食品、発酵工学を用いたバイオ食品 バイオリアクターを利用したバイオ食品				
15	まとめ	全体の総括				
教科書及び参考図書						
<p>教科書：改訂食品学Ⅰ・Ⅱ 菅原龍幸・福澤英喜男 編著 建帛社 食品の官能評価・鑑別演習(第3版) (社)日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 参考図書：食べ物と健康 食品学各論 下橋淳子編著 八千代出版 食品加工学 加工から保蔵まで 第2版 露木英男・田島真編 共立出版 分子栄養学 金本龍平編 化学同人</p>						
準備学習・事後学習						
<p>準備学習（週 1.5 時間）：日頃から応用食品学に関連する資料を集めておく。 事後学習（週 1.5 時間）：本講義では隔週でレポート課題および小テストを課すので、日頃から復習を中心とした授業外学習を励行して、学習したことをまとめる習慣を身につける。</p>						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、レポート添削、小テスト解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 50% 平常点(小テストの得点、発言内容、態度を含む) 25% レポート 25%						
評価	成績評価別の到達度					
S	各食材を理解し、その特徴などから、優れた食品選択ができる。					
A	各食材を理解し、その特徴などから、食品選択ができる。					
B	各食材を理解し、その特徴などから、ほぼ食品選択ができる。					
C	各食材を理解し、その特徴などから、最低限の食品選択ができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	食品衛生学 [Food Hygiene]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義	岡崎 英規			N-S2036		
この授業に関する資格						
栄養士免許、フードスペシャリスト、健康管理士一般指導員						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
食品はヒトの生命を維持し、健康の保持、増進に欠かせないものであるが、時には健康障害を引き起こす。生命を脅かす原因となることもある。食中毒を起こさない、または被害に遭わない様、飲食に関わる有害なものや国の施策について理解することを目的とする。						
学習の到達目標						
食中毒予防のため、食品の取り扱いだけでなく食に関わる全ての環境に対して衛生的な配慮ができる。 食品中の有害物質について、正しく説明できる。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	食品衛生の重要性、食品衛生行政の概要、リスク分析	食品衛生法、食品安全基本法、ハザード、リスク				
2	微生物について、生育条件、汚染指標細菌	微生物の基礎				
3	腐敗とその判定、食品の変質防止方法	食品の変質、変質の防止				
4	食中毒の定義、発生状況、年内変動の周期性	食中毒				
5	食中毒菌の特徴と予防方法 1	サルモネラ属菌、腸炎ビブリオ、病原大腸菌、ウェルシュ菌				
6	食中毒菌の特徴と予防方法 2	セレウス菌、カンピロバクター、ブドウ球菌、ボツリヌス菌				
7	食中毒菌の特徴と予防方法 3 ・経口感染症 ・人畜共通感染症	NAG ビブリオ、リステリア、エルシニア ・コレラ、細菌性赤痢、チフス ・炭疽、ブルセラ、プリオン				
8	ノロウイルスの特徴と予防方法、吐物の処理方法	ウイルス性食中毒				
9	寄生虫症の特徴と予防方法	アニサキス、回虫、肺・肝吸虫、クダア、糸虫類、サルコシスティス				
10	動物性自然毒と植物性自然毒食中毒の特徴と毒性	フグ毒やシガテラなど魚介類の毒、毒キノコ、ジャガイモの毒、毒草				
11	カビ毒の特徴と毒性、有害化学物質の特徴と過去の事例	マイコトキシン、有害元素、食品の放射性物質				
12	食品成分の変化による有害物質	ヒスタミン中毒、フェオフォルバイド、有害アミン、ベンゾピレン				
13	食品添加物	食品衛生法の分類、食品表示法による表示、用途、物質				
14	食品添加物の安全性と毒性試験、毒性の指標	食品添加物の事故例、ADI、使用基準、摂取量調査				
15	食品衛生管理、残留農薬、まとめ	HACCP、一般衛生管理事項、ポジティブリスト制				
教科書及び参考図書						
教科書：カレント食べ物と健康 3 改訂 食品衛生学 建帛社 参考図書：食中毒予防必携 第3版 日本食品衛生協会						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：シラバスを確認して教科書を読んでおくこと。分かることと分からないことを整理しておく。 事後学習（週 1.5 時間）：授業で理解したこと、理解できなかったことを整理する。毎回の復習小テストで 50%以上正解を目標とする。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
小テストの返却時に正答及び解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 90% 小テスト 10%						
評価	成績評価別の到達度					
S	食中毒の特徴や予防手段について、栄養士として必要な知識を幅広く習得している。					
A	食中毒の特徴や予防手段について、栄養士として必要な知識を習得している。					
B	食中毒の特徴や予防手段について、栄養士として必要な知識をほぼ習得している。					
C	食中毒の特徴や予防手段について、栄養士として必要な知識を最低限習得している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	公衆衛生学 [Public Health]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義	岡崎 英規			N-S2037		
この授業に関する資格						
栄養士免許、健康管理士一般指導員、NR・サプリメントアドバイザー、社会福祉主事						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
公衆衛生学は、人々の疾病予防、健康の保持増進をはかるため、国や自治体など組織的な取り組みにより推進していくことである。衛生行政、保健統計について知り、日本の保健衛生を世界各国と比較して、現在と将来の公衆衛生上の問題を認識することを目的とする。						
学習の到達目標						
生態系の中の人間について考え、社会や環境の変化が健康に与える影響を説明できる。 疫学の基礎知識を身につけ、科学的根拠（エビデンス）に基づく保健対策について説明できる。						
回	授業内容		キーワード			AL
1	健康・公衆衛生の定義、歴史、予防医学、アプローチ		健康、公衆衛生学、予防医学			
2	環境基本法、地球環境問題、大気・水の環境基準、ダイオキシン類		環境、大気、水、土、ダイオキシン類			
3	日本の公害、環境衛生（騒音、温熱、放射線、上下水道、廃棄物）		公害の原因、身近な環境衛生			
4	保健統計の概要（人口静態統計）		国勢調査、年齢3区分、人口ピラミッド			
5	保健統計の概要（人口動態統計）		死亡の状況、婚姻・離婚			
6	生命表、平均寿命、健康寿命、傷病統計		生命表、患者調査、国民生活基礎調査			
7	疫学の方法と指標（疾病頻度、曝露効果測定）		疫学、相対危険、寄与危険、オッズ比			
8	疫学の方法、バイアスと交絡		記述・生態学・症例対照・コホート・介入研究			
9	スクリーニング、根拠に基づく保健対策、根拠の質		スクリーニング、系統的レビュー、メタアナリシス			
10	悪性新生物、脳血管疾患、心疾患、たばこ対策、飲酒行動、歯科保健		主要疾患の状況とその原因・対策			
11	感染症法、結核対策、予防接種、精神保健福祉法、自殺対策、外因死の現状		感染症対策、精神保健、外因死			
12	母子保健に関する統計資料の現状、母子保健の目的や活動		母子保健統計、母子保健活動			
13	労働安全衛生法、3管理、職業病、労働災害、トータルヘルスプロモーションプラン		産業保健、労働衛生、労働者を守る仕組み			
14	学校保健の目的や活動、児童生徒の健康、学校感染症		学校保健、被患率、出席停止期間			
15	国際保健の意義、機関、活動・保健所と保健センターの役割・まとめ		WHO、FAO、ODA、JICA、SDG s			
教科書及び参考図書						
教科書：公衆衛生学 2022/2023 同文書院 参考図書：国民衛生の動向 2021/2022 厚生労働統計協会						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：シラバスを確認して教科書を読んでおくこと。分かることと分からないことを整理しておく。 事後学習（週 1.5 時間）：授業で理解したこと、理解できなかったことを整理する。毎回の復習小テストで 50%以上正解を目標とする。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
小テストの返却時に正答及び解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 90% 小テスト 10%						
評価	成績評価別の到達度					
S	社会や環境の変化が健康に与える影響について、幅広い知識を習得している。					
A	社会や環境の変化が健康に与える影響についての知識を習得している。					
B	社会や環境の変化が健康に与える影響についての知識をほぼ習得している。					
C	社会や環境の変化が健康に与える影響についての知識を最低限習得している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	栄養指導論 1 [Nutrition Education 1]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・ アクティブ・ラーニング	小河原 佳子			N-S2038		
この授業に関係する資格						
栄養士免許						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
栄養指導の基本的役割を知り、指導の意義を明確に説明できることとする。また、栄養の指導に必要な基礎知識を系統的に学び、これを活用して、栄養マネジメントに必要なアセスメントの方法・分析、企画や指導方法、評価方法を理解し、身につけることを目的とする。						
学習の到達目標						
栄養の指導の目的と意義、栄養マネジメントを理解し、栄養アセスメント方法、栄養指導計画立案、評価方法を説明できることを目標とする。						
回	授業内容		キーワード			AL
1	栄養士の使命と役割、栄養教育の時代の変遷を学ぶ		栄養士・栄養指導・時代変遷			○
2	栄養政策の取り組み、食生活の問題、関連法規について学ぶ		栄養士法・食生活指針・栄養政策			
3	食事摂取基準の総論について学ぶ		食事摂取基準 2020 年版・指標・			
4	食事摂取基準の活用法を学ぶ		エネルギー・たんぱく質・脂質・炭水化物			○
5	栄養の指導のための行動科学、行動科学的アプローチについて学ぶ		食行動・変容・アプローチ方法			
6	カウンセリングの基本と技法を用いた栄養の指導について学ぶ		カウンセラー・クライアント・技法			
7	行動変容技法について学ぶ		食行動技法・地域づくり			
8	栄養教育とマネジメントサイクル（PDCA サイクル）の概要を学ぶ		PDCA サイクル・栄養アセスメント			
9	栄養アセスメント分析方法・情報収集について学ぶ		食事調査・要因分析・情報収集・質問紙			
10	栄養指導計画の立案、目標設定について学ぶ		栄養教育計画・カリキュラム・目標			
11	カリキュラム、学習指導案について学ぶ		6W3H1F・学習指導案			
12	栄養教育の実施について学ぶ		食行動・行動変容技法・媒体			
13	学習形態について学ぶ		個別指導・集団指導・グループ学習			
14	栄養教育の評価内容と意義、評価方法の種類を学ぶ		評価基準・栄養教育マネジメント			
15	栄養教育評価デザインについて学ぶ まとめ		研究デザイン・まとめ			
教科書及び参考図書						
教科書：栄養教育論 第2版 光生館 参考図書：日本人の食事摂取基準 2020 年版、「八訂 食品成分表 2021」女子栄養大学出版部						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：指定している教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。キーワードをチェックしておくこと 事後学習（週 1.5 時間）：毎回授業の始めに、前回の授業内容の振り返りの小テストを行うので、復習しておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、返却時に振り返り小テストの解答の解説を行う。Google Classroom において指導する。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 70%と、小テスト 20%、授業への積極的な参加態度（Google Classroom の課題など）10%、として、総合的に評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	栄養指導の基礎知識を十分に習得し、PDCA サイクル、アセスメントの方法や指導方法、評価方法を十分に理解している。					
A	栄養指導の基礎知識を習得し、PDCA サイクル、アセスメントの方法や指導方法、評価方法をよく理解している。					
B	栄養指導の基礎知識を概ね習得し、PDCA サイクル、アセスメントの方法や指導方法、評価方法を理解している。					
C	栄養指導の基礎知識、PDCA サイクル、アセスメントの方法や指導方法、評価方法を概ね理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	給食経営管理論 [Institutional Food Service Management]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義	菊地 亨		国	N-S2039		
この授業に関する資格						
栄養士免許						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
特定給食施設等における給食運営に必要な専門知識を学ぶ。						
学習の到達目標						
1. 給食管理の目的と方法、給食業務に関連する法規について説明できる。						
2. 栄養管理の意義と具体的方法について説明できる。						
3. HACCP システムと大量調理衛生管理マニュアルに基づいた、衛生管理・食中毒の防止方法について説明できる。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	給食の定義・目的	特定給食施設、健康増進法				
2	経営管理	給食管理の意義、マーケティング				
3	栄養・食事管理 ①	栄養・食事管理の意義と目的				
4	栄養・食事管理 ②	栄養・食事のアセスメント				
5	栄養・食事管理 ③	食事計画の実施・評価・改善				
6	品質管理、会計・原価管理	給食品質の標準化・評価・改善、経営分析、原価計算				
7	食材料管理	食材料の発注計画、在庫管理、購入価格の分析				
8	生産管理	生産計画（調理工程、作業工程）				
9	安全・衛生管理 ①	衛生管理の意義と目的、HACCP システム				
10	安全・衛生管理 ②	大量調理衛生管理マニュアル				
11	施設・設備管理	食中毒・感染症、危機管理対策				
12	人事・事務管理	給食従事者の教育・評価、給食部門における事務処理				
13	各種給食施設の特徴 ①	医療施設				
14	各種給食施設の特徴 ②	高齢者・介護福祉施設、児童福祉施設、障害者福祉施設				
15	各種給食施設の特徴 ③	学校、事業所				
教科書及び参考図書						
教科書：「エッセンシャル 給食経営管理論」医歯薬出版						
参考図書：「八訂 食品成分表 2021」女子栄養大学出版社 「調理・献立作成の基礎」化学同人						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：教科書・参考図書を用いて、授業範囲の予習を行うこと。						
事後学習（週 1.5 時間）：教科書・参考図書・配布資料を用いて、授業範囲の復習を行うこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
確認テストの解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 100%						
評価	成績評価別の到達度					
S	学習の到達目標について、極めて高いレベルで達成している。					
A	学習の到達目標について、十分に達成している。					
B	学習の到達目標について、ある程度達成している。					
C	学習の到達目標について、最低限の範囲で達成している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	調理学 [Cookery Science]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義	小板 由美子			N-S2040		
この授業に関係する資格						
栄養士免許、フードスペシャリスト						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
食品から料理へ作り上げていく過程を中心に、食品の調理上での変化、調理と衛生、日本とその他の国の食文化、献立の立て方・考え方、調理操作方法（新調理機器を含む）、人間と嗜好（おいしさの科学）などについて理解することを目的とする。						
学習の到達目標						
調理の目的（衛生的に安全で、栄養効率を高め、嗜好性を向上させ、食文化を理解する）を前提に人間が食物を摂取する最終段階としての調理方法とその体系を関連づけて理解することができる。						
回	授業内容		キーワード	AL		
1	調理学序論 食生活における問題と食べ物のかわり		食べ物と生活環境 食べ物の歴史的変遷			
2	美味論① 食物のおいしさとその要因		おいしさの視点 おいしさを感じるメカニズム			
3	美味論② おいしさの評価法		理化学的評価法 官能評価法			
4	調理システム① 調理操作の意義と調理操作		非加熱調理操作			
5	調理システム② 調理操作の意義と調理操作		加熱調理操作			
6	調理システム③ 調理システム（厨房設備）及び調理機器		調理用計器・器具			
7	食材の調理機能① 調理機能論、植物性食品の調理機能		穀類 調理特性			
8	食材の調理機能② 植物性食品の調理機能		豆類、イモ類、野菜類 調理特性			
9	食材の調理機能③ 植物性食品の調理機能		果物類、海藻類、きのこ類 調理特性			
10	食材の調理機能④ 動物性食品の調理機能		畜肉類 調理特性			
11	食材の調理機能⑤ 動物性食品の調理機能		魚介類 調理特性			
12	食材の調理機能⑥ 動物性食品の調理機能		卵、乳製品 調理特性			
13	食材の調理機能⑦ 抽出性食品、調味料の調理機能		でん粉、油脂、ゲル化剤 調味料の役割 調理特性			
14	調理環境論① 調理環境と食情報		世代別食生活の特徴			
15	調理環境論② 外食産業とエコクッキング		外食産業の分類 エコロジー			
教科書及び参考図書						
教科書：時代とともに歩む新しい調理学 川端・永島他著 学建書院 参考図書：栄養士実力認定試験過去問題集 全栄施協編 建帛社						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：指定したテキストのページ内容よりキーワード及び専門用語について調べた上で授業に臨む。 事後学習（週 1.5 時間）：当日の授業で小テストを実施。専門用語及び項目についてノートにまとめる。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
授業内で実施する小テストを添削後返却。解答の解説を行う。ノートにまとめる。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 70% 小テスト 20% 受講態度 10%						
評価	成績評価別の到達度					
S	調理学の内容をきわめて高いレベルで理解している。					
A	調理学の内容をほぼ理解している。					
B	調理学の内容をある程度理解している。					
C	調理学の内容を最低限理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	生化学実験 [Biochemistry Experiment]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実験・ アクティブ・ラーニング	茗荷 尚史			N-S4041		
この授業に関する資格						
栄養士免許						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
<p>栄養士にとって生体内で起こっている現象を理解することは重要である。例えば食物が体内に入って、消化・吸収を経て身体の一部となったり、エネルギーを生産する過程はまさに生化学反応である。生化学実験では生物によって引き起こされる様々な現象を試験管内で再現するとともに、それらを分子レベルで理解することを目的とする。</p>						
学習の到達目標						
身近な生化学的現象を分子レベルで理解し、説明できるようになることを目標とする。						
回	授業内容		キーワード			AL
1・2	オリエンテーション		諸注意、実験の基礎、レポート作成法			
3・4	定量分析の基本		分光光度計の使い方			○
5・6	酵素の実験 1 回目 乳酸脱水素酵素		温度依存性、pH 依存性			○
7・8	酵素の実験 2 回目 乳酸脱水素酵素		補酵素の影響			○
9・10	タンパク質の実験 1 回目 温泉卵とヨーグルト		熱変性、等電点沈澱			○
11・12	タンパク質の実験 2 回目 パンクレアチンによる消化		加熱と消化の関係			○
13・14	アルコール発酵 1 回目		試薬調製			○
15・16	アルコール発酵 2 回目		固定化酵素の作成、人工イクラの作製			○
17・18	アルコール発酵 3 回目		アルコール定量、アルコール飲料の種類と鑑別			○
19・20	DNA の実験 1 回目		試薬調製、DNA 抽出			○
21・22	DNA の実験 2 回目		定量、純度検定			○
23	DNA の実験 3 回目		PCR の説明			
教科書及び参考図書						
教科書：なし * 単元ごとに授業レジュメを配布 参考図書：イラスト生化学実験 東京教学社						
準備学習・事後学習						
準備学習：Google Classroom 等で配信する授業レジュメをよく読んで、操作の流れを整理しておく。 事後学習：実験結果、考察等をレポートにまとめ、学んだことの理解を深める。						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、レポートにコメントを入れて返却する。						
成績評価の方法・基準						
レポート 60% 平常点(取り組み姿勢、発言内容を含む) 40%						
評価	成績評価別の到達度					
S	生化学的現象を分子レベルでよく理解し、十分に説明できる。					
A	生化学的現象を分子レベルで理解し、説明できる。					
B	生化学的現象を分子レベルで理解し、概ね説明できる。					
C	生化学的現象を分子レベルで最低限理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	食品加工実習 [Food Processing Practice]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実習・ アクティブ・ラーニング	木元 泰子			N-S5042		
この授業に関する資格						
栄養士免許 フードスペシャリスト						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
食品加工の基である食品素材の特徴を学び、日常利用されている加工食品について実習を通して具体的に加工の原理と方法を学ぶ。						
学習の到達目標						
食品における貯蔵および加工の目的を知り、加工食品の原材料、製造原理、工程、保存、包装技術また、食品の成分や物性の変化を学び、知識だけでなく栄養士として食生活に役立つ食品加工の基本的な知識を理解する。						
回	授業内容	キーワード				AL
1・2	食品加工実習の概念及び実習のガイダンス	加工食品、栄養性、嗜好性、安全性、保存性、利便性				
3・4	穀類の加工① うどん	小麦たんぱく質、中力粉、食塩、グルテン、混捏、圧延、切り出し				○
5・6	穀類の加工② 中華麺	準強力粉、かん水、水溶性色素 (フラボノイド)				○
7・8	穀類の加工③ パン・マフィン	強力粉、アルコール発酵、生物的膨化、化学的膨化、水溶性色素(アントシアニン)				○
9・10	果実類の加工 ジャム・マーマレード 包装材料について 瓶詰	ゲル化剤、ペクチン、水溶性色素 (アントシアニン) 包装容器、瓶				○
11・12	果実類の加工 トマトケチャップ	色沢、脂溶性色素 (リコピン) 、JAS 規格				○
13・14	畜肉類の加工 ソーセージ	肉たんぱく質、アクトミオン、ケーシング、発色剤、乾燥、燻煙				○
15・16	魚介類の加工 かまぼこ・さつま揚げ	練り製品、水晒し、擂潰、坐り、戻り、塩溶たんぱく質、不溶たんぱく質				○
17・18	豆類の加工 木綿豆腐・絹ごし豆腐	大豆たんぱく質、ゲル化剤(にがり、塩化マグネシウム、グルコノラクトン)				○
19・20	いも類の加工 こんにゃく	荒粉、精粉、グルコマンナン、ゲル化剤 (消石灰 : Ca(OH) ₂)				○
21・22	乳類の加工 ヨーグルト・フレッシュチーズ・ レアチーズケーキ	乳たんぱく質、カゼイン、レンネット・カード、ホエー、乳酸菌発酵、乳糖、ナチュラルチーズ、プロセスチーズ、				○
23	まとめ	全体の総括				
教科書及び参考図書						
教科書：食品加工学実習テキスト (建帛社) 参考図書：食品加工貯蔵学 (東京化学同人)、日本食品大事典 (医歯薬出版)、食品学教科書、調理学教科書						
準備学習・事後学習						
準備学習： 実習で行う内容の加工食品について情報を収集しておくこと。 事後学習： 授業内容を復習しておくこと。						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
提出課題にコメントを記入して返却を行う。						
成績評価の方法・基準						
課題提出 70% 受講態度 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	食品加工学に関する基本的な知識を十分に理解している。					
A	食品加工学に関する基本的な知識をかなり理解している。					
B	食品加工学に関する基本的な知識を概ね理解している。					
C	食品加工学に関する基本的な知識を最低限理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	スポーツ栄養学実習 [Practice in Sports Nutrition]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実習 アクティブ・ラーニング	長島 洋介		実	N-S5043		
この授業に関係する資格						
栄養士免許						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
栄養アセスメントを実践的に学び、その手法を身につけることを目的とする。						
学習の到達目標						
身体組成、臨床診査、身体活動量に関するデータを正しく評価できるようになる。						
回	授業内容		キーワード			AL
1・2	食事の評価 1		食物摂取頻度調査、食事摂取基準			○
3・4	食事の評価 2		エネルギー調整			○
5・6	体格の評価 身体測定		周囲長、身体組成			○
7・8	体力と食習慣との関連		新体力テスト			○
9・10	臨床診査 1 血液検査		ヘモグロビン、赤血球数、ヘマトクリット			○
11・12	臨床診査 2 尿検査		尿中ナトリウム、尿中カリウム、尿比重			○
13・14	唾液アミラーゼとストレスホルモン		唾液量、唾液アミラーゼ、コルチゾール			○
15・16	スポーツ選手への食事		献立作成			○
17・18	運動環境の評価		WBGT、熱中症、水分補給の関連性			○
19・20	運動による生体の変化 1		安静時の呼吸数、血圧、体温、味覚			○
21・22	運動による生体の変化 2		運動による呼吸数、血圧、体温および味覚の変化			○
23	まとめ		本実習のまとめ			○
教科書及び参考図書						
参考資料：教員作成資料（プリント配布）、「応用栄養学」羊土社						
準備学習・事後学習						
準備学習：参考図書を読んでおくこと。 事後学習：授業中の内容を復習しておくこと。欠席した場合には、他の日に実施していない実習を行う。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 50%、提出物 40%、授業態度 10%として、総合的に評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	身体組成、臨床診査、身体活動量に関して十分理解し、正しく評価できている。					
A	身体組成、臨床診査、身体活動量に関して理解し、正しく評価できている。					
B	身体組成、臨床診査、身体活動量に関する基礎知識を身に付けている。					
C	身体組成、臨床診査、身体活動量に関する知識を最低限身に付けている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	臨床栄養学実習 [Clinical Nutrition Practice]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
演習・実習・アクティブ・ラーニング	木元 泰子			N-S5044		
この授業に関する資格						
栄養士免許						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
献立作成を通して、形態別・成分別の献立作成の基礎的知識・実際を学び、調理実習を通して、臨床調理と一般調理の違いを体得する。						
学習の到達目標						
治療の一環としての栄養療法の基本を習得し、各疾患に適した食事づくりができるよう既得の知識と実技を生かして、実践即戦力を身につける。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1・2	オリエンテーション	栄養管理、栄養ケア、治療食				
3・4	流動食・嚥下食の調理	形態別治療食、増粘剤、経腸栄養			○	
5・6	一般治療食の献立作成	軟食、消化器系疾患、乳幼児、高齢者、食欲不振			○	
7・8	軟菜食の調理	軟食、分粥、胃内滞留時間			○	
9・10	糖尿病交換表のしくみ	炭水化物エネルギー比、血糖コントロール、三大合併症			○	
11・12	糖病病食の調理	特別治療食 エネルギーコントロール食			○	
13・14	食塩制限食の献立作成	塩味適応濃度、腎疾患、高血圧症、肝硬変、動脈硬化症			○	
15・16	食塩制限食の調理	食塩相当量、低ナトリウム食品、加工食品			○	
17・18	腎臓病食品交換表のしくみ	高エネルギー、低たんぱく質、水分制限、単位			○	
19・20	腎臓病の調理	低たんぱく質、低ナトリウム、低カリウム、特殊食品			○	
21・22	展開食の調理	栄養成分別展開食、糖尿病、腎臓病、高脂血症、高血圧			○	
23	まとめ	全体の総括				
教科書及び参考図書						
教科書：臨床栄養学実習書（医歯薬出版） 糖尿病食事療法のための食品交換表（文光堂） 腎臓病食品交換表（医歯薬出版） 参考図書：日本人のための食事摂取基準 2020 年版（第一出版） 栄養士実力認定試験過去問題集 2022 年版（建帛社） 日本食品成分表						
準備学習・事後学習						
準備学習：シラバスで授業内容を確認し、教科書等で予習をしておくこと。 事後学習：授業内容を復習し、日常生活で実践する。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
提出課題にコメントを入れ、返却する。						
成績評価の方法・基準						
課題提出 70% 受講態度 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	治療の一環としての栄養療法の基本を十分修得し、各疾患に適した食事づくりができる実践即戦力を十分に持っている。					
A	治療の一環としての栄養療法の基本を修得し、各疾患に適した食事づくりができる実践即戦力をかなり持っている。					
B	治療の一環としての栄養療法の基本を概ね理解し、各疾患に適した食事づくりを身につけている。					
C	治療の一環としての栄養療法の基本を最低限理解し、各疾患に適した食事づくりの基礎的な知識をある程度身につけている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	食品学実験 [Experimental Food Science]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実験・ アクティブ・ラーニング	茗荷 尚史			N-S4045		
この授業に関する資格						
栄養士免許、フードスペシャリスト						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
<p>栄養士が現場で献立作成や栄養指導を行う際、常に食品成分表を参考し、使いこなさなければならない。しかし実際の食品成分表を見ると実に多くの数字が羅列されており、これを自在に活用するためにはそれらのデータが出された過程および方法を熟知しておく必要がある。そのため本授業では実験を通して食品成分分析法を学ぶとともに、自らデータを出す体験することを目的とする。</p>						
学習の到達目標						
食品の一般成分分析に関する実験を通して、食品成分分析の手法および結果の解析方法を説明できる。						
回	授業内容	キーワード				AL
1・2	食品学実験の概説	一般的諸注意、実験器具の種類と使用法、分析法				
3・4	食品中の水分の定量 (その1)	概説、常圧加熱乾燥法、恒量の求め方				○
5・6	食品中の水分の定量 (その2)	試料の調製、採取、定量条件の検討				○
7・8	食品中の粗灰分の定量 (その1)	概説、つぼの恒量を求める、試料の調製、試料の灼熱				○
9・10	食品中の粗灰分の定量 (その2)	恒量を求める、計算、小麦粉の種類、等級およびその鑑別				○
11・12	自家製スポーツドリンク作り	概説、作製、甘味料・酸味料の官能評価				○
13・14	食品中の粗脂肪の定量 (その1)	概説、ソックスレー抽出法、定量びんの恒量測定、脂肪の抽出				○
15・16	食品中の粗脂肪の定量 (その2)	脂肪の恒量測定、計算				○
17・18	食品成分の分離 (その1)	小麦粉からのデンプンとグルテンの分離				○
19・20	食品成分の分離 (その2)	グリアジンの分離、グルテニンの分離				○
21・22	タンパク定量	ローリー法、計算、総括				○
23	総まとめ	まとめの講義、質問受付				
教科書及び参考図書						
<p>教科書：食品学実験書(第3版) 藤田修三・山田和彦 編 医歯薬出版 食品の官能評価・鑑別演習(第3版) (社)日本フードスペシャリスト協会 建帛社 * 単元ごとに詳細を板書のレジュメを配布する</p>						
準備学習・事後学習						
<p>準備学習：Google Classroom 等で配信する授業レジュメをよく読んで、操作の流れを整理しておく。 事後学習：実験結果、考察等をレポートにまとめ、学んだことの理解を深める。 * 各実験の意味をよく理解し、率先して操作に関わる積極性が求められる。なお本授業科目は、評価に占めるレポート点の比重が大きいため、レポート作成時によく復習するとともに、期限に遅れずにレポートを提出する。</p>						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、レポートにコメントを入れて返却する。						
成績評価の方法・基準						
レポート 60% 平常点(取り組み姿勢、発言内容を含む) 40%						
評価	成績評価別の到達度					
S	食品成分分析の手法および結果の解析法に関して、よく理解している。					
A	食品成分分析の手法および結果の解析法に関して、理解している。					
B	食品成分分析の手法および結果の解析法に関して、基本的知識を理解している。					
C	食品成分分析の手法および結果の解析法に関して、最低限の知識を理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	食品衛生学実験 [Experiments in Food Hygiene]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実験・ アクティブ・ラーニング	岡崎 英規			N-S4047		
この授業に係る資格						
栄養士免許、フードスペシャリスト						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
食品衛生学で学んだ内容について、実体験により深く理解する。 微生物に関する基礎的実験により、普段は見えない微生物がとても身近なものであること、どのような特徴があるのか認識することを目的とする。						
学習の到達目標						
食品の細菌検査法、鮮度判定など品質管理の基礎的知識と技術を習得し、結果について考察することができる。						
回	授業内容	キーワード	AL			
1・2	食品衛生学実験における諸注意 集団給食における手指の洗浄消毒効果の大切さを体得させる	オリエンテーション 手指の洗浄消毒効果	○			
3・4	手指の洗浄消毒効果について観察をする 様々な消毒方法や滅菌方法について学習する	手指の洗浄消毒効果観察 様々な消毒方法	○			
5・6	グラム染色により細菌の形態に関する知識を高める	細菌観察、グラム染色	○			
7・8	市販食品を用いて、衛生指標である生菌数測定法を体得する	一般生菌数の測定	○			
9・10	市販食品に、ある程度の生きた細菌や芽胞が存在することや衛生指標菌について学習する	生菌数測定の観察	○			
11・12	食品の衛生指標である大腸菌群の測定方法を体得する	大腸菌群の測定	○			
13・14	大腸菌群の中には、糞便由来のものと環境由来のものが含まれることを理解する 各人のブドウ球菌汚染実態と検査方法を学ぶ 調理場などの環境衛生指標とされる大気中の細菌について認識する 市販魚介類を用い、身近に腸炎ビブリオがいることを認識する	糞便系大腸菌群検査 ブドウ球菌検査 空中落下細菌検査 腸炎ビブリオ検査	○			
15・16	50℃から100℃まで加熱した時の生菌数の変化を観察する 加熱殺菌の意義と耐熱芽胞の存在について認識する	加熱温度と生菌数	○			
17・18	短時間で結果の出る鮮度判定の検査法「揮発性ちっ素（VBN）測定」を体得する	魚介類の鮮度判定	○			
19・20	アレルギー様食中毒の原因物質ヒスタミンの検査法を体得する	魚介類のヒスタミン検査	○			
21・22	水道水の塩素濃度を測定し、安全性の確認方法を体得する	飲料水検査	○			
23	本実験の総まとめ	まとめ				
教科書及び参考図書						
教科書：食品衛生学実験ノート 岡崎、浅香 著 参考図書：食品衛生検査指針 微生物編・理化学編 2015 日本食品衛生協会						
準備学習・事後学習						
準備学習：シラバスを確認してテキストをあらかじめ読んでおくこと。操作の流れを整理しておく。 事後学習：疑問に思った事を調べる。授業によって理解したこと理解できなかったことを整理し、レポートに記す。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
添削したレポートを返却する。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 50% レポート提出状況 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	食品の鮮度判定や細菌検査法など、品質管理の様々な知識を積極的に取り組み習得している。					
A	食品の鮮度判定や細菌検査法など、品質管理の知識を習得している。					
B	食品の鮮度判定や細菌検査法など、品質管理の知識をほぼ習得している。					
C	食品の鮮度判定や細菌検査法など、品質管理の知識を最低限習得している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	社会福祉概論 [Social Security Schemes]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義	林 和秀		実	N-S2048		
この授業に関係する資格						
栄養士免許、社会福祉主事						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
①「社会福祉」の価値や意義、社会保障の基本的な制度である社会保険・公的扶助・社会福祉（制度）について学び、コメディカルとして、その概要を他者に説明できる。②制度や施策と合わせて具体的な社会問題について知り、社会や人間に対する広い視野を持つことができる。						
学習の到達目標						
①社会福祉の歴史を学び、その現状と意義を理解し、説明できる。②社会保障制度（社会保険、公的扶助、社会福祉）のおおよその仕組みを説明できる。③現状の制度の課題や社会問題（障害者差別、児童虐待、健康格差等）について自らの意見を述べる事ができる。④「人間の尊厳」について、自らの意見を述べる事ができる。						
回	授業内容		キーワード			AL
1	栄養を学ぶ学生が社会福祉を学ぶ意味を考える。授業計画・概要、評価方法を確認する		授業概要 福祉と栄養の関わり			
2	社会福祉の意味と対象について、用語の整理と社会福祉の歴史的な流れを学び、考える		社会福祉とは何か			
3	日本の社会福祉の歴史を学び、人間の尊厳や現代の社会福祉への理解を深める		日本の社会福祉の歴史			
4	私たちの生活を支える仕組みとしての、日本の社会保障の全体像を知る		社会保障の全体像 雇用保険制度 労災保険制度			
5	日本社会の現状を認識するとともに、日本の年金保険制度の仕組みを理解する		少子高齢社会 年金保険制度			
6	日本の医療保険制度および、医療福祉に関係する課題や専門職について学ぶ		医療保険制度 医療福祉			
7	高齢者を取り巻く状況と現状について認識し、高齢者の特性を学ぶ		高齢者を取り巻く環境と現状			
8	高齢者福祉と介護保険制度について学ぶ		高齢者福祉 介護保険制度			
9	生活保護制度の仕組みと課題について学ぶ		公的扶助（生活保護制度）			
10	少子高齢化の状況や現代の家族の課題について学ぶ		こどもと子育て世帯の現状と課題			
11	子どもや子育てを支援する施策と課題について学ぶ		児童家庭福祉			
12	障害のある人の生活を支援する施策と課題について学ぶ		障害者福祉 障害者総合支援法			
13	映像資料をもとに「福祉と食」の関連や課題について考える		社会福祉と食			
14	最新の社会福祉に関連する施策や事例について学び、これからの社会福祉について考える		これからの社会福祉			
15	授業の振り返りと総括を行う		まとめ・総括			
教科書及び参考図書						
教科書：教科書は使用せず、教員作成資料を毎回配布する。参考図書：①岩松珠美・三谷嘉明編『5訂 栄養士・管理栄養士をめざす人の社会福祉』みらい、2019年②鬼崎信好・本郷秀和編『コメディカルのための社会福祉概論 第4版』講談社、2018年						
準備学習・事後学習						
準備学習（週1.5時間）：シラバスのテーマに該当する内容について、自分なりに調べる。関連するメディア作品（映画、番組等）に触れる。 事後学習（週1.5時間）：各回で配布する授業の資料を再度熟読し、復習する。関連するメディア作品（映画、番組等）に触れる。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
リアクションペーパーに対して授業内での返答を行う。E-mail、Google Classroom、オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
期末筆記試験 60% 毎授業のリアクションペーパー 20% 課題レポート 20% ※講義および相互学習形式の授業である。授業中にスマホを利用する、私語や他用を行う、授業の進行にかかわらず、などの態度は減点とする。						
評価	成績評価別の到達度					
S	社会保障・社会福祉に関する時事問題を批判的に検討し、今後の展望および自分なりの案を考えることができる。					
A	広く社会保障・社会福祉制度の仕組みを理解し、それぞれの日本の社会問題について自分なりに課題を検討できる。					
B	日本の一つの社会問題について関連する社会保障と社会福祉の制度を理解し、自分なりに課題を検討できる。					
C	「人間の尊厳」について、自分なりの考えを持つことができている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	栄養指導論 2 [Nutrition Education 2]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義	小河原 佳子			N-S3049		
この授業に関する資格						
栄養士免許						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
栄養指導論 1 を基に、ライフステージ・ライフスタイル別に、それぞれの特性、栄養上の問題点や指導のポイント等を理解し、指導方法を説明することができる。また食環境や国際的動向について理解し、説明できることを目的とする。						
学習の到達目標						
ライフステージ・ライフスタイル別の特性、栄養上の問題点や指導のポイント等を知り、対象者を考慮した指導を説明できる。様々な環境に対応できるような知識・技術を学び、実践できる応用力を身につけ、指導方法を選択できる。						
回	授業内容		キーワード		AL	
1	災害時における栄養士の役割と栄養の指導について学ぶ		災害・食事・栄養管理・衛生管理			
2	妊娠・授乳期の特性に基づく栄養の指導について学ぶ		妊娠・授乳・栄養管理			
3	乳児期（離乳を含む）の特性に基づく栄養の指導について学ぶ		乳汁栄養・乳児・離乳食			
4	幼児期の特性に基づく栄養の指導について学ぶ		幼児・発育・発達・保育園・幼稚園			
5	学童期の特性と学校における食育の取り組みについて学ぶ		学童・食育・学校・食に関する指導			
6	思春期の特性に基づく栄養の指導について学ぶ		思春期・自己管理・成長期			
7	成人期・更年期の特性に基づく栄養の指導について学ぶ		成人期・生活習慣病・更年期			
8	高齢期の特性に基づく栄養の指導について学ぶ		高齢期・低栄養・フレイル			
9	障がい者などの特性に基づく栄養の指導について学ぶ		障がい・合理的配慮・			
10	食物アレルギーの概要と食物アレルギーの栄養の指導について学ぶ		食物アレルギー・除去食・給食管理			
11	メタボリックシンドローム・生活習慣病の予防・治療と栄養教育について学ぶ		特定保健指導・生活習慣病・ガイドライン			
12	運動・休養・睡眠の指針と栄養の指導について学ぶ		身体活動指針・休養・睡眠			
13	食環境づくりにおける栄養教育（食物・情報へのアクセス面での栄養指導）を学ぶ		食環境・食品・情報			
14	国際栄養施策、諸外国の取り組みを学ぶ		SDGs・フードガイド・食育			
15	栄養指導のまとめ		PDCA・ガイドライン・ライフステージ			
教科書及び参考図書						
教科書：栄養教育論 第2版 光生館 参考図書：日本人の食事摂取基準 2020 年版、「八訂 食品成分表 2021」女子栄養大学出版部						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：指定した教科書の該当箇所を事前に読んでおく。必要な資料を検索しておく。 事後学習（週 1.5 時間）：毎回授業の始めに前回の授業内容に関する小テストを行うので、授業の内容をまとめておく。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
授業の振り返りの小テストの解答を解説する。質問に対して Google Classroom を使用し答える。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 60%、授業の積極的な参加態度（提出物・資料検索など）と小テスト 40%として評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	ライフステージ・ライフスタイル別の栄養指導を十分理解し対象者を考慮した指導内容を説明できる。様々な指導方法を適切に選択できる。					
A	ライフステージ・ライフスタイル別の栄養指導を理解し、対象者を考慮した指導内容を説明できる。様々な指導方法を適切に選択できる。					
B	ライフステージ・ライフスタイル別の栄養指導を理解し、対象者に指導内容を説明できる。様々な指導方法を選択できる。					
C	ライフステージ・ライフスタイル別の栄養指導を理解し、対象者に指導内容を概ね説明できる。様々な指導方法を理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	栄養指導論実習 [Practice in Nutrition Education]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実習・演習・ アクティブ・ラーニング	小河原 佳子			N-S5050		
この授業に関する資格						
栄養士免許						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
PDCA サイクルに基づいた計画を立て、食生活実態や栄養状態等の情報収集し、栄養アセスメントから栄養評価まで行い、正しい食生活について検討することができ、ライフステージ別の対象者に対する指導計画作成方法、実施方法、教材作成の方法、およびそれらの評価方法などについて実践できることを目的とする。						
学習の到達目標						
栄養指導を行うために必要なアセスメントの方法と評価を理解し、実践できる。また、栄養アセスメントの結果から分析し、対象者の問題改善、行動変容を促す栄養指導計画を立て、指導し、指導評価ができる。						
回	授業内容	キーワード	AL			
1・2	栄養アセスメント	食事調査・生活活動調査	○			
3・4	食生活の問題把握	栄養素の過不足・消費エネルギー・摂取エネルギー	○			
5・6	栄養アセスメントによる目標設定	問題抽出・食生活の改善	○			
7・8	ライフステージ別対象者の特性把握	情報収集・問題抽出・目標設定	○			
9・10	カリキュラム・栄養指導計画の立案	カリキュラム・6W1H	○			
11・12	栄養指導計画に沿った栄養補給計画の立案	栄養管理・献立作成	○			
13・14	学習指導案の作成	学習指導案・導入・展開・まとめ	○			
15・16	学習指導案に基づく教材・媒体作成	学習指導案・媒体	○			
17・18	栄養指導の実施①グループ毎の栄養指導実施	ロールプレイング・ディスカッション	○			
19・20	栄養指導の改善・学習指導案の見直し	評価・改善・見直し	○			
21・22	栄養指導の実施②グループ毎の栄養指導実施と評価	ロールプレイング・評価	○			
23	栄養指導の評価・栄養アセスメントと指導計画・実施後の評価	影響評価・経過評価・フィードバック・まとめ	○			
教科書及び参考図書						
教科書：栄養教育論実習 大山珠美・須永美幸 編 光生館 参考図書：栄養教育論 第2版 光生館 ・「八訂 食品成分表 2021」女子栄養大学出版部 ・日本人の食事摂取基準 2020年版						
準備学習・事後学習						
準備学習：実習前に指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。実習に必要な情報を収集しておく。 事後学習：実習後のレポートをまとめておく。実習後にグループでの進捗状況を把握しておく。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
レポートは返却時にコメントを記入する。ロールプレイングは実施後にコメントをする。						
成績評価の方法・基準						
レポートの提出状況と内容で 50%、グループ学習で取り組み方（授業への意欲・態度・姿勢）で 30%、ロールプレイング 20%として、総合的に評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	栄養指導に必要なアセスメントの方法と評価を十分理解し、対象者に適した栄養指導計画を立て、指導し、指導評価が実践できる。					
A	栄養指導に必要なアセスメントの方法と評価を理解し、対象者に適した栄養指導計画を立て、指導し、指導評価が実践できる。					
B	栄養指導に必要なアセスメントの方法と評価を概ね理解し、対象者に対する栄養指導計画を立て、指導し、指導評価ができる。					
C	栄養指導に必要なアセスメントの方法と評価を概ね理解し、対象者に対する栄養指導計画を立て、指導し、指導評価を理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	給食経営実習 [Food Service Management Practical]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
演習・実習・ アクティブ・ラーニング	菊地 亨		実	N-S4051		
この授業に関する資格						
栄養士免許						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）			健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識		○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識		○	社会に貢献できる実践力		
授業の目的と概要						
栄養計画から給食提供までに必要となる業務、書類作成について網羅的に学ぶことで、給食提供に関する一連の流れを理解する。						
学習の到達目標						
1. 献立作成に必要な栄養価計算、廃棄率の計算等について理解し、実際の書類作成に応用できる。 2. 授業で設定した給与計画やテーマに基づき、適切な献立を立案できる。						
回	授業内容		キーワード			AL
1・2	給食管理の目的		給食管理計画			
3・4	栄養計画の立案		栄養計画、日本人の食事摂取基準			
5・6	献立計画 1		料理様式、調理方法			○
7・8	献立計画 2		週間献立計画、週間献立表			○
9・10	献立作成 1		PFC 比率			○
11・12	献立作成 2		食品成分表の活用			○
13・14	献立作成 3		食品成分表の活用			○
15・16	献立作成 4		調味パーセントの計算			○
17・18	献立作成 5		栄養価調整			○
19・20	給食実習室使用のルール説明		衛生管理、給食設備・機器			
21・22	作業工程表・発注書の作成		作業工程表、発注書			○
23	献立作成アプリケーションの使用方法		PC、献立作成アプリケーション			○
教科書及び参考図書						
参考図書：「八訂 食品成分表 2021」女子栄養大学出版社 「調理・献立作成の基礎」化学同人						
準備学習・事後学習						
準備学習：献立作成に利用できるレシピ等資料の収集。「大量調理施設衛生管理マニュアル」について、復習しておく。 事後学習：献立作成に関わる計算（発注量の算出、栄養計算方法）の復習。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
提出された課題を添削して返却する。						
成績評価の方法・基準						
提出物 100%						
評価	成績評価別の到達度					
S	学習の到達目標について、極めて高いレベルで達成している。					
A	学習の到達目標について、十分に達成している。					
B	学習の到達目標について、ある程度達成している。					
C	学習の到達目標について、最低限の範囲で達成している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	給食管理実習 1 [Food service Management Practical 1]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
演習・実習・ アクティブ・ラーニング	菊地 亨		実	N-S4052		
この授業に関する資格						
栄養士免許						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）			健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識		○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識		○	社会に貢献できる実践力		
授業の目的と概要						
給食経営実習で学んだことを踏まえた上で、給食提供に関する一連の作業を繰り返し行い、給食管理業務に対する理解と技術を深める。毎回、実習グループ・演習グループに分かれ、それぞれの作業を実施する。						
学習の到達目標						
1. 授業で設定した給食計画やテーマに基づき、適切な献立、その他給食運営に必要な書類を作成できる。 2. 給食管理の要点を把握した上で、給食業務を実施できる。						
回	授業内容		キーワード		AL	
1・2	授業概要の説明・グループ分け		オリエンテーション		○	
3・4	予定献立の最終チェック、必要書類一式の完成		予定献立、発注書、作業工程表		○	
5・6	献立・各種書類作成（演習グループ）	給食実習・調理指導（実習グループ）	給食実習、調理指導		○	
7・8	献立・各種書類作成（演習グループ）	給食実習・調理指導（実習グループ）	給食実習、調理指導		○	
9・10	献立・各種書類作成（演習グループ）	給食実習・調理指導（実習グループ）	給食実習、調理指導		○	
11・12	献立・各種書類作成（演習グループ）	給食実習・調理指導（実習グループ）	給食実習、調理指導		○	
13・14	献立・各種書類作成（演習グループ）	給食実習・調理指導（実習グループ）	給食実習、調理指導		○	
15・16	献立・各種書類作成（演習グループ）	給食実習・調理指導（実習グループ）	給食実習、調理指導		○	
17・18	献立・各種書類作成（演習グループ）	給食実習・調理指導（実習グループ）	給食実習、調理指導		○	
19・20	献立・各種書類作成（演習グループ）	給食実習・調理指導（実習グループ）	給食実習、調理指導		○	
21・22	献立・各種書類作成（演習グループ）	給食実習・調理指導（実習グループ）	給食実習、調理指導		○	
23	実施献立（グループ単位）、献立課題（個人）の提出		実施献立、献立課題		○	
教科書及び参考図書						
参考図書：「八訂 食品成分表 2021」女子栄養大学出版社 「調理・献立作成の基礎」化学同人						
準備学習・事後学習						
準備学習：献立作成に利用できるレシピ等資料の収集。実習前日、実習時間外での検品業務が必要となる場合がある。 事後学習：グループ単位で給食提供後の書類作成を行う。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
提出された課題を添削して返却する。						
成績評価の方法・基準						
提出物 100%						
評価	成績評価別の到達度					
S	学習の到達目標について、極めて高いレベルで達成している。					
A	学習の到達目標について、十分に達成している。					
B	学習の到達目標について、ある程度達成している。					
C	学習の到達目標について、最低限の範囲で達成している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	給食管理実習 2 [Food service Management Practical 2]					
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
演習・実習・ アクティブ・ラーニング	菊地 亨		国	N-S5053		
この授業に関係する資格						
栄養士免許						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）			健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識		○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識		○	社会に貢献できる実践力		
授業の目的と概要						
給食経営実習・給食管理実習 I で学んだことを踏まえた上で、引き続き、給食提供に関する一連の作業を繰り返し行い、給食管理業務に対する理解と技術を深める。毎回、実習グループ・演習グループに分かれ、それぞれの作業を実施する。						
学習の到達目標						
1. 授業で設定した給与計画やテーマに基づき、適切な献立、その他給食運営に必要な書類を作成できる。						
2. 給食管理の要点を把握した上で、給食業務を実施できる。						
回	授業内容		キーワード			AL
1・2	実習の準備		予定献立、発注書、作業工程表			○
3・4	献立・各種書類作成（演習グループ）	給食実習・調理指導（実習グループ）	給食実習、調理指導			○
5・6	献立・各種書類作成（演習グループ）	給食実習・調理指導（実習グループ）	給食実習、調理指導			○
7・8	献立・各種書類作成（演習グループ）	給食実習・調理指導（実習グループ）	給食実習、調理指導			○
9・10	献立・各種書類作成（演習グループ）	給食実習・調理指導（実習グループ）	給食実習、調理指導			○
11・12	献立・各種書類作成（演習グループ）	給食実習・調理指導（実習グループ）	給食実習、調理指導			○
13・14	献立・各種書類作成（演習グループ）	給食実習・調理指導（実習グループ）	給食実習、調理指導			○
15・16	献立・各種書類作成（演習グループ）	給食実習・調理指導（実習グループ）	給食実習、調理指導			○
17・18	献立・各種書類作成（演習グループ）	給食実習・調理指導（実習グループ）	給食実習、調理指導			○
19・20	献立・各種書類作成（演習グループ）	給食実習・調理指導（実習グループ）	給食実習、調理指導			○
21・22	献立・各種書類作成（演習グループ）	給食実習・調理指導（実習グループ）	給食実習、調理指導			○
23	実施献立(グループ単位)、献立課題（個人）の提出		実施献立、献立課題			○
教科書及び参考図書						
参考図書：「八訂 食品成分表 2021」女子栄養大学出版社 「調理・献立作成の基礎」化学同人						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：献立作成に利用できるレシピ等資料の収集。実習前日、実習時間外での検品業務が必要となる場合がある。						
事後学習（週 1.5 時間）：グループ単位で給食提供後の書類作成を行う。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
提出された課題を添削して返却する。						
成績評価の方法・基準						
提出物 100%						
評価	成績評価別の到達度					
S	学習の到達目標について、極めて高いレベルで達成している。					
A	学習の到達目標について、十分に達成している。					
B	学習の到達目標について、ある程度達成している。					
C	学習の到達目標について、最低限の範囲で達成している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	給食管理実習3 [Food Service Management Practical 3]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
校外実習・ アクティブ・ラーニング	菊地 亨		国	N-S5054		
この授業に関係する資格						
栄養士免許						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
<p>特定給食施設において所属の栄養士から指導を受けながら実習を行うことで、社会に対する責任感・行動力の重要性を理解する。実習終了後は学内報告会において発表を行い、実習内容および栄養士という職業に対する説明能力を身につける。</p>						
学習の到達目標						
<p>1. 社会に対する責任感・行動力の重要性を理解し、学外実習を円滑に遂行できる。 2. 栄養士という職業について理解を深め、具体的に説明できるようになる。</p>						
回	授業内容		キーワード			AL
1～2 3 4 5	校外実習報告会への参加（1年次） 現場で働く栄養士による特別講義（施設の概要、栄養士業務、心構え等） 校外実習事前準備（書類作成） 校外実習事前準備・心構え（ノート作成等）					
6～22	校外実習 ・給食の概要を知る ・業務の内容を知る ・現場作業・施設設備及び衛生管理の実際を知る ・栄養士の業務の概要を知る ・給食の運営・喫食者の意見を知る ・実習課題の設定、実行 ・実習日誌の記録 ・感想及び反省 ・レポートの作成		校外実習報告会（1年次 参加） 校外実習セミナー 校外実習事前ガイダンス 校外実習報告会（発表）			○
23	校外実習報告会（各グループ毎に発表資料を作成する）					
教科書及び参考図書						
参考図書：校外実習ノート						
準備学習・事後学習						
<p>準備学習：各実習施設について事前に学習し、実習課題を決定しておく。校外実習前に実施するセミナーやガイダンス等で学んだ内容を再度確認する。学外実習という認識を持ち、十分な体調管理を心掛けておく。 事後学習：実習を振り返り、実習ノートをまとめる。実習報告会資料を作成する。</p>						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
提出された校外実習ノートを添削して返却する。						
成績評価の方法・基準						
平常点 90%（校外実習先担当者による取り組み姿勢の評価 50% 本学教員による取り組み姿勢の評価 40%） 校外実習報告 10%						
評価	成績評価別の到達度					
S	学習の到達目標について、極めて高いレベルで達成している。					
A	学習の到達目標について、十分に達成している。					
B	学習の到達目標について、ある程度達成している。					
C	学習の到達目標について、最低限の範囲で達成している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	調理学実習 1 [Food Preparation 1]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実習・ アクティブ・ラーニング	小坂 由美子			N-S4055		
この授業に関する資格						
栄養士免許、フードスペシャリスト						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
<p>日常の日本料理の献立を中心に前半は非加熱調理操作（切り方、和え方など）、加熱調理操作（ゆで方、煮方、焼き方など）を組み合わせるよう実習すると同時に作業効率を高めるための作業動線を理解し実践できるようになることを目的とする。</p>						
学習の到達目標						
<p>調理の基本操作、調理器具の使いこなし、最終的に料理として完成させる技術を習得及び調理作業を時間通りに熟し基本的な日本料理が作れるような応用力を身に付け、実施することができる。</p>						
回	授業内容	キーワード		AL		
1・2	調理学実習 1 総論 調理学実習の目的・調理と衛生	衛生管理（手洗い・身支度）味覚		○		
3・4	包丁法の理論 包丁の種類と用途、扱い方の理論（遠隔）	包丁の基本的な扱い方				
5・6	包丁法の実習・切り方 包丁の種類と用途、扱い方の実習	作業動線 切り方		○		
7・8	調理材料の前処理法 前処理法（灰汁抜き）（遠隔）	コロイド粒子 調味料の計量				
9・10	調理材料の前処理法 前処理法の実習	作業動線 計量の実践		○		
11・12	非加熱調理 和え方・寄せ方の種類と理論（遠隔）	調理器具 ゲル化剤 ゲル化濃度・温度				
13・14	非加熱調理 和え方・寄せ方の実習	作業動線 調理器具の選び方・扱い方		○		
15・16	加熱調理・湿式加熱 煮方・炊き方の理論（遠隔）	炊き方の種類 調味料の扱い方 出汁				
17・18	加熱調理・湿式加熱 煮方・炊き方の実習	作業動線 出汁のとり方の実践		○		
19・20	加熱調理・乾式加熱 揚げ方・炒め方の理論（遠隔）	揚げ物の温度				
21・22	加熱調理・乾式加熱 揚げ方・炒め方の実習	作業動線 揚げ方の基本・応用		○		
23	調理学実習 1 のまとめ	ポートフォリオ 課題（栄養価計算、調味パーセントの計算）				
教科書及び参考図書						
<p>教科書：応用自在な調理の基礎（日本料理篇）川端・永島他共著 家政教育社 新しい調理学 川端・永島他共著 学建書院 調理のためのベーシックデータ第5版 女子栄養大学出版部</p>						
準備学習・事後学習						
<p>準備学習：事前に配布する単元の授業内容とキーワードを確認する。 事後学習：授業後、レポートにまとめる作業を通じて内容を再度理解し今後の実習につなげる。</p>						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
<p>課題としてのレポートを添削後返却。その後ポートフォリオとして再提出。</p>						
成績評価の方法・基準						
<p>単元ごとにレポートの提出、科目ごとにポートフォリオを提出 評価：日常の実習態度 50% 単元のレポート 30% ポートフォリオ 20%</p>						
評価	成績評価別の到達度					
S	日本料理における基本調理の理論について、実習内容を理解し、ポートフォリオにきわめて優れた内容にまとめることができる。					
A	日本料理における基本調理の理論について、実習内容を理解し、ポートフォリオにすべての内容をまとめることができる。					
B	日本料理における基本調理の理論について、実習内容を理解し、ポートフォリオに大部分をまとめることができる。					
C	日本料理における基本調理の理論について、実習内容を理解し、ポートフォリオにほぼまとめることができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	調理学実習 2 [Food Preparation 2]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実習・ アクティブ・ラーニング	小板 由美子			N-S4056		
この授業に関する資格						
栄養士免許、フードスペシャリスト						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
前半、日本料理（供応食）について歴史の変遷を背景に理論を確認し、関連づけながら実習を行う。後半は世界三大様式別料理のうち、中国料理について正餐の献立構成を確認しながら実践することができる。						
学習の到達目標						
調理の基本操作、調理器具の使いこなし、最終的に料理として完成させる技術を習得し、基本的な日本料理が作れるような応用力を身に付け、実施できるようになることを目標にする。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1・2	日本料理	日本料理の種類 歴史の変遷			○	
3・4	供応食の理論 本膳料理の理論（遠隔）	包丁の基本的な扱い方				
5・6	供応食の実習 本膳料理の献立実習	作業動線			○	
7・8	中国料理総論 中国料理①（遠隔）	中国料理の歴史の変遷 東方系の料理の特徴				
9・10	中国料理総論 中国料理①	東方系の料理の特徴 中国調理器具の種類と用途・扱い方			○	
11・12	中国料理② 炒菜・煎菜の理論（遠隔）	南方系の料理の特徴				
13・14	中国料理② 炒菜・煎菜の実習	南方系の料理の実践 清湯			○	
15・16	中国料理③ 搾菜・蒸菜の理論（遠隔）	西方系の料理の特徴				
17・18	中国料理③ 搾菜・蒸菜の実習	西方系の料理の実践 特殊材料			○	
19・20	中国料理④ 前菜・煨菜の理論（遠隔）	北方系の料理の特徴				
21・22	中国料理④ 前菜・煨菜の実習	北方系の料理の特徴 特殊調味料			○	
23	調理学実習 2 のまとめ	ポートフォリオ 課題（栄養価計算、調味パーセントの計算）				
教科書及び参考図書						
教科書：応用自在な調理の基礎（日本料理篇・中国料理篇）川端・永島他共著 家政教育社 新しい調理学 川端・永島他共著 学建書院 調理のためのベーシックデータ第5版 女子栄養大学出版社						
準備学習・事後学習						
準備学習：事前に配布する単元の授業内容とキーワードを確認する。 事後学習：授業後、レポートにまとめる作業を通じて内容を再度理解し今後の実習につなげる。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
課題としてのレポートを添削後返却。その後ポートフォリオとして再提出。						
成績評価の方法・基準						
単元ごとにレポートの提出、科目ごとにポートフォリオを提出 評価：日常の実習態度（身支度、実習準備・片づけなど）50% 単元のレポート30% ポートフォリオ20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	中国調理の理論及び実習内容を理解し、ポートフォリオにきわめて優れた内容にまとめることができる。					
A	中国調理の理論及び実習内容を理解し、ポートフォリオにすべての内容をまとめることができる。					
B	中国調理の理論及び実習内容を理解し、ポートフォリオに大部分をまとめることができる。					
C	中国調理の理論及び実習内容を理解し、ポートフォリオにほぼまとめることができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	調理学実習 3 [Food Preparation 3]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実習・アクティブ・ラーニング	小板 由美子			N-S5057		
この授業に関する資格						
栄養士免許、フードスペシャリスト						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
西洋料理の献立構成（オードブル、ポタージュなど）に従って実習を行う。また、西洋料理の特性を生かして行事食（クリスマス料理）展開できるようにすることを目的とする。調理学実験として、食品の調理上での特性を把握し、説明できるようになることを目的とする。						
学習の到達目標						
前半は西洋料理の理論と関連づけながら、その特性を生かした応用実習ができる。後半は食品の調理上での変化や新しい食品開発を踏まえた上での調理科学的な事象の探求を行いながら知識を深めることができる。						
回	授業内容	キーワード	AL			
1・2	西洋料理① 西洋料理総論 フォンとソースの理論（遠隔）	西洋料理様式 フォンとソース				
3・4	西洋料理① 西洋料理総論 フォンとソースの実習	ソースの実習 炒め煮	○			
5・6	西洋料理② 前菜・スープ・魚介類の理論（遠隔）	特殊材料 魚介類の扱い方				
7・8	西洋料理② 前菜・スープ・魚介類の理論	魚介類のさばき方 実践	○			
9・10	西洋料理③ 獣鳥肉料理・野菜サラダの理論（遠隔）	野菜料理の調理特性 パティスリ				
11・12	西洋料理③ 獣鳥肉料理・野菜サラダの理論	行事食 応用	○			
13・14	調理学実験① マイクロ波加熱の理論（遠隔）	電磁波 発熱				
15・16	調理学実験① マイクロ波加熱の実践	テクスチャー 比較	○			
17・18	調理学実験② 官能評価①②（遠隔）	メカニズム 要因				
19・20	調理学実験② 官能評価①②	おいしさ 手法 検定	○			
21・22	調理学実験③ 動植物性食品の調理上の特性（遠隔）	加熱調理 色素 調味料				
23	調理学実験③ 動植物性食品の調理上の特性	食品の変化 pH	○			
教科書及び参考図書						
教科書：応用自在な調理の基礎（西洋料理篇）川端・永島他共著 家政教育社 身近な調理の科学実験 長野・永島他著 地人書館 新しい調理学 川端・永島他共著 学建書院 調理のためのベーシックデータ第5版 女子栄養大学出版部						
準備学習・事後学習						
準備学習：事前に配布する単元の授業内容とキーワードを確認する。 事後学習：授業後、レポートにまとめる作業を通じて内容を再度理解し調理技術の最終的な実習につなげる。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
課題としてのレポートを添削後返却。その後ポートフォリオとして再提出。						
成績評価の方法・基準						
単元ごとにレポートの提出、科目ごとにポートフォリオを提出 評価：日常の実習態度 50% 単元のレポート 30% ポートフォリオ 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	西洋調理の理論及び調理学実験の内容を理解してレポートを作成し、ポートフォリオにきわめて優れた内容にまとめることができる。					
A	西洋調理の理論及び調理学実験の内容を理解してレポートを作成し、ポートフォリオにすべての内容をまとめることができる。					
B	西洋調理の理論及び調理学実験の内容を理解してレポートを作成し、ポートフォリオに大部分をまとめることができる。					
C	西洋調理の理論及び調理学実験の内容を理解してレポートを作成し、ポートフォリオにほぼまとめることができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]				単位	N	S	M
専門教育科目	分野別栄養実践実習 [Practice of Nutritional Field]				1			
授業形態	担当教員名				ナンバリング			
実習・ アクティブ・ラーニング	健康栄養専攻 教員				N-S5058			
この授業に関係する資格								
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連								
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）				○	健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識				○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得				○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識				○	社会に貢献できる実践力		
授業の目的と概要								
<p>これまでに学習した栄養士業務に関して、主に実習面での学び直しにより、実際の業務に対応する力を身につける。 「給食施設コース」と「食品メーカー・研究機関コース」の2コース制。希望就職先に応じた2つのコースから一方を選択して実習を行う。</p>								
学習の到達目標								
栄養士としての専門性に対する意識を高め、業務に必要な知識・技術を身につける。								
	給食施設 コース				食品メーカー・研究機関 コース			
回	授業内容	キーワード	授業内容	キーワード	AL			
1	ガイダンス、PCスキル 1（長島）	アンケートの作成	ガイダンス、PCスキル 1（長島）	アンケートの作成	○			
2	PCスキル 2（長島）	献立表の作成	PCスキル 2（長島）	献立表の作成	○			
3	PCスキル 3（長島）	調査結果のグラフ作成	PCスキル 3（長島）	調査結果のグラフ作成	○			
4	大量調理 1（菊地）	食材の切り方	食品開発・研究 1（岡崎）	実験器具、選択、使用方法	○			
5	大量調理 2（菊地）	大量調理の特性	食品開発・研究 2（岡崎）	培地、滅菌	○			
6	大量調理 3（菊地）	調理機器の使い方	食品開発・研究 3（岡崎）	標準寒天培地作成・培養	○			
7	基礎調理 1（小坂）	調味料の計算	食品開発・研究 4（岡崎）	選択培地作成・培養 1	○			
8	基礎調理 2（小坂）	加熱調理操作	食品開発・研究 5（岡崎）	選択培地作成・培養 2	○			
9	基礎調理 3（小坂）	調理特性	食品開発・研究 6（岡崎）	使用済み器具の洗浄・滅菌	○			
10	臨床栄養 調理 1（木元）	嚥下食	食品開発・研究 7（茗荷）	ニーズ調査・分析	○			
11	臨床栄養 調理 2（木元）	形態別食事療法	食品開発・研究 8（茗荷）	商品企画	○			
12	臨床栄養 調理 3（木元）	展開食	食品開発・研究 9（茗荷）	試作 1 回目	○			
13	応用栄養 調理 1（小河原）	離乳食初期・調乳	食品開発・研究 10（茗荷）	試作 2 回目	○			
14	応用栄養 調理 2（小河原）	離乳食中期・後期	食品開発・研究 11（茗荷）	官能評価	○			
15	応用栄養 調理 3（小河原）	幼児食	食品開発・研究 12（茗荷）	製造	○			
教科書及び参考図書								
教科書：なし（適宜プリント配布） 参考図書：八訂 食品成分表 2021、日本人の食事摂取基準 2020 年版 他								
準備学習・事後学習								
準備学習：それぞれの専門科目について復習しておく。 事後学習：課題添削の内容を受け、復習を行う。								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法								
添削した課題を返却する。								
成績評価の方法・基準								
レポート 60% 受講態度 40%								
評価	成績評価別の到達度							
S	学習の到達目標について、極めて高いレベルで達成している。							
A	学習の到達目標について、十分に達成している。							
B	学習の到達目標について、ある程度達成している。							
C	学習の到達目標について、最低限の範囲で達成している。							

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	フードスペシャリスト論 [Theory of Food Specialist]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義	茗荷 尚史			N-S2059		
この授業に係る資格						
フードスペシャリスト						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
<p>食品(食べ物)に関する資格制度、フードスペシャリストとしての役割、人類と食物の歩み、世界の食と日本の食、現代日本の食生活、環境と食の問題、食品産業の種類と役割、様々な食に関する法律と食の品質の見方、および食情報のとらえ方や消費者の保護の制度などを理解する。</p> <p>現代の日本と世界を取り巻く食環境の中で、安全で豊かな食生活・食文化を推進する役割を担う立場や生産者（加工を含む）と消費者の間を取り持つ役割の魅力について学ぶ。</p>						
学習の到達目標						
食にまつわる文化、歴史や法規等に関する深い教養と専門職であるフードスペシャリストとしての責務と活躍の場を説明できる。						
回	授業内容	キーワード				AL
1	フードスペシャリストとは①	食とは何か、専門職の成立、食の専門職の現状				
2	フードスペシャリストとは②	フードスペシャリストの概念・業務とその専門性、養成と資格、活躍の分野、食育活動				
3	人類と食物	人類の歩みと食物の関係、食品の加工・保存技術の歴史				
4	世界の食	食作法の文化、手食、箸食、ナイフ・フォーク・スプーン食、食の禁忌、世界の食事情				
5	日本の食	日本食物の歴史、食の地域差、郷土食				
6	現代日本の食生活①	戦後の食生活の変化、食生活の現状と消費生活				
7	現代日本の食生活②	食生活の変化と食産業、食料の供給と自給率、環境と食、フードマイレージなど				
8	食品産業の役割①	フードシステムと食品産業、食品製造業の目的と特徴・規模と動向				
9	食品産業の役割②	食品卸売業、食品小売業の種類と役割、外食産業の特徴・動向				
10	食品品質規格と表示①	食品の品質規格と表示にかかわる法律、JAS法による規格と表示、食品衛生法による表示				
11	食品品質規格と表示②	健康増進法による表示、景品表示法、計量法、コーデックス規格など				
12	食品品質規格と表示③	食品の品質規格の現状と問題点、消費者庁の業務など				
13	食情報と消費者保護①	食情報の発信と受容（インターネット情報など）、食情報の濫用				
14	食情報と消費者保護②	食品の静電管理（トレーサビリティ等）、食品の安全、消費者保護の制度（国民生活センター等）				
15	まとめ	フードスペシャリスト論のまとめ				
教科書及び参考図書						
教科書：フードスペシャリスト論（四訂・第6版）日本フードスペシャリスト協会編 建帛社						
準備学習・事後学習						
準備学習（週1.5時間）：事前に提示するテキストの内容を熟読し、質問項目を考えてくる。						
事後学習（週1.5時間）：授業後に内容をきちんとノートに整理する。特に食のキーワード、年号毎の出来事や法律の内容を理解する。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、小テストを回収後、解答の解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 70% 平常点（小テスト、発言内容、態度を含む） 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	フードスペシャリスト論の内容をきわめて高いレベルで理解している。					
A	フードスペシャリスト論の内容を理解している。					
B	フードスペシャリスト論の内容をほぼ理解している。					
C	フードスペシャリスト論の内容を最低限理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	食料経済 [Food Economics]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義	小川 真如			N-S3060		
この授業に係る資格						
フードスペシャリスト						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
食料について経済学の観点から理解し、説明できるようになることを目的とする。 現在の日本の食料消費・食品流通について、幅広い視野から認識し、豊かな食生活や、環境問題への配慮の実現について考察することができる。						
学習の到達目標						
食市場、食品流通、食生活に関連する基本的な知識を修得し、現在の食料消費・食品流通の事情を正しく解釈することができる。						
回	授業内容	キーワード	AL			
1	高度経済成長期以降の食市場の変化について、社会背景を踏まえて解説する	食と経済、食市場、フードシステム				
2	少子高齢化が食品消費および食生活に与える影響について解説する	少子化、高齢化、品目別食料消費				
3	食料消費の変化と加工食品の普及について解説する	PFC 比率、加工食品、調理済み食品				
4	第 1 回から第 3 回までを振り返り、内容を深めて解説する	食料消費の変化				
5	外食産業と中食産業について解説する	食の外部化、外食、中食				
6	卸売流通と小売流通の概要について解説する	卸売流通、小売流通、市場外流通				
7	第 4 回から第 6 回までを振り返り、内容を深めて解説する	食料関連産業の発展				
8	温度帯別食品流通について解説する	常温流通、恒温流通、冷蔵流通、冷凍流通				
9	フードマーケティングについて解説する	フードビジネス、フードマーケティング、デジタル・マーケティング				
10	第 7 回から第 8 回までを振り返り、内容を深めて解説する	温度帯別食品流通、技術革新、マーケティング				
11	食品の価格と食料消費の課題について解説する	需要の価格弾力性、食料環境政策				
12	食品ロスについて解説する	食品ロス、食品廃棄、食品リサイクル				
13	食料消費と環境問題の関係性を解説する	プラスチックごみ、パーチャルウォーター				
14	第 1 回から第 13 回までの総括とレポート作成に取り組む	食の外部化、市場外流通、マーケティング				
15	食に関連した安全確保等の問題について解説する	WTO、TPP、食料安全保障				
教科書及び参考図書						
教科書：日本フードスペシャリスト協会編 改訂版『四訂 食品の消費と流通』建帛社						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： 食品消費や食品流通に関する話題や情報を、新聞やネットニュース、テレビなどを通じて意識して収集する。 事後学習（週 1.5 時間）： 各回で行うディスカッションや確認問題の内容について、わからなかった内容を調べておく。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、各回講義にて確認問題を実施して解答を解説するほか、ディスカッションにて補足・解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
レポート課題 70% 受講態度 30% として、総合的に評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	食市場、食品流通、食生活に関連する基本的な知識を十分に理解している。					
A	食市場、食品流通、食生活に関連する基本的な知識をよく理解している。					
B	食市場、食品流通、食生活に関連する基本的な知識を理解している。					
C	食市場、食品流通、食生活に関連する基本的な知識をある程度は理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	フードコーディネート論 [Theory of Food Coordinate]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング	小河原 佳子			N-S3061		
この授業に関する資格						
フードスペシャリスト						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
食に関するさまざまな場において活躍できるように、フードコーディネートの基本理念、現代の食事文化と課題、メニュープランニング、テーブルウェアと食卓の演出、フードサービスマネジメントについて理解し、フードスペシャリストとしてのフードサービスマネジメントまたは食企画を立案ができることを目的とする。						
学習の到達目標						
フードコーディネートの理念を理解し、食文化、食のコーディネート、サービスとマナー、メニュープランニングを理解し、食企画やフードサービスマネジメントについて説明することができる。						
回	授業内容		キーワード			AL
1	フードコーディネートの基本理念		おいしさの本質・ホスピタリティ・アメニティ			
2	食事の文化		日本の食生活・世界の国々の食事			
3	食卓のコーディネート ①日本料理・中国料理		テーブルウェア・日本・中国料理の食卓のコーディネート			
4	食卓のコーディネート ②西洋料理		テーブルウェア・西洋料理の食卓のコーディネート			
5	食卓のサービスとマナー①本料理・中国料理		サービス・マナー・本・中国料理			
6	食卓のサービスとマナー②西洋料理		サービス・マナー・西洋料理・パーティ			
7	メニュープランニング		献立・顧客のニーズ・料理様式			
8	食空間のコーディネート		食空間・インテリア・コーディネート			
9	フードサービスマネジメント		フードサービスビジネス・フードサービスの起業			
10	食企画の実践コーディネート		食企画・コーディネーター・実践例			
11	フードコーディネートのまとめ		資格認定試験対策・まとめ・振り返り			
12	フードコーディネートの食企画①情報収集		食企画の実践例・郷土食・現状分析			○
13	フードコーディネートの食企画②計画立案		企画書作成			○
14	フードコーディネートの食企画③資料作成		プレゼンテーション資料			○
15	フードコーディネートの食企画④プレゼンテーション・評価		プレゼンテーション実施・評価			○
教科書及び参考図書						
教科書：三訂 フードコーディネート論（社）フードスペシャリスト協会 編 建帛社 その他：配布プリント						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：指定した教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。関連資料を調べておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：キーワードなどをまとめておくこと。資格試験過去問題集の該当箇所を解いておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
授業の始めに前回の授業内容の確認プリントを解説する。関連情報や雑誌・展示会などを提示する。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 70%、食企画作成とプレゼンテーションで 30%として、総合的に評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	フードコーディネートの理念を十分に理解し、フードコーディネートの企画・実践の基礎知識を大変よく理解している。					
A	フードコーディネートの理念を理解し、フードコーディネートの企画・実践の基礎知識をよく理解している。					
B	フードコーディネートの理念を理解し、フードコーディネートの企画・実践の基礎知識を理解している。					
C	フードコーディネートの理念を理解し、フードコーディネートの企画・実践の基礎知識を概ね理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	栄養基礎演習 [Basic Seminar for Nutritionists]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
演習・アクティブ・ラーニング	茗荷 尚史			N-S4063		
この授業に関する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
<p>栄養士課程における専門教育は、小・中学校および高等学校における教育内容を基礎に展開される。すなわち確たる基礎が築かれていなければ、より高度な内容を理解することは困難であり、本授業科目は基礎力を徹底的に補填することを目的とする。</p> <p>1、2 回目はガイダンス、3 回目以降は基本的に練習問題を解くこと等の作業を行う。</p> <p>各分野の講義終了後にはまとめおよび習熟度確認のための小テストにより知識の定着を図っていく。</p> <p>基礎学力に不安を抱える学生は、自分のために開講される授業科目であると認識して、積極的に参加するよう心がけて欲しい。</p>						
学習の到達目標						
栄養士課程における専門科目への導入教育としての基礎知識を身につける。						
回	授業内容	キーワード				AL
1	ガイダンス その1	講義を受ける心構え、ノート作成・定期試験対策勉強の実習				○
2	ガイダンス その2	栄養士・管理栄養士の仕事(教科書 p.2~12)				
3	専門教育に必要な基礎 数学 その1	四則演算(計算順序、括弧を含む式)、概算、小数(四則演算後の位取り)、分数の計算				○
4	専門教育に必要な基礎 数学 その2	数値処理(切り上げ、切り捨て、四捨五入、有効数字、平均)				○
5	専門教育に必要な基礎 数学 その3	容積・重量の単位(k, d, m, μ, n)、比重、溶質と溶媒、指数、計算機の使い方(教科書 p.95)				○
6	専門教育に必要な基礎 数学 その4	割合・百分率の計算、ドリル				○
7	小括1 (含小テスト)	数学分野のまとめ				
8	専門教育に必要な基礎 生物 その1	細胞の構造、オルガネラの種類と機能				○
9	専門教育に必要な基礎 生物 その2	消化器系および泌尿器系臓器とその機能(教科書 p.46~51)				○
10	専門教育に必要な基礎 生物 その3	代表的な消化酵素とホルモン(教科書 p.52~56)				○
11	小括2 (含小テスト)	生物分野のまとめ				
12	専門教育に必要な基礎 化学 その1	元素記号と周期律表、原子の構造(陽子、電子、中性子、オービタル)(参考図書 p.5~15)				○
13	専門教育に必要な基礎 化学 その2	化学結合(参考図書 p.16~25)、水素イオン濃度(pH)、簡単な官能基				○
14	専門教育に必要な基礎 化学 その3	分子量とモルの概念、濃度(重量%、モル濃度、規定度)(参考図書 p.37~42)				○
15	小括3 (含小テスト)	化学分野のまとめ				
教科書及び参考図書						
<p>教科書：めざせ！栄養士・管理栄養士 まずはここからナビゲーション 小野 章史 編著 第一出版</p> <p>参考図書：管理栄養士をめざす人の基礎トレーニングドリル 小野廣紀ら著 化学同人</p> <p>基礎からのやさしい化学 -ヒトの健康と栄養を学ぶために- 田島 眞 編著 建帛社</p> <p>*その他单元ごとに教材となるプリントを配布する</p>						
準備学習・事後学習						
<p>準備学習（週 1.5 時間）：事前に教科書の指定された箇所読んでおく。</p> <p>事後学習（週 1.5 時間）：授業時間外学習については、小括 1、2、3 までに各回に学んだ内容を、復習を中心としてよく勉強しておくこと。小括毎に小テストを実施する。</p>						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、小テスト解説、ドリル採点（完全解答まで）を行う。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 60% 平常点 40%						
評価	成績評価別の到達度					
S	栄養士課程における専門科目への導入教育としての基礎知識を、よく理解している。					
A	栄養士課程における専門科目への導入教育としての基礎知識を、理解している。					
B	栄養士課程における専門科目への導入教育としての基礎知識を、ある程度理解している。					
C	栄養士課程における専門科目への導入教育としての基礎知識を、最低限理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	製菓演習 [Pastry Preparation]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
演習 (集中)・ アクティブ・ラーニング	小板 由美子			N-S4062		
この授業に関係する資格						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
献立作成・実習で扱うデザートや補食に活用できる製菓の基礎について学び、実践としてのとして、製菓 (アントルメ) の工夫ができるようになることを目的とする。						
学習の到達目標						
デザートに役立つ基礎としての西洋における製菓 (アントルメ) の基礎的な技術を身に付けることができる。						
回	授業内容	キーワード		AL		
1	西洋の製菓の総論 (種類) 温菓、冷菓、凍菓の分類	基礎的操作 調理特性		○		
2	パティスリー (1) 焼き菓子 (基礎)	スポンジケーキ		○		
3	パティスリー (2) 焼き菓子 (基礎)	クッキー		○		
4	パティスリー (3) 焼き菓子 (応用)	ティグレ		○		
5	パティスリー (4) 発酵生地による菓子	調理特性 カルツオーネ		○		
6	チョコレート菓子	チョコレート 温度		○		
7	ゼリー類	調理特性 ゲル化剤		○		
8	盛り付け法、まとめ	フルーツ カット		○		
教科書及び参考図書						
プリント・資料等を適宜配布。 参考図書：新版 お菓子「こつ」の科学 お菓子作りの「なぜ？」に答える 河田昌子 著 柴田書店						
準備学習・事後学習						
準備学習：事前に配布する単元の授業内容の確認 事後学習：授業後、レポートにまとめる作業を通じて内容を理解・確認						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
課題としてのレポートを添削後返却						
成績評価の方法・基準						
実習後レポートの提出 評価：日常の実習態度 (身支度、実習準備・片づけなど) 50% 単元のレポート 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	西洋における製菓 (アントルメ及びパティスリー) の基礎知識と基礎技術を十分に理解している。					
A	西洋における製菓 (アントルメ及びパティスリー) の基礎知識と基礎技術をよく理解している。					
B	西洋における製菓 (アントルメ及びパティスリー) の基礎知識と基礎技術を理解している。					
C	西洋における製菓 (アントルメ及びパティスリー) の基礎知識と基礎技術を勉強している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	運動生理学実習 [Practice of Exercise Physiology]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実習・ アクティブ・ラーニング	玉木 啓一・辻 将也		実	NSM-S4064		
この授業に関係する資格						
教員免許（中学校2種・保健体育）、健康運動実践指導者、公認スポーツ栄養士、 スポーツ指導者等共通科目、アスレティックトレーナー、介護予防運動スペシャリスト						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
学生相互に測定者・被測定者となり実習を進め、健康と運動について生理学との関連で学んでいく。 本実習は、遅刻、服装などの準備をしていない学生は授業を受けることができない。						
学習の到達目標						
安静および運動中の生理学的変量を実際に測定し、運動生理学の知識を実際に確認すること、その測定方法を体得・理解する。 測定結果から、健康づくりや競技力向上への課題を自分で発見し解決する能力をつける。						
回	授業内容		キーワード			AL
1	運動生理学分野の測定意義、スポーツへの応用を学ぶ		測定方法、分析方法			
2	ヒトにおける生体現象の特徴を知り、それらの測定機器等を知る		生体現象、単位			
3	新体カテストの測定方法を実習し、そのデータの解釈方法を学ぶ		体力			○
4	ヒトのエネルギー消費量を、酸素摂取量から測定する		酸素摂取量、エネルギー消費量			○
5	体力テストの活用を学ぶ。安静代謝から健康について考える		測定評価			
6	健康と血圧の関係を学習し、安静時の血圧の測定を実習する		血圧			○
7	運動と心臓の働きを学習し、心臓の動きを捉える心電図を測定する		心電図			○
8	循環器と健康について学ぶ		循環器			
9	運動が筋の働きによって起こることを筋電図の測定によって学習する		筋電図			○
10	力とパワーの関係を知り、人体のパワー出力について学ぶ		筋パワー、垂直とび、反動動作			○
11	筋の働き、力、パワーについて考え、バイオメカニクスの理解を深める		筋収縮、動作解析			
12	反射運動、随意運動について学び、スポーツと反応時間について学ぶ		反応時間、反射運動、随意運動			○
13	運動強度の指標としての心拍数を理解し、測定・実習する		心拍数、運動強度、定常状態			○
14	運動生理学と、健康、スポーツについて学習する		運動処方、トレーニング			
15	スポーツのための情報収集、活用について考える		情報処理			
教科書及び参考図書						
参考図書：「身体運動の生理学」猪飼道夫編 杏林書院、「コーチと選手のためのスポーツ生理学」フォックス 大修館書店 「栄養・スポーツ系の運動生理学」樋口満 監修 南江堂						
準備学習・事後学習						
準備学習：次回実習の項目について下調べを行う。 事後学習：測定結果ついて、分析・考察行う。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
授業中の対面でのフィードバックを中心として、Google Classroom を通じたフィードバック、E-mail を利用した個別対応を行う。						
成績評価の方法・基準						
レポート 95% 平常点 5%						
評価	成績評価別の到達度					
S	理解力、考察力ともに抜群であり、運動生理学の知識を活かして問題解決を行う能力を持っている。					
A	運動生理学の知識・各種測定方法を、よく理解し、これを応用する力がある。					
B	運動生理学の知識・各種測定方法を、よく理解している。					
C	運動生理学の知識や各種測定方法を、理解・修得している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	スポーツ医学実習 [Practice of Sport Medicine]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・実習	高橋 琴美・小泉 和史・板橋 明・田本 育代		実	NSM-S5065		
この授業に関する資格						
健康運動実践指導者、健康管理士一般指導員、公認スポーツ栄養士、スポーツ指導者共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、スポーツインストラクター、子ども身体運動発達指導士、中高老年期運動指導士、介護予防運動スペシャリスト						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
「命」について真剣に考え、スポーツ現場における正しい救急法の知識と技術を身につけることを目的とする。授業では①一次救命処置、②外傷等に対する予防及び応急処置、③スポーツ選手に対するコンディショニングとアンチ・ドーピング活動について講義・実習を行う。						
学習の到達目標						
事故を防止し、緊急時に必要な手当ができるように、正しい救急法の知識と技術を身につける。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1・2	救急法を学ぶ目的、一次救命処置について	救急法、命、一次救命処置			○	
3・4	きずの種類と止血法	きず、直接圧迫止血、間接圧迫止血			○	
5・6	三角巾 1 枚を用いた包帯法	包帯法、三角巾、手当			○	
7・8	三角巾 2 枚を用いた包帯法	包帯法、三角巾、手当			○	
9・10	三角巾を用いた固定法	鎖骨骨折固定、足関節捻挫固定			○	
11・12	副子を用いた固定法	副子の目的、種類、方法			○	
13・14	一人または複数名で搬送する方法	搬送、担架			○	
15・16	心肺蘇生法の手順	心肺蘇生法、人工呼吸、心臓マッサージ、AED			○	
17・18	心肺蘇生法に伴う副損傷・同時処置について	心肺蘇生法、手当			○	
19・20	乳児・幼児に対する心肺蘇生法	心肺蘇生法、乳児、幼児			○	
21・22	傷害発生時の応急処置、テーピング	RICE 処置、テーピングを用いた応急処置			○	
23・24	スポーツ選手のコンディショニング、コンディションに影響する因子	関節弛緩性、姿勢、バランス			○	
25・26	アイシング・ストレッチング	アイシングの効果、方法、ストレッチポール			○	
27・28	アンチ・ドーピング活動について	アンチ・ドーピング、FAIR PRIDE				
29・30	全体の総括	まとめ				
教科書及び参考図書						
参考図書：赤十字救急法基礎講習教本、赤十字救急法講習教本（日本赤十字社） Reference Book（日本スポーツ協会） また、プリント・資料を適宜配付する						
準備学習・事後学習						
準備学習：次回内容を参考図書等で予習しておくこと。 事後学習：実習した内容について、各自で繰り返し練習し、次回授業までに適切に行えるよう準備しておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして毎時間実技小テストを実施し、学んだ技術が習得できているか確認し、コメントする。						
成績評価の方法・基準						
実技試験 70% レポート・課題 20% 授業への取り組み 10%						
評価	成績評価別の到達度					
S	正しい救急法の知識と技術を身につけ、その知識を活用して、傷病者に対して適切な手当ができる。					
A	正しい救急法の知識と技術を身につけ、傷病者に対して適切な手当ができる。					
B	正しい救急法の知識と技術を身につけ、基本的な手当ができる。					
C	正しい救急法の基礎知識と技術を身につけ、基本的な手当ができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	水泳 [Basic Swimming]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実技・ アクティブ・ラーニング	太田 あや子 ・ 高橋 季絵			NM-S4066		
この授業に関する資格						
健康運動実践指導者						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）			健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得			実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識			社会に貢献できる実践力		
授業の目的と概要						
保健体育の授業や水泳教室の運営が可能となるように各泳法の段階的指導を通じて泳力を習得して指導法と安全管理を理解し、正しい泳法で泳ぐことができるとともに水中運動の効果を理解する。						
学習の到達目標						
クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの四泳法の技能を習得し、100m個人メドレーが完泳できるとともに、水中運動の基礎技能や子どもの安全な水泳指導ができる。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	ガイダンス	個人カード作成、能力判定表の作成			○	
2	プール清掃	プール清掃をとおして、プール管理の方法を実践的に学ぶ			○	
3	4泳法：試し泳ぎとクロール(1)	試し泳ぎとチーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳			○	
4	4泳法：クロール(2)	チーム練習：ターン練習と50m泳、100m泳、レポート作成			○	
5	4泳法：背泳ぎ(1)	チーム練習：キック、プル、呼吸法の練習、25m泳			○	
6	4泳法：背泳ぎ(2)	チーム練習：ターン練習と50m泳、レポート作成			○	
7	4泳法：平泳ぎ(1)	チーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳（伸びをとった9動作で）			○	
8	4泳法：平泳ぎ(2)	チーム練習：ターン練習と50m泳、レポート作成			○	
9	4泳法：バタフライ(1)	チーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳			○	
10	4泳法：バタフライ(2)	チーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳、レポート作成			○	
11	水中運動	歩く、走る、レジスタンストレーニングの基礎プログラム			○	
12	安全水泳(1)安全水泳の理論	安全な水泳指導法講義、水中運動プログラム			○	
13	安全水泳(2)子どもの安全水泳指導	安全な子どもの水泳指導法実技練習			○	
14	安全水泳(3)	子どもプール教室実習			○	
15	個別練習	10分間泳、100m個人メドレー			○	
教科書及び参考図書						
教科書：水泳指導の手引き（三訂版） 文部科学省 アイフイス						
準備学習・事後学習						
準備学習：教科書の種目別練習法の泳法の画像から動作のイメージをつかみ、泳法習得のポイントを理解して備えること。 事後学習：毎時の練習記録を授業ノートにまとめておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
学習ノートの内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う。						
成績評価の方法・基準						
実技試験 70% レポート・平常点 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	200m個人メドレーが正しい泳法で泳げ、かつ10分間に400mを泳ぐ泳力があり、4泳法の指導ができる。					
A	100m個人メドレーが正しい泳法で速く泳げ、かつ10分間に375mを泳ぐ泳力があり、4泳法の指導ができる。					
B	100m個人メドレーが正しい泳法で泳げ、得意な泳法の指導ができる。					
C	4泳法が泳げ、得意な泳法の指導ができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]			単位	N	S	M
専門教育科目	健康スポーツ実習 1 [Healthy Sports Training I]			1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング			
実技・ アクティブ・ラーニング	杉山 仁志・福島 邦男・田本育代			NM-S4067			
この授業に関する資格							
健康運動実践指導者、中高老年期運動指導士、介護予防運動スペシャリスト							
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連							
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）			○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識			○	健康生活の知識と技術の修得		
○	健康管理の指導技術の修得				実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識				社会に貢献できる実践力		
授業の目的と概要							
<p>実習を通じて、自分の体力に合わせたスポーツの実施方法を知る。</p> <p>【球技選択者】は、サッカーを行う。基礎理論と基礎技術を学習し、ゲームを楽しめるまでになる。</p> <p>【レクリエーション選択者】は、ニュースポーツを中心に行う。基礎理論と基礎技術を学習し、ゲームを楽しめるまでになる。</p> <p>【トレーニング選択者】は、トレーニング器具の使用に慣れ、セットの組み方、指導法を身につける。</p> <p>感染症予防対策から、参加人数の制限のため、レク・球技選択者とトレーニング選択者はそれぞれ、2～7回目と8～13回目でグループを入れ替えて実施する。</p>							
学習の到達目標							
<p>【球技・レクリエーション選択者】球技（サッカー）、レクリエーションの基礎的理論と技術を活かし、安全にゲームを実践することができる。</p> <p>【トレーニング選択者】トレーニング器具の使い方と安全なトレーニング方法に習熟し、安全に配慮しながらトレーニングができる。</p>							
回	トレーニング選択者（資格取得希望者）			球技・レクリエーション選択者			
	授業内容	キーワード	AL	授業内容	キーワード	AL	
1	オリエンテーション	種目選択		オリエンテーション	種目選択		
2	ウォームアップとクーリングダウン	マシントレーニング向け	○	コミュニケーションゲーム 1	全体指導型のワーク	○	
3	マシントレーニング 1	マシンの使用方法	○	コミュニケーションゲーム 2	グループワーク	○	
4	マシントレーニング 2	部位別トレーニング方法	○	レク インディアカ 1	ルールと基本の打ち方	○	
5	フリーウエイト 1	基本と安全管理	○	レク インディアカ 2	グループ対抗のリーグ戦	○	
6	フリーウエイト 2	部位別トレーニング方法	○	レク フライングディスク 1	ディスクの投げ方	○	
7	サーキットトレーニング 1	マシンを使用した方法	○	レク フライングディスク 2	ドッジビー	○	
8	ウォームアップとクーリングダウン	自重トレーニング向け	○	サッカー入門	ボール慣れ、ドリブル	○	
9	ストレッチングの基本と原理	ストレッチング	○	サッカー基礎技術	ボールコントロール	○	
10	部位別ストレッチング	ストレッチング	○	ゴールを目指す	キック・シュート	○	
11	自重トレーニングの基本	自重トレーニング	○	サッカー ミニゲーム 1	ゲーム入門	○	
12	部位別自重トレーニング	自重トレーニング 部位別	○	サッカー ミニゲーム 2	得点を目指す	○	
13	サーキットトレーニング 2	自重を利用した方法	○	サッカー ミニゲーム 3	リーグ戦方式のゲーム	○	
14	ジャイアントセット法を行う		○	ミニゲーム	サッカー、ペタンク	○	
15	授業のまとめ						
教科書及び参考図書							
<p>参考図書：ウイダー・トレーニング・バイブル（森永製菓健康事業部 出版）</p> <p>その他：必要に応じて資料を配布する</p>							
準備学習・事後学習							
<p>準備学習：授業のキーワードとテーマに関する情報（テキスト、インターネット等）を入手し、実習に活かせるようにしておく。</p> <p>事後学習：授業中の内容を復習し、わからない用語は調べて覚えること。</p>							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法							
オフィスアワーで適宜対応する。							
成績評価の方法・基準							
授業への積極的な取り組み 70% 課題・レポート 30%							
評価	成績評価別の到達度						
S	健康に対するスポーツの大切さを十分に理解し、積極的かつ安全に実践することができる。						
A	健康に対するスポーツの大切さを十分に理解し、安全に実践することができる。						
B	健康に対するスポーツの大切さを理解し、安全に実践することができる。						
C	健康に対するスポーツの大切さを理解し、説明できる。						

授業科目区分	科目名 [英文名]			単位	N	S	M
専門教育科目	健康スポーツ実習 2 [Sport for health 2]			1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング			
実技・ アクティブ・ラーニング	杉山 仁志・辻 将也			NM-S5068			
この授業に関する資格							
健康運動実践指導者							
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連							
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力				
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得				
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力				
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力				
授業の目的と概要							
<p>自分の関心や能力にあった種目を選択し、基本技術を習得し、ルール、マナーについて学習し、説明できるようになることを目的とする。</p> <p>ウォーキング&ジョギングは、ウォーキングやジョギングによる体力測定と評価、その結果を活かした運動プログラム作成を学習し、健康づくりの実践的指導能力を身に付ける。また、ウォーキングイベントに参加して、健康ウォーキングを実践する。</p>							
学習の到達目標							
<p>健康づくりのために必要な技能・知識を習得するとともに、自らが生涯スポーツの一つとして選択した種目を継続的に楽しむことができるようにする。健康づくりのための正しいウォーキングやジョギングの方法を学び、実習を通して各自の能力に応じた運動プログラムを作成することができるようにする。</p>							
ウォーキング&ジョギング (資格取得希望者)				バドミントン			
回	授業内容	キーワード	AL	授業内容	キーワード	AL	
1	授業計画の作成	ガイダンス		ガイダンス	ガイダンス		
2	ウォーキングの基礎知識を学ぶ	健康づくり ウォーキング	○	ラケットとシャトルに慣れる	バドミントン 基本	○	
3	3段階のスピードで歩行テスト	ウォーキング 歩行テスト	○	ストロークの基本	バドミントン ストローク	○	
4	健康づくりプログラムの作成と実践	健康づくり ウォーキング	○	サービスの基本	バドミントン サービス	○	
5	健康づくりプログラムの作成と実践	健康づくり ウォーキング	○	スマッシュの基本	バドミントン スマッシュ	○	
6	健康づくりプログラムの作成と実践	健康づくり ウォーキング	○	シングルスゲーム	バドミントン ゲーム	○	
7	健康づくりプログラムの作成と実践	健康づくり ウォーキング	○	シングルス① (リーグ戦)	バドミントン ゲーム	○	
8	ルディックウォーキングイベント	ルディックウォーキング	○	シングルス② (リーグ戦)	バドミントン ゲーム	○	
9	ルディックウォーキングイベント	ルディックウォーキング	○	ダブルス基本練習	バドミントン ゲーム	○	
10	ルディックウォーキングイベント	ルディックウォーキング	○	ダブルス応用練習	バドミントン ゲーム	○	
11	ジョギングの基礎知識を学び、スロージョギングを実践	ジョギング スロージョギング	○	ダブルス① (リーグ戦)	バドミントン ゲーム	○	
12	ジョギングの基礎知識を学び、スロージョギングを実践	ジョギング スロージョギング	○	技能・体力テスト	体力テスト	○	
13	スクエアステップエクササイズ	スクエアステップ	○	ダブルス② (リーグ戦)	バドミントン ゲーム	○	
14	スクエアステップエクササイズ	スクエアステップ	○	ダブルス③ (団体戦)	バドミントン ゲーム	○	
15	まとめ	まとめ	○	まとめ	まとめ	○	
教科書及び参考図書							
教科書：健康運動実践指導者養成テキスト							
準備学習・事後学習							
<p>準備学習：授業のキーワードに関する情報 (テキスト、インターネット等) を入手し、実習に活かせるようにしておくこと。</p> <p>事後学習：授業中の内容を復習し、わからない単語は調べて覚えること。</p>							
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法							
オフィスパワーで適宜対応する。							
成績評価の方法・基準							
技能 50% 受講態度・意欲 50%							
評価	成績評価別の到達度						
S	自ら運動プログラムを作成し実践できるようになる。						
A	運動プログラムを工夫し実践する。						
B	運動プログラムに対する課題を見つけることができる。						
C	運動プログラムを正しく覚える。						

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	スポーツ心理学2 [Sport Psychology 2]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義	水野 寛太			SM-S3022		
この授業に関する資格						
アスレティックトレーナー						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
運動制御や運動学習のメカニズム、スポーツ精神生理学的知見、スポーツによる心理的効果、メンタルヘルス、ハイパフォーマンス発揮のための心理的コンディショニング法などを学習する。						
学習の到達目標						
スポーツ心理学の専門知識を理解し、スポーツの実践および指導に活かせるようにする。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	授業概要の説明、スポーツ心理学2で学ぶ内容など	スポーツ心理学				
2	運動制御 (認知情報処理、スキーマ理論など)	運動制御				
3	運動制御のメカニズム (反応時間、予測、認知、タイミングなど)	運動制御 運動のメカニズム				
4	運動学習③ (注意の焦点付けなど)	運動学習				
5	運動学習のメカニズム (エラーと学習、結果の知識など)	運動学習 運動のメカニズム				
6	スポーツ精神生理学① (熟練者の生体信号、脳の可塑性など)	スポーツ 精神生理学				
7	スポーツ精神生理学② (バイオフィードバック法など)	スポーツ 精神生理学 バイオフィードバック				
8	スポーツによる心理的効果① (記憶など)	スポーツ 心理的効果				
9	スポーツによる心理的効果② (認知機能など)	スポーツ 心理的効果				
10	スポーツとメンタルヘルス (抑うつ、バーンアウト、イップスなど)	メンタルヘルス イップス				
11	スポーツ障害と心理サポート (リハビリ、障害予防など)	リハビリ 心理サポート				
12	身体活動と生活	スポーツ 生活				
13	ハイパフォーマンス発揮に向けた心理的コンディショニング①	ハイパフォーマンス 心理的コンディショニング				
14	ハイパフォーマンス発揮に向けた心理的コンディショニング②	ハイパフォーマンス 心理的コンディショニング				
15	授業のまとめ	まとめ				
教科書及び参考図書						
参考図書: スポーツメンタルトレーニング教本 三訂版 日本スポーツ心理学会編 大修館書店						
参考図書: スポーツ心理学事典 日本スポーツ心理学会編 大修館書店						
参考図書: スポーツ精神生理学 山崎勝男編 西村書店						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 1.5 時間) : 参考図書やインターネット、配布資料などから予習しておくこと。						
事後学習 (週 1.5 時間) : 授業の内容を復習しておくこと。						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
フィードバックとしてレポートにコメントを入れ、返却する。						
成績評価の方法・基準						
レポート課題 70% 受講態度 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	スポーツ心理学の専門知識について、大変よく理解している。					
A	スポーツ心理学の専門知識について、よく理解している。					
B	スポーツ心理学の専門知識について、理解している。					
C	スポーツ心理学の専門知識について、部分的に理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	野外活動論 [Outdoor Activity]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・ アクティブ・ラーニング	福島 邦男			NSM-S2028		
この授業に関する資格						
キャンプインストラクター						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
この授業では野外活動を安全に楽しむために必要な基礎的知識や指導法について学び、さらに組織キャンプを中心とした野外での危険予知や危険回避の具体的方法についての知識を身につけることで、豊かな人間性を備えたキャンプインストラクターを目指す。 なお本授業はキャンプインストラクター資格取得のための必修科目となっている。						
学習の到達目標						
野外活動の基礎的理論的理解し、キャンプインストラクターに求められる知識を身につける。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	野外活動とは 用語の定義	野外 屋内 屋外 インドア アウトドア				
2	自然とのかかわり 野外活動の目的と意義	環境保護 環境保全				
3	野外で親しまれる、さまざまな活動	ピクニック ハイキング				
4	野外活動のルールとマナー	環境への配慮 健康 体力 リスク				
5	地図の種類と読図の基本	縮尺 方位 磁北 磁北線			○	
6	地図の種類と読図の応用	マップ&コンパス コンパス 1・2・3			○	
7	ロープワークの理論と実際	結び方 もやし結び 自在結び			○	
8	キャンプについて	意義 目的 歴史 テント			○	
9	組織キャンプについて	ファミリーキャンプ オートキャンプ 組織キャンプ				
10	教育キャンプについて	乃木希典				
11	キャンプを中心とした、野外活動における指導者の役割	キャンプインストラクター キャンプカウンセラー				
12	野外活動中の安全管理 水辺活動	サバイバルスイム 着衣泳				
13	野外活動中の安全管理 登山活動	登山 登攀 体感気温 ビバーク			○	
14	野外活動中の安全管理 冬季の活動	スキー場の安全管理 逆エッジ転倒			○	
15	この講義で取り上げた内容のまとめ	野外活動 キャンプ 生きがい 安全				
教科書及び参考図書						
参考図書：野外活動 その考え方と実際 日本野外教育研究会編 杏林書院 キャンプ指導者入門 (社) 日本キャンプ協会 その他：必要に応じて資料を配付する						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 1.5 時間)：授業のキーワードとテーマに関する情報を新聞、雑誌、インターネット等から入手し、 毎回のミニレポート (提出課題) に生かせるように目を通しておく。 事後学習 (週 1.5 時間)：毎時間の資料は保管しておき、事後学習で活用できるようにしておく。						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、ミニレポートへの返信等で前回授業の内容や質問への解説を行う。オフィスアワーでも適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
毎回のミニレポート 70% 課題・提出物 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	野外活動の理論を高いレベルで理解し、キャンプ指導に求められる知識を身につけている。					
A	野外活動の理論を良く理解し、キャンプ指導に求められる知識を身につけている。					
B	野外活動の理論を理解している。					
C	野外活動の基礎的な知識を身に付けている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	生涯スポーツ論 [Theory of life-long sports]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・ アクティブ・ラーニング	福島 邦男			SM-S2069		
この授業に関する資格						
障がい者初級スポーツ指導者、スポーツインストラクター、子ども身体運動発達指導士、中高老年期運動指導士						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
エリクソンのライフサイクル論を参考に各ライフステージにおける発達課題達成のためにスポーツがどのような役割、機能を持っているかを理解する。さらに、人生のそれぞれのライフステージにおいてスポーツが自己実現や健康維持、身体的発達とかわっていることを学び、健康生活に役立つ知識を身につける。						
学習の到達目標						
生涯スポーツの基本的な意義を理解し、健康生活への応用力となる知識を身に付ける。						
回	授業内容		キーワード			AL
1	授業概要 用語の定義		生涯 ライフステージ			
2	エリクソンのライフサイクル論の概要を理解する		ライフサイクル論			
3	乳児期における発達課題と運動について		乳児期 希望 信頼 不信			○
4	幼児・児童の身体発達の特性について		歩行期 意志 自律性 恥			
5	幼児・児童の運動指導のポイントについて		幼児後期 目的 積極性 罪悪感			
6	運動が苦手な幼児・児童の指導について		学童期 屋外あそび 屋内運動あそび			○
7	青年期における発達課題とスポーツについて		青年期 忠誠 同一性 同一性拡散			
8	成人前期における発達課題とスポーツについて		成人前期 愛 親密生 孤独			
9	成人期における発達課題とスポーツについて		成人中期 世話 地域 社会集団			○
10	障害者のスポーツのとらえ方や意義について		ノーマライゼーション ユニバーサルデザイン			
11	障害者がスポーツを安全に行う方法や安全管理について		障がい区分 補装具 パラスポーツ			
12	高齢期における発達課題とスポーツについて		高齢期（成人後期） 英知 統合			
13	スポーツフォーオールについて		年齢 性別			○
14	行政による生涯スポーツの計画と実施		スポーツクラブ 民間スポーツクラブの事例を中心として			○
15	この講義で取り上げた内容のまとめ		生涯スポーツ 生きがい			
教科書及び参考図書						
参考図書：「生涯スポーツの理論と実際」大修館書店 その他：必要に応じて資料を配付する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：この授業のキーワードと毎回のテーマに関する情報を新聞、雑誌、インターネット等から入手し、毎回のミニレポートに生かせるように目を通しておく。 事後学習（週 1.5 時間）：毎時間の資料と返却されたミニレポートは保管しておき、事後学習に活用できるようにしておく。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、ミニレポートへの返信等で前回授業の内容や質問への解説を行う。オフィスアワーでも適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
毎回のミニレポート 70% 課題・提出物 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	生涯スポーツの理論を高いレベルで理解している。					
A	生涯スポーツの理論を良く理解している。					
B	生涯スポーツの理論を理解している。					
C	生涯スポーツの基礎的な知識を身に付けている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	スポーツ解剖学 1 [Functional Anatomy 1]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・ アクティブ・ラーニング	荒川 崇		実	SM-S2070		
この授業に関係する資格						
健康運動実践指導者、GFI、アスレティックトレーナー						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
健康・体力づくりの指導者として必要なスポーツ解剖学の基本（骨格、筋、関節構造）と各関節の機能について知識を身に付ける。						
学習の到達目標						
骨・関節・筋肉についてそれぞれの名称および機能を覚える。						
回	授業内容		キーワード	AL		
1	オリエンテーション：本講座の学習内容・成績評価等に関する説明および概論		学習内容の把握			
2	運動器の解剖と機能概論①：体表の区分・全身の骨格と筋の学習		体表区分、骨格・筋			
3	運動器の解剖と機能概論②：運動の表し方の学習		運動名称			
4	運動器の解剖と機能概論③：運動器の構造と機能の学習		運動器			
5	運動器の解剖と機能概論④：関節の構造と機能の学習		関節			
6	運動器の解剖と機能概論⑤：靭帯の構造と機能の学習		靭帯			
7	運動器の解剖と機能概論⑥：筋・腱の構造と機能の学習		筋・腱			
8	運動器の解剖と機能概論⑦：骨格筋の神経支配の学習		骨格筋、神経支配			
9	確認とまとめ：運動の表し方、運動器・関節・靭帯・筋・腱の構造と機能、骨格筋の神経支配についての復習		復習	○		
10	体幹の基礎解剖と運動①：脊柱、頸椎の運動の学習		脊柱の総論、頸椎			
11	体幹の基礎解剖と運動②：胸椎と胸郭、腰椎、仙椎、骨盤の運動の学習		胸椎、胸郭、腰椎、仙椎、骨盤			
12	上肢の基礎解剖と運動①：上肢帯、肩関節の運動の学習		上肢帯総論、肩関節			
13	上肢の基礎解剖と運動②：肘関節、手関節の運動の学習		肘関節、手関節、手部			
14	下肢の基礎解剖と運動①：股関節、膝関節の運動の学習		股関節、膝関節			
15	下肢の基礎解剖と運動②：膝関節、足関節・足部の関節の学習		膝関節、足関節、足部			
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト2 運動器の解剖と機能 その他：教員作成資料						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：毎回の講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：毎回の講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
前回の講義内容に関する小テストを実施し、解答の解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 70% 課題提出 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	骨・関節・筋肉についてそれぞれの名称および機能を十分に理解している。					
A	骨・関節・筋肉についてそれぞれの名称および機能を理解している。					
B	骨・関節・筋肉についてそれぞれの名称および機能を覚えている。					
C	骨・関節・筋肉についてそれぞれの名称を覚えている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目	スポーツ解剖学 2 [Functional Anatomy 2]	2			
授業形態	担当教員名	ナンバリング			
講義・ アクティブ・ラーニング	荒川 崇	国	S-S3071		
この授業に関係する資格					
アスレティックトレーナー					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
授業の目的と概要					
身体の全ての関節に関連する筋肉や靭帯について、その特性と機能を学ぶとともに、各関節の可動性とスポーツ外傷・障害との関連についての知識を学ぶ。					
学習の到達目標					
スポーツ解剖学 1 をベースに、関節や筋の機能についてさらに理解を深め、スポーツにおける障害や外傷についてその発生の原因などを考えられるようになる。					
回	授業内容	キーワード	AL		
1	オリエンテーション：本講座の学習内容・成績評価等に関する説明および概論	学習内容の把握			
2	機能概論①：体表の区分・全身の骨格と筋、運動の表し方の学習	体表区分、骨格・筋、運動名称	○		
3	機能概論②：運動器の構造と機能、関節の構造と機能の学習	運動器、関節	○		
4	機能概論③：靭帯の構造と機能の学習	靭帯	○		
5	機能概論④：筋・腱の構造と機能の学習	筋・腱	○		
6	体幹の基礎解剖と外傷・障害①：脊柱・頰椎の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害	脊柱、頰椎、スポーツ外傷・障害			
7	体幹の基礎解剖と外傷・障害②：胸椎と胸郭・腰椎の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害	胸椎、胸郭、腰椎、スポーツ外傷・障害			
8	体幹の基礎解剖と外傷・障害③：仙椎・骨盤の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害	仙椎、骨盤、スポーツ外傷・障害			
9	上肢の基礎解剖と外傷・障害①：上肢帯・肩関節の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害	上肢帯、肩関節、スポーツ外傷・障害			
10	上肢の基礎解剖と外傷・障害②：肘関節の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害	肘関節、スポーツ外傷・障害			
11	上肢の基礎解剖と外傷・障害③：手関節・手の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害	手関節、手、スポーツ外傷・障害			
12	下肢の基礎解剖と外傷・障害①：股関節の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害	股関節、スポーツ外傷・障害			
13	下肢の基礎解剖と外傷・障害②：膝関節の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害	膝関節、スポーツ外傷・障害			
14	下肢の基礎解剖と外傷・障害③：足関節・足部の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害	足関節、足部、スポーツ外傷・障害			
15	確認とまとめ：これまでの学習内容に関する確認とまとめ	復習			
教科書及び参考図書					
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト2 運動器の解剖と機能 その他：教員作成資料					
準備学習・事後学習					
準備学習（週 1.5 時間）：毎回の講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：毎回の講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
前回の講義内容に関する小テストを実施し、解答の解説を行う。					
成績評価の方法・基準					
筆記試験 70% 課題提出 30%					
評価	成績評価別の到達度				
S	関節や筋の機能について十分に理解し、スポーツにおける外傷や障害について、その発生の原因などを考えることができる。				
A	関節や筋の機能について良く理解し、スポーツにおける外傷や障害について、その発生の原因などを考えることができる。				
B	関節や筋の機能について理解し、スポーツにおける外傷や障害について、その発生の原因などを考えることができる。				
C	関節や筋の機能について理解し、スポーツにおける外傷や障害について考えることができる。				

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	トレーナー測定評価実習 [Clinical Test of Physical Strength and Fitness]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実習・ アクティブ・ラーニング	荒川 崇		国	S-S5072		
この授業に関する資格						
アスレティックトレーナー						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
スポーツ選手のコンディショニングに必要な各種測定について、それぞれの目的、測定方法（理論と技術）を正しく理解し実施できるようになる。また測定結果から選手の現状を的確に評価できる能力を身に付ける。						
学習の到達目標						
アスレティックトレーナーにとって必要とされる各種測定の技法を学び、測定者としての正確な技術とその値についての分析ができるようになる。						
回	授業内容		キーワード	AL		
1	オリエンテーション：本講座の学習内容・成績評価等に関する説明および概論①（測定評価の目的・意義、測定項目）		学習内容、評価の目的・意義、測定項目、			
2	概論②：測定評価に必要な能力、体力分類、テスト条件、評価基準		測定評価能力、体力、基準			
3	姿勢・身体アライメント①：姿勢・静的アライメントについて学び→測定→分析・評価		静止姿勢、ランドマーク	○		
4	姿勢・身体アライメント②：姿勢・動的アライメントについて学び→測定→分析・評価		正しい動作	○		
5	スポーツ動作の観察と分析①：歩行、走動作についてについて学び→測定→分析・評価		歩行、走行、正しい動作	○		
6	スポーツ動作の観察と分析②：跳躍動作、投動作についてについて学び→測定→分析・評価		跳躍、投球、正しい動作	○		
7	スポーツ動作の観察と分析③：方向転換動作、あたり動作、押し動作についてについて学び→測定→分析・評価		方向転換、あたり、押し、正しい動作	○		
8	身体組成の測定・評価：身体組成、形態測定について学び→測定→分析・評価		形態、体脂肪、除脂肪体重	○		
9	関節弛緩性および筋タイトネスの測定・評価：関節弛緩性・筋タイトネスについて学び→測定→分析・評価		関節の弛み、筋の硬さ	○		
10	関節可動域の測定・評価：関節可動域について学び→測定→分析・評価		関節の動く範囲	○		
11	徒手筋力の測定・評価：徒手筋力について学び→測定→分析・評価		筋力測定	○		
12	筋パワー・筋持久力の測定・評価：筋パワー・筋持久力について学び→測定→分析・評価		筋パワー、筋持久力	○		
13	全身持久力の測定・評価：全身持久力について学び→測定→分析・評価		心肺持久力	○		
14	新体力テストの測定・評価：新体力テストについて学び→測定→分析・評価		新体力テスト	○		
15	確認とまとめ：これまでの学習内容に関する確認とまとめ		復習	○		
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト5 検査・測定と評価 その他：教員作成資料						
準備学習・事後学習						
準備学習：毎回の講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習：毎回の講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
毎回の実習内容に関する実技確認を実施し、解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
実技試験 70% 課題提出 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	アスレティックトレーナーにとって必要な各種測定の技法を十分に習得し、正確な技術での測定実施と値についての的確な分析ができる。					
A	アスレティックトレーナーにとって必要な各種測定の技法を習得し、正確な技術での測定実施と値についての分析ができる。					
B	アスレティックトレーナーにとって必要な各種測定の技法を習得し、測定実施と値についての分析ができる。					
C	アスレティックトレーナーにとって必要な各種測定の技法を習得し、測定実施ができ、値についての分析を試みることができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	アスレティックリハビリテーション論 [Principles of Exercise Rehabilitation]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・ アクティブラーニング	小島丈治・小島真由美		国	S-S3073		
この授業に関係する資格						
アスレティックトレーナー						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
評価に基づいたアスレティックリハビリテーションプログラムの手順を学び、傷害特性や競技特性に応じたプログラミング方法を身につける。						
学習の到達目標						
アスレティックリハビリテーションの基礎知識を学び、評価に基づいたプログラミングの手順を身につけ、対象者に合わせたメニューを作成できるようにする。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	概要 1	各種リハビリテーションの意義			○	
2	概要 2	アスレティックリハビリテーションのリスク管理			○	
3	運動療法 1	各種ストレッチなど			○	
4	運動療法 2	各種エクササイズについて			○	
5	運動療法 3	外傷・再発予防に応じたプログラム			○	
6	傷害評価	怪我の評価			○	
7	機能評価	怪我の評価			○	
8	足関節疾患	足関節アスレティックリハビリテーション			○	
9	膝関節疾患（1）	膝関節アスレティックリハビリテーション ACL			○	
10	膝関節疾患（2）	膝関節アスレティックリハビリテーション MCL など			○	
11	肉離れ	肉離れアスレティックリハビリテーション			○	
12	腰部疾患	腰部アスレティックリハビリテーション			○	
13	肩関節疾患	肩関節疾患アスレティックリハビリテーション			○	
14	慢性障害	慢性障害アスレティックリハビリテーション			○	
15	競技種目特性、まとめ	各種競技に合わせたアスレティックリハビリテーション			○	
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 3 スポーツ外傷・障害の基礎知識 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 7 アスレティックリハビリテーション						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：事前に AT 教本のアスレティックリハビリテーションを読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：毎回授業の最初に前回の復習小テストを行うので、復習しておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
レポートのコメントをつけて返却する。						
成績評価の方法・基準						
実技試験 50% 筆記試験 30% 授業への取り組み 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	アスレティックリハビリテーションの基礎知識を十分に理解している。					
A	アスレティックリハビリテーションの基礎知識をよく理解している。					
B	アスレティックリハビリテーションの基礎知識を理解している。					
C	アスレティックリハビリテーションの基礎知識を最低限理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	アスレティックリハビリテーション論実習 [Principles of Exercise Rehabilitation]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実習・ アクティブ・ラーニング	小島 丈治・小島 真由美		実	S-S5074		
この授業に関する資格						
アスレティックトレーナー						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
評価に基づいたアスレティックリハビリテーションプログラムの手順を学び、傷害特性や競技特性に応じたプログラミング方法を身につける						
学習の到達目標						
アスレティックリハビリテーションの基礎知識を学び、評価に基づいたプログラミングの手順を身につけ、対象者に合わせたメニューを作成できるようにする。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1・2	概要 1	アスレティックリハビリテーションの意義			○	
3・4	概要 2	アスレティックリハビリテーションの手順およびリスク管理			○	
5・6	運動療法 1	可動域回復・拡大エクササイズ			○	
7・8	運動療法 2	神経筋協調性回復・向上エクササイズ			○	
9・10	運動療法 3	外傷予防・再発予防のためのエクササイズの考え方			○	
11・12	傷害評価	傷害評価の考え方			○	
13・14	機能評価	機能評価の考え方			○	
15・16	足関節疾患	足関節疾患に対する評価およびプログラミング方法			○	
17・18	膝関節疾患（1）	膝関節急性外傷に対する評価およびプログラミング方法			○	
19・20	膝関節疾患（2）	膝関節慢性外傷に対する評価およびプログラミング方法			○	
21・22	肉離れ	肉離れに対する評価およびプログラミング方法			○	
23・24	腰部疾患	腰部疾患に対する評価およびプログラミング方法			○	
25・26	肩関節疾患	肩関節疾患に対する評価およびプログラミング方法			○	
27・28	慢性障害	慢性障害に対する評価およびプログラミング方法			○	
29・30	競技種目特性、まとめ	競技種目特性に応じたプログラミング方法			○	
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト3 スポーツ外傷・障害の基礎知識 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト7 アスレティックリハビリテーション						
準備学習・事後学習						
準備学習：事前に AT 教本のアスレティックリハビリテーションを読んでおくこと。 事後学習：毎回授業の最初に前回の復習小テストを行うので、復習しておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
レポートのコメントをつけて返却する						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 50% レポート提出 30% 授業への取り組み 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	アスレティックリハビリテーションの基礎知識を十分に理解している。					
A	アスレティックリハビリテーションの基礎知識をよく理解している。					
B	アスレティックリハビリテーションの基礎知識を理解している。					
C	アスレティックリハビリテーションの基礎知識を最低限理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	衛生学及び公衆衛生学 [Hygiene and Public Health]		2			
授業形態	担当教員名		科目コード			
講義	岩井 秀明		SM-S2075			
この授業に関する資格						
教員免許（中学校 2 種・保健体育）、社会福祉主事						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
健康関連の職業に携わる人々（保健体育教員、栄養士、健康運動指導者、フィットネス・グループエクササイズ・介護・福祉関連）は、広く健康に関連する諸問題を理解し、予防・解決するための技術と科学的根拠について学ぶ。予防医学である本学科目の内容は幅広く、社会と健康、感染症、疫学、保健統計、環境と健康、生活習慣病の予防、栄養と運動、学校保健等多岐にわたる。						
学習の到達目標						
衛生学及び公衆衛生的思考を身に付け、最新の統計資料・学問内容から健康、疾病に関する現状および各々のライフステージごとの健康問題を理解し、さらに変容する社会とグローバル社会の進展における多様な健康問題に対応し予防できる。併せて健康に関する基礎的教養を広げられる。						
回	授業内容	キーワード				AL
1	社会と健康（第1章）	健康・公衆衛生の概念、衛生・公衆衛生学そして健康科学へ、歴史				
2	感染症の疫学・予防対策（第8章）	病原微生物、感染・生体防御、感染拡大防止、日本・世界の感染症				
3	環境と健康-1（第2章）	人間と環境の相互作用、地球規模の環境の変化				
4	環境と健康-2（第2章）	環境汚染と健康影響、公害、環境衛生				
5	人口統計と健康・疾病統計（第3章）	保健統計、人口動態統計、人口動態統計、生命表、統計調査				
6	健康状態・疾病の測定方法と疫学-1	概念、疫学指標、疫学方法論、記述疫学、分析疫学、コホート研究				
7	健康状態・疾病の測定方法と疫学-2（第4章）	症例対照研究、スクリーニング検査、新しい疫学研究				
8	生活習慣病の予防と健康増進-1（第5章）	栄養と生活習慣、生活習慣、栄養素、栄養と健康、給食				
9	生活習慣病の予防と健康増進-2（第6章）	運動と生活習慣、運動と健康、メタボ、特保、喫煙、歯科				
10	主要疾患の疫学と対策（第7章）	病気発生と予防、老化と動脈硬化、高血圧、精神衛生、難病				
11	地域保健-保健・医療・福祉の行政（第9章）	社会保障、国民皆保険制度、介護保険制度、国際保健				
12	母子保健と学校保健（第10章）	結婚等の問題、妊娠・出産、新生児・乳児期・幼児期、学校保健				
13	成人保健（第11章）	成人保健、青年期、中年期、熟年期-がんとの闘い、高齢者保健				
14	産業保健-1（第12章）	労働と健康、労働災害、安衛法と労働安衛対策、産業保健従事者				
15	産業保健-2（第12章）	職業と健康障害、問題点、健康増進、メンタルヘルス、職業病各論				
教科書及び参考図書						
教科書：『21世紀の予防医学・公衆衛生-社会・環境と健康-』町田・岩井・木村・扇原編著「杏林書院」2022年 第4版 必ず購入すること。参考図書：『国民衛生の動向 2021/2022 第68巻 第9号』厚生労働統計協会編						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： 次回のテーマとその内容について、指示された教科書の該当箇所を事前に読了する。 事後学習（週 1.5 時間）： 講義で提示された資料の未読部分を読了し、教科書を参照しつつ、講義を再度振り返りまとめる。						
課題に対するフィードバックの方法						
次回の講義冒頭時に振り返り課題、質問、感想についてフィードバックし分かち合う。更なる質問等は Google Classroom 機能を活用。						
成績評価の目安と方法						
期末試験 70%、授業態度・取り組み姿勢 30%を総合的に判断し評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	衛生学及び公衆衛生学の基となる知識を十分に会得している。					
A	衛生学及び公衆衛生学の基となる知識を会得している。					
B	衛生学及び公衆衛生学の内容は概ね理解している。					
C	衛生学及び公衆衛生学の理解に努力が必要である。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	学校保健 [School Health]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・ アクティブ・ラーニング	内藤 郁芳		[実]	S-S2077		
この授業に関係する資格						
教員免許 (中学校 2 種・保健体育)						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
学校教育の中で、児童生徒への保健・安全教育と学校全体の保健・安全管理がどのように展開されるべきかを学び、様々な事例を考察することにより、学校現場における実践的活動のための基礎的な知識を身に付ける。						
学習の到達目標						
健康・体育・スポーツのスペシャリストとして、学校全体の保健・安全のための活動にどのようにかかわっていくべきか保健・安全に関する知識を用いて自分自身に問いかけ、実践的行動につなげることができる。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	リインテグレーション・学校保健とは	健康の定義・学校保健とは・学校保健の目的				
2	学校保健の概要 1 学校保健の構造・関係法令等	学校保健の 3 領域・学校保健安全法			○	
3	学校保健の概要 2 学校現場における現状	学校現場での活動、保健主事、健康診断				
4	子どもの心と体	学校における子供の心のケア・発育・発達				
5	健康観察・健康相談	健康観察、健康相談の意義・方法				
6	心の健康問題	心の健康問題とは・心の健康問題における教職員の対応				
7	感染症とその対応 1 学校における感染症の予防と対応	関係法令、感染症予防の 3 原則			○	
8	感染症とその対応 2 事例研究	新型コロナウイルス感染症への対応			○	
9	特別支援教育と学校保健	特別支援教育の理念と動向・体制整備				
10	保健室と養護教諭	保健室の機能・養護教諭の役割				
11	学校安全 1 学校安全とは	学校安全の構造・東日本大震災			○	
12	学校安全 2 体育活動中の事故防止	種目別安全対策を考える			○	
13	危機管理	体育活動時における事故対応、突然死			○	
14	これから求められる学校保健	今後の学校保健の充実、チーム学校、健康問題の変化				
15	まとめ・振り返り	ヘルスプロモーション、全体の総括			○	
教科書及び参考図書						
参考図書：柳園順子 編著「学校保健」ミネルヴァ書房 2019 年 文部科学省HP 学校保健・学校安全・食育のサイト (https://www.mext.go.jp/a_menu/01_k.htm) ※ その他、講義中の配付プリント						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 1.5 時間) : 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学習 (週 1.5 時間) : 新聞、テレビなどで、学校に関するニュースや話題などをまとめておくこと。						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
各回のレポートについては、次回にコメント等を付し返却する。						
成績評価の方法・基準						
各回に課すレポートの内容 60% 全体総括のレポートの内容 25% 講義への参加態度 15% として総合的に判断する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	学校現場において、学校保健・学校安全の知識を活かし自ら行うべきことを理解している。					
A	学校保健・学校安全の知識をよく理解している。					
B	学校保健・学校安全の知識を理解している。					
C	学校保健・学校安全の基礎的な知識を身につけている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	体育原理 [Sports Philosophy]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・ アクティブ・ラーニング	川井 明			S-S2078		
この授業に関係する資格						
教員免許（中学校2種・保健体育）						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
<p>体育やスポーツに関する歴史的な推移や意味をふまえ、現代の領域における諸問題を哲学的、倫理的に考察し、スポーツ関係者として望ましい実践に貢献できるような価値観の形成を目指す。毎時間、理解度確認レポートを提出する。</p>						
学習の到達目標						
<p>古代から現代までのスポーツや体育の歴史を理解し、それをふまえて社会における体育やスポーツの持つ意味や現代における課題と哲学的な考え方を理解し、体育・スポーツの指導者としての各自の考えや明確にし、実際の指導に活かすことができるようにする。</p>						
回	授業内容	キーワード				AL
1	ガイダンス、授業計画	スポーツの定義、スポーツの意義と価値、社会におけるスポーツの価値、スポーツ宣言日本				
2	古代スポーツの歴史	歴史を学ぶ意味、ギリシャのスポーツと古代オリンピック				○
3	ヨーロッパのスポーツ史	古代ローマから中世ヨーロッパのスポーツの歴史				○
4	近代ヨーロッパの体育	ヨーロッパにおける体操教育				○
5	近代イギリスのスポーツ教育	イギリスのパブリックスクールのスポーツ教育				○
6	近代オリンピックの意義	オリンピックの歴史とその意義				○
7	日本の体育・スポーツの歴史	日本の体育およびスポーツの歴史				○
8	スポーツとジェンダー(1)	女性の体育・スポーツへの参加とその意義				○
9	スポーツとジェンダー(2)	女性のスポーツ参加を阻害する要因、多様化する性について、性的マイノリティとスポーツ				○
10	スポーツマンシップを考える	スポーツマンシップやフェアプレーの精神、スポーツの価値を考える				○
11	スポーツとハラスメント(1)	スポーツと暴力、スポーツと暴言、スポーツにおけるインテグリティの確保				○
12	スポーツとハラスメント(2)	スポーツとセクシュアルハラスメント、暴力・暴言・ハラスメント根絶のために				○
13	パラリンピックの意義	障がい者や障がいの理解、障がい者スポーツの現状と課題、パラリンピックの歴史				○
14	保健体育教師論(1)	体育教師と暴力問題				○
15	保健体育教師論(2)	体育教師と体育・スポーツ哲学				○
教科書及び参考図書						
参考図書：体育哲学原論、大橋道雄編、不昧堂出版、2011 スポーツと教育の歴史、成田十次郎編、不昧堂出版、1988						
準備学習・事後学習						
準備学習（週1.5時間）：体育・スポーツに関する情報を、新聞やニュース・雑誌・インターネットや書籍等を通して収集すること。						
事後学習（週1.5時間）：授業中の内容を復習すること。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
理解度確認レポートの回収後、フィードバックを行う。						
成績評価の方法・基準						
理解度確認レポート 70% 筆記試験 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	体育・スポーツの歴史や現代社会における体育・スポーツの意義を十分に理解し、知識を体育・スポーツの指導に活用できる。					
A	体育・スポーツの歴史や現代社会における体育・スポーツの意義を十分に理解している。					
B	体育・スポーツの歴史や現代社会における体育・スポーツの意義をよく理解している。					
C	体育・スポーツの歴史や現代社会における体育・スポーツの意義を理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	バイオメカニクス [Sports Biomechanics]		2			
授業形態	担当教員名				ナンバリング	
講義・ アクティブ・ラーニング	玉木 啓一		国	S-S3079		
この授業に関する資格						
アスレティックトレーナー						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
バイオメカニクスの基礎学問である、力学、解剖学、生理学について学びながら、バイオメカニクスを利用して、スポーツや動作を自分で解説できるように学んでいく。自ら問題意識を持って解決策を考える意欲が必要な科目である。						
学習の到達目標						
バイオメカニクスの基本的な知識を理解・習得し、健康やスポーツへ活かせる考え方を学び、その応用力を身につけることを目標とする。						
回	授業内容		キーワード	AL		
1	バイオメカニクスと各種学問の関係について学習する		力学			
2	身体を構成する骨格や筋肉について学習する		関節、多関節筋			
3	重心と運動の関わりについて考える		重心、動作、負荷	○		
4	ヒトの動きを起こす力について考える		筋力、重力、慣性			
5	力とパワーについて理解し、これを高めるトレーニングについて学習する		パワー			
6	巧みな動き、パワフルな動きと反動動作について理解する		反動動作			
7	運動の力学的エネルギーと効率について理解する		力学的エネルギー、効率			
8	スポーツにおける、空気抵抗や水の抵抗について理解する		流体力学			
9	スポーツ理解のための情報収集と測定・分析について学習する		情報量			
10	これまで学習した知識を利用して、歩行・走運動について考える		歩行、走行	○		
11	これまで学習した知識を利用して、跳躍運動について考える		位置エネルギー	○		
12	これまで学習した知識を利用して、投動作について考える		直線運動、円運動	○		
13	これまで学習した知識を利用して、打動作について考える		打撃、打突、衝突	○		
14	運動の技術について考える		スキル、動作制御	○		
15	スポーツにおける課題を、バイオメカニクスを利用して考える					
教科書及び参考図書						
資料を配布						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.0 時間）：日常動作、スポーツ動作についての疑問を授業で発表できるように、課題を持つ。 事後学習（週 2.0 時間）：授業で学習したことをもとに、動作についての課題解決にチャレンジする						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
授業中の対面でのフィードバックも予定しているが、Google Classroom を通じてのフィードバック、E-mail を利用した個別対応を行う						
成績評価の方法・基準						
課題 50%、授業中の発表・討論の内容と積極性 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	バイオメカニクスの知識を活かし、スポーツへの応用力を持ち課題を解決でき、新たな課題の発見と解決方法を考えられる。					
A	バイオメカニクスの知識を活かし、スポーツへの課題を解決できる。					
B	バイオメカニクスの知識を理解している。					
C	バイオメカニクスの基礎的な知識を身につけている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	トレーニング科学 [Training Science]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義	辻 将也・川井 明・長島 洋介			NSM-S2140		
この授業に関係する資格						
日本スポーツ協会共通科目、公認スポーツ栄養士						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
科学的根拠に基づく適切な運動プログラムの作成および指導法について学び、効果的かつ安全に配慮して指導できる知識を身につけることを目的とする。						
学習の到達目標						
目的に応じた運動プログラムを作成し、効果的かつ安全に配慮して指導できる知識を身につけている。						
回	授業内容	キーワード				AL
1	スポーツトレーニングの基本的な考え方（川井）	授業ガイダンス、トレーニングサイクル、スポーツパフォーマンス構造論、トレーニング目標論、トレーニングの手段と方法論、トレーニング計画論				
2	スポーツトレーニングの理論体系（川井）	試合行動論、トレーニングアセスメント、トレーニングと休養のバランス、トレーニング環境の整備と効果的遂行の条件				
3	体力学総論（辻）	体力の概念、体力を構成する要素と体力モデル、体力の個人特性、一般的体力と専門的体力、体力トレーニングの原理・原則、体力トレーニングの種類、身体のおしきと動き				
4	バイオメカニクス（辻）	運動の記述、運動の分析、スポーツ動作、トレーニング動作				
5	トレーニング計画の立案（辻）	トレーニングの原理と原則、トレーニング計画の立案、ピリオダイゼーション				
6	スキルトレーニング（辻）	スキルトレーニング				
7	筋力トレーニングのプログラム作成（辻）	筋力トレーニングの効果、プログラムの条件設定				
8	パワー向上トレーニングの理論（辻）	パワーの基本概念、スポーツや日常生活におけるパワー、発揮様式の分類、測定と評価				
9	パワー向上トレーニングのプログラム作成（辻）	プログラム戦略、プログラム変数、生理学的基礎、プライオメトリクス、長期的計画、フィットネス分野におけるパワートレーニング				
10	持久力向上トレーニングの理論とプログラム作成（辻）	持久力に関する基礎理論、有酸素性トレーニング、無酸素性トレーニング、基本的な適応、プログラム作成の基本、プログラム作成の実際				
11	スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成（辻）	スピード、アジリティ強化、基礎筋力、最大筋力、コア、動作テクニックの獲得、オープンスキルアジリティ、プログラムデザイン、トレーニング変数				
12	柔軟性向上トレーニング及びウォームアップとクールダウンの理論とプログラム（辻）	柔軟性向上のトレーニング、ストレッチング、ウォームアップ、クールダウン				
13	栄養・食事計画の立案（長島）	栄養・食事計画の立案				
14	スポーツ選手の競技力向上と栄養 1（長島）	種目特性の分類と食事、トレーニングスケジュールと食事、グリコーゲン補給と回復のための食事				
15	スポーツ選手の競技力向上と栄養 2（長島）	水分補給、目的別の食事管理、栄養サポートと栄養教育の実践				
教科書及び参考図書						
教科書： なし（適宜資料を配布する）						
参考図書等：「トレーニング指導者テキスト【理論編】【実践編】改訂版 大修館書店、「Reference Book」公益財団法人日本スポーツ協会						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： 授業内容に関する情報（参考図書、インターネット等）を、事前に読んで学習しておくこと。						
事後学習（週 1.5 時間）： 授業の内容を復習し、わからない内容は調べて覚えること。						
課題に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 80%、平常点（講義への意欲的な取り組みなど）20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	科学的根拠に基づく適切な運動プログラムを作成し、効果的かつ安全に配慮して指導できる知識を身につけている。					
A	運動プログラムを作成し、効果的かつ安全に配慮して指導できる知識を身につけている。					
B	運動プログラムを作成し、安全に配慮して指導できる知識を身につけている。					
C	運動プログラムを作成し、指導できる知識を身につけている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	トレーニング実習 [Practice of Training]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実習・ アクティブ・ラーニング	辻 将也			S-S4141		
この授業に関する資格						
健康運動実践指導者、アスレティックトレーナー、中高老年期運動指導士、介護予防運動スペシャリスト						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
<input type="checkbox"/>	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	<input type="checkbox"/>	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	<input type="checkbox"/>	健康生活の知識と技術の修得			
<input type="checkbox"/>	健康管理の指導技術の修得	<input type="checkbox"/>	実社会に役立つ能力			
<input type="checkbox"/>	運動、スポーツ科学の専門的知識	<input type="checkbox"/>	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
科学的根拠に基づく適切な運動プログラムの作成および指導法について学び、効果的かつ安全に配慮して指導できる能力を身につけることを目的とする。						
学習の到達目標						
目的に応じた運動プログラムを作成し、効果的かつ安全に配慮して指導できる能力を身につけている。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1・2	柔軟性向上トレーニング及びウォームアップの実際	スタティックストレッチング、パートナーストレッチング、ダイナミックストレッチング、器具を使用したストレッチング、一般的ウォームアップ、専門的ウォームアップ			○	
3・4	持久力向上トレーニングの実際① 持続性トレーニング	安全に実施するガイドライン、トレーニング手段、トレーニング方法、持久力に関連するトレーニング、環境			○	
5・6	持久力向上トレーニングの実際② インターバルトレーニング	トレーニング方法、ロング・ミドル・ショートインターバル			○	
7・8	筋力トレーニングの実際① 実施方法と上肢のエクササイズ	筋力トレーニング、胸部、背部、肩部、上腕部、前腕部、エクササイズ			○	
9・10	筋力トレーニングの実際② 下肢及び体幹部のエクササイズ	大腿部、股関節周辺部、下腿部、体幹部、エクササイズ			○	
11・12	スピード向上トレーニングの実際① 基本動作	スピードの概念、スピード向上トレーニングの基本動作			○	
13・14	スピード向上トレーニングの実際② エクササイズとドリル	スピード向上トレーニングのエクササイズ、ドリルの運用			○	
15・16	パワー向上トレーニングの実際① クイックリフトとジャンプ系エクササイズ	クリーン&ジャーク、スナッチ、スクワットジャンプ			○	
17・18	パワー向上トレーニングの実際② 下肢のプライオメトリクス	ジャンプ、ホップ、パウンド、リープ			○	
19・20	パワー向上トレーニングの実際③ 上肢・体幹・複合体のプライオメトリクス、フィットネス分野のパワートレーニング	メディシンボールスロー、プッシュアップ、シットアップ、座位からのエクササイズ			○	
21・22	トレーニング効果の測定と効果の評価の実際	測定と評価の意義と目的、即詠の一般的注意点				
23・24	測定データの活用とフィードバックの実際 1 測定データの活用と評価	測定データの活用、記述統計、ランキングや得点化による評価				
25・26	測定データの活用とフィードバックの実際 2 データの分析と検定、フィードバック	相関分析、回帰分析、統計的仮説検定、フィードバック				
27・28	トレーニングの運営	トレーニング機器・器具、トレーニング環境				
29・30	まとめ	まとめ				
教科書及び参考図書						
教科書：なし（適宜資料を配布する） 参考図書等：「トレーニング指導者テキスト【実践編】改訂版 大修館書店						
準備学習・事後学習						
準備学習：授業内容に関する情報（参考図書、インターネット等）を、事前に読んで学習しておくこと。 事後学習：授業内容を復習し、わからない内容は調べて覚えること。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
平常点（実習への意欲的な取り組み） 70% 課題・レポート 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	科学的根拠に基づく適切な運動プログラムを作成し、効果的かつ安全に配慮して指導できる能力を身につけている。					
A	運動プログラムを作成し、効果的かつ運動に配慮して指導できる能力を身につけている。					
B	運動プログラムを作成し、安全に配慮して指導できる能力を身につけている。					
C	運動プログラムを作成し、指導できる能力を身につけている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	テーピング実習 [Taping]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実習 アクティブ・ラーニング	高橋 琴美・田本 育代			S-S4080		
この授業に関係する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）			健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得			実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識			社会に貢献できる実践力		
授業の目的と概要						
<p>基本的なテーピングの理論と技術を修得することを目的とする。 関節の基本的構造と動きを理解するとともに、テーピングの理論と技術を修得する。</p>						
学習の到達目標						
<p>足関節内反捻挫予防のテーピングについて、正しい知識と技術を習得することを目標とする。 様々な部位におけるスポーツ傷害別のテーピングについて、正しい知識と技術を修得することを目標とする。</p>						
回	授業内容	キーワード			AL	
1・2	テーピングの目的、基本的な巻き方	テーピングの目的、役割、種類、基礎技術			○	
3・4	足関節内反捻挫予防（基本1）	足関節の構造と動き、アンダーラップ			○	
5・6	足関節内反捻挫予防（基本2）	基本の巻き方（アンカー、スターアップ、ホースシュー）			○	
7・8	足関節内反捻挫予防（基本3）	基本の巻き方（ヒールロック、フィギュアエイト）			○	
9・10	足関節内反捻挫予防（基本4）	基本の巻き方（オーバーラップ）			○	
11・12	足関節内反捻挫予防（応用）	足関節底屈制限・足関節背屈制限			○	
13・14	足部のテーピング1	足部の構造と動き、外反母趾へのテーピング			○	
15・16	足部のテーピング2	踵の痛みへのテーピング、足底筋膜炎・扁平足へのテーピング			○	
17・18	下腿のテーピング	下腿の構造、アキレス腱炎へのテーピング			○	
19・20	膝関節のテーピング1	膝関節の構造と動き、内側側副靭帯損傷へのテーピング			○	
21・22	膝関節のテーピング2	前十字靭帯損傷へのテーピング			○	
23・24	大腿部のテーピング	大腿部の構造、肉離れへのテーピング			○	
25・26	手関節・手指のテーピング	手部の構造と動き、手関節捻挫へのテーピング			○	
27・28	筋肉サポートテープを用いたテーピング	筋肉サポートテープの特徴、使い方、注意点			○	
29・30	全体の総括				○	
教科書及び参考図書						
教科書：いちばんわかりやすいテーピング（成美堂出版） また、必要に応じて資料等を適宜配付する。						
準備学習・事後学習						
<p>準備学習：次回内容をテキストで予習しておくこと。テキスト・配付資料・テープは、毎時間必ず持参すること。 事後学習：実習した内容は、各自繰り返し練習しておくこと。</p>						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、毎時間学んだ技術をどのくらい修得できているか確認し、コメントする。						
成績評価の方法・基準						
実技試験 50% 筆記試験 30% 受講態度 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	関節の基本的構造と動きを理解し、その知識を活かしたテーピング理論と技術を十分に修得した上で、傷害に合わせた対応ができる。					
A	関節の基本的構造と動きを理解し、その知識を活かしたテーピング理論と技術を修得している。					
B	関節の基本的構造と動きを理解し、テーピング理論と技術を修得している。					
C	関節の基本的構造と動きを理解し、基本的なテーピング理論と技術を修得している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	テーピング・マッサージ実習 [Taping and Sports Massage]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実習 アクティブ・ラーニング	高橋 琴美・田本 育代・			S-S4142		
この授業に関係する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
<p>テーピングは、基本的なテーピングの理論と技術を修得することを目的とし、関節の基本的構造と動きを理解するとともに、テーピングの理論と技術を修得する。</p> <p>スポーツマッサージは、スポーツマッサージの理論や作用、施術時の注意事項等を理解し、基本的な手技の修得を目指す。</p>						
学習の到達目標						
<p>テーピング：足関節内反捻挫予防のテーピングについて、正しい知識と技術を修得することを目標とする。</p> <p>様々な部位におけるスポーツ傷害別のテーピングについて、正しい知識と技術を修得することを目標とする。</p> <p>スポーツマッサージ：スポーツマッサージの基本的な手技の修得を目標とする。</p>						
回	授業内容	キーワード			AL	
1・2	テーピングの目的、基本的な巻き方、足関節内反捻挫予防（基本1）	テーピングの目的、役割、種類、基礎技術 足関節の構造と動き、アンダーラップ			○	
3・4	足関節内反捻挫予防（基本2）	基本の巻き方（アンカー、スターアップ、ホースシュー、ヒールロック）			○	
5・6	足関節内反捻挫予防（基本3）	基本の巻き方（フィギュアエイト、オーバーラップ）			○	
7・8	足関節内反捻挫予防（応用）	足関節底屈制限・足関節背屈制限			○	
9・10	足部・下腿のテーピング	足部・下腿の構造と動き、足底筋膜炎・扁平足、外反母趾、アキレス腱炎			○	
11・12	膝関節・大腿部のテーピング	膝関節・大腿部の構造と動き、内側側副靭帯損傷、肉離れ			○	
13・14	手関節・手指のテーピング	手部・手関節の構造と動き、手関節捻挫			○	
15・16	定義、概要（講義形式）、基本的な手法	スポーツマッサージの理論や注意点			○	
17・18	基本的な手法	各手技の説明、二人一組で実技			○	
19・20	うつぶせマッサージ	背部、腰背部、臀部、下肢のマッサージ			○	
21・22	仰向けのマッサージ	上肢、頸部、下肢のマッサージ			○	
23・24	側臥位のマッサージ	上肢、下肢、臀部、腰背部、肩背部のマッサージ			○	
25・26	全身のマッサージⅠ	腰痛、肩こりへのアプローチ			○	
27・28	全身のマッサージⅡ	全身のマッサージ			○	
29・30	まとめ	全体の総括			○	
教科書及び参考図書						
<p>教科書：いちばんわかりやすいテーピング（成美堂出版）</p> <p>参考図書：改訂版 身体運動の機能解剖（医道の日本社）、改訂版 ボディ・ナビゲーション（医道の日本社）</p> <p>また、必要に応じて資料等を適宜配付する。</p>						
準備学習・事後学習						
<p>準備学習：テーピングについては、次回内容をテキストで予習しておくこと。テキスト・配付資料・テープは、毎時間必ず持参すること。</p> <p>スポーツマッサージについては、シラバス、参考図書等でマッサージのイメージを持つようにすること。</p> <p>事後学習：実習した内容は、各自繰り返し練習しておくこと。</p>						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
授業内で毎時間学んだ技術をどのくらい修得できているか確認し、コメントする。						
成績評価の方法・基準						
実技試験 40% 筆記試験 40% 受講態度 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	テーピングとスポーツマッサージの理論を理解し、技術・手技を身につけた上で傷害や主訴に合わせた対応ができる。					
A	テーピングとスポーツマッサージの理論を理解し、さまざまな部位に合わせた技術・手技を修得している。					
B	テーピングとスポーツマッサージの理論を理解し、基本的な技術・手技を修得している。					
C	テーピングとスポーツマッサージの理論を理解し、最低限の技術・手技を修得している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	アスレティックトレーナー論 [Principles of Athletic Training]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・ アクティブ・ラーニング	荒川 崇		国	S-S3081		
この授業に関する資格						
アスレティックトレーナー						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
アスレティックトレーナーの歴史からその業務内容およびスポーツドクターやコーチ、監督との連携についても学習する。						
学習の到達目標						
スポーツ活動現場におけるアスレティックトレーナーの具体的な役割を理解し、業務遂行のために必要な能力を身に付ける。						
回	授業内容		キーワード	AL		
1	アスレティックトレーナーとは①：アスレティックトレーナーの歴史、資格制度、業務内容		歴史、資格制度、業務			
2	アスレティックトレーナーとは②：諸外国のアスレティックトレーナーの状況と日本との違い		諸外国、違い	○		
3	アスレティックトレーナーの業務①：アスレティックトレーナーの任務と役割		任務、役割、禁忌			
4	アスレティックトレーナーの業務②：スポーツ外傷・障害の予防		外傷、障害、予防策			
5	アスレティックトレーナーの業務③：スポーツ現場における救急処置		救急処置、応急処置			
6	アスレティックトレーナーの業務④：アスレティックリハビリテーション		目的、方法			
7	アスレティックトレーナーの業務⑤：コンディショニング		目的、方法	○		
8	アスレティックトレーナーの業務⑥：測定と評価		測定種類、評価方法	○		
9	アスレティックトレーナーの業務⑦：健康管理と組織運営		管理方法、運営			
10	アスレティックトレーナーの業務⑧：教育的指導		選手教育			
11	コーチ・ドクターとの連携協力：サポートスタッフの役割とスポーツドクターとの連携・協力		連携、協力	○		
12	組織運営と管理①：スポーツの組織運営とアスレティックトレーナーの組織運営		コンディショニング	○		
13	組織運営と管理②：健康管理と法的諸問題		法律			
14	アスレティックトレーナーと倫理：アスレティックトレーナーの社会的立場と倫理		社会的立場、倫理			
15	確認とまとめ：これまでの学習内容に関する確認とまとめ		復習	○		
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト1 アスレティックトレーナーの役割 その他：教員作成資料						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：毎回の講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：毎回の講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
前回の講義内容に関する小テストを実施し、解答の解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 70% 課題提出 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	アスレティックトレーナーの現状と役割を十分に理解し、活動現場で的確に業務遂行する能力を身に付けている。					
A	アスレティックトレーナーの現状と役割を良く理解している。					
B	アスレティックトレーナーの現状と役割を理解している。					
C	アスレティックトレーナーの現状を理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	スポーツ生理学 [Sports Physiology]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義	辻 将也			S-S3082		
この授業に関する資格						
アスレティックトレーナー						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
スポーツの特性を生理学的観点から理解し、競技力向上に役立てることができる知識を習得することを目的とする。						
学習の到達目標						
スポーツの特性を生理学的観点から理解し、競技力向上に必要な情報を説明することができる。						
回	授業内容		キーワード	AL		
1	生理学と競技力向上との関連とその応用について学習する		生理学、スポーツ、競技力向上			
2	スポーツに重要な体力要素について学習する		体力要素、体力の構成			
3	筋へのエネルギー供給の観点からスポーツについて学習する		筋、エネルギー供給機構			
4	スポーツに重要な骨格筋機能について学習する		骨格筋、筋線維組成			
5	スキル・戦術が重要なスポーツ種目について学習する		スキル・戦術、神経系			
6	スポーツ活動における呼吸循環器系の応答について学習する		呼吸循環器系			
7	体力トレーニングの原理・原則およびトレーニングについて学習する		体力トレーニングの原理・原則、			
8	環境がスポーツに及ぼす影響について学習する		環境、高地、暑熱環境、熱中症、寒冷環境			
9	疲労の生理学的意味を知り、スポーツとの関連について学習する		中枢性疲労、抹消性疲労			
10	運動やスポーツと酸化ストレスとの関連について学習する		酸化ストレス、抗酸化機能			
11	ウォームアップの生理学的意味について学習する		ウォームアップ、一般的ウォームアップ、専門的ウォームアップ			
12	クールダウンの生理学的意味について学習する		クールダウン			
13	競技力向上と栄養・サプリメントとの関連について学習する		5大栄養素、サプリメント			
14	競技力向上のための研究・ドーピングについて学習する		研究、ドーピング			
15	まとめ		総括			
教科書及び参考図書						
教科書：なし（適宜資料を配布する） 参考図書等：「選手とコーチのためのスポーツ生理学」フォックス 大修館書店、「新・スポーツ生理学」村岡編著 市村出版 日本スポーツ協会 アスレティックトレーナー専門科目テキスト						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：授業内容に関する情報（参考図書、インターネット等）を、事前に読んで学習しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：授業の内容を復習し、わからない内容は調べて覚えること。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 80%、平常点（講義への意欲的な取り組みなど） 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	スポーツ生理学に関する基本的な内容を十分に理解し、競技力向上に必要な情報を説明することができる。					
A	スポーツ生理学に関する基本的な内容をよく理解し、競技力向上に必要な情報を説明することができる。					
B	スポーツ生理学に関する基本的な内容を理解し、競技力向上に必要な情報を説明することができる。					
C	スポーツ生理学に関する基本的な内容を理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	スポーツ外傷・障害 1 [Acute and Chronic Sports Injuries 1]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・ アクティブ・ラーニング	荒川 崇・山田睦雄		国	S-S3083		
この授業に関する資格						
アスレティックトレーナー						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
頭頸部を中心とした重篤な外傷・障害、全身の各パートにおけるスポーツ活動現場で多発する各種外傷や障害の受傷機転、病態、診断、治療方法、予防方法について専門的に学ぶ。						
学習の到達目標						
アスレティックトレーナーの知識として、重篤な外傷・障害および多発しやすい外傷・障害についての受傷機転、病態、診断、治療方法、予防方法を理解する。						
回	授業内容		キーワード	AL		
1	総論：講義の展開について、外傷と障害の違いについて		オリエンテーション、概論			
2	重篤な外傷・障害①：頭頸部外傷（頭部挫創、頭蓋骨骨折）		頭部挫創、骨折			
3	重篤な外傷・障害②：頭頸部外傷（脳損傷）		脳損傷			
4	重篤な外傷・障害③：頭頸部外傷（脳振とう①）		脳振とう			
5	重篤な外傷・障害④：頭頸部外傷（脳振とう② SCAT3 の利用方法）		診断ツール	○		
6	重篤な外傷・障害⑤：頭頸部外傷（脊髄損傷）		脊髄			
7	重篤な外傷・障害⑥：胸腹部外傷		胸腹部			
8	重篤な外傷・障害⑦：心停止、大出血		生命	○		
9	顔面の外傷・障害（目、鼻、耳、歯）		顔面			
10	女性に特徴的なスポーツ外傷・障害		女性アスリート			
11	多発しやすい外傷・障害①：足関節捻挫		足関節			
12	多発しやすい外傷・障害②：膝関節前十字靭帯損傷、膝関節内側側副靭帯損傷		膝関節			
13	多発しやすい外傷・障害③：腰椎分離症、腰椎椎間板ヘルニア		腰椎			
14	多発しやすい外傷・障害④：大腿部肉離れ		大腿部			
15	多発しやすい外傷・障害⑤：コンパートメント症候群		打撲			
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門テキスト3 スポーツ外傷・障害の基礎知識 その他：教員作成資料						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：毎回の講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：毎回の講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
前回の講義内容に関する小テストを実施し、解答の解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 70% 課題提出 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	重篤な外傷・障害および多発しやすい外傷・障害についての受傷機転、病態、診断、治療方法、予防方法について十分に理解し、現場での活動に活かすことができる。					
A	重篤な外傷・障害および多発しやすい外傷・障害についての受傷機転、病態、診断、治療方法、予防方法について良く理解し、現場での活動に活かすことができる。					
B	重篤な外傷・障害および多発しやすい外傷・障害についての受傷機転、病態、診断、治療方法、予防方法について理解し、現場で活動ができる。					
C	重篤な外傷・障害および多発しやすい外傷・障害についての受傷機転、病態、診断、治療方法、予防方法について理解することができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	スポーツ外傷・障害2 [Acute and Chronic Sports Injuries 2]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・ アクティブ・ラーニング	荒川 崇・山田睦雄		国	S-S3083		
この授業に関係する資格						
アスレティックトレーナー						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
全身の各パートにおいて発生する、各種外傷や障害の受傷機転、病態、診断、治療、予防について専門的に学ぶ。各部位において、スポーツ外傷・障害1での学習内容以外の外傷・障害を学ぶ。						
学習の到達目標						
体幹・上肢・下肢のスポーツの外傷・障害について、受傷機転、病態、診断、治療方法、予防方法を理解することで、トレーナー現場での活動に活かすことができる						
回	授業内容	キーワード	AL			
1	概論（復習）：外傷と障害の違いについて	概論	○			
2	重篤な外傷・障害①：頭部挫創、頭蓋骨骨折、脳損傷、脳振とう	頭部	○			
3	重篤な外傷・障害②：脊髄損傷、胸腹部外傷、心停止、大出血、顔面	頸部、胸腹部、顔面	○			
4	体幹のスポーツ外傷・障害①：頸部	頸部				
5	体幹のスポーツ外傷・障害②：胸腹部、腰背部	胸腹部、腰背部				
6	体幹のスポーツ外傷・障害③：股関節	股関節				
7	上肢のスポーツ外傷・障害①：肩部	肩部				
8	上肢のスポーツ外傷・障害②：肘関節	肘関節				
9	上肢のスポーツ外傷・障害③：手・手指	手・手指				
10	下肢のスポーツ外傷・障害①：大腿部	大腿部				
11	下肢のスポーツ外傷・障害②：膝関節	膝関節				
12	下肢のスポーツ外傷・障害③：下腿部	下腿部				
13	下肢のスポーツ外傷・障害④：足関節・足部	足関節				
14	年齢による特徴	成長期、高齢者				
15	確認とまとめ：これまでの学習内容に関する確認とまとめ	復習	○			
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門テキスト3 スポーツ外傷・障害の基礎知識 その他：教員作成資料						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：毎回の講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：毎回の講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
前回の講義内容に関する小テストを実施し、解答の解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 70% 課題提出 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	体幹・上肢・下肢のスポーツの外傷・障害について十分に理解し、現場での活動に活かすことができる。					
A	体幹・上肢・下肢のスポーツの外傷・障害について良く理解し、現場での活動に活かすことができる。					
B	体幹・上肢・下肢のスポーツの外傷・障害について理解し、現場で活動ができる。					
C	体幹・上肢・下肢のスポーツの外傷・障害について理解することができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	健康管理とスポーツ医学 [Health Care Administration]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義(集中)・アクティブ・ラーニング	荒川 崇・太田 眞		国	S-S3084		
この授業に関する資格						
アスレティックトレーナー						
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連						
○	豊かな人間性(広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
海外遠征時や国内での遠征時の注意点、死亡事故につながる暑熱環境についておよびドーピングコントロールなどについて幅広く、スポーツ医学の中でも特に内科系の内容を学ぶ。						
学習の到達目標						
アスレティックトレーナーにとって必要な内科的知識を修得し、スポーツ活動現場において知識を活用できる能力を身に付ける。						
回	授業内容	キーワード	AL			
1	アスリートにみられる疾患(1):内臓器官などの疾患の病態、症状、対応策・処置などについて	循環器、呼吸器、消化器				
2	アスリートにみられる疾患(2):(1)以外の内臓器官などの疾患の病態、症状、対応策・処置などについて	血液疾患、腎・泌尿器、代謝性				
3	感染症対策(1):注意すべき感染症の種類、業態、症状と対応策	呼吸器、血液、皮膚、ウイルス性				
4	感染症対策(2):海外遠征時における感染症対策	海外遠征				
5	アスリートにみられる病的現象(1):病的現象の病態、症状、原因と対応策について	オーバートレーニング症候群、突然死				
6	アスリートにみられる病的現象(2):摂食障害、減量障害への対応策と飲酒・喫煙などの問題について	メンタル面、生活習慣				
7	特殊環境のスポーツ医学(1):高所、低圧及び高圧に対する生体の反応とその環境での障害について	気圧、低酸素				
8	特殊環境のスポーツ医学(2):暑熱環境、低温環境に対する生体の反応とその環境での障害について	気温				
9	特殊環境のスポーツ医学(3):時差に対する生体の反応と海外遠征時の諸問題について	時差、海外遠征	○			
10	性別による特徴	女性アスリート	○			
11	年齢による特徴	成長期、高齢	○			
12	内科的メディカルチェック(1):メディカルチェックの目的とその内容について	内科疾患				
13	内科的メディカルチェック(2):運動負荷試験の目的とその内容について	運動負荷試験				
14	ドーピングコントロール	倫理、禁止薬物				
15	まとめ:今までに学習したすべての領域の総復習を行い、理解度を確認する	復習	○			
教科書及び参考図書						
教科書:公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト4 健康管理とスポーツ医学 その他:教員作成資料						
準備学習・事後学習						
準備学習(週1.5時間):毎回の講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習(週1.5時間):毎回の講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法						
前回の講義内容に関する小テストを実施し、解答の解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験50% 課題提出40% 受講態度10%						
評価	成績評価別の到達度					
S	アスレティックトレーナーにとって必要な内科的医学知識を十分に理解し、対象アスリートの健康管理能力を身につけている。					
A	アスレティックトレーナーにとって必要な内科的医学知識を良く理解し、対象アスリートの健康管理能力を身につけている。					
B	アスレティックトレーナーにとって必要な内科的医学知識を理解し、対象アスリートの健康管理能力を身につけている。					
C	アスレティックトレーナーにとって必要な内科的医学知識と対象アスリートの健康管理について理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	コンディショニング論 [Conditioning]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・ アクティブ・ラーニング	荒川 崇		国	S-S3085		
この授業に係る資格						
アスレティックトレーナー						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
この授業では一般的な体力の向上のみならず専門的競技種目におけるピークパフォーマンス向上に必要な知識を学ぶ。また、トレーニングメニューの作成を行うために必要なスポーツ生理学などの知識を含めて学ぶことになる。						
学習の到達目標						
専門的競技種目におけるパフォーマンスの向上のために必要な各種理論およびトレーニングメニューの作成ができるようになる。						
回	授業内容		キーワード	AL		
1	オリエンテーション		学習内容、成績評価			
2	概論：コンディショニングとは？ コンディショニングとは？		定義、意義、目的			
3	コンディショニング マネジメント		実施・運営手順			
4	コンディショニングにおける身体的因子		身体能力			
5	コンディショニングにおける環境的因子		活動環境			
6	コンディショニングにおける心因的因子		メンタル			
7	トレーニングの原則		メニュー作成			
8	ピリオダイゼーション		トレーニング計画			
9	性差におけるコンディショニング		特徴、個別性			
10	成長期、高齢者におけるコンディショニング		年代別トレーニング			
11	傷害予防と環境整備		外傷・障害			
12	競技特性とコンディショニング①：球技系競技におけるコンディショニング		特異性、ルール	○		
13	競技特性とコンディショニング②：記録系、採点系競技におけるコンディショニング		記録、採点	○		
14	競技特性とコンディショニング③：格闘系・コンタクトスポーツにおけるコンディショニング		外傷、防具	○		
15	コンディショニング プログラム作成：競技種目別コンディショニング プログラム作成		プログラム	○		
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング その他：教員作成資料						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：毎回の講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：毎回の講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
前回の講義内容に関する小テストを実施し、解答の解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 70% 課題 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	専門的競技種目におけるピークパフォーマンス向上に必要な知識を十分に活かしたコンディショニングを考案・実践できる。					
A	専門的競技種目におけるピークパフォーマンス向上に必要な知識をよく理解してコンディショニングを考案・実践できる。					
B	専門的競技種目におけるピークパフォーマンス向上に必要な知識を理解してコンディショニングを考案・実践できる。					
C	専門的競技種目におけるピークパフォーマンス向上に必要な知識を理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	コンディショニング論実習 [Strength Training & Conditioning]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・実習 アクティブ・ラーニング	荒川 崇	国	S-S5086			
この授業に係る資格						
アスレティックトレーナー						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
アスリートのコンディショニングに必要な各種トレーニングの方法を理解し、自らが正しく安全に実施できるようになる。またアスレティックトレーナーとして正しく安全なコンディショニング指導ができる実践的指導能力を身に付ける。						
学習の到達目標						
各種トレーニング、ウォーミングアップ・クーリングダウンなどの特異性や手順・方法を理解し、安全で効果的なプログラミングを作成することができる。および指導することができる。						
回	授業内容	キーワード		AL		
1・2	本講義の学習内容・成績評価等に関する説明 ウォーミングアップ・クーリングダウンの意義・目的／マシントレーニングの説明・実践	ガイダンス ウォーミングアップ・クーリングダウン マシントレーニング				
3・4	スタティックストレッチ、ペアストレッチ／BIG3+1 トレーニング説明・実践①	ストレッチ ウェイトトレーニング		○		
5・6	ダイナミックストレッチ、パルスティックストレッチ／BIG3+1 トレーニング説明・実践②	ストレッチ ウェイトトレーニング		○		
7・8	ラダーを用いたアジリティ・トレーニングの説明・実践／BIG3+1 トレーニングの説明・実践③	アジリティトレーニング ウェイトトレーニング		○		
9・10	コーンを用いたアジリティ・トレーニングの説明・実践／部位別フリーウエイトトレーニング①	アジリティトレーニング フリーウエイトトレーニング		○		
11・12	クイックネス・トレーニングの説明・実践／部位別フリーウエイトトレーニング②	クイックネス・トレーニング フリーウエイトトレーニング		○		
13・14	スピードトレーニングの説明・実践／パワー系トレーニング（パワークリーンなど）の説明・実践①	スピードトレーニング パワー系トレーニング		○		
15・16	プライオメトリクストレーニングの説明・実践（基礎）／パワー系トレーニング（パワークリーンなど）説明・実践②	プライオメトリクストレーニング パワー系トレーニング		○		
17・18	プライオメトリクストレーニングの説明・実践（発展）／自重を利用したレジスタンストレーニング・スタビリティトレーニング説明・実践	プライオメトリクストレーニング パワー系トレーニング		○		
19・20	サーキットトレーニングの説明・実践／代謝系トレーニング説明・実践	サーキットトレーニング 代謝系トレーニング		○		
21・22	トレーニングプログラムの作成	トレーニングプログラム 指導案作成		○		
23・24	トレーニングプログラム指導実践①	トレーニングプログラム 指導実践		○		
25・26	トレーニングプログラム指導実践②	トレーニングプログラム 指導実践		○		
27・28	トレーニングプログラム指導実践③	トレーニングプログラム 指導実践		○		
29・30	実習内容のまとめ、フィードバック	まとめ フィードバック				
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング ストレンクス&コンディショニング I 理論編 ストレンクス&コンディショニング II エクササイズ編						
準備学習・事後学習						
準備学習： 授業の内容に関する情報（教科書、インターネット等）を事前に読んで学習しておくこと。 事後学習： 授業中の内容を復習し、わからない単語は調べて覚えること。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
毎回の実習内容に関する実技確認を実施し、解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
指導実践試験 50% 課題提出 40% 受講態度 10%						
評価	成績評価別の到達度					
S	各種トレーニングなどの特異性や手順・方法を十分に理解し、安全で効果的なプログラミング及び指導を行うことができる。					
A	各種トレーニングなどの特異性や手順・方法を理解し、安全で効果的なプログラミング及び指導を行うことができる。					
B	各種トレーニングなどの特異性や手順・方法を理解し、プログラミング及び指導を行うことができる。					
C	各種トレーニングなどを理解し、プログラミング及び指導を行うことができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	救急処置 [Emergency Treatment]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・ アクティブ・ラーニング	小島 丈治・小島 真由美		国	S-S3087		
この授業に関する資格						
アスレティックトレーナー						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
スポーツ現場で発生する様々な傷病に関する基礎知識、現場での評価、およびリスク管理について学び、状態に応じた正しい救急処置の手順を学ぶ。また、傷病発生の予防と発生時の対応計画についても学ぶ。						
学習の到達目標						
スポーツ現場で発生する傷病に対し、現場での評価と正しい救急処置の方法を修得する。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	概要	スポーツ現場における救急処置の意義			○	
2	心肺蘇生法	心肺蘇生法の意義と基礎知識			○	
3	外傷時の評価	外傷の発生機序、評価手順			○	
4	外傷時の処置	外傷による炎症の徴候、評価手順			○	
5	固定法	スポーツ現場における患部固定法、留意点			○	
6	止血法	出血の種類と止血処置、留意点			○	
7	創傷処置	創傷の種類と創傷の処置、留意点			○	
8	内科的疾患の処置 1	熱中症の発生機序、分類、処置、予防			○	
9	内科的疾患の処置 2	ショック、呼吸困難の発生機序と対処			○	
10	内科的疾患の処置 3	その他の緊急を要する内科疾患			○	
11	頭部外傷の処置	頭部外傷の発生機序、評価、処置および留意点			○	
12	頸部外傷の処置	頸部外傷の発生機序、評価、処置および留意点			○	
13	運搬法	頭頸部外傷における運搬法、留意点			○	
14	救急体制	対応計画の必要性、事前確認事項			○	
15	まとめ	本講義の総まとめ			○	
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト8 救急処置						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：事前に、AT 教本の救急処置を読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：毎回授業初めに、前回の確認を行うので復習すること。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
レポートのコメントをつけて返却する。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 40% 実技試験 40% 授業への取り組み 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	様々な外傷・疾病に関する知識および評価と救急処置の手順を十分に理解している。					
A	様々な外傷・疾病に関する知識および評価と救急処置の手順をよく理解している。					
B	様々な外傷・疾病に関する知識および評価と救急処置の手順を理解している。					
C	様々な外傷・疾病に関する知識および評価と救急処置の手順を最低限理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	見学実習 [Practical Observation]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実習(集中)・ アクティブ・ラーニング	荒川 崇		国	S-S5088		
この授業に係る資格						
アスレティックトレーナー						
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連						
○	豊かな人間性(広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
アスレティックトレーナーが実際に働いている姿をみることによって、具体的な仕事の内容、コーチやドクターとの関係および選手との接し方を学ぶ。得た知識を活動現場でどのように活かすのかを学ぶ。						
学習の到達目標						
アスレティックトレーナーの仕事の実際を見学することにより、具体的な仕事の内容理解を深め、選手・チームのサポート計画を立てる能力を身に付ける						
回	授業内容		キーワード		AL	
1 ~ 15	<p>アスレティックトレーナーの具体的な役割の現状を知る 見学実習予定先 学内部活動 各種大会 など</p> <p>実習先においてアスレティックトレーナーの活動の様子を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○選手とのコミュニケーション ○コーチ・監督とのコミュニケーション ○スポーツドクターとの連携 ○当日の仕事の流れ ○アスレティックリハビリテーション ○現場での応急処置 ○トリートメントの様子 		アスレティックトレーナーの活動現場、コミュニケーション、連携、具体的な役割		○	
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト全巻						
準備学習・事後学習						
準備学習：毎回の実習終了時に次回の実習内容についての説明をするので事前に調査しておくこと。 事後学習：毎回の実習終了時に実習内容に関するレポート課題を指示するので、次回実習開始時に提出すること。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法						
毎回の実習内容に関する内容確認を実施し、解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
レポート 80% 受講態度 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	活動現場におけるアスレティックトレーナー業務の実際を十分に理解し、選手・チームのサポート計画を具体的に立てることができる。					
A	活動現場におけるアスレティックトレーナー業務の実際を良く理解し、選手・チームのサポート計画を立てることができる。					
B	活動現場におけるアスレティックトレーナー業務の実際を理解し、選手・チームのサポート計画を立てることができる。					
C	活動現場におけるアスレティックトレーナー業務の実際を理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	検査・測定と評価実習 [Special Test and Clinical Assessment of Injury]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・実習・ アクティブ・ラーニング	荒川 崇		国	S-S5089		
この授業に関する資格						
アスレティックトレーナー						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
レンジオブモーション（ROM）の測定、徒手筋力検査法（MMT）、各種反射試験、代謝系の測定、筋力・筋パワー測定ほか、測定と評価を行う。						
学習の到達目標						
アスレティックトレーナーとして必要な検査および測定の種類項目についての理論を学び、測定手技を正確に行えるようになる。またデータについて評価できるようになる。						
回	授業内容		キーワード		AL	
1	競技者対応の検査・測定基礎：HOPSにおける競技者に関する情報収集→評価→発表		問診、視診、触診、スペシャルテスト		○	
2	アライメント測定：身体アライメントの観察→評価→発表		姿勢		○	
3	関節弛緩性検査：関節弛緩性検査の手技を反復→評価→発表		関節弛緩性		○	
4	関節可動域測定：関節可動域測定の手技を反復→評価→発表		関節可動域		○	
5	筋タイトネス検査：筋タイトネス検査の手技を反復→評価→発表		筋タイトネス		○	
6	筋力測定①：徒手筋力測定→評価→発表		徒手筋力		○	
7	筋力測定②：器具等を用いた筋力測定、筋パワー測定→評価→発表		筋力、筋パワー		○	
8	持久力測定：全身持久力の測定→評価→発表		全身持久力		○	
9	敏捷性・協調性測定：敏捷性および協調性の測定→評価→発表		敏捷性、協調性		○	
10	身体組成検査：身体組成検査の手技と測定結果の解釈・活用→評価→発表		身体組成		○	
11	一般的体力測定：新体力測定→評価→発表		新体力テスト		○	
12	ダイナミックアライメント①：歩行動作の観察→分析・評価→発表		歩行動作		○	
13	ダイナミックアライメント②：走動作の観察→分析・評価→発表		走動作		○	
14	ダイナミックアライメント③：運動連鎖→分析・評価→発表		運動連鎖		○	
15	総合解釈：全測定についての総復習を行う→実技・発表		復習		○	
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト5 検査・測定と評価 その他：教員作成資料						
準備学習・事後学習						
準備学習：毎回の実習終了時に次回の実習内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習：毎回の実習開始時に前回実習内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
毎回の実習内容に関する実技確認を実施し、解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
レポート 80% 受講態度 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	アスレティックトレーナーに必要な検査および測定についての理論を十分に理解し、正確な測定手技とデータ評価能力を獲得する。					
A	アスレティックトレーナーに必要な検査および測定についての理論を良く理解し、正確な測定手技とデータ評価能力を獲得する。					
B	アスレティックトレーナーに必要な検査および測定についての理論を理解し、正確な測定手技とデータ評価能力を獲得する。					
C	アスレティックトレーナーに必要な検査および測定についての理論と正確な測定手技とデータ評価について理解する。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	スポーツ現場実習 [Internship of Athletic Training]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実習・ アクティブ・ラーニング	荒川 崇	国	S-S5090			
この授業に関係する資格						
アスレティックトレーナー						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
トレーナー業務の遂行において必要な各種テクニックを学ぶ。R I C E 処置、準備、片付け、記録、データ処理、連絡、報告の実践を行う。						
学習の到達目標						
スポーツの現場におけるトレーナー活動を通して、トレーナー業務を適切に実践できるようになる。また選手との円滑なコミュニケーションができる能力を獲得する						
回	授業内容	キーワード	AL			
1 ～ 15	アスレティックトレーナーの現場活動における経験を積む チームへの帯同により日々のトレーナー業務を遂行 準備（水、アイス） テーピング ウォーミングアップのリードアップ リハビリテーション指導補助 ケガの応急処置 コンディショニングメニューのリードアップ クールダウン 運動後のトリートメント トレーナー日誌の記入 ヘッドトレーナーへの報告	アスレティックトレーナーの活動 現場、具体的役割、経験	○			
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト全巻						
準備学習・事後学習						
準備学習：毎回の実習終了時に次回の実習内容についての説明をするので事前に調査しておくこと。 事後学習：毎回の実習終了時に実習内容に関するレポート課題を指示するので、次回実習開始時に提出すること。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
毎回の実習内容に関する内容確認を実施し、解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
レポート 80% 受講態度 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	トレーナー業務の実践経験から知識、技能、選手とのコミュニケーション能力を獲得し、活動現場に活かせる。					
A	トレーナー業務の実践経験から知識、技能、選手とのコミュニケーション能力を十分に獲得する。					
B	トレーナー業務の実践経験から知識、技能、選手とのコミュニケーション能力を獲得する。					
C	トレーナー業務の実践経験から知識、技能、選手とのコミュニケーション能力の重要性を理解する。					

授業科目区分	科目名 [英文名]			単位	N	S	M
専門教育科目	アスレティックリハビリテーション実践実習 [Clinical Therapeutic Exercise and Rehabilitation Technique]			2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング			
講義・実習・ アクティブ・ラーニング	荒川 崇			国	S-S5091		
この授業に関する資格							
アスレティックトレーナー							
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連							
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力				
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得				
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力				
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力				
授業の目的と概要							
OKC、CKC プログラム、心臓循環系のプログラム、可動域訓練、徒手抵抗運動、無酸素系の運動、スピードトレーニング、アジリティトレーニングなどの各種アスレティックリハビリテーションプログラムを実践する。							
学習の到達目標							
アスレティックリハビリテーションの実践を通し、スポーツ外傷・障害からの復帰の全てを学び、実践力を身につける。							
回	授業内容			キーワード	AL		
1	オリエンテーション、アスリ八概論：本実習の学習内容・成績評価等に関する説明および概論			学習内容、評価の目的・意義 測定項目、			
2	リハビリテーション マネジメント：SOAP ノートの書き方を学ぶ			SOAP（主観的情報、客観的情報、評価、計画）			
3	組織運営①：アスレティックトレーニングルームでの各種業務内容の確認、ミーティング			具体的業務	○		
4	組織運営②：アスレティックトレーニングルームでの各種業務の遂行、ミーティング			業務実践	○		
5	メニュー作成①：各種傷害別リハビリテーションメニューの検討			リハビリメニュー検討	○		
6	メニュー作成②：各種傷害別リハビリテーションメニューの作成実践			リハビリメニュー作成	○		
7	再発予防のコンディショニング①：予防トレーニングの検討（肩関節、肘関節）			再発予防、肩関節、肘関節	○		
8	再発予防のコンディショニング②：予防トレーニングの検討（股関節、膝関節、足関節）			股関節、膝関節、足関節	○		
9	アスレティックトレーナーの役割①：アスレティックリハビリテーション/スポーツドクターとの連携			スポーツドクターとの連携	○		
10	アスレティックトレーナーの役割②：スポーツドクターとの連携/SOAP ノートの作成			SOAP	○		
11	アスレティックトレーナーの役割③：アスレティックリハビリテーション/ヘッドトレーナーとの連携			ヘッドトレーナーとの連携	○		
12	アスレティックトレーナーの役割④：ヘッドトレーナーとの連携/SOAP ノートの作成			SOAP	○		
13	アスレティックトレーナーの役割⑤：アスレティックリハビリテーション/監督・コーチとの連携			監督・コーチとの連携	○		
14	アスレティックトレーナーの役割⑥：コーチ監督との連携/SOAP ノートの作成			SOAP	○		
15	総合解釈：これまでに実施した内容についての確認とまとめ			復習	○		
教科書及び参考図書							
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト7 アスレティックリハビリテーション その他：教員作成資料							
準備学習・事後学習							
準備学習：毎回の実習終了時に次回の実習内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習：毎回の実習開始時に前回実習内容に関する口頭試問を実施するので復習しておくこと。							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法							
毎回の実習内容に関する実技確認を実施し、解説を行う。							
成績評価の方法・基準							
実技試験 70% 課題提出 30%							
評価	成績評価別の到達度						
S	アスレティックリハビリテーションの理論を活かした、段階的で安全なアスレティックリハビリテーションが実践できる。						
A	アスレティックリハビリテーションの理論を活かした、アスレティックリハビリテーションが実践できる。						
B	アスレティックリハビリテーションの理論を理解して実践できる。						
C	アスレティックリハビリテーションが実践できる。						

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	トレーナー総合実習 [Athletic Training]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
演習・実習・アクティブ・ラーニング	荒川 崇		国	S-S5092		
この授業に関する資格						
アスレティックトレーナー						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
アスレティックトレーナーとして必要な各種業務を遂行できる能力を身につけるために、必要な知識と技能およびコミュニケーション能力を高める総合的な実習をおこなう。						
学習の到達目標						
フィールドにおける実習および研究室での実習を通じ、応急処置、けがの予防、コンディショニング、選手の教育、アスレティックリハビリテーション、測定と評価などが総合的にできるようになる。						
回	授業内容		キーワード	AL		
1	オリエンテーション：本講座の学習内容・成績評価等に関する説明および概論		学習内容、			
2～5	測定・評価実践①～④：ミーティング（スケジュール確認、インジュリレポート、アセスメント→アクション）、測定・評価実践		測定・評価	○		
6～9	応急処置①～④：ミーティング（スケジュール確認、インジュリレポート、アセスメント→アクション）、スポーツ外傷・障害別応急処置		応急処置	○		
10～13	アスレティックリハビリテーション実践①～④：ミーティング（スケジュール確認、インジュリレポート、アセスメント→アクション）、各種傷害別アスレティックリハビリテーション実践		アスレティックリハビリテーション	○		
14・15	総括①・②：ミーティング（スケジュール確認、インジュリレポート、アセスメント→アクション）、前学期のまとめ（プレゼンテーション）		まとめ	○		
16～19	コンディショニング①～④：ミーティング（スケジュール確認、インジュリレポート、アセスメント→アクション）、競技スポーツ種目別コンディショニング実践		コンディショニング	○		
20～23	アスレティックリハビリテーション実践⑤～⑧：ミーティング（スケジュール確認、インジュリレポート、アセスメント→アクション）、各種傷害別アスレティックリハビリテーション実践		アスレティックリハビリテーション	○		
24～27	測定・評価実践⑤～⑧：ミーティング（スケジュール確認、インジュリレポート、アセスメント→アクション）、測定・評価実践		測定・評価	○		
28・29	総括③・④：ミーティング（スケジュール確認、インジュリレポート、アセスメント→アクション）、後学期のまとめ（プレゼンテーション）		まとめ	○		
30	ディスカッション：ミーティング（スケジュール確認、インジュリレポート、アセスメント→アクション）、アスレティックトレーナーについてのディスカッション		総合復習	○		
教科書及び参考図書						
参考図書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト全巻 その他：教員作成資料						
準備学習・事後学習						
準備学習：毎回の実習終了時に次回の実習内容についての説明をするので資料を作成しておくこと。 事後学習：毎回の実習終了時にレポート課題を指示するので作成し、次回の実習開始時に提出すること。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
毎回の実習内容に関する内容確認を実施し、解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
プレゼンテーション 50% 課題提出 40% 受講態度 10%						
評価	成績評価別の到達度					
S	アスレティックトレーナーの役割を十分に理解し、総合的にトレーナー業務を遂行することができる。					
A	アスレティックトレーナーの役割を十分に理解し、知識をトレーナー業務に活用することができる。					
B	アスレティックトレーナーの役割を理解し、トレーナー業務を行うことができる。					
C	アスレティックトレーナーの役割を理解するとともに、トレーナー業務に最低限活かすことができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	陸上競技 1 [Basic Track & Field]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実技 アクティブ・ラーニング	辻 将也			S-S4093		
この授業に関する資格						
教員免許（中学校 2 種・保健体育）、健康運動実践指導者						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
陸上競技（走・跳・投種目）の基本的な技術を習得し、各種目がよりよく実践することができる力を身に付ける。						
学習の到達目標						
陸上競技に必要な基礎動作を学び、走・跳・投の基本的な技術を身に付け、よりよく実践することができる。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	授業の概要（展開方法、評価方法）を説明する。	ガイダンス				
2	ウォーキングの特性と基本動作を学ぶ。	ウォーキング 基本動作			○	
3	正しいウォーキングフォームを習得する。ウォーキングの正しい指導法を学ぶ。	ウォーキング 指導法			○	
4	ジョギングの特性と基本動作を学ぶ。	ジョギング 基本動作			○	
5	正しいジョギングフォームを習得する。ジョギングの正しい指導法を学ぶ。	ジョギング 指導法			○	
6	短距離走の基本動作を学ぶ。各グループで基本動作を確認し合い、正しい動作を習得する。	短距離走 基本動作			○	
7	スプリントドリル、スタート動作を学ぶ。50m 走のタイム計測。	短距離走 スプリントドリル 50m 走			○	
8	バトンパスの方法を学ぶ。2 人 1 組でバトンパスの練習を行う。	リレー バトンパス			○	
9	2 人 1 組でのバトンパスを用いた 100m リレーのタイム計測。	リレー バトンパス			○	
10	集団ペース走を行う。	長距離走 集団走			○	
11	ハードル走の基本動作を学ぶ。各グループで基本動作を確認し合い、正しい動作を習得する。	ハードル走 基本動作			○	
12	ハードルドリルを学ぶ。50m ハードル走のタイム計測。	ハードル走 ハードルドリル			○	
13	走り高跳びの助走（短～全助走）、踏切動作および空中動作を学ぶ。	走り高跳び 踏切動作 空中動作			○	
14	走り幅跳びの助走（短～全助走）および踏切動作から着地動作を学ぶ。	走り幅跳び 踏切動作 着地動作			○	
15	砲丸投げの立ち投げとグライド投法および円盤投げの立ち投げとターン投げを学ぶ。	砲丸投 円盤投 立ち投げ グライド投法 ターン投げ			○	
教科書及び参考図書						
参考図書：陸上競技指導教本アンダー16・19 初級編：（公財）日本陸上競技連盟編集 大修館書店 健康運動実践指導者養成テキスト						
準備学習・事後学習						
準備学習：指定した種目に関する情報（参考図書、インターネット等）を事前に調べておくこと。 事後学習：自己の課題を理解し、事後学習に活用できるようにしておく。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
平常点（意欲・態度）70%、運動技能 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	授業に意欲的に取り組み、陸上競技に必要な基礎動作を十分に身につけている。					
A	授業に意欲的に取り組み、陸上競技に必要な基礎動作を概ね身につけている。					
B	授業にやや意欲的に取り組み、陸上競技に必要な基礎動作をある程度身につけている。					
C	授業にやや意欲的に取り組み、陸上競技に必要な基礎動作を最低限身につけている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	陸上競技 2 [Advance Track & Field]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実技・ アクティブ・ラーニング	辻 将也			S-S5094		
この授業に関係する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
短距離走、リレー、ハードル走、中・長距離走、走り高跳び、走り幅跳び、砲丸投げの指導を行い、実践力を身に付ける。						
学習の到達目標						
陸上競技の指導法を学び、将来指導者となるために必要な指導技術を身に付け、安全に指導することができる。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	授業の概要（展開方法・評価方法）を説明する	ガイダンス				
2	陸上競技 1（短距離走、リレー）の復習	短距離走 リレー			○	
3	短距離走の指導実践（指導案を作成し、指導実践する）	短距離走 指導実践			○	
4	リレーの指導実践（指導案を作成し、指導実践する）	リレー 指導実践			○	
5	陸上競技 1（長距離走）の復習	長距離走			○	
6	長距離走の指導実践（指導案を作成し、指導実践する）	長距離走 指導実践			○	
7	陸上競技 1（ハードル走）の復習	ハードル走			○	
8	ハードル走の指導実践（指導案を作成し、指導実践する）	ハードル走 指導実践			○	
9	陸上競技 1（走り高跳び）の復習	跳躍種目 走り高跳び			○	
10	陸上競技 1（走り幅跳び）の復習	跳躍種目 走り幅跳び			○	
11	走り高跳びの指導実践（指導案を作成し、指導実践する）	走り高跳び 指導実践			○	
12	走り幅跳びの指導実践（指導案を作成し、指導実践する）	走り幅跳び 指導実践			○	
13	陸上競技 1（投てき）の復習	投てき種目 砲丸投			○	
14	砲丸投げの指導実践（指導案を作成し、指導実践する）	砲丸投げ 指導実践			○	
15	全体の総括	まとめ				
教科書及び参考図書						
参考図書：陸上競技指導教本アンダー-13：（公財）日本陸上競技連盟編集 大修館書店 陸上競技指導教本アンダー-16・19 初級編：（公財）日本陸上競技連盟編集 大修館書店						
準備学習・事後学習						
準備学習：指定した種目に関する情報（参考図書、インターネット等）を事前に調べておくこと。 事後学習：自己の課題を把握し、事後学習に活用できるようにしておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして提出物にコメントを入れ、返却する						
成績評価の方法・基準						
指導実践での指導内容（指導案を含む）70% 平常点（意欲・態度）30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	陸上競技の特性および適切な指導方法を十分に理解し、安全面に考慮した指導を実践することができる。					
A	陸上競技の特性および適切な指導方法を十分に理解し、指導を実践することができる。					
B	陸上競技の特性および指導方法を概ね理解し、指導を実践することができる。					
C	陸上競技の特性および指導方法を理解し、指導を実践することができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	体操・器械運動 1 [Basic Gymnastics]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実技・ アクティブ・ラーニング	馬場 亮輔		国	S-S4095		
この授業に関する資格						
教員免許（中学校 2 種・保健体育）、子ども身体運動発達指導士						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
器械運動で用いられる種目に触れ、技を習得するために必要な「技術」の獲得を目的とする。 また、他者との競争や記録の向上だけをを目指すのではなく、各種の障害や難しさに挑戦し、それらを克服する楽しさを体感する。						
学習の到達目標						
本授業では、各種器械の基本技術を身につけることから出発し、「できない」⇒「できる」⇒「より上手に（美しく）できる」に到達する。 教員や指導者として最低限必要な技能を獲得することを到達目標とする。						
回	授業内容		キーワード	AL		
1	ガイダンス：授業計画、内容、評価方法等の説明		授業内容の説明			
2	マット：前転系 & 後転系		転がる	○		
3	マット：倒立技の習得（背倒立、三点倒立、二面倒立、倒立、倒立前転）		止める	○		
4	マット：側方系（側方倒立回転 側方倒立回転とび）		回転	○		
5	マット：実技テスト対策練習		練習	○		
6	マット：実技テスト		発表	○		
7	鉄棒：入り技（膝掛け上がり 逆上がり支持）		上がる	○		
8	鉄棒：中技（支持振動、後ろ回り支持、前回り支持）		回る	○		
9	鉄棒：下り技（片足踏み越し下り 支持振動下向きひねり下り グライダー 振りとび下り）		下りる	○		
10	鉄棒：実技テスト対策練習		練習	○		
11	鉄棒：実技テスト		発表	○		
12	跳び箱：切り返し系（1 型開脚とび・閉脚とび）		跳び越す	○		
13	跳び箱：切り返し系（1 型屈身とび、2 型開脚とび・閉脚とび） & 実技テスト対策練習		跳び越す	○		
14	跳び箱：実技テスト		発表	○		
15	実技テスト		発表	○		
教科書及び参考図書						
参考図書：「体操競技のバイオメカニクス」 著者：土屋純 講談社 「教師のための運動学」 監修：金子明友 編者：吉田茂 三木四郎 大修館書店						
準備学習・事後学習						
準備学習：体操競技に関する基本的な知識の把握、実技練習に対する心身の準備（ストレッチなど）を行うこと。 事後学習：実技練習で習得した課題技のポイントを振り返り、次回の授業に反映させること。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
授業終了後や E-mail や Google Classroom 等で適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
実技テスト（各種目における技の修得・課題解決方法への理解）60% 授業態度および取り組み姿勢 40%						
評価	成績評価別の到達度					
S	授業態度が良く、実技能力が抜群である。					
A	授業態度が良く、実技能力が優秀である					
B	授業態度が良く、実技能力が中程度である。					
C	授業態度が良く、実技能力を基本的には身に付けている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	体操・器械運動 2 [Advanced Gymnastics]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実技・ アクティブ・ラーニング	馬場 亮輔		実	S-S5096		
この授業に関係する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
主に器械運動で用いられるマット運動種目に触れ、技を実施するために必要な「技術」の獲得を目的とする。 また、マット運動において必要とされる空中感覚を養うために、トランポリンを用いた練習を行う。 他者との競争や記録の向上だけを目的とするのではなく、各種の障害や難しさに挑戦し、それらを克服する楽しさを体感する。						
学習の到達目標						
本授業ではマット運動種目において、応用技（ハンドスプリング、バック転）の習得を目指す。基本技術を身につけることから出発し、「できない」⇒「できる」⇒「より上手に（美しく）できる」に到達すること。また、トランポリンを用いた練習で空中感覚を養い、自身の体を操作できるようになること。						
回	授業内容		キーワード	AL		
1	ガイダンス：授業計画、内容、評価方法等の説明		授業内容の説明			
2	マット：前転系 & 後転系 & 倒立技の習得		転がる、止める	○		
3	マット：側方系の習得、ハンドスプリングの導入		転がる	○		
4	マット：ハンドスプリングの習得練習① 回転時の姿勢について		反る	○		
5	マット：ハンドスプリングの習得練習② 立ち方について		ホップ	○		
6	マット：ハンドスプリングの完成		組み合わせる	○		
7	マット：後転とび（バック転）の導入		跳ぶ	○		
8	マット：後転とび（バック転）習得練習① 跳び方について		回る	○		
9	マット：後転とび（バック転）習得練習② 回転時の姿勢について		姿勢の意識	○		
10	マット：後転とび（バック転）習得練習③ 立ち方について		組み合わせる	○		
11	マット：後転とび（バック転）完成		回って立つ	○		
12	トランポリン：基礎技（レギュレーション）		跳び	○		
13	トランポリン：応用技①（レギュレーション）空中局面でひねり動作を行う		ひねる	○		
14	トランポリン：応用技②（レギュレーション）空中局面で回転動作を行う		回る	○		
15	まとめ		発表	○		
教科書及び参考図書						
参考図書：「体操競技のバイオメカニクス」著者：土屋純 講談社 「教師のための運動学」監修：金子明友 編者：吉田茂 三木四郎 大修館書店						
準備学習・事後学習						
準備学習：体操競技に関する基本的な知識の把握、実技練習に対する心身の準備（ストレッチなど）を行うこと。 事後学習：実技練習で習得した課題技のポイントを振り返り、次回の授業に反映させること。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
授業終了後や E-mail や Google Classroom 等で適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
授業態度および取り組み姿勢 70% 実技試験（技の修得・課題解決方法への理解）30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	授業態度が良く、実技能力が抜群である。					
A	授業態度が良く、実技能力が優秀である					
B	授業態度が良く、実技能力が中程度である。					
C	授業態度が良く、実技能力を基本的には身に付けている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	水泳1 [Basic Swimming]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実技・ アクティブ・ラーニング	太田 あや子 ・ 高橋 季絵			S-S4097		
この授業に関する資格						
教員免許（中学校2種・保健体育）、健康運動実践指導者						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）			健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得			実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識			社会に貢献できる実践力		
授業の目的と概要						
保健体育の授業や水泳教室の運営が可能となるように各泳法の段階的指導を通じて泳力を習得して指導法と安全管理を理解し、正しい泳法で泳ぐことができるとともに水中運動の効果を理解する。						
学習の到達目標						
クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの四泳法の技能を習得し、100m個人メドレーが完泳できるとともに、水中運動の基礎技能や子どもの安全な水泳指導ができる。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	ガイダンス	個人カード作成、能力判定表の作成			○	
2	プール清掃	プール清掃をとおして、プール管理の方法を実践的に学ぶ			○	
3	4泳法：試し泳ぎとクロール(1)	試し泳ぎとチーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳			○	
4	4泳法：クロール(2)	チーム練習：ターン練習と50m泳、100m泳、レポート作成			○	
5	4泳法：背泳ぎ(1)	チーム練習：キック、プル、呼吸法の練習、25m泳			○	
6	4泳法：背泳ぎ(2)	チーム練習：ターン練習と50m泳、レポート作成			○	
7	4泳法：平泳ぎ(1)	チーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳（伸びをとった9動作で）			○	
8	4泳法：平泳ぎ(2)	チーム練習：ターン練習と50m泳、レポート作成			○	
9	4泳法：バタフライ(1)	チーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳			○	
10	4泳法：バタフライ(2)	チーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳、レポート作成			○	
11	水中運動	歩く、走る、レジスタンストレーニングの基礎プログラム			○	
12	安全水泳(1)安全水泳の理論	安全な水泳指導法講義、水中運動プログラム			○	
13	安全水泳(2)子どもの安全水泳指導	安全な子どもの水泳指導法実技練習			○	
14	安全水泳(3)	子どもプール教室実習			○	
15	個別練習	10分間泳、100m個人メドレー			○	
教科書及び参考図書						
教科書：水泳指導の手引き（三訂版） 文部科学省 アイフィス						
準備学習・事後学習						
準備学習：教科書の種目別練習法の泳法の画像から動作のイメージをつかみ、泳法習得のポイントを理解して備えること。 事後学習：毎時の練習記録を授業ノートにまとめておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
学習ノートの内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う						
成績評価の方法・基準						
実技試験 70% レポート・平常点 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	200m個人メドレーが正しい泳法で泳げ、かつ10分間に400mを泳ぐ泳力があり、4泳法の指導ができる。					
A	100m個人メドレーが正しい泳法で速く泳げ、かつ10分間に375mを泳ぐ泳力があり、4泳法の指導ができる。					
B	100m個人メドレーが正しい泳法で泳げ、得意な泳法の指導ができる。					
C	4泳法が泳げ、得意な泳法の指導ができる。。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	水泳2 [Advanced Swimming]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実技・ アクティブ・ラーニング	太田 あや子 ・ 高橋 季絵			S-S5098		
この授業に関係する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの四泳法の指導法と水中運動指導の指導法を学び、健康づくりや幼児や小学生の安全な水泳指導法を身につける。						
学習の到達目標						
保健体育や授業や水泳教室運営が可能となるように各泳法の段階的指導法を理解し、指導計画、実践、点検し、改善する能力を修得し実践できる。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	ガイダンス	個人カード作成、能力判定表の作成			○	
2	プール清掃	プール清掃をとおして、プール管理の方法を実践的に学ぶ			○	
3	指導法	指導案の作成			○	
4	模擬授業：クロール	キック、プル、息継ぎの個別指導法と泳法練習			○	
5	模擬授業：背泳ぎ	キック、プル、呼吸法の個別指導法と泳法練習			○	
6	模擬授業：平泳ぎ	キック、プル、呼吸法の個別指導法と泳法練習			○	
7	模擬授業：バタフライ	キック、プル、息継ぎの個別指導法と泳法練習			○	
8	模擬授業のまとめ	画像による模擬授業の指導振り返りとレポート作成			○	
9	実技のまとめ	泳法テスト、100m個人メドレー、10分間泳			○	
10	指導実習（1）東松山市幼児水泳教室（4歳児）	水泳指導実習			○	
11	指導実習（2）東松山市幼児水泳教室（5歳児）	水泳指導実習			○	
12	指導実習（3）吉見町夏休みプール教室（幼児）	水泳指導実習			○	
13	指導実習（4）吉見町夏休みプール教室（小学校低学年）	水泳指導実習			○	
14	指導実習（5）吉見町夏休みプール教室（小学校中学年）	水泳指導実習			○	
15	指導実習（6）吉見町夏休みプール教室（小学校高学年、カヌー教室）	水泳指導実習、カヌー操船指導			○	
教科書及び参考図書						
教科書：水泳指導の手引き（三訂版） 文部科学省 アイフイス						
準備学習・事後学習						
準備学習：テキストの泳法指導法に目を通して、指導段階を理解しておくこと。 事後学習：毎時の授業内容を学習ノートにまとめておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
学習ノートの内容をふまえた課題解決に向けた指導助言を行う						
成績評価の方法・基準						
実技試験 40% 指導レポート 40% 平常点 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	200m個人メドレーが正しい泳法で泳げ、かつ10分間に400mを泳ぐ泳力があり、高い水泳指導能力がある。					
A	100m個人メドレーが正しい泳法で速く泳げ、かつ10分間に375mを泳ぐ泳力があり、高い水泳指導能力がある。					
B	100m個人メドレーが正しい泳法で泳げ、水泳指導能力がある。					
C	4泳法が泳げ、水泳指導ができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	球技1 (バレーボール) [Basic Volleyball]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実技・ アクティブ・ラーニング	杉山 仁志			S-S4099		
この授業に関係する資格						
教員免許 (中学校2種・保健体育)						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識			健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得			実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		○	社会に貢献できる実践力		
授業の目的と概要						
バレーボールの基本的技術 (オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・サーブ・スパイク) を習得し、ゲームを楽しむことが出来る様にする。						
学習の到達目標						
バレーボールの特性にふれ、基本的な技能を身につけることを目標とする。						
回	授業内容		キーワード			AL
1	授業展開についての説明 評価についての説明		オリエンテーション			
2	オーバーハンドパス・アンダーハンドパスの習得		基礎技術 パス			○
3	オーバーハンドパス・アンダーハンドパスの習得		基礎技術 パス			○
4	対人パスからレシーブ技術の習得		基礎技術 レシーブ			○
5	複数人でのレシーブ技術の習得		基礎技術 レシーブ 連携			○
6	スパイクの技術習得		基礎技術 スパイク			○
7	パス及びレシーブからのスパイク技術の習得		基礎技術 スパイク 連携			○
8	サーブの技術習得		基礎技術 サーブ			○
9	サーブからのレシーブ技術習得		基礎技術 サーブ レシーブ			○
10	複数人でのサーブレシーブからの攻撃展開		基礎技術 サブレシーブ 連携			○
11	ゲームを行う際の基本的なルール解説		連携技術 ゲーム ルール			○
12	6人制バレーボールのゲーム		連携技術 ゲーム			○
13	6人制バレーボールのゲーム		連携技術 ゲーム			○
14	6人制バレーボールのゲーム		連携技術 ゲーム			○
15	まとめ		技術の確認			
教科書及び参考図書						
参考図書：バレーボールの学習指導 小鹿野友平、朽堀申二 著 (不味堂出版) ルールブック (財) 日本バレーボール協会						
準備学習・事後学習						
準備学習：楽しくゲームが行えるようにルールブック等を参照し、理解しておく。 事後学習：技術習得が不十分な場合には、時間外に個別で練習を行い、習得に心がける。						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
技術習得状況を授業の初めに確認する。						
成績評価の方法・基準						
実技試験 (オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・レシーブ・スパイク) 80% 授業への取り組み態度 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	実技試験 (オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・レシーブ・スパイク) すべての技術を習得している。					
A	実技試験 (オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・レシーブ・スパイク) のうち3種目の技術を習得している。					
B	実技試験 (オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・レシーブ・スパイク) のうち2種目の技術を習得し、平常点も良好である。					
C	実技試験 (オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・レシーブ・スパイク) のうち2種目の技術を習得している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	球技2 (バレーボール) [Advanced Volleyball]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実技・ アクティブ・ラーニング	杉山 仁志			S-S5100		
この授業に関係する資格						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
バレーボール指導に必要な技術を習得し、指導プログラムを作成する。指導プログラムに則って指導を実践する						
学習の到達目標						
バレーボールの基本技術を確認し、指導するために必要な技術と知識を習得する。 バレーボールの基本技術を活かし、練習プログラムの作成方法を習得する。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	授業展開の方法及び評価方法について説明					
2	バレーボール指導技術を習得する。(サーブ)	指導法	サーブ	○		
3	バレーボール指導技術を習得する。(ディグ)	指導法	ディグ	○		
4	バレーボール指導技術を習得する。(スパイク)	指導法	スパイク	○		
5	バレーボール指導技術を習得する。(連携)	指導法	連携	○		
6	バレーボール指導を想定し、練習プログラムの作成方法を習得する	指導法	練習プログラム	○		
7~14	バレーボール指導に必要なプログラムを各自で作成し、そのプログラムに則って、展開する	指導法	練習プログラム 作成 実践	○		
15	まとめ・レポート作成					
教科書及び参考図書						
参考図書：バレーボール指導教本 (財) 日本バレーボール協会編 大修館						
準備学習・事後学習						
準備学習：事前にバレーボールの指導書を熟読し理解をして授業に取り組む。 事後学習：自分が楽しむだけでなく、指導することを考え技術の習得、ルールの理解に励む。						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
授業の初めに技術習得状況の確認を行う。						
成績評価の方法・基準						
指導プログラムの内容と指導内容 (レポート含む) 80% 授業への取り組み態度 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	指導プログラムに添って指導内容が十分に行え、レポートが良くまとめられている。					
A	指導プログラムに添って指導内容が行え、レポートが良くまとめられている。					
B	指導プログラムに添って指導内容が十分に行え、レポートを提出している。					
C	指導プログラムに添って指導内容が行え、レポートを提出している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	球技1 (ハンドボール) [Basic Handball]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実技・ アクティブ・ラーニング	高橋 琴美			S-S4099		
この授業に関係する資格						
教員免許 (中学校2種・保健体育)						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
<p>本授業ではハンドボールの基本的な技術を修得し、歴史・ルールを理解することで、よりハンドボールというスポーツへの理解を深めることを目的とする。また、授業を通して各チーム内での公正性・協調性を養い、マナー等を身につけることによって、指導者としての態度を育てる。</p>						
学習の到達目標						
ハンドボールへの理解を深め、ハンドボールを楽しむこと、そしてハンドボールの基本的な技術を修得することを目標とする。						
回	授業内容		キーワード		AL	
1	授業展開・評価についての説明、授業における注意事項、ルール説明とハンドボールの歴史		ルール			
2	パス・キャッチ技術の修得、動きの中でのパス・キャッチ技術の修得 (ハーフコート→オールコート)		パス、キャッチ		○	
3	動きの中でのパス・キャッチ技術の修得 (練習方法) 基本的なシュート技術の修得① (ステップシュート・ジャンプシュート)		ステップシュート、ジャンプシュート		○	
4	基本的なシュート技術の修得② (シュートコースを意識する)		シュートコース		○	
5	各ポジションにおけるシュート技術の修得、ゴールキーパー技術の解説		ポジション別シュート、ゴールキーパー		○	
6	速攻2:1での攻撃 (縦1/2コート) と防御		速攻、数的有利		○	
7	速攻1:0、1:1での動きの修得、パスカット		パスカット、速攻		○	
8	遅攻3:2 (パラレルプレー) での攻撃と防御		パラレルプレー、数的有利、防御		○	
9	遅攻3:2 (クロスプレー) での攻撃と防御		クロスプレー、数的有利、防御		○	
10	遅攻4:3 (ポストプレー) での攻撃と防御		ポストプレー、数的有利、防御		○	
11	簡易ゲーム (ハーフコート) における個人技術の修得とルール解説と審判法		個人技術、ルール確認、審判法		○	
12	ゲームにおけるグループ戦術の修得と審判法の修得		グループ戦術、審判法		○	
13	ゲームにおけるグループ戦術の修得と審判法の修得とスコアのつけ方		グループ戦術、審判法、スコアのつけ方		○	
14	ゲームにおけるグループ戦術の修得と審判法の修得とスコアの活用法		グループ戦術、審判法、スコアの活用		○	
15	全体の総括		まとめ			
教科書及び参考図書						
参考図書: ハンドボール指導教本 (大修館書店)、ハンドボール競技規則						
準備学習・事後学習						
準備学習: ルールについて、競技規則や映像などで確認しておくこと。 事後学習: 授業で学んだことを振り返り、しっかりと身につけられるよう練習をしておくこと。						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、毎時間学んだ技術をどのくらい習得できているか確認し、コメントする。						
成績評価の方法・基準						
授業への取り組み 50% 実技試験 40% レポート 10%						
評価	成績評価別の到達度					
S	ハンドボールへの理解を深め、基本的技術・グループ戦術ともに十分に修得している。					
A	ハンドボールへの理解を深め、基本的技術・グループ戦術を修得している。					
B	ハンドボールへの理解を深め、基本的技術を概ね修得している。					
C	ハンドボールへの理解を深め、基本的技術のある程度修得している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	球技2 (ハンドボール)	[Advanced Handball]	1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実技 アクティブラーニング	高橋 琴美			S-S5100		
この授業に関する資格						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
球技1 (ハンドボール) で修得した技術、戦術をもとに授業を発展させ、さらに進んだ技術・戦術を修得することを目的とする。その中でグループでの取り組みを重視し、グループ活動を中心に授業を展開させていく。特に「指導法」を意識し、課題に対するグループでの発表等を通して、指導法を理解していく。						
学習の到達目標						
ハンドボールの課題に対する指導法を理解し、グループ戦術を修得することを目標とする。						
回	授業内容	キーワード	AL			
1	授業展開・評価についての説明 授業における注意事項とルール説明	ルール				
2	様々なパスの練習方法の解説 1:1 突破 (フェイント) の動きづくりと防御技術の修得	パス練習、フェイント動作、ディフェンス	○			
3	様々なシュートの練習方法の解説 遅攻 2:2→4:4 の攻撃と防御	シュート練習、グループでの攻撃と防御	○			
4	様々なディフェンスの練習方法の解説 速攻 2:2→4:4 の攻撃と防御	ディフェンス練習、速攻時のグループでの攻撃と防御	○			
5	与えられた課題に対するグループ発表 (指導案を作り、実際に指導する)	指導実践、ミニゲーム	○			
6	与えられた課題に対するグループ発表 (指導案を作り、実際に指導する)	指導実践、ミニゲーム	○			
7	与えられた課題に対するグループ発表 (指導案を作り、実際に指導する)	指導実践、ミニゲーム	○			
8	与えられた課題に対するグループ発表 (指導案を作り、実際に指導する)	指導実践、ミニゲーム	○			
9	与えられた課題に対するグループ発表 (指導案を作り、実際に指導する)	指導実践、ミニゲーム	○			
10	速攻での6:6の攻撃と防御 遅攻での6:6の攻撃と防御	チーム戦術	○			
11	各グループでの基本技術修得 ミニゲームにおける個人技術の修得	個人技術、グループ戦術	○			
12	ゲームにおけるチーム戦術の修得 審判法の解説	特別ルール、チーム戦術、審判法	○			
13	ゲームにおけるチーム戦術の修得 審判法の修得	特別ルール、チーム戦術、審判法	○			
14	ゲームにおけるチーム戦術の修得 審判法の修得	チーム戦術、審判法	○			
15	全体の総括	まとめ				
教科書及び参考図書						
参考図書: ハンドボール指導教本 (大修館書店)、ハンドボール競技規則、誰でも教えられる! ハンドボール (梓書院)						
準備学習・事後学習						
準備学習: 毎時間、指導法についてのレポートを提出するため、課題に対する教材研究をしておくこと。 事後学習: 授業で学んだことを振り返り、しっかりと身につけられるよう練習をしておくこと。						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、提出されたレポートにコメントを入れ返却する。						
成績評価の方法・基準						
グループ発表 40% 平常点 (授業への取り組み、態度) 30% レポート 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	ハンドボールの課題に対する指導法を理解、実践することができ、修得したグループ戦術・チーム戦術を状況に合わせて選択・実践できる。					
A	ハンドボールの課題に対する指導法を理解し、修得したグループ戦術を状況に合わせて選択・実践でき、チーム戦術を修得している。					
B	ハンドボールの課題に対する指導法を理解し、修得したグループ戦術を状況に合わせて選択・実践できる。					
C	ハンドボールの課題に対する指導法を理解し、基本的なグループ戦術を修得している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	球技 1 (バスケットボール) [Basic Basketball]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実技・ アクティブ・ラーニング	川井 明			S-S4099		
この授業に関係する資格						
教員免許状 (中学校 2 種・保健体育)						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
<p>授業のテーマに「たのしい授業！うれしい上達！」を掲げ、ゲームを中心に行う。バスケットボール競技の初心者から、専門的にプレーをした経験者まで行うことができる授業である。競技経験や性別、年齢、国籍を問わず、すべての受講生が競技を楽しめるような環境づくりを意識しながら行う姿勢が求められる。また、基本的な競技規則や、体調の管理等、事前に準備・学習ができる学生を歓迎する。※運動に適した服装で受講すること (ジーンズなどでの参加は認めない)。運動靴で構わないが、怪我の予防の為、素足は不可とする。</p>						
学習の到達目標						
<p>バスケットボール競技の基本的なスキルである、シュート・パス・ドリブルを習得し、クラスメイトと協力しながら作戦や戦術を考えて、ゲームを楽しむことが出来るようになる。</p>						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	オリエンテーション	コロナ対策、授業の進め方、評価に関する説明 チーム編成				
2	レイアップシュート 1	アンダーハンドのレイアップ			○	
3	レイアップシュート 2	オーバーハンドのレイアップ、レイバック			○	
4	セットシュート 1	セットシュートの基本 (ボールの持ち方、姿勢、膝の使い方)			○	
5	セットシュート 2	セットシュートの基本 (ゴール下のシュート、フリースロー)			○	
6	パス 1	チェストパス、サイドハンドパス			○	
7	パス 2	スクエアパス			○	
8	ドリブル 1	ボールハンドリング、ドリブルの基本			○	
9	ドリブル 2	ボールハンドリング、状況に応じたドリブル			○	
10	速攻 1	ツーマン速攻			○	
11	速攻 2	スリーマン速攻			○	
12	速攻 3	2 対 1、3 対 2 のアウトナンバーでの攻防			○	
13	コーディネーショントレーニング	バスケットボールにおけるコーディネーショントレーニングの紹介			○	
14	基礎技能の確認	シュート、パス、ドリブル等、基礎技能の確認、スキルテスト			○	
15	まとめ	バスケットボール競技特性の確認			○	
教科書及び参考図書						
参考図書：バスケットボール指導教本 日本バスケットボール協会 大修館書店						
準備学習・事後学習						
<p>準備学習：バスケットボールに関する情報を新聞やニュース・雑誌・インターネットや書籍等を通じて収集すること。 事後学習：授業中の内容を復習すること。 ※授業時間外に、バスケットボールに関するさまざまな問題に関心を持つことや、自身が日常的に運動やスポーツに親しむ習慣が授業の助けとなる。</p>						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
授業中において、個人やグループ、チームに対して、随時適切なフィードバックを行う。						
成績評価の方法・基準						
運動技能 60% 授業態度 20% スキルテスト 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	基本的な技能を十分に身に付け、授業内でリーダーシップを発揮している。					
A	基本的な技能をおおむね身に付け、意欲的に取り組むことができる。					
B	基本的な技能をある程度身に付け、ゲームに活かすことができる。					
C	基本的な技能を理解し、ある程度身に付けている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	球技2 (バスケットボール) [Advanced Basketball]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実技・ アクティブ・ラーニング	川井 明			S-S5100		
この授業に関係する資格						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		○	健康生活の知識と技術の修得		
○	健康管理の指導技術の修得		○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		○	社会に貢献できる実践力		
授業の目的と概要						
<p>授業の前半は指導方法の実践、後半はゲームを行う。グループでの話し合いにより、与えられた課題に対する練習メニューを決定し、実際に指導することにより、指導方法に対する理解を深める。競技経験や性別、年齢、国籍を問わず、すべての受講生が競技を楽しめるような環境づくりを意識しながら行う姿勢が求められる。また、基本的な競技規則や、体調の管理等、事前に準備・学習ができる学生を歓迎する。※運動に適した服装で受講すること (ジーンズなどでの参加は認めない)。運動靴で構わないが、怪我の予防の為、素足は不可とする。※球技1 (バスケットボール) を履修して「A」評価以上を得ていることが望ましい。</p>						
学習の到達目標						
<p>球技1 (バスケットボール) で習得した基本的な個人の技術・戦術を確認し、さらにグループやチーム戦術の応用へと発展させていくことを目指す。また、グループごとに課題を決定し、バスケットボールの指導を実践していく。バスケットボールを習慣的にプレーすることで、スポーツ活動に楽しみを見出し、生き生きとした学生生活が過ごせることや、更には自身の QOL のための生涯スポーツに発展することを目標とする。</p>						
回	授業内容	キーワード	AL			
1	ガイダンス	授業の進め方 評価に関する説明				
2	基礎技能の確認	球技1 で学んだ内容のふりかえり	○			
3	1対1	オフェンスの考え方 アウトサイド インサイド	○			
4	1対1	ディフェンスの考え方 アウトサイド インサイド	○			
5	チームオフェンス1	ハーフコートバスケットにおける基本的なポジショニング	○			
6	チームオフェンス2	パス&ゴー	○			
7	チームオフェンス3	スクリーンプレイを用いた攻防	○			
8	ファストブレイク1	ツーマン	○			
9	ファストブレイク2	状況に応じたスリーメンの作り方 アーリーオフェンス	○			
10	チームディフェンス1	シェルディフェンス	○			
11	チームディフェンス2	ヘルプディフェンス	○			
12	チームディフェンス3	ゾーンディフェンス	○			
13	模擬授業1	上記の内容をふまえた模擬授業の展開1	○			
14	模擬授業2	上記の内容をふまえた模擬授業の展開2	○			
15	模擬授業3	上記の内容をふまえた模擬授業の展開3	○			
教科書及び参考図書						
参考図書：バスケットボール指導教本 日本バスケットボール協会 大修館書店						
準備学習・事後学習						
<p>準備学習：バスケットボールに関する情報を新聞やニュース・雑誌・インターネットや書籍等を通じて収集すること。 事後学習：授業中の内容を復習すること。 ※授業時間外に、バスケットボールに関するさまざまな問題に関心を持つことや自身が日常的に運動やスポーツに親しむ習慣が授業の助けとなる。</p>						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
授業中において、個人やグループ、チームに対して、随時適切なフィードバックを行う。						
成績評価の方法・基準						
理解・技能 70% 意欲・態度 30%						
特に、実技試験は行わないが、授業中の積極的な態度や模擬授業の内容について、総合的に評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	仲間と連携した動きを十分に理解し実践することが出来る。また、授業内でリーダーシップを十分に発揮できる。					
A	仲間と連携した動きを十分に理解し実践することが出来る。					
B	仲間と連携した動きをよく理解し実践することが出来る。					
C	仲間と連携した動きをおおむね理解し実践することが出来る。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	球技1 (サッカー) [Basic Soccer]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実技・ アクティブ・ラーニング	田本 育代			S-S4099		
この授業に関係する資格						
教員免許 (中学校2種・保健体育)						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
世界でもっとも愛され親しまれているサッカー (フットボール) を知り、仲間と共にプレーし、サッカー (フットボール) の楽しみを実践できることを目的とする。						
学習の到達目標						
サッカー (フットボール) を楽しむことにより、その魅力に迫るとともに基礎技術と個人戦術の習得や歴史・ルールの理解を通してサッカーに対する造詣を深め、修習した技術と戦術をゲームに活かすことを目標とする。						
回	授業内容		キーワード	AL		
1	ガイダンスとアセスメントゲーム		ガイダンス、ゲーム			
2	スキル：様々なドリブル、ミニゲーム		ドリブル	○		
3	スキル：様々なコントロール、ミニゲーム		コントロール	○		
4	スキル：様々なキック、ミニゲーム		キック	○		
5	スキル：6種類のフェイントの習得、ミニゲーム		フェイント	○		
6	スキル：スクリーンと6種類のターン技術の習得、ミニゲーム		スクリーン、ターン	○		
7	テクニク：2対1、3対1、ミニゲーム		ポゼッション	○		
8	テクニク：3対1、4対2、ミニゲーム		ポゼッション	○		
9	テクニク：5対3、5対5、ミニゲーム		ポゼッション	○		
10	テクニク：11対11の試合、リーグ戦		マッチゲーム	○		
11	講義：サッカーの歴史		歴史	○		
12	講義：競技規則①		競技規則	○		
13	講義：競技規則②		競技規則	○		
14	講義：システムの変遷		システム	○		
15	講義：振り返りとまとめ		まとめ			
教科書及び参考図書						
参考図書：サッカー指導の教科書 (日本サッカー協会)						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 1.5 時間) : 個人練習。最低限のルールについては覚えておくこと。						
事後学習 (週 1.5 時間) : 授業で学んだことを振り返ること。						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして理解度確認テストの解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
実技テスト 50%、受講意欲 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	サッカーへの造詣を深めたうえで、修習した技術と戦術をゲームで十分に活かすことができる。					
A	サッカーへの造詣を深めたうえで、修習した技術と戦術をゲームで活かすことができる。					
B	サッカーへの造詣を深めたうえで、基礎的な技術と戦術を習得することができる。					
C	サッカーの基礎的な技術を習得することができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]			単位	N	S	M
専門教育科目	武道（柔道） [Judo]			1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング			
実技（集中）・ アクティブ・ラーニング	竹澤 稔裕・杉山 仁志・川井 明			S-S4101			
この授業に関係する資格							
教員免許（中学校2種・保健体育）							
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連							
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）			○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識			○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得				実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識				社会に貢献できる実践力		
授業の目的と概要							
柔道の特性である精力善用・自他共栄とは何かを知り、身体への影響・精神への影響及び対人的スポーツとしての柔道の内容を理解する。技能としては、投げ技・固め技及び受け身の基本動作を習得する。							
学習の到達目標							
中学校教員として、授業を行う際の基本的な技術と指導方法を身に付けることを目標とする。							
回	授業内容			キーワード	AL		
1	オリエンテーション、柔道衣の取扱い方、柔道の歴史と特性についての知識を深める、柔道学習におけるリスクマネジメントについて			武道・柔道	○		
2	礼法と受け身、崩しと体捌きなどの基本動作の学習、受け身については、後ろ受け身の学習と、受け身の指導原則について			礼法・受け身	○		
3	横受け身、投げ技の基本動作の原理と指導の留意点			投げ技	○		
4	膝車、支え釣り込み足の学習と指導方法、特に段階別指導法について			投げ技	○		
5	大腰、体落としの学習と指導方法、特に投げ技の指導の原理と原則			投げ技	○		
6	固め技の基本動作、袈裟固めの学習【抑え方、逃れ方】と指導法			固め技	○		
7	横四方固めの学習【抑え方、逃れ方】と、上四方固めの学習【抑え方、逃れ方】と指導法			固め技	○		
8	固め技の攻撃・防御のための補強運動の理解、縦四方固め、肩固めの学習【抑え方、逃れ方】と指導法			固め技	○		
9	一本背負い投げ、背負い投げの学習と指導法、かかり練習、約束練習、自由練習の考え方と指導法			背負い技	○		
10	大外刈り、大内刈り、小内刈りの学習と指導法			刈り技	○		
11	既習の投げ技の連絡技と変化技。既習の抑え技の連絡技			連絡技	○		
12	大腰、浮腰の学習と指導方法、試合練習の考え方			腰技	○		
13	裸絞、送り襟絞、片羽絞の学習と指導法、様々な試合練習の考え方			絞り技	○		
14	柔道の特性に基づく学習指導と評価について【授業実施に向けて】			柔道実践	○		
15	まとめ				○		
教科書及び参考図書							
参考図書：中学校学習指導要領解説 保健体育編、Q&A 中・高校柔道の学習指導 大修館書店							
準備学習・事後学習							
準備学習：寒い中での活動になるので、体調管理を整え、実技に取り組めるよう努める。 事後学習：運動量が多いので、家でもストレッチ等を行うなど、疲れを残さないように努める。							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法							
技の確認におけるフィードバックはその都度口頭で行い、必ず理解してから次のステップに進むようにする。							
成績評価の方法・基準							
実技試験 50% 受講態度 50%							
評価	成績評価別の到達度						
S	柔道の技術を十分に習得している。						
A	柔道の技術を習得している。						
B	柔道の基本的な技術のある程度習得している。						
C	柔道の基本的な技術を最低限習得している。						

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	ダンス・表現運動 [Beginning Dance Exercise]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実技・ アクティブ・ラーニング	岡本 恵子		実	S-S4102		
この授業に関する資格						
教員免許（中学校2種・保健体育）・子ども身体運動発達指導士						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
ステップ・フリーズ練習や、いろいろな課題による表現、フォークダンス、キッズダンス、日本民踊、創作ダンスなどを学び、人間の表現についての理解を深めることを目的とする。						
学習の到達目標						
自らの体験を通して踊る楽しさを知り、ダンス学習に積極的に取り組むことができる。表現について深く理解し、お互いの個性や表現を認め合い、ダンスを通じた表現ができる。						
回	授業内容	キーワード	AL			
1	ガイダンス（授業概要の説明）	ダンスの基礎知識 レポート課題				
2	ステップ・フリーズ練習 いろいろな課題による表現 1	布を使って表現 シェードとミラー 即興	○			
3	フォークダンス 1	シングルサークルのダンス マイムマイム	○			
4	フォークダンス 2	ダブルサークルのダンス	○			
5	キッズダンス いろいろな課題による表現 2	英語の歌	○			
6	日本民踊 1	炭坑節 春駒	○			
7	日本民踊 2	花笠音頭	○			
8	アジアのダンス	中国 採茶舞曲	○			
9	いろいろな課題による表現 3 グループ創作 1	花 曲選び イメージ	○			
10	いろいろな課題による表現 4 グループ創作 2	大きな布を使って表現 テーマ モチーフ	○			
11	グループ創作 3	全体の流れを考える モチーフからの発展	○			
12	グループ創作 4	音楽に合わせて	○			
13	グループ創作 5	1つの作品にまとめる	○			
14	グループ創作作品発表会	ビデオ撮影 レポート提出	○			
15	全体のまとめ	グループ創作作品鑑賞				
教科書及び参考図書						
参考図書：「ダンスの教科書」（成美堂出版） *授業中に必要に応じて、教材を配布する。						
準備学習・事後学習						
準備学習：日頃から身体表現・ダンスに関心を持ち、関連した番組や映像・舞台などを鑑賞し、積極的にふれるよう心がけること。 事後学習：授業内容の復習と、グループ創作作品の個人練習・グループ練習						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
毎回の授業の自己評価、レポートにコメントを入れ、返却する。						
成績評価の方法・基準						
受講態度 60%、実技試験（創作作品） 30%、レポート 10% として総合的に評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	ダンス学習と創作に積極的に取り組むことができ、表現について深く理解している。					
A	ダンス学習に楽しく取り組み、ダンスを通じた表現ができる。					
B	ダンス学習に概ね取り組むことができる。					
C	ダンスの基礎を最低限身につけている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	グループエクササイズ実習 [Group Exercise]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実習・ アクティブ・ラーニング	矢島 しのぶ			NS-S5137		
この授業に関係する資格						
GFI						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得			実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識			社会に貢献できる実践力		
授業の目的と概要						
グループエクササイズについての理解を深め、指導者としての役割を学び、実際の指導法について学習する。また、骨格筋に関する基礎知識を身につけ、安全で効果的なレジスタンスエクササイズ、ストレッチングエクササイズの指導ができるようにする。						
学習の到達目標						
グループエクササイズ指導に関する基礎知識を身につけ、指導者としての知識・動きを習得することを目標とする。						
回	授業内容		キーワード			AL
1	ガイダンスとグループエクササイズ指導者の役割					
2	骨格筋に関する基礎知識		骨格筋、関節			○
3	実技 レジスタンスエクササイズの基礎知識		コンセントリック、エキセントリック			○
4	" 基本の動き		レジスタンス、筋力、筋持久力			○
5	" プログラミング		自重負荷法			○
6	" 指導法		動きの見本、指示			○
7	ストレッチングエクササイズの基礎知識		ストレッチング、柔軟性			○
8	" 基本の動き		スタティックストレッチング			○
9	" プログラミング		準備姿勢、伸長姿勢			○
10	" 指導法		指導者の向き			○
11	グループエクササイズ指導の準備		目的、事前準備			○
12	グループエクササイズ指導の実際		対話、立ち位置			○
13	指導者の動き		明確な動き、調和			○
14	グループエクササイズのクラス運営		ホスピタリティ、動機づけ			○
15	まとめ・振り返り					
教科書及び参考図書						
参考図書：グループエクササイズ指導理論 (公社)日本フィットネス協会 レジスタンスエクササイズ指導理論 (公社)日本フィットネス協会 ストレッチングエクササイズ指導理論 (公社)日本フィットネス協会						
準備学習・事後学習						
準備学習：授業で学んだことを振り返り、体調を整えて授業に備えること。 事後学習：積極的に指導実践に参加できるよう、練習しておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、レポート・課題を回収後、コメントを入れて返却する。						
成績評価の方法・基準						
指導実践及びレポート課題(実技試験)50% 筆記試験 25% 平常点（授業への取り組み・態度）25%						
評価	成績評価別の到達度					
S	グループエクササイズ指導に関する知識を十分に活かし、対象者に配慮した安全で効果的な運動指導が行える。					
A	グループエクササイズ指導に関する知識を理解し、安全で効果的な運動指導が行える。					
B	グループエクササイズ指導に関する知識を理解し、適切な運動指導ができる。					
C	グループエクササイズ指導に関する基礎的な知識を身につけ、指導者として見本となる動きができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	エアロビクス1 [Basic Aerobics]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実技・ アクティブ・ラーニング	矢島 しのぶ			NSM-S4103		
この授業に関する資格						
健康運動実践指導者、GFI(ADI・ADBI)、スポーツインストラクター						
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連						
○	豊かな人間性(広い視野、深い思考力)		○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得			実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識			社会に貢献できる実践力		
授業の目的と概要						
フィットネスについての基本的概念とエアロビクスについての基礎知識を学ぶ。特にエアロビクスダンスについて取り上げ、今までの歴史的背景と現在の状況を理解した上で、実際に指導者になっていくためには何が必要であるかを演習形式で学ぶ。グループで実習課題に取り組みながら指導者として必要な最低限の知識と実技を身につける。						
学習の到達目標						
講義と実技を合わせた演習形式で行い、必ず演習ノートを提出する。単元毎に目標を明確にし、積み上げ学習とする。実技では、エアロビクスダンスの様々なプログラムを経験し、正確に手本となる動作を身につける。基本的プログラムを理解して覚え、指導(キューイング)できるようにする。						
回	授業内容		キーワード			AL
1	ガイダンスと運動実施の準備					
2	実技	エアロビクス基礎 1	アライメント、模倣する			○
3		" 2	ヘルカーブ、目標心拍数			○
4		" 3	健康・体力づくり、グループエクササイズ			○
5		" 4	ローインパクト、ハイインパクト			○
6	エアロビクスダンス基本	基本1	ウォームアップ、目的、強度			○
7		" 基本2	メインエクササイズ、心肺持久力			○
8		" 基本3	クールダウン、ストレッチング			○
9		" 応用1	ステップシート、キューイング			○
10		" 応用2	手本となる動作、指示			○
11	エアロビクスダンスグループ指導実習	1	構成、コンビネーション			○
12		" 2	展開、コリオグラフィー			○
13		" 3	完成、フォーメーション			○
14		" 4	発表、評価			○
15	まとめ・振り返り					
教科書及び参考図書						
教科書：エアロビクスダンスエクササイズ指導理論(公社)日本フィットネス協会 参考図書：エアロビクスダンス基礎理論ハンドブック 池田美知子等(有)教育インフォメーションサービス						
準備学習・事後学習						
準備学習：授業で学んだことを日常生活に取り入れ、体調を整えて授業に備えること。 事後学習：授業内容を振り返り、テキスト等で確認しておくこと。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、レポート・課題を回収後、コメントを入れて返却する。						
成績評価の方法・基準						
平常点(授業への取り組み・態度)25% 演習ノート25% 実技試験25% 筆記試験25%						
評価	成績評価別の到達度					
S	指導者として必要な知識・動作を身につけ、参加者を観察しながら基本プログラムを指導することができる。					
A	指導者として必要な知識・動作を身につけ、基本プログラムを指導することができる。					
B	指導者として必要な知識・動作を身につけている。					
C	指導者として必要な最低限の知識・動作を身につけている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	エアロビクス2 [Advanced Aerobics]		1			
授業形態	担当教員名				ナンバリング	
実技・ アクティブ・ラーニング	矢島 しのぶ			NS-S5104		
この授業に関係する資格						
GFI (ADI)						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得			実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		○	社会に貢献できる実践力		
授業の目的と概要						
現在フィットネスの現場で要求される「グループエクササイズインストラクター」として、最低限必要な知識及び技術の獲得を目指す。さらに目的に合ったプログラム作成、安全性を考慮した、明確で分かりやすく楽しい指導を目標に実技技能をステップアップしていく。						
学習の到達目標						
講義及び実技を合わせた演習形式で行い、必ず演習ノートを提出する。単元毎に目標を明確にし、積み上げ学習とする。実技では、エアロビクダンスの様々なプログラムを経験し、正確に手本となる動作を身につける。自分で目的に合った基本的なプログラムを組み立て、指導できるようにする。						
回	授業内容		キーワード			AL
1	ガイダンス					
2	実技	基本プログラム 1	グループエクササイズ、フィットネス			○
3		" 2	強度、時間、頻度			○
4		応用プログラム 1	関節可動域、調和			○
5		" 2	学習過程、レイアウト、アドオン			○
6		指導法 1	観察、修正、動機づけ			○
7		" 2	キューイング、説明、ポイント			○
8		プログラム指導 1	基本構成、動的ストレッチング			○
9		" 2	アップ、キープ、ダウン			○
10		" 3	指導者の向き、対面、背面			○
11		" 4	立ち位置、静的ストレッチング			○
12		エアロビクダンスプログラム指導実践 1	構成、プログラミング			○
13		" 2	展開、変化要素			○
14		" 3	発展、トータルフィットネスプログラム			○
15	まとめ・振り返り					
教科書及び参考図書						
教科書：エアロビクダンスエクササイズ指導理論 (公社)日本フィットネス協会 フィットネス基礎理論 (公社)日本フィットネス協会						
準備学習・事後学習						
準備学習：指導者になる意識を持って、明るく元気に休まずに出席すること。 事後学習：授業で学んだことを振り返り、指導法を実践する機会を持つこと。						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、レポート・課題を回収後、コメントを入れて返却する。						
成績評価の方法・基準						
平常点 (授業への取り組み・態度) 25% 演習ノート 25% 実技試験 25% レポート課題 25%						
評価	成績評価別の到達度					
S	グループエクササイズインストラクターとして、目的に合った運動プログラムを作成し、安全性に考慮した楽しい指導ができる。					
A	グループエクササイズインストラクターとして、安全性を考慮して楽しい指導ができる。					
B	グループエクササイズインストラクターとして、必要な知識・動作を身につけている。					
C	グループエクササイズインストラクターとして、必要な最低限の知識・動作を身につけている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	ゴルフ1 [Basic Golf]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実技・ アクティブ・ラーニング	江原 清浩		実	S-S4105		
この授業に関係する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）			健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識			社会に貢献できる実践力		
授業の目的と概要						
ゴルフの技術、ルール、マナーおよび安全への配慮の習得を目的に学習する。						
学習の到達目標						
ゴルフの基本的な知識・技能の習得を目標とする。						
回	授業内容	キーワード	AL			
1	ガイダンス	授業目標やスケジュール				
2	ゴルフの基礎知識 用具の取扱い、グリップの握り方	用具の取扱い、安全確保の留意点、グリップ				
3	基本技術 ① アドレスの習得	アドレス、スタンス	○			
4	基本技術 ② スイングの習得	スイング軸、スイング軌道	○			
5	基本技術 ③ 効率的な打撃の習得	ハーフウェイバック、トップ、切り返し、インパクト、フォロー	○			
6	アプローチショット	基本的なアプローチショット、ピッチショット	○			
7	アイアンの打ち方 ① クラブの特徴	番手別クラブの共通性と相違点	○			
8	アイアンの打ち方 ② 打球の打ち分け方	ドローボール、フェードボール	○			
9	アイアンの打ち方 ③ 傾斜での打撃	斜面、左足上がり、右足下がり	○			
10	ウッ드의打ち方 ① フェアウェイウッ드의打ち方	フェアウェイウッド	○			
11	ウッ드의打ち方 ② ドライバーの打ち方	ドライバー	○			
12	パッティング	パターの基礎的な知識、技術	○			
13	総合実践 ① ショートホールを利用した実践練習	コースのまわり方	○			
14	総合実践 ② ルールやマナー・エチケットの重要な確認	プレイする上でのルールやマナー	○			
15	まとめ	到達、目標達成の確認				
教科書及び参考図書						
参考図書：ゴルフ飛びの運動法則 川合武司著 青春出版社						
準備学習・事後学習						
事前学習：学習予定の内容を参考図書より学習しておく 事後学習：学習した内容を復習する						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
授業中に適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
技能 50% 受講態度・意欲 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	ゴルフの正しい知識・技術を十分に身につけている。					
A	ゴルフの正しい知識・技術を身につけている。					
B	ゴルフの基礎的な知識・技術を身につけている。					
C	ゴルフの基礎的な知識・技術を最低限身につけている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	ゴルフ2 [Intermediate Golf]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実技・ アクティブ・ラーニング	江原 清浩		国	S-S5106		
この授業に関係する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）			健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識			社会に貢献できる実践力		
授業の目的と概要						
本授業では、実際にゴルフコースを回れる能力を身に付けることを目的とする。						
学習の到達目標						
ゴルフコースを回ることができる正しい技術と、マナーとエチケットを身につけること目標に学習する。						
回	授業内容	キーワード	AL			
1	ガイダンス	授業目標、スケジュール				
2	ゴルフの基本確認	正しいグリップ、アドレス、スイング、ゴルフの危険性、				
3	基本スイング1 アイアンでの小さなスイング	小さいスイング、身体の使い方	○			
4	基本スイング2 アイアンでのハーフスイング	大きいスイング、身体の使い方	○			
5	パッティング	ショートパット、ロングパット	○			
6	基本スイング3 色々なアイアンでのスイング	クラブの特性、チップショットとピッチショット	○			
7	基本スイングの完成へ向けて1 アイアン編	スイング軌道、インパクト	○			
8	プレショットルーティンの習得	プレショットルーティン	○			
9	基本スイングの完成へ向けて2 ウッド編	ウッズのクラブ特性	○			
10	応用技能への発展とドリル	ラフからのショット、傾斜地でのショット	○			
11	中庭特設ショートホールを利用した実践練習でのルール解説	アウトオブバウンス、ペナルティ	○			
12	総合実践1 技能を統合する	長所・弱点の自己理解	○			
13	総合実践2 実践練習	実践練習	○			
14	総合実践2 効果的なラウンドの仕方	実践練習、ルールやマナー・エチケット	○			
15	まとめ	上達と目標達成の確認				
教科書及び参考図書						
参考図書：ゴルフ飛びの運動法則 川合武司著 青春出版社、ゴルフ“実戦の壁”を打ち破る運動法則 川合武司著 青春出版社、ゴルフもっと飛ばす運動法則 川合武司著 青春出版社、水巻善典・全美貞 ゴルフスイングの真実～これがわかればうまくなる～DVD 全3枚セット NHK エンタープライズ						
準備学習・事後学習						
準備学習：学習予定の内容を参考図書より学習しておく 事後学習：学習した内容を復習する						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
授業中適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
技能 50% 受講態度・意欲 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	ゴルフコースを回ることができる正しい技術と、マナーとエチケットを十分に身につけている。					
A	ゴルフコースを回ることができる正しい技術と、マナーとエチケットを身につけている。					
B	ゴルフコースを回ることができる基礎的な技術と、マナーとエチケットを身につけている。					
C	ゴルフコースを回ることができる基礎的な技術と、マナーとエチケットを最低限身につけている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	サッカー・フットサル [Soccer・Futsal]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実技・ アクティブ・ラーニング	田本 育代			S-S4108		
この授業に関係する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
フットサルを楽しむことによりその魅力に迫り、仲間と共にプレーし、フットサルの理解を深めることを目的とする。						
学習の到達目標						
フットサルに特有な技術の獲得とルールの理解を目標とする。2年次の「公認C級コーチ養成講習」に備え、指導される側を体験してコーチングについて理解することを目標とする。						
回	授業内容		キーワード	AL		
1	ガイダンスとアセスメントゲーム		ガイダンス、ゲーム			
2	スキル：様々なドリブル、ゲーム		ドリブル	○		
3	スキル：様々なコントロール、ゲーム		コントロール	○		
4	スキル：キック・シュート、ゲーム		キック、シュート	○		
5	テクニク：攻撃①、ゲーム		運動	○		
6	テクニク：攻撃②、ゲーム		運動	○		
7	テクニク：守備①、ゲーム		ポジション	○		
8	テクニク：守備②、ゲーム		ポジション	○		
9	テクニク：リスタート、サインプレー		ポジション	○		
10	実技まとめ・試合①		マッチゲーム	○		
11	試合②		マッチゲーム	○		
12	様々なゲーム		ゲーム	○		
13	講義：競技規則		競技規則			
14	講義：競技規則		競技規則			
15	講義：振り返りとまとめ		まとめ			
教科書及び参考図書						
参考図書：フットサルのルール（日本サッカー協会編）						
準備学習・事後学習						
準備学習：個人練習。最低限のルールについては覚えておくこと。 事後学習：授業で学んだことを振り返ること。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして理解度確認テストに解答の解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
実技点 50%、受講意欲 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	サッカーとフットサルのルールや技術・戦術の相違を応用でき、指導実践においてもディスカッションでの発言が活発である。					
A	サッカーとフットサルのルールや技術・戦術の相違を応用してプレーし、指導実践においてもディスカッションができる。					
B	サッカーとフットサルのルールや技術・戦術の相違を理解し、積極的にプレーできる。					
C	サッカーとフットサルのルールや技術・戦術の相違に触れ、実践することができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	上級サッカー [Advanced Soccer]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実技・ アクティブ・ラーニング	齋藤 登		実	S-S5109		
この授業に関係する資格						
(公財) 日本サッカー協会公認C級コーチ						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)			健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識			健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		○	社会に貢献できる実践力		
授業の目的と概要						
(公財) 日本サッカー協会が定める「公認C級コーチ養成講習」のカリキュラムに則って実技指導を行う。その上で、指導実践1回目・2回目を実施する。なお、本講習は育成年代の選手指導が中心となる。 ※教育実習、介護等体験との重複を必ず避けること。※資格取得には「全出席」が前提である。 ※隔年開講につき令和5年度は開講しない。						
学習の到達目標						
(公財) 日本サッカー協会「公認C級コーチ養成講習会」のカリキュラムに従い、分析の結果抽出されたテーマに沿って楽しい雰囲気での指導実践1回目ができ、更に指導実践2回目でパフォーマンス改善ができることを目標とする。シンクロ並びにフリースローの使い分けができるようになる。						
回	授業内容			キーワード		AL
1	ガイダンス 心構えと評価法			心構え 評価法		
2	ゲーム アイスブレイク、4VS4+GK			4VS4+GK		○
3	テクニク① キック・ヘディング、コントロール、ドリブル			サッカー技術		○
4	テクニク② 守備 (1VS1の対応・後ろ向きの相手に対して)			サッカー技術		○
5	戦術① 攻撃の個人戦術、守備の個人戦術			サッカー戦術		○
6	戦術② 数的同位の攻撃・守備、数的優位の攻撃・守備、数的劣位の攻撃・守備			サッカー戦術		○
7	ゴールキーパー スローイング、キャッチング、ステップング、ローリングダウン、アングルプレー、ゲーム			ゴールキーパー		○
8	プランニング ラインゴールゲーム、中央ゴールゲーム、6ゴールゲーム、様々な4VS4+GK			サッカープランニング		○
9	コーチング インストラクターによるコーチングデモ			コーチング		○
10	指導実践1回目① 各自のテーマでの指導実践1回目における反省とディスカッション			指導実践		○
11	指導実践1回目② 各自のテーマでの指導実践1回目における反省とディスカッション			指導実践		○
12	指導実践2回目① 各自のテーマでの指導実践2回目における反省とディスカッション			指導実践		○
13	指導実践2回目② 各自のテーマでの指導実践2回目における反省とディスカッション			指導実践		○
14	指導実践 振り返りと追試 各自のテーマでの行った指導実践の振り返りと追試			指導実践		○
15	まとめ 実技および指導実践の振り返り 今後に向けて			まとめ		
教科書及び参考図書						
教科書：(公財)日本サッカー協会「公認C級コーチ養成講習会」の指導教本及びその他テキスト						
準備学習・事後学習						
準備学習：実技が多いため各自コンディショニングを整え、実技内容を事前に指導教本で予習する。 事後学習：実技内容を振り返り、指導教本で確認・復習する。						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
指導実践に対し、受講者同士のディスカッションおよび教員よりフィードバックを行う。						
成績評価の方法・基準						
指導実践 60% 参加態度 20% ディスカッションでの発言・発表 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	楽しい雰囲気かつ改善が明らかな指導実践ができ、ディスカッションにおいて積極的かつ的確な発言ができる。					
A	楽しい雰囲気かつ改善が認められた指導実践ができ、ディスカッションにおいて積極的な発言ができる。					
B	楽しい雰囲気での指導実践ができ、ディスカッションにおいて発言ができる。					
C	指導実践ができ、ディスカッションに参加できる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	サッカー指導法 [Coaching Method of Soccer]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・ アクティブ・ラーニング	齋藤 登		関	S-S3110		
この授業に関係する資格						
(公財) 日本サッカー協会公認C級コーチ						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)			健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識			健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		○	社会に貢献できる実践力		
授業の目的と概要						
<p>(公財) 日本サッカー協会が定める「公認C級コーチ養成講習」のカリキュラムに則って講義を展開する。下記授業内容のテーマを理解し、サッカーの指導法の基本と考え方、その他指導者として必要な知識を学習する。なお、本講習は育成年代の選手指導が中心となる。</p> <p>※教育実習、介護等体験との重複を必ず避けること。</p> <p>※資格取得には「全出席」が前提である。※隔年開講につき令和5年度は開講しない。</p>						
学習の到達目標						
(公財)日本サッカー協会「公認C級コーチ」のライセンス取得を目標とする。本科目は、専門種目が「サッカー」と言える者を対象とするサッカーコースである。サッカーに関する知識はもちろん、発育発達、技術・戦術、コーチング法等に関する知識を確実に習得する。						
回	授業内容		キーワード	AL		
1	ガイダンス 日本サッカーの夢、理念、ビジョン、組織、本コースについて		日本サッカー			
2	分析① 自チームの分析 (チーム選手)、相手チームの分析、選手発掘のための分析、国際大会の分析		サッカー分析	○		
3	分析② サッカーの目的による分析、プレーの原則による分析、サッカーの基本技術・基本戦術による分析		サッカー分析	○		
4	戦術① 攻撃の個人戦術、攻撃におけるゾーンでの判断基準・数的状況での判断基準		サッカー戦術	○		
5	戦術② 守備の個人戦術、守備におけるゾーンでの判断基準・数的状況での判断基準		サッカー戦術	○		
6	ゴールキーパー 育成年代のGKの指導、求められるGK像		ゴールキーパー	○		
7	プランニング トレーニング目標の設定、オーガナイズの意味、ゲームからの逆算、クオリティとリアリティ		プランニング	○		
8	指導実践ガイダンス 指導実践のテーマ決め、指導実践の方法と要点の解説		指導実践	○		
9	コーチング法 コーチングの目的、コーチングの方法、働きかけの考え方、トレーニングの留意点		コーチング法	○		
10	発育発達と一貫指導 成長の個人差、成長のプロセスと各時期の特徴、一貫指導の考え方、女子選手の特徴		女子サッカー選手	○		
11	チームマネージメント コーチの仕事、指導対象者の違いとコーチ、育成の全体像とコーチ		チームマネージメント	○		
12	メディカル 突然死、脳震盪、熱中症、RICE処置、スポーツ救命ライセンス		メディカル	○		
13	サッカーの競技精神 サッカーのルーツ (起源)、審判、安全とフェアプレー精神		サッカー競技精神	○		
14	グループワーク 通信教育課題の解説・評価		グループワーク	○		
15	まとめ 講義のまとめ 閉講ガイダンス		まとめ			
教科書及び参考図書						
教科書：(公財)日本サッカー協会「公認C級コーチ養成講習会」の指導教本及びその他テキスト						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 1.5 時間) : シラバスの内容を確認して、指導教本等で指導のイメージを持つように予習。						
事後学習 (週 1.5 時間) : 指導教本にて授業内容を復習。						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
筆記試験及びレポートに対し、フィードバックを行う。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 40% 通信教育課題レポート 30% 参加態度 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	サッカーに関する知識を深く理解したうえで、レポート、研究発表、筆記試験を通じて指導者としての資質を高いレベルで兼ね備えている。					
A	サッカーに関する知識を良く理解したうえで、レポート、研究発表、筆記試験を通じて指導者としての資質を十分兼ね備えている。					
B	サッカーに関する知識を理解したうえで、レポート、研究発表、筆記試験を通じて指導者としての資質を兼ね備えている。					
C	サッカーに関する知識を理解したうえで、レポート、研究発表、筆記試験を通じて指導者としての資質を得ている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目	医療事務 1・2 [Medical office work I・II]	各2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義・演習・アクティブ・ラーニング	野木 祐子			M-S2111	
この授業に関する資格					
メディカルクラーク (医科) 【主催：一般財団法人 日本医療教育財団 医療事務技能審査試験】					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)			健康づくりの実践的指導能力	
	食、栄養科学の専門的知識			健康生活の知識と技術の修得	
	健康管理の指導技術の修得		○	実社会に役立つ能力	
	運動、スポーツ科学の専門的知識		○	社会に貢献できる実践力	
授業の目的と概要					
医療機関で従事するにあたり必要な医療保険制度、公費負担医療、診療報酬請求業務に係わる事項を学び、メディカルクラーク (医療事務技能審査試験) 資格取得を目指す。 【持ち物】・テキスト・電卓 (携帯電話及びパソコン等不可) ・筆記用具 ・蛍光ペン 3色 ・付箋 ・定規 【メディカルクラーク (医療事務技能審査試験) 】試験は在宅受験となる。					
学習の到達目標					
医療事務に必要な受付業務、会計業務、診療報酬請求業務などの知識を習得し、国公立病院、大学病院、診療所など様々な医療機関で働くための実践的スキルをマスターする。					
回	授業内容	キーワード			AL
1	【医療事務1】オリエンテーション・医療保険制度のしくみ	医療保険制度			
2	【医療事務2】医療保険制度のしくみ・患者接遇	医療保険制度・患者接遇マナー			○
3	【医療事務3】初診料、再診料・医学管理	点数算定			○
4	【医療事務4】在宅医療・処置	点数算定			○
5	【医療事務5】手術・麻酔	点数算定			○
6	【医療事務6】検査	点数算定			○
7	【医療事務7】検査・病理診断	点数算定			○
8	【医療事務8】リハビリテーション・入院料	点数算定			○
9	【医療事務9】投薬	点数算定			○
10	【医療事務10】注射	点数算定			○
11	【医療事務11】画像診断・明細書記載のまとめ	点数算定			○
12	【医療事務12】診療報酬明細書の作成	明細書作成			○
13	【医療事務13】診療報酬明細書の作成	明細書作成			○
14	【医療事務14】診療報酬明細書の作成・修了試験	明細書作成・修了試験			○
15	【医療事務15】技能審査試験対策	試験対策			
教科書及び参考図書					
【教科書】・テキスト 1、2、3、4 ・スタディブック ・ハンドブック ・マイベストノート ・医科診療報酬点数票 ・しっかりわかる基礎ドリル					
準備学習・事後学習					
準備学習 (週 1.5 時間) : 次回のテキストを確認。 事後学習 (週 1.5 時間) : しっかりわかる基礎ドリル、練習問題。					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
しっかりわかる基礎ドリルを使用し、質問箇所を解説。					
成績評価の方法・基準					
少量試験 70 点以上。メディカルクラーク (医療事務技能審査試験) 合格。					
評価	成績評価別の到達度				
S	医療事務の知識を十分身に付けている。				
A	医療事務の知識を身に付けている。				
B	医療事務の知識を理解している。				
C	医療事務の知識を最低限理解している。				

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	医療事務3 [Medical office work III]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング	野木 祐子・島田 季代子			M-S3112		
この授業に関する資格						
メディカル オペレータ【主催：一般財団法人日本医療教育財団 医事オペレータ技能認定試験】 調剤報酬請求事務技能認定【主催一般財団法人日本医療教育財団認定】						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）			健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識			健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識		○	社会に貢献できる実践力		
授業の目的と概要						
<p><医療事務コンピュータ> 医療機関特有のレセプトコンピュータの入力ルールや操作方法を、実際の医療現場で使用している医事ソフトで学習しながらカルテや伝票の症例をもとに実践力を身につける。</p> <p><調剤薬局事務複数の薬剤を1つの袋にまとめる調剤を行ったときの一包化加算の算定や 調剤技術料の加算がたくさんある調剤報酬の特徴など保険薬局特有の算定方法を効率よくマスターする。</p> <p>【持ち物】・テキスト・電卓携帯電話及びパソコン等不可）・筆記用具 【メディカルオペレータ技能認定試験】試験はニチイ学館川越校で受験となる。【調剤報酬請求事務技能認定】修了試験は大学構内となる。</p>						
学習の到達目標						
<p><医療事務コンピュータ> 国公立病院、大学病院、診療所などで必要なコンピュータ会計システムのスキルを習得する。</p> <p><調剤薬局事務> 調剤薬局事務員としての基礎知識を習得する。</p>						
回	授業内容	キーワード	AL			
1	【医療事務コンピュータ1】オリエンテーション・システム立ち上げ	医事システム	○			
2	【医療事務コンピュータ2】新患登録・病名登録・外来診療入力	医事システム	○			
3	【医療事務コンピュータ3】外来診療登録・外来修正会計	医事システム	○			
4	【医療事務コンピュータ4】外来入力練習	医事システム	○			
5	【医療事務コンピュータ5】入院基本登録・入院診療入力	医事システム				
6	【医療事務コンピュータ6】入院会計・入院入力練習	医事システム	○			
7	【医療事務コンピュータ7】入院修正会計・エラー対処	医事システム	○			
8	【医療事務コンピュータ8】請求書発行・レセプト発行	医事システム	○			
9	【医療事務コンピュータ9】公費負担医療・修了試験	医事システム 修了試験				
10	【医療事務コンピュータ10】医事オペレータ試験対策	総まとめ				
11	【調剤薬局事務1】薬剤の基礎知識、調剤技術料	薬学一般	○			
12	【調剤薬局事務2】薬剤計算、薬学管理料	点数算定	○			
13	【調剤薬局事務3】調剤報酬明細書の点検	明細書作成	○			
14	【調剤薬局事務4】調剤報酬明細書の点検	明細書作成	○			
15	【調剤薬局事務5】修了試験	修了試験				
教科書及び参考図書						
<p>【教科書】 ◆医療事務コンピュータ：・コンピュータテキスト ・オペレーションマニュアル ◆調剤薬局事務：テキスト（調剤報酬編） ・保険薬早見表 ・マイベストノート</p>						
準備学習・事後学習						
<p>準備学習（週1.5時間）：次回のテキストを確認。</p> <p>事後学習（週1.5時間）：<医療事務コンピュータ>コンピュータマニュアルにて算定方法を復習し、コード表にまとめる。 <調剤薬局事務>処方箋の薬剤計算。</p>						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
修了試験での誤った箇所をサポート。						
成績評価の方法・基準						
<p><医療事務コンピュータ> 修了試験合格。メディカルオペレータ技能認定試験合格。</p> <p><調剤薬局事務> 提出レポートの満点合格。調剤報酬請求事務技能認定資格取得。</p>						
評価	成績評価別の到達度					
S	医療事務の知識を十分身に付けている。					
A	医療事務の知識を身に付けている。					
B	医療事務の知識を理解している。					
C	医療事務の知識を最低限理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	ビジネス文書 (パワーポイント) [Business Documents MS- PowerPoint]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング	八板 将明			M-S4115		
この授業に係る資格						
MOS						
学位授与方針 (デイプロマポリシー) との関連						
	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
<p>ビジネス文書作成ソフト「Microsoft・PowerPoint」について演習を通じて学び、文書作成の様々な機能について学ぶ。また、Microsoft office specialist (MOS) 検定の出題範囲について学び、合格に必要なスキルを養う。Microsoft office specialist (MOS) 検定の合格を目指す。</p>						
学習の到達目標						
<p>ビジネス社会で必要な文書 (プレゼンテーション) 作成に関する知識、スキルを学び、文書の作成、保存、管理能力を習得することを目標とする。</p>						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	授業目標やスケジュール、具体的にどのように進めるかなどの説明を行う	ガイダンス			○	
2	スライド・配布資料・ノート	プレゼンテーションの管理			○	
3	オプション・表示変更・印刷	プレゼンテーションの管理			○	
4	スライドの挿入・削除・変更	スライドの管理			○	
5	並べ替え・グループ化・設定	スライドの管理			○	
6	テキスト・リンク挿入	書式設定			○	
7	図の挿入・グラフィック要素の挿入	書式設定			○	
8	表、グラフの挿入・Smart art の挿入	メディアの挿入			○	
9	3D モデル・メディアの挿入	メディアの挿入			○	
10	画面切り替え・トランジション	アニメーションの適用			○	
11	アニメーション	アニメーションの適用			○	
12	テーマ別プレゼンテーション作成・発表	プレゼン演習			○	
13	テーマ別プレゼンテーション作成・発表	プレゼン演習			○	
14	テーマ別プレゼンテーション作成・発表	プレゼン演習			○	
15	これまでの学習内容の確認と定着確認	まとめ			○	
教科書及び参考図書						
参考図書：よくわかる PowerPoint 2019						
準備学習・事後学習						
<p>準備学習 (週 1.5 時間) : ブラインドタッチを身に付けられるように、タイピングする時間を作って練習をすること。 事後学習 (週 1.5 時間) : 授業の内容を復習し、操作を覚えること。</p>						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
授業終了後やオフィスアワーなどで適宜対応。習熟度から個別指導が必要な場合なども別途対応。						
成績評価の方法・基準						
提出課題 90% 授業姿勢 10% (未提出な課題がある場合、成績の評価はされない)						
評価	成績評価別の到達度					
S	MS-PowerPoint を有効に活用し、迅速かつ丁寧に目的とするビジネス文書を作成しプレゼンテーションができる。					
A	MS-PowerPoint の操作方法を理解し、目的とするビジネス文書を作成することができる。					
B	MS-PowerPoint の基本的な操作方法を理解し、文書を作成することができる。					
C	MS-PowerPoint を用いてスライドショーをつくることができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	ビジネス文書 1 [Business Documents 1]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング	八板 将明			M-S4143		
この授業に関する資格						
MOS						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
ビジネス文書作成ソフト「Microsoft・Word」について演習を通じて学び、文書作成の様々な機能について学ぶ。また、Microsoft Office Specialist (MOS) 検定の出題範囲について学び、合格を目指す。						
学習の到達目標						
ビジネス社会に必要な文書 (文章・文字入力) の作成、保存、管理方法を習得することを目標とする。						
回	授業内容	キーワード				AL
1	ガイダンス	授業目標やスケジュール、具体的にどのように進めるかなどの説明を行う				○
2	Word の基礎知識	Word 操作に関する基本事項について学習する				○
3	文字の入力	文字の入力・変換、文章の変換、保存方法について学習する				○
4		文字の入力・変換、文章の変換、保存方法について学習する				○
5	文書の作成	文書を作成し、編集、配置、修飾、書式設定について学習する				○
6		文書を作成し、編集、配置、修飾、書式設定について学習する				○
7	表の作成	表の作成・レイアウト、書式について学習する				○
8		表の作成・レイアウト、書式について学習する				○
9	文書の編集	文字の割付け、囲い文字、文字の効果、段組みについて学習する				○
10		文字の割付け、囲い文字、文字の効果、段組みについて学習する				○
11	表現力をアップする	ワードアート、クリップアート、図形の作成・挿入について学習する				○
12		ワードアート、クリップアート、図形の作成・挿入について学習する				○
13	ビジネス文書の作成	ビジネス文書の概要、及びビジネスでのメール活用について学習する				○
14		ビジネス文書の概要、及びビジネスでのメール活用について学習する				○
15	まとめ	これまでの学習内容を総合的に用いて課題を解決する				○
教科書及び参考図書						
参考図書：よくわかるマスター MOS Word 365&2019						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 1.5 時間) : ブラインドタッチを身に付けられるように、タイピングする時間を作って練習をすること。						
事後学習 (週 1.5 時間) : 授業の内容を復習し、操作を覚えること。						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
授業終了後やオフィスアワーなどで適宜対応。習熟度から個別指導が必要な場合なども別途対応。						
成績評価の方法・基準						
提出課題 90% 授業姿勢 10% (未提出な課題がある場合、成績の評価はされない)						
評価	成績評価別の到達度					
S	MS-Word の操作を十分理解し、迅速かつ丁寧に目的とするビジネス文書を作成することができる。					
A	MS-Word の操作を理解し、迅速かつ丁寧に目的とするビジネス文書を作成することができる。					
B	MS-Word の操作を理解し、目的とするビジネス文書を作成することができる。					
C	MS-Word の基本的な操作方法を理解し、文書を作成することができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	ビジネス文書 2 [Business Documents 2]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング	八板 将明			M-S3144		
この授業に関する資格						
MOS						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
ビジネス文書作成ソフト「Microsoft・Excel・PowerPoint」について演習を通じて学び、文書作成の様々な機能について学ぶ。また、Microsoft office specialist (MOS) 検定の出題範囲について学び、合格を目指す。						
学習の到達目標						
ビジネス社会で必要な文書 (Excel・PowerPoint) の作成、保存、管理方法を習得することを目標とする。						
回	授業内容	キーワード				AL
1	ガイダンス	授業目標やスケジュール、具体的にどのように進めるかなどの説明を行う				○
2	Excel・表の作成・計算	データの入力、変換、保存方法、簡単な計算について学習する				○
3	Excel・文字の入力	文字の入力・変換、文章の変換、保存方法について学習する				○
4	Excel・表の計算	関数を用いて高度な計算をする				○
5	Excel・文書の作成	文書を作成し、編集、配置、修飾、書式設定について学習する				○
6	Excel・グラフ作成	データをもとに様々なグラフを作成する				○
7	Excel・表の作成	表の作成・レイアウト、書式について学習する				○
8	Ppt・ファイル管理	スライド・配布資料・ノート・オプション・表示変更・印刷				○
9	Ppt・スライドの管理	スライドの挿入・削除・変更				○
10	Ppt・スライドの管理	並べ替え・グループ化・設定				○
11	Ppt・書式設定	テキスト・リンク・図・グラフィック要素の挿入				○
12	Ppt・書式設定	表、グラフの挿入・Smart art の挿入				○
13	Ppt・書式設定	アニメーションの設定・プレゼンテーション作成				○
14	演習	テーマ別プレゼンテーション作成・発表				○
15	演習・まとめ	テーマ別プレゼンテーション作成・発表				○
教科書及び参考図書						
参考図書：よくわかるマスター MOS EXCEL/PowerPoint 365&2019						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 1.5 時間) : ブラインドタッチを身に付けられるように、タイピングする時間を作って練習をすること。 事後学習 (週 1.5 時間) : 授業の内容を復習し、操作を覚えること。						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
授業終了後やオフィスアワーなどで適宜対応。習熟度から個別指導が必要な場合なども別途対応。						
成績評価の方法・基準						
提出課題 90% 授業姿勢 10% (未提出な課題がある場合、成績の評価はされない)						
評価	成績評価別の到達度					
S	MS-Excel.Ppt の操作を十分理解し、迅速かつ丁寧に目的とするビジネス文書を作成することができる。					
A	MS-Excel.Ppt の操作を理解し、迅速かつ丁寧に目的とするビジネス文書を作成することができる。					
B	MS-Excel.Ppt の操作を理解し、目的とするビジネス文書を作成することができる。					
C	MS-Excel.Ppt の基本的な操作方法を理解し、文書を作成することができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	映像コミュニケーション [visual communication]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング	八板 将明			M-S4145		
この授業に関係する資格						
MOS						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
映像制作機器の操作方法、編集配信方法について、実践を通じて学び、実社会における映像コンテンツの役割について学ぶ。また、チームでの作品制作を通じてコミュニケーション力やチームワークを養う。						
学習の到達目標						
映像制作機器の操作方法、編集配信方法について、実践を通じて学び、実社会における映像コンテンツの役割について学ぶ。また、チームでの作品制作を通じてコミュニケーション力やチームワークを養う。						
回	授業内容		キーワード			AL
1	ガイダンス 授業目標やスケジュール、受講者の興味・関心のヒアリング		ガイダンス			○
2	映像表現の技法 作品の視聴を通して、さまざまな映像表現や手法を学ぶ		映像表現			○
3	映像撮影の基本 撮影に必要な機材の知識・技術の基本		映像撮影			○
4	映像編集の基本 映像編集アプリの基本的な使い方		映像編集アプリ			○
5	映像編集の基本 基本的な作品制作		映像編集			○
6	映像編集の基本 基本的な映像編集・作品発表		映像編集			○
7	企画 課題テーマに基づいた映像の企画書の作成		映像の企画			○
8	企画発表① 企画書の発表・共有		映像の企画			○
9	課題制作① 企画に沿った課題の制作		映像の企画、制作			○
10	課題発表① 制作した課題の発表・ディスカッション					○
11	企画 課題テーマに基づいた映像の企画書の作成		映像の企画書			○
12	企画発表② 企画書の発表・共有					○
13	課題制作② 企画に沿った課題の制作		課題制作			○
14	課題発表② 制作した課題の発表・ディスカッション		課題発表			○
15	インターネット映像・まとめ ダウンロード、アップロード、ストリーミング、オンデマンド、ライブ配信制作など・授業の振り返り		インターネット映像			○
教科書及び参考図書						
参考図書：絵を見る技術 名画の構造を読み解く						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：自身のスマートフォンやデバイスを用いた撮影練習						
事後学習（週 1.5 時間）：授業の内容を復習し、知識・技術を定着すること。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
授業終了後やオフィスアワーなどで適宜対応。習熟度から個別指導が必要な場合なども別途対応。						
成績評価の方法・基準						
提出課題 90% 授業姿勢 10% （未提出な課題がある場合、成績の評価はされない）						
評価	成績評価別の到達度					
S	映像表現について、チームで協働し、機材・環境の特徴を生かした作品を制作することができる。					
A	映像表現について、撮影チームで協働して作品を制作することができる。					
B	映像表現について、自身の作品を制作することができる。					
C	映像表現について、作品を視聴し、自身の意見を述べるることができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	観光概論 [Outline of Tourism]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング	植松 大介		国	M-S2146		
この授業に関係する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
「観光」「観光産業」といった基礎的な定義と観光について多角的な観点から全体を学ぶ。具体的には、観光の語源、観光の定義、観光の意義、観光の歴史等から始まり、観光開発・観光資源、さらに観光を構成する諸分野（観光地、宿泊、交通など）について理解を深める。						
学習の到達目標						
観光についての理解と、観光ビジネスにおけるツーリズムマネジメントを理解できる。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	講義の進め方、評価の仕方、その他受講上の注意	オリエンテーション			○	
2	観光の定義と概念	観光と旅行産業			○	
3	日本の観光業の分析	観光白書 観光立国			○	
4	日本の観光の歴史	宿場町 世界遺産			○	
5	世界の観光の歴史	ヘリテイジツーリズム			○	
6	鉄道産業と観光ビジネス	新幹線 お座敷列車			○	
7	航空産業と観光ビジネス	LCC			○	
8	旅行産業と観光ビジネス	パッケージ商品 OTA			○	
9	宿泊産業と観光ビジネス	ホテル 旅館			○	
10	テーマパーク産業と観光ビジネス	テーマパーク			○	
11	スポーツ産業と観光ビジネス	スポーツツーリズム			○	
12	食と観光ビジネス	フードツーリズム			○	
13	医療と観光ビジネス	メディカルツーリズム			○	
14	地域と観光	観光行政 観光政策			○	
15	観光の現状と課題	振り返り			○	
教科書及び参考図書						
参考図書：国土交通省「観光白書」授業中、必要に応じて適宜指示及び資料プリントを配布する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：業界に関する事項に対して業界誌やインターネット・書籍を通して情報の収集をしておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：講義内容を復習し、分からないところは調べて理解しておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして各講義の最後にディスカッションを行い、解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
リサーチレポートとプレゼンテーション 65%、リアクションレポートの内容 20%、平常点（意欲・態度等）15% とし、総合的に評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	観光についての理解と、観光ビジネスにおけるツーリズムマネジメントの内容をきわめて高いレベルで理解している。					
A	観光についての理解と、観光ビジネスにおけるツーリズムマネジメントの内容を高いレベルで理解している。					
B	観光についての理解と、観光ビジネスにおけるツーリズムマネジメントの内容をほぼ理解している。					
C	観光についての理解と、観光ビジネスにおけるツーリズムマネジメントの内容を最低限理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	ホテルビジネス総論 1 [Introduction of Hotel Business 1]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・演習・アクティブ・ラーニング	植松 大介		国	M-S2116		
この授業に関する資格						
ホテルビジネス実務検定						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
ホテルビジネス実務検定ベーシックレベル 2 級の内容を踏まえながら、ホテル業の実務を学ぶ。また受講者は「ホテル概論」を受講している者が望ましい。						
学習の到達目標						
ホテル産業の概要と部門別実務知識を学び、ホテルビジネスの実務を理解できる。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	講義の進め方、評価の仕方、その他受講上の注意	オリエンテーション			○	
2	ホテルの基礎① ホテルとは、	経営形態と運営形態、サービスの基本と職能別サービス			○	
3	ホテルの基礎② ホテル関連法規と団体	ホテル関連法規、政府系機関と団体、			○	
4	宿泊部門の基本	組織、宿泊約款、客室機能			○	
5	宿泊部門の実務① フロントサービス	ベル、ドア、宿泊予約、オペレーター			○	
6	宿泊部門の実務② フロントオフィス	レセプション、ハウスキーピング、コンシェルジュ、パトラー			○	
7	料飲部門の基本	組織、業務内容、基本的な流れ、環境、空間、シーティング			○	
8	料飲部門の実務① 代表的洋食	フランス料理レストラン			○	
9	料飲部門の実務② 多国籍料理	中国料理、その他の外国料理専門店			○	
10	料飲部門の実務③ 飲料部門	コーヒーショップ、バー・ラウンジ、ティーラウンジ その他			○	
11	宴会部門の基本	組織、業務内容、基本的な流れ、市場動向			○	
12	宴会部門の実務 婚礼	形式、料理、プライダル			○	
13	調理部門の基本	組織、業務内容、基本的な流れ、環境、空間、シーティング			○	
14	調理部門の実務① キッチン	メインキッチン、レストランキッチン、設備機器			○	
15	調理実務の実務② 料理とメニューの基礎知識	料理とメニューの基礎知識			○	
教科書及び参考図書						
参考図書：ホテルビジネス（基礎編）（財）ホテル教育センター / 練習過去問集 700 選 授業中、必要に応じて適宜指示及び資料プリントを配布する						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：テキストを事前に読み、併せて練習問題を解きながら検定合格に向けて準備しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：講義内容を復習し、分からないところは調べて理解し、また試験問題を解いておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
各章修了後に確認テストを行い、テスト回収後、解答の解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 80%、平常点（予習状況、授業の態度、意欲など）20%とし、総合的に評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	ホテルビジネス実務における部門別実務をきわめて高いレベルで理解し、ホテル業務に必要な知識を十分身に付けている。					
A	ホテルビジネス実務における部門別実務をかなり高いレベルで理解し、ホテル業務に必要な知識を十分身に付けている。					
B	ホテルビジネス実務における部門別実務をある程度理解し、ホテル業務に必要な知識をある程度身に付けている。					
C	ホテルビジネス実務における部門別実務を最低限理解し、ホテル業務に必要な知識を最低限身に付けている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	ホテルビジネス総論 2 [Introduction of Hotel Business 2]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング	植松 大介		国	M-S3117		
この授業に関する資格						
ホテルビジネス実務検定						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
ホテルビジネス実務検定ベーシックレベル 1 級の内容を踏まえながら、ホテル業の経営・管理について学ぶ。 また、受講者は「ホテル概論」、「ホテルビジネス総論 1」を受講している者に限る。						
学習の到達目標						
ホテルにおける部門別実務知識を学び、ホテル経営と管理の仕組みを理解できる。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価の仕方、その他受講上の注意			○	
2	マーケティング部門の概要	組織、業務役割、売上予算			○	
3	マーケティング部門の実務① マーケティング	分析、戦略、マーチャライジング、CRM			○	
4	マーケティング部門の実務② セールス	宴会セールス、宿泊セールス、婚礼セールス			○	
5	マーケティング部門の実務③ プロモーション	広報・企画、顧客管理			○	
6	総務・人事部門の概要	組織、業務役割			○	
7	総務・人事部門の実務 人事・法規	採用、福利厚生、内部運営、コンプライアンス			○	
8	施設管理部門の概要	組織、業務役割（遠隔）			○	
9	施設管理部門の実務① ECOとIT	設備と付帯設備、省エネとエコ、IT 関連、廃棄処理			○	
10	施設管理部門の実務② 法令、関連資格	関連法令、関連資格			○	
11	仕入・購買部門の概要	組織と業務役割			○	
12	仕入・購買部門の業務 インベントリー HACCP	仕入と在庫、在庫管理、食品衛生			○	
13	経理・会計部門の概要	組織と業務役割			○	
14	経理・会計部門の業務① 予算と収益	収益会計と費用会計、予算管理、経営分析、税			○	
15	経理・会計部門の業務② 部門売上と経費	原価計算、ブレイクダウン			○	
教科書及び参考図書						
参考図書：ホテルビジネス（基礎編）（財）ホテル教育センター / 練習過去問集 700 選 授業中、必要に応じて適宜指示及び資料プリントを配布する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：テキストを事前に読み、併せて練習問題を解きながら検定合格に向けて準備しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：講義内容を復習し、分からないところは調べて理解し、また試験問題を解いておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
各章修了後に確認テストを行い、テスト回収後、解答の解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 80%、平常点（予習状況、授業の態度、意欲など）20%とし、総合的に評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	ホテルビジネス実務における部門別実務をきわめて高いレベルで理解し、ホテル管理業務に必要な知識を十分身に付けている。					
A	ホテルビジネス実務における部門別実務をかなり高いレベルで理解し、ホテル管理業務に必要な知識を十分身に付けている。					
B	ホテルビジネス実務における部門別実務をある程度理解し、ホテル管理業務に必要な知識をある程度身に付けている。					
C	ホテルビジネス実務における部門別実務を最低理解し、ホテル管理に必要な知識を最低限身に付けている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	和文化と作法 [Japanese culture and Courtesy]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・演習・アクティブ・ラーニング	鳶 洋子		国	M-S3118		
この授業に関する資格						
マナー・プロトコル検定、ホテルビジネス実務検定						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
現代社会にまで連綿と引き継がれている日本文化を学ぶことによって、日本独自の生活文化をより深く理解し、実生活で役立つ豊かな知識や教養を身につける。						
国際社会、実社会において役立つ日本独自の作法とスタイル、その成り立ちや、国内外を問わない発信力を伴った文化理解を深める。						
学習の到達目標						
日本独自の文化を学ぶことにより、その中で培われてきた協調性や配慮、思いやりなど社会人として必要な素養をさらに高め、より良い社会生活を実現することができる。						
国際人として知っておきたい日本文化、衣食住の知識、技能が習得でき、なおかつ自ら説明と実行が可能になる。						
回	授業内容		キーワード		AL	
1	授業の進め方、評価の仕方、各種検定試験について、その他受講上の注意など		オリエンテーション		○	
2	和の文化とは		和の文化について		○	
3	和室の入り方、歩き方、座り方、座布団の扱い方等		和室における作法		○	
4	着物文化、浴衣、作務衣など		日本の伝統的な衣服		○	
5	日本料理と和食の違い、歴史、日本料理の種類		和食について①			
6	日本料理の陰と陽、和食器（やきもの、漆器等）		日本料理の特徴と和食器			
7	「和食」と伝統的な嗜好品（和菓子、日本茶）、和食文化考察（テーマ決め、レポート作成）		和食について②		○	
8	和食文化考察、提案		和食について③		○	
9	茶道、華道、書道、香道、武道とは		道の世界			
10	歌舞伎、能、狂言とは、お抹茶のいただき方		伝統的な娯楽		○	
11	和の季節の感じ方、節句と二十四節季		日本の季節と節句		○	
12	通過儀礼、日本独特の行事、祭事		日本の行事について		○	
13	会席、茶懐石、寿司屋でのマナー		日本料理店での作法		○	
14	浴衣着装、立ち居振る舞い実践、茶話会テーマ決め		和装での立ち居振る舞い		○	
15	テーマに沿った茶話会（抹茶を点てる、浴衣での振る舞い等）		総復習		○	
教科書及び参考図書						
教科書：「マナー&プロトコルの基礎知識（日本マナー・プロトコル協会） * 授業中に必要に応じて、適宜指示及び資料プリント(実問題など)を配布する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：事前に、新聞、インターネット等で情報収集しておく。生活の中で関連する項目を認知し、考察する 事後学習（週 1.5 時間）：学んだことが日常生活の中に根付いていることを意識し、疑問点等調べ、確認しながら生活を送る						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
質疑応答・実践によって都度チェックし、理解度確認テストで確認・解説する。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 50%、授業中の積極的な態度 30%、予習状況 20%などを総合的に評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	マナー・プロトコルの資質・知識・マナー・技能・和文化などを深く理解し、実務に必要な項目を十分身に付けている。					
A	マナー・プロトコルの資質・知識・マナー・技能・和文化などをほぼ理解し、実務に必要な項目を良く身に付けている。					
B	マナー・プロトコルの資質・知識・マナー・技能・和文化などをかなり理解し、実務に必要な項目を身に付けている。					
C	マナー・プロトコルの資質・知識・マナー・技能・和文化などの基本事項を理解し、実務に必要な項目を理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	マナー・プロトコル [Manners and Protocol]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・演習・アクティブ・ラーニング	鳶 洋子		国	M-S3119		
この授業に関係する資格						
マナー・プロトコル検定、ホテルビジネス実務検定						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
マナー・プロトコル検定の内容を踏まえながら、就職活動と実社会で有用な基本的マナーを身につける。 また社会の国際化に伴い、他国の文化やその差異をも理解し、活動に生かせるようにする。 さらに、豊かな人間性を培い、社会に貢献できる実践力を身につけ、就職への実技訓練とともに知識と技術を精錬する。						
学習の到達目標						
社会人・国際人として必要である基本的な知識が修得でき、なおかつ自ら率先して修得した知識をもとに実践することが可能になる。 ビジネスマナー、コミュニケーションスキルなど社会人としての基本的な知識や技術を身につけることで、就職活動、社会活動、さらには自らの生活に生かすことができる。						
回	授業内容	キーワード	AL			
1	マナー・プロトコルとは何か、授業の進め方、評価の仕方、検定試験について、受講上の注意など	オリエンテーション	○			
2	～第一印象について、挨拶、態度、直立姿勢、着席姿勢、お辞儀、返答、滑舌、表情	基本姿勢	○			
3	～正しい敬語や丁寧な話し方、クッション言葉、会話～	言葉遣いと話し方	○			
4	～自己紹介をしてみる（笑顔、歩き方、姿勢、話し方、敬語の総練習・実践）～	自己紹介と会話	○			
5	～5原則、席次、国旗、握手、異文化を知る～	プロトコルとは	○			
6	～料理の種類、カトラリーの使い方、会話の進め方～	洋食文化と作法	○			
7	～お箸、和食器、日本料理と文化～	和食文化と作法	○			
8	～会社とは何か、社会人意識、礼装、贈答、手紙など～	社会人に必要なマナー	○			
9	～電話対応の心得、電話の取り次ぎ方、かけ方、名刺交換～	電話対応とビジネス文書	○			
10	～来客対応、茶菓対応、トラブル対応、文書の書き方～	来客対応とトラブル対応	○			
11	～知識の確認、誕生から亡くなるまでの人生における儀礼としきたり～	儀礼と節句①「冠」	○			
12	～知識の確認、祝儀袋とふくさ～	儀礼と節句②「婚」	○			
13	～知識の確認、不祝儀袋、焼香の仕方～	儀礼と節句③「葬」	○			
14	～知識の確認、神社の参拝の仕方～	儀礼と節句④「祭」	○			
15	～知識の確認、法令、待遇、その他～ まとめ	日本の年中行事	○			
教科書及び参考図書						
教科書：「マナー&プロトコルの基礎知識（日本マナー・プロトコル協会） *授業中に必要に応じて、適宜指示及び資料プリント(実問題など)を配布する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：事前にテキストの該当箇所を読み、予習しておく。生活の中で関連する項目を認知し考察する 事後学習（週 1.5 時間）：課題で復習、授業で学んだことを実際の生活に取り込み、実際に行ってみる。疑問点等調べ、確認しながら生活する						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
質疑応答・実践によって都度チェックし、問題集も使用して理解度確認テストで確認・解説する。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 70%、授業中の積極的な態度 20%、予習状況 10%などを総合的に評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	マナー・プロトコルの資質・知識・マナー・技能などを深く理解し、実務に必要な項目を十分身に付けている。					
A	マナー・プロトコルの資質・知識・マナー・技能などをほぼ理解し、実務に必要な項目を良く身に付けている。					
B	マナー・プロトコルの資質・知識・マナー・技能などをかなり理解し、実務に必要な項目を身に付けている。					
C	マナー・プロトコルの資質・知識・マナー・技能などの基本事項を理解し、実務に必要な項目を理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	ホテル接客英会話 [Hotel Customer Service English]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・演習・アクティブ・ラーニング	植松 大介		国	M-S3120		
この授業に関する資格						
ホテルビジネス実務検定						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
現場で役に立つ基本的な接客英語の表現やフレーズの習得と運用能力を講義と演習によって養う。英語での接客に必要な基本的な文法力・語彙力および接客技法を身に付けるために、ロールプレイングを通して学ぶ。受講者は「英語コミュニケーション1」を受講している者が望ましい。						
学習の到達目標						
国際語として英語の役割を理解し、基本的な接客英語の表現やフレーズを修得する。 またそれらを駆使し、ホテル現場や日常生活の中で、英語でロールプレイングや実売プレゼンテーション、実務実演ができることを目標とする。						
回	授業内容	キーワード				AL
1	受講上の注意など	授業の方針・進め方、評価の仕方、その他受講上の注意など				○
2	Sales Introduction	Introducing Employee & Company Outlines (Who we are…)				○
3	Rooms① Reception	Booking & Check In				○
4	Rooms② House Keeper	House Keeping & Order Taking				○
5	Rooms③ Cashier	Check Out				○
6	Role Playing① Rooms	Role Playing による実践講義				○
7	Food & Beverage① Reception	Reservation, Greeting & Seating				○
8	Food & Beverage② Seating	Order Taking & Menu Description				○
9	Food & Beverage③ Service	Cashier & Complaints				○
10	Role playing② Food& Beverage	Role Playing による実践講義				○
11	Guest Service① Guest Service	Concierge & Butler Service				○
12	Guest Service② Organizing	Transportation & Location				○
13	Guest Service③ Guest Request	Booking & Confirmation				○
14	Guest Service④ Guest Operations	Message Service				○
15	Role Playing③ Guest Service	Role Playing による実践講義				○
教科書及び参考図書						
参考図書：ホテルビジネス（基礎編）（財）ホテル教育センター / 練習過去問集 700 選 ※授業中に必要に応じて、適宜指示及び教材プリントを配布する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：自分の興味のあるジャンルに対して新聞やニュース、インターネット・書籍を通して情報の収集をしておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：講義内容を復習し、分からない単語やフレーズは調べて覚えること。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして各講義中に行うロールプレイング後により実践的な解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
ロールプレイング 70% 予習状況・授業中の積極的な態度などの平常点 30%として総合的に評価						
評価	成績評価別の到達度					
S	基本的な接客英語の表現やフレーズを理解、また駆使し、平易な英語での応対が十分に行える。					
A	基本的な接客英語の表現やフレーズを理解、また駆使し、平易な英語での応対がかなり行える。					
B	基本的な接客英語の表現やフレーズを理解、また駆使し、平易な英語での応対がある程度行える。					
C	基本的な接客英語の表現やフレーズを理解、また駆使し、平易な英語での応対が最低限行える。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	ホテル概論 [Outline of Hotel]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・演習・アクティブ・ラーニング	植松 大介		国	M-S2121		
この授業に関する資格						
ホテルビジネス実務検定						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
ホテル領域に関する基礎的知識を理解することを目標とする。						
学習の到達目標						
国際語として英語の役割を理解し、基本的な接客英語の表現やフレーズを修得する。 またそれらを駆使し、ホテル現場や日常生活の中で、英語でロールプレイングや実務実演ができることを目標とする。						
回	授業内容	キーワード				AL
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価の仕方、その他受講上の注意				○
2	世界と日本の観光・旅行産業の現状	観光と旅行産業				○
3	観光白書を読み、業界を紐解く	日本の観光業の現状分析				○
4	世界と日本のホテルの歴史	ホテル史				○
5	都市部のホテルの運営形態	シティホテル				○
6	都市近郊のホテルの運営形態	リゾートホテル				○
7	都市型リゾートホテル及び旅館の運営形態	アーバンリゾート・旅館				○
8	日系ホテルの老舗と新興	御三家・新御三家				○
9	日系ホテルグループ その特徴と運営形態	フランチャイズ、経営委託				○
10	外資系（欧米・アジア）ホテルの老舗と新興	メガホテルチェーン、アマンリゾート、				○
11	外資系ホテルグループ その特徴と運営形態	ブランド、経営形態				○
12	帝国ホテルとリッツカールトン	ラグジュアリー、クレド、ヒルトンウェイ				○
13	西武と東急	鉄道、日本の観光事業				○
14	ヒルトンとマリオット	プレミアム、リミテッドサービス				○
15	ディズニーホテル	ディズニー、ミリアルリゾート、オリエンタルランド				○
教科書及び参考図書						
参考図書：「宿泊産業論」創成社 国土交通省「観光白書」ホテルビジネス（ベーシックレベルテキスト：基礎編）（財）ホテル教育センター 授業中、必要に応じて適宜指示及び資料プリントを配布する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：業界に関する事項に対して業界誌やインターネット・書籍を通して情報の収集をしておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：講義内容を復習し、分からないところは調べて理解しておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして各講義後にディスカッションを行い、解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
リサーチレポートとプレゼンテーション(65%)、リアクションレポートの内容(20%)、平常点（意欲・態度等）(15%)とし、総合的に評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	ホテル概論の内容をきわめて高いレベルで理解している。					
A	ホテル概論の内容をかなり高いレベルで理解している。					
B	ホテル概論の内容をほぼ理解している。					
C	ホテル概論の内容を最低限理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	ビジネスマナー [Business Manners]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング	八板 将明			M-S3122		
この授業に関係する資格						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
就活スキル・社会人スキルについてアクティブ・ラーニングを通じて学ぶ。自身の生き方、考え方に気づきの機会を作り、社会で活躍するためのセルフプロデュース、ライフプランを考える。						
学習の到達目標						
ビジネスマナーの基礎を各テーマを題材として理解し、実践できる力を養う。						
回	授業内容	キーワード				AL
1	オリエンテーション	定着度確認。授業の進め方、評価方法、定期試験、受講上の注意				
2	自己紹介と他己紹介	「記憶に残る」自己紹介グループディスカッション&演習				○
3	自己分析	TA (交流分析 Transactional Analysis) を知る				○
4	聞くチカラ①	傾聴				○
5	聞くチカラ②	プロービング				○
6	話すチカラ①	「自分を知る」成功失敗体験・長所と短所				○
7	話すチカラ②	「相手を知る」応酬話法				○
8	レジリエンス	ココロの回復力・感情コントロール・アンガーマネジメント				○
9	EQ	ココロの知能指数・行動コントロール				○
10	問題解決演習①	グループディスカッション「価値創造/商品・戦略」				○
11	問題解決演習②	グループディスカッション「人間関係/クレーム・コンプライアンス」				○
12	キャリアプラン	AI 社会におけるヒトの役割～なくなる仕事、生まれる仕事～				○
13	マネープラン	給与・保険・資産運用				○
14	ライフプラン	マネープランとキャリアプラン				○
15	まとめ	これまでの学習内容の確認と定着確認				○
教科書及び参考図書						
授業中に必要に応じて、適宜指示及び資料プリント(実問題など)を配布する						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 1.5 時間) : 各単元の関連情報の収集 事後学習 (週 1.5 時間) : 各単元の関連情報の編集						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
授業内で振り返り、授業終了後やオフィスパワーなどで適宜対応する。習熟度から個別指導が必要な場合なども別途対応する。						
成績評価の方法・基準						
提出課題 90% 授業姿勢 10% (未提出な課題がある場合、成績の評価はされない)						
評価	成績評価別の到達度					
S	ビジネスマナーについての理解が深く、セルフプロデュースについての高い意識/技能がある。					
A	ビジネスマナーについての理解があり、セルフプロデュースの重要性を理解している。					
B	ビジネスマナーについての理解があり、自己分析ができています。					
C	ビジネスマナーについての理解があり、自己分析の方法を理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	ダイエット実践実習 [Practice of dieting]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実習・ アクティブ・ラーニング	玉木 啓一			M-S4124		
この授業に関係する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）			健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○		実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○		社会に貢献できる実践力		
授業の目的と概要						
具体的なダイエットの理論、方法論を、実験的な方法を用いて可能な限り検証し理解を深めていく。実際にダイエットを実践し、その効果を検証する。ダイエットの実践は学生本人に限らず、家族等の身近な実践者でも構わない。						
学習の到達目標						
本実習では、「ダイエット」を減量としてとらえ、巷で実施されている「ダイエット」を分析、検討する力を養っていく。安全かつ効果的なダイエットを、実践・指導していく能力を身に付けることが目標である。						
回	授業内容		キーワード		AL	
1・2	世の中で実施されている、ダイエットを考える		ダイエット			
3・4	エネルギー摂取（食物摂取）とエネルギー消費（運動）を学ぶ		酸素摂取量			
5・6	エネルギー摂取量の目安を知る					
7・8	エネルギーと食品や調理法との関係性について学ぶ					
9・10	市販食品の成分や量をしらべ、摂取エネルギー量を実践的に学ぶ				○	
11・12	エネルギー消費量の測定方法について学ぶ		心拍数			
13・14	様々なエネルギー消費量の推定方法について学ぶ				○	
15・16	様々な身体活動のエネルギー消費量を測定（推定）する				○	
17・18	既に流通するダイエット食品の食品表示を見て、食材の効果を考える				○	
19・20	食事管理ソフトなどを用い自身の食事管理をし、その効果を検証する				○	
21・22	ダイエットに効果的な運動について、考え検証する				○	
23・24	具体的なダイエット法について、考え検証していく				○	
25・26	各自が着目したダイエットの効果について検証する				○	
27・28	各自が着目したダイエットの効果について考察・まとめを行う					
29・30	ダイエット実践に関する成果発表					
教科書及び参考図書						
教科書 なし（適宜資料を配布） 参考図書：「いつまでもデブと思うなよ」岡田斗司夫 新潮新書						
準備学習・事後学習						
準備学習：世の中のダイエットを調べ、その効果について自分なりに考える。 事後学習：ダイエットの研究、実践をまとめる。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
授業中の対面でのフィードバックを中心として、Google Classroom を通じたフィードバック、E-mail を利用した個別対応を行う。						
成績評価の方法・基準						
成果発表 50%、レポート 40%、授業時の発言、討論内容 10%						
評価	成績評価別の到達度					
S	ダイエットとは何かを良く理解し、健康的で効果的なダイエットを創造・実践する力を持っている。					
A	ダイエットとは何かを良く理解し、健康的で効果的なダイエットかを判断・実践する力を持っている。					
B	ダイエットとは何かを理解し、健康的で効果的なダイエットかを実践する力を持っている。					
C	ダイエットとは何かを理解し、健康的なダイエットを考える力を持っている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	ホスピタリティ基礎演習 [Basic Study of Hospitality]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング	植松 大介		国	M-S4125		
この授業に関する資格						
ホテルビジネス実務検定						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）			健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○		実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○		社会に貢献できる実践力		
授業の目的と概要						
「サービス」、「おもてなし」、「ホスピタリティ」とは何か。「人が人と接し、人をもてなす職業」に対する意識を高め、その業種に就職するために必要な知識、技能を身につける。						
学習の到達目標						
「人材」としてではなく「人財」としてホスピタリティ産業で活躍できるよう必要な知識、技能を身につける。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	オリエンテーション	授業内容の紹介			○	
2	サービス	サービスとは何か			○	
3	おもてなし	おもてなしとは何か			○	
4	ホスピタリティとは何か	ホスピタリティとは何か			○	
5	日本と世界のホスピタリティ	日本のホスピタリティと世界のホスピタリティ			○	
6	日本と世界のおもてなしの美学	侘びと寂びとチップ			○	
7	職業理解 1 ホテル業界	ホテル業界の概要と業務			○	
8	職業理解 2 業務説明	ホテル業実務者による業界説明			○	
9	職業理解 3 施設見学とプレゼンテーション資料集め	ホテル見学実習			○	
10	職業理解 4 プレゼンテーション	ホテル業界研究（プレゼンテーション）			○	
11	職業理解 5 医療事務と調剤事務	医療事務業務界の概要と業務			○	
12	職業理解 6 業務説明	医療事務実務者による業務説明			○	
13	職業理解 7 施設見学とプレゼンテーション資料集め	医療機関での見学実習			○	
14	職業理解 8 プレゼンテーション	医療業界研究（プレゼンテーション）			○	
15	まとめ	まとめ			○	
教科書及び参考図書						
参考図書：ホテルビジネス 基礎編（財）日本ホテル教育センター マナー&プロトコルの基礎知識 マナー・プロトコル検定テキスト（日本マナー・プロトコル協会） ※授業中に必要に応じて、適宜指示及び教材プリントを配布する						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：学習する事項に対して新聞やニュース、業界誌・インターネット・書籍を通して情報の収集をしておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：講義内容を復習し、分からないところは調べて理解しておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
各講義後にディスカッションを行い、解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
実技/実演試験・ロールプレイング・プレゼンテーション 50%、リアクションレポート（見学実習レポート、感想文など）35%、平常点（態度・意欲・服装など）15%とし、総合的に評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	授業の成果を活かし、サービス産業界で働く十分な知識と技能を身に付けている。					
A	授業の成果を活かし、サービス産業界で働く基礎的な知識と技能を身に付けている。					
B	授業の成果を活かし、サービス産業界で働く準備ができています。					
C	授業の成果から、サービス産業界で働くことについて考えをまとめられている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	サービス・接客実習 [Practice of Service and Reception]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実習・ アクティブ・ラーニング	太田 あや子			M-S5126		
この授業に関する資格						
マナー・プロトコール検定、ホテルビジネス実務検定、調剤薬局事務						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）			健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識		○	社会に貢献できる実践力		
授業の目的と概要						
医療・サービス産業界で実習的・研修的な就業体験を行い、サービスを提供するために必要なマナーや接客、業界に必要とされる人材の基礎的な技能と知識を身につける。						
学習の到達目標						
職業人としての経験を活かし、医療・サービス産業界への進路を明確にできる。						
回	授業内容	キーワード				AL
1 ～ 30	1・2 回目：ガイダンス（就業体験実習の準備）	実習施設の業務を調べレポートを作成する。現場からの指導者から施設ガイダンスを受ける				○
	3 回目～26 回目：医療機関またはサービス産業での就業体験実習	病院またはホテルで現場体験実習を行う 医療機関：病院、医院のボランティア実習 受付、会計、データ処理、案内、講演会運営等 サービス産業：ホテル：料飲、接客、客室整備、宴会補助				
	27・28 回目：実習のまとめと就業体験実習の発表準備	パワーポイントによる体験発表の準備				
	29・30 回目：就業体験発表会	実習先の担当者を招いての就業体験実習発表会				
教科書及び参考図書						
参考図書：医療事務テキスト ゼロから教えてビジネスマナー、松本昌子、かんき出版						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：事前に返却される実習日誌に目を通し、課題を設定しておく。 事後学習（週 1.5 時間）：毎回返却される実習日誌に目を通し、課題を発見して、解決策を考えておく。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
実習日誌の内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う。						
成績評価の方法・基準						
実習施設の指導担当者による評価 40% 実習終了後の発表資料、提出物（実習日誌）についての評価 40% 準備の姿勢に対する評価 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	体験実習に積極的に取り組み、日誌にその成果を十分にまとめることができ、サービス産業に従事する準備ができています。					
A	体験実習にしっかりと取り組み、日誌にその成果をまとめることができ、サービス産業に従事する準備ができています。					
B	体験実習に取り組み、サービス産業に従事する準備ができています。					
C	体験実習を通して、サービス産業を理解できています。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	地域事業実習 [Practice of Regional Business]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実習・ アクティブ・ラーニング	八板 将明			M-S5127		
この授業に関する資格						
マナー・プロトコール検定、ホテルビジネス実務検定、調剤薬局事務						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
公共施設でのサービスマネジメント業を定期的かつ長期にわたり実習生として出向き、1年次での学習と実際のサービス現場での学びを統合する学外での実習形式の授業である。東松山市の教育部スポーツ課及び子育て支援課に出向き、課の補助業務を通して、公務員業務の実習的・研修的な就業体験を行い、実務実践能力を身につける。						
学習の到達目標						
公務員としての経験を活かし、地域振興を担う進路を明確にできる。						
回	授業内容					
1 ～ 30	学内授業（1・2、ガイダンス） 授業概要と事業内容等の説明および日本スリーデーマーチについて学ぶ					
	学外授業（3～14、東松山市役所業務補助） 東松山市役所の業務全般について業務補助を体験する					
	学外授業（15～26、日本スリーデーマーチ推進委員会業務補助） 東松山市の日本スリーデーマーチ推進委員会の業務を中心に業務補助を体験する					
	学内授業（27・28） 実習体験の資料作成と発表準備					
	学内授業（29・30） 実習体験発表					
教科書及び参考図書						
参考図書：参考図書：東松山市の市政だより、日本スリーデーマーチ総合計画書など その他、必要に応じて資料を配付する						
準備学習・事後学習						
準備学習：事前に返却される実習日誌に目を通し、課題を設定しておく。 事後学習：毎回返却される実習日誌に目を通し、課題を発見して、解決策を考えておく。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
実習日誌の内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う。						
成績評価の方法・基準						
実習施設の指導担当者による評価 40% 実習終了後の発表資料、提出物（実習日誌）についての評価 40% 準備の姿勢に対する評価 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	体験実習に積極的に取り組み、日誌にその成果を十分にまとめることができ、地域振興を担う業務に従事する準備ができている。					
A	体験実習にしっかりと取り組み、日誌にその成果をまとめることができ、地域振興を担う業務に従事する準備ができている。					
B	体験実習に取り組み、地域振興を担う業務に従事する準備ができている。					
C	体験実習を通して、地域振興を担う業務を理解できている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	地域事業運営実習 [Practice of Regional Business]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実習(集中)・ アクティブ・ラーニング	太田 あや子・福島 邦男・植松 大介・八板 将明			M-S5128		
この授業に関する資格						
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連						
○	豊かな人間性(広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
1年次、2年前期の公共施設でのサービスマネジメント業での就業体験を活かし、実際の事業運営に担当者として関わり総合的な課題解決学習を行う学外での実習を通して、公務の実務実践能力を身につける。						
学習の到達目標						
東松山市や吉見町の公的なイベントや教室の準備、実施、終了後点検業務の就業体験を通じて、事業の運営の方法がわかり、実践できる。						
回	授業内容	キーワード				AL
1 ~ 30	1・2回 ガイダンス	学内ガイダンス 授業概要と関係町村の事業内容等担当事業について学ぶ。				○
	3~26回 学外実習	学外授業(3~26、東松山市役所、吉見町業務) 東松山市役所(日本スリーデーマーチ、保育園運動指導等)、吉見町のイベントや教室業務(子育て支援事業等)をスタッフの一員として運営する。				
	27・28回 学内授業	学内授業(27・28) 実習体験の資料作成と発表準備				
	29・30回 成果発表会	学内授業(29・30) 実習体験発表 市町の関係者をお招きして、実習での学習成果を発表する。				
教科書及び参考図書						
参考図書: 東松山市、吉見町の広報誌、各課の事業計画書 必要に応じて資料を配付する。						
準備学習・事後学習						
準備学習: 東松山市や吉見町の施策に目とをしておいて課題に関する社会事象を把握しておくこと。 事後学習: 毎回の活動を実習日誌にまとめ、次回の課題を設定しておくこと。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法						
実習日誌の内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う						
成績評価の方法・基準						
学内ガイダンスと実習へ取り組み姿勢 70% 実習体験発表・レポート 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	地域事業へ積極的に取り組み、実態を理解して、事業運営方法を身につけて実践し、十分な成果発表をすることができる。					
A	地域事業へ積極的に取り組み、実態を理解して、事業運営を実践し、成果を発表することができる。					
B	地域事業へ取り組み、実態を理解して、事業運営方法を実践し、成果を発表することができる。					
C	地域事業へ取り組み実践を通して実態を理解し、成果を発表することができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目	インターンシップ [Internship]	2			
授業形態	担当教員名	ナンバリング			
実習・ アクティブ・ラーニング	太田 あや子・茗荷 尚史・高橋 琴美・八板 将明	NSM-S9130			
この授業に関する資格					
レクリエーション・インストラクター					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
授業の目的と概要					
短期大学で学んだ知識や指導技術を活かして、企業や団体において、健康福祉や健康産業、生涯スポーツ、サービス業に関する実習的・研修的な就業体験を行い、実社会で必要な能力を身につける。必要経費 3,000 円程度が別途必要になる。					
学習の到達目標					
実習的・研修的な就業体験を行うことにより、実際的な知識や指導技術の習得し、指導者やサービス提供者としての自覚を高め、就業意識を涵養して、進路を明確にすることができる。					
回	授業内容	AL			
1 ～ 15	<p>実習時期：原則として、春季休業中（2月下旬から3月下旬） 実習期間：原則として、2週間（実質10日間以上） 実習日程：実習受け入れ先と検討して決定 事前授業</p> <p>1回目：実習施設内容紹介、先輩の体験談、希望調査（11月） 2回目：個人調書、誓約書の作成、企業研究のパワーポイント作成（11月） 3回目：書類提出、実習先企業紹介（パワーポイント）（12月、1月） 4回目：コミュニケーショントレーニング（1月） 5回目：人工心肺蘇生法講習会（1月、補講期間） 2～3月：実習（就業体験）3月下旬：最終レポートの作成、お礼状発送 実習終了後：実習日誌（含む最終レポート）提出、最終指導</p> <p>原則として短期大学が紹介する施設の中から選択する。他に実習を希望する施設がある場合は相談に応じる。実習施設は以下のとおりである</p> <p>1. フィットネス・スポーツクラブ業務（ア）フィットネス・スポーツクラブ（イ）サッカースクール（ウ）公的スポーツ施設（エ）総合型地域スポーツクラブ（オ）スポーツ少年団（カ）その他健康フィットネス産業やプロチーム 2. 野外活動団体 3. 学童保育所 4. 福祉施設（介護施設、知的障害者授産施設など） 5. スポーツショップ 6. その他（ホテル・レストラン業務、販売業務、農業就業など）</p>	○			
教科書及び参考図書					
参考図書：インターンシップの手引き、インターンシップ実習日誌（無料 授業時に配布）					
準備学習・事後学習					
準備学習：実習の手引き、事前研修で配布される資料を読んで学内事前授業や実習の内容を確認しておくこと。 事後学習：実習日誌の指導コメントを読み返し、次回の課題を解決する方策や情報を確認しておくこと。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
実習日誌の内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う。					
成績評価の方法・基準					
実習施設の指導担当者による評価 40% 実習終了後の提出物（実習日誌）についての評価 40% 準備の姿勢に対する評価 20%					
評価	成績評価別の到達度				
S	体験実習に積極的に取り組み、日誌にその成果を十分にまとめることができ、健康に関わる産業に従事する準備ができている。				
A	体験実習にしっかりと取り組み、日誌にその成果をまとめることができ、健康に関わる産業に従事する準備ができている。				
B	体験実習に取り組み、健康に関する産業に従事する準備ができている。				
C	体験実習を通して、健康に関する産業を理解できている。				

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	レクリエーションスポーツ実習 [Recreational Sports]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実習・ アクティブ・ラーニング	福島 邦男			SM-S4131		
この授業に関する資格						
レクリエーション・インストラクター、障がい者初級スポーツ指導者、子ども身体運動発達指導士						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）			健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○		実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○		社会に貢献できる実践力		
授業の目的と概要						
現在、生涯スポーツの手段として、また健康づくりを目的として、様々なレクリエーションスポーツが行われている。本授業では、それぞれの種目や活動が持つ特性や心理的、身体的、あるいは社会的な効果について理解し、対象にあわせて実践する能力と、実践場面で必要となるコミュニケーションスキルを身につける。						
学習の到達目標						
種目や活動が持つ特性や心理的、身体的、あるいは社会的な効果と関連づけて実践することができる。単に種目を実践することにとどまらず、コミュニケーションをとりながら、参加することができる。						
回	授業内容		キーワード	AL		
1	レクリエーションスポーツの特性とその目的		課題解決活動	○		
2	ホスピタリティについて		信頼関係づくり 導入段階の活動	○		
3	自己紹介 伝えること、受け止めることについて		信頼関係づくり 小集団活動 交流段階の活動	○		
4	コミュニケーションワークについて 集団をまとめる		信頼関係づくり 小集団活動 発展段階の活動	○		
5	アイスブレイキングについて実践を通して学ぶ		良好な集団づくりの方法	○		
6	アイスブレイキング要素の高いレクリエーションゲーム		良好な集団づくりの方法	○		
7	アイスブレイキングの支援技術		良好な集団づくりの方法	○		
8	課題解決型グループワークを体験する		楽しむ力を高める方法	○		
9	体験学習プログラムとしての活用方法		楽しむ力を高める方法	○		
10	イニシアティブゲームの展開方法		楽しむ力を高める方法	○		
11	子どもから高齢者まで、障がいの有無に係らず、誰もが楽しめるニュースポーツの展開		レクリエーション支援のプログラム	○		
12	子どもから高齢者まで、障がいの有無に係らず誰もが楽しめる身体活動 歌やゲーム		レクリエーション支援のプログラム	○		
13	障がい者スポーツ 1 誰もが楽しめるアクティビティ		レクリエーション支援のプログラム	○		
14	障がい者スポーツ 2 障がいの程度別の指導について		レクリエーション支援のプログラム	○		
15	授業で取りあげたスポーツのまとめ		実習のまとめ			
教科書及び参考図書						
参考図書：楽しさをとおした心の元気づくり（財）日本レクリエーション協会、レクリエーション支援の基礎（財）日本レクリエーション協会 その他：必要に応じて資料を配付する。						
準備学習・事後学習						
準備学習：授業内容とキーワードに関する情報（新聞、雑誌、インターネットなど）を入手し、毎回の実習に生かせるように目を通しておく。 事後学習：毎時間の資料は保管しておき、事後学習に活用できるようにしておく。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、毎時授業日誌を回収し、コメントを加えて返却する。オフィスアワーでも適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
授業への積極的参加 50% 提出物・レポート 30% 課題発表 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	レクリエーションスポーツの種目の特性を特に活かした実践ができ、コミュニケーションをとりながらの参加ができる。					
A	レクリエーションスポーツの種目の特性を活かした実践ができ、コミュニケーションを意識しながらの参加ができる。					
B	レクリエーションスポーツの種目の特性を理解でき、実践へはコミュニケーションをとりながらの参加ができる。					
C	レクリエーションスポーツの種目の実践に対し、コミュニケーションをとりながらの参加ができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	スクーバダイビング実習 [Scuba diving]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実習(集中)・ アクティブ・ラーニング	太田 あや子			NSM-S130		
この授業に関係する資格						
スクーバダイビング Cカード(オープンウォーター)、レクリエーションインストラクター						
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連						
○	豊かな人間性(広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
スクーバダイビング指導団体(DACS)の教程に従って、安全潜水のための講義講習とプール実習を学内集中授業で受講した後、2泊3日の海洋実習を行う。教材や実習にかかる経費の負担がある(8万円程度交通費・宿泊費込み)。						
学習の到達目標						
スクーバダイビングの知識と知識を身につけ、希望者はオープンウォーターのCカードを取得することをめざす。						
回	授業内容		キーワード		AL	
1	ガイダンス: Cカード取得に必要な書類の作成		Cカード			
2	講義講習1: ダイビングと身体、ダイビングと環境		ダイビング、環境			
3	講義講習2: スキンダイビング、スクーバダイビング		スキンダイビング、スクーバ			
4	講義講習3: ダイビングと障害と症状、ダイビングと安全		ダイビング、安全			
5	講義講習4: ダイビングの実際、水中生物、器材管理と点検		水中生物			
6	プール講習1: スキンダイビング実技(シュノーケルクリア、マスククリア、潜泳、200m水面移動)		スキンダイビング		○	
7	プール講習2: スクーバダイビング1(セッティング、レギュレータークリア、マスククリア、中性浮力)		スクーバダイビング		○	
8	プール講習3: スクーバダイビング2(バディフリージング、スイミングアセント)		スクーバダイビング		○	
9	プール講習4: スクーバダイビング3(器材脱着、各スキルの復習とチェック)		スクーバダイビング		○	
10	プール講習5: スクーバダイビング4(200m水面移動)		スクーバダイビング		○	
11	プール講習6: 深度体験と耳抜き、深度プールでのスキルチェック(学外実習) エントリーとエキジット		深度体験		○	
12	海洋実習1: スクーバダイビング1(セッティング、レギュレータークリア、マスククリア、中性浮力)(学外実習)		レギュレーター		○	
13	海洋実習2: スクーバダイビング2(バディフリージング、スイミングアセント)(学外実習)		スクーバダイビング		○	
14	海洋実習3: スクーバダイビング3(器材脱着)(学外実習)		スクーバダイビング		○	
15	海洋実習4: 計画潜水: 30分程度のスクーバダイビング(学外実習)		潜水		○	
教科書及び参考図書						
Dacs OW 教本(実習費8万円程度に含まれる)						
準備学習・事後学習						
スクーバダイビングのライセンス取得を目指す授業である。ライセンスは2泊3日の海洋実習で4回海に潜水しないと取得できないので、日程や経費に関して十分な準備をしておくことが望ましい。50mの泳力があると安心して受講できるため水泳関係の授業の履修を勧める。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法						
学習ノートの内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う。						
成績評価の方法・基準						
実技・技能 50%、筆記試験 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	スクーバダイビングに関する知識が豊富で、高い技能レベルにある。					
A	スクーバダイビングに関する十分な知識があり、安全潜水に必要な技能レベルにある。					
B	スクーバダイビングに関する知識があり、安全潜水に必要な技能レベルにある。					
C	スクーバダイビングに必要な基礎的知識と技能がある。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	夏季アウトドア実習 [Summer Outdoor Activity]					
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実習(集中)・ アクティブ・ラーニング	福島 邦男			NSM-S5132		
この授業に関係する資格						
レクリエーション・インストラクター、キャンプインストラクター						
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連						
○	豊かな人間性(広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
夏季休業中(8月)に3泊4日の実習を行う。本実習では、アウトドアキャンプを実施する上で必要となる基礎知識および技術について実習を通して修得する。集団生活を通して参加者相互のコミュニケーションを深めながら、豊かな人間性を育み、課題を解決する自立心と創造力を身につける。併せて災害時に役立つ生活方法についても学習する。						
学習の到達目標						
3泊4日のアウトドアキャンプをやり遂げる。キャンプの基礎知識と技術を実践できる。集団生活へコミュニケーションを取りながら参加し、諸問題への解決に向けて自ら取り組むことができる。						
回	授業内容					AL
1 ~ 15	<p>学内事前授業(6月から合計3回実施する) ※感染症対策により、内容を大きく変更する場合がある 授業概要と参加費等の説明および用具の取り扱い方法を学ぶ</p> <p>集中授業</p> <p>グループを編成し、テントと寝袋を使用した簡便な方法を用いた宿泊を行う。 テント設営と環境整備、用具の安全な使用法を学習し、野外炊事による合宿を体験する。</p> <p>課題解決活動としての野外ゲーム、ハイキング、キャンプクラフト、アウトドアクッキング、自然観察、キャンプファイヤーなどの野外活動を行う。</p> <p>最終日には、撤収と用具管理とについて実践を通じて学ぶ。 講習内容をどれだけ理解したかを実習の記録に記載し提出する 合宿形式の集中授業であるため実習費(20,000円)が必要である他、雨着(レインウェア)、リュックサック等が必要となる。</p>					○
教科書及び参考図書						
<p>参考図書：野外活動 その考え方と実際 日本野外教育研究会編 杏林書院 キャンプ指導者入門 (社)日本キャンプ協会</p> <p>その他：必要に応じて資料を配付する。</p>						
準備学習・事後学習						
3泊4日の合宿形式の集中授業である。キャンプ初心者でも参加可能である。キャンプ生活に支障がないよう、日頃から運動を心がける。その日の実習の内容をふりかえり、翌日の活動に生かせる様に、体調を整えて翌日の講習に備えること。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法						
毎日、実習の記録を回収し、解説やコメントを加えて返却する。休憩時間等にも適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
学内ガイダンスと実習へ取り組む姿勢 70% 記録記載内容・レポート 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	夏季の自然環境と野外活動の危険性を理解し、コミュニケーションをとりながら、キャンプを安全確実に実践できる。					
A	夏季の自然環境と野外活動の危険性を理解し、コミュニケーションをとりながら、キャンプを実践できる。					
B	夏季の自然環境の危険性を理解し、コミュニケーションをとりながら、キャンプを実践できる。					
C	夏季の自然環境を理解し、キャンプを安全確実に実践できる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	冬季アウトドア実習 [Winter Outdoor Activity]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実習(集中)・ アクティブ・ラーニング	福島 邦男			NSM-S5133		
この授業に関する資格						
レクリエーション・インストラクター、キャンプインストラクター						
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連						
○	豊かな人間性(広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
3泊4日のスキーを体験することで、共同生活の中で望ましい人間関係を築き上げ、安全に滑走を楽しむ基本技術を身につける。 初心者指導法を学ぶことで、安全に楽しく確実にスキー技能が向上する初心者指導法を修得する。集団生活を通して参加者相互のコミュニケーションを深めながら、豊かな人間性を育み、課題を解決する自立心と創造力を身につける。併せて指導者として必要な知識・技術も身につける。						
学習の到達目標						
3泊4日の集中授業をやりとげる。共同生活の中で望ましい人間関係を築き上げ、安全に滑走を楽しむ基本技術を修得する。 初心者指導法を学習し、安全に楽しく確実にスキー技能が向上する指導法で初心者指導ができる。						
回	授業内容					AL
1 ~ 15	<p>学内事前授業(10月から合計3回実施する) ※感染症対策により、内容を大きく変更する可能性がある 授業概要と参加費等の説明および用具合わせと取り扱い方法を学ぶ</p> <p>集中授業 参加者のスキー技術レベルに応じてグループを編成し、練習する ここでは「超・スキー練習法」に基づく指導体系により、初心者は初日からブルークボーゲンができる様にし、リフトを使いながら、安全に確実に滑れる様になる。経験者はスキーと身体の操作能力を高める練習をし、技術のレベルアップを図る また、個人の欠点の矯正も行い、より安全で確実な技術を身につける なお、技術指導だけでなく、スキー場での行動規則を学び、安全に配慮したマナーのある行動を身につける さらに、指導者として身につけておくべき指導法についても学習し、最終日には学生同士による模擬指導を実施する 宿舎での講義で「スキーと安全」「スキーが上手になるために」「スキー指導法」を行い、スキー技術と安全管理について学ぶ 講習内容をどれだけ理解したかを実習の記録に記載し提出する 合宿形式の集中授業であるため実習費(30,000円)が必要である他、別途レンタル料、リフト券代が必要となる</p>					○
教科書及び参考図書						
<p>参考図書：野外活動 その考え方と実際 日本野外教育研究会編 杏林書院 キャンプ指導者入門 (社)日本キャンプ協会、超・スキー練習法 野沢巖監修・指導 山海堂 その他：必要に応じて資料を配付する。</p>						
準備学習・事後学習						
3泊4日の合宿形式の集中授業である。初心者でも参加可能である。実技練習に支障がないよう、日頃から運動を心がける。 実技講習の内容をふりかえり、翌日の講習に生かせる様に、体調を整えて翌日の講習に備えること。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法						
毎日、実習の記録を回収し、解説やコメントを加えて返却する。休憩時間等にも適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
学内ガイダンスと実習へ取り組む姿勢 70% 記録記載内容・レポート 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	冬季の自然と、スキーの持つ本質的な危険を理解して、自己の技術を応用した安全な滑走と安全確実な指導方法を実践できる。					
A	冬季の自然と、スキーの持つ本質的な危険を理解して、自己の技術を応用した安全な滑走と安全な指導方法を実践できる。					
B	冬季の自然と、スキーの持つ本質的な危険を理解して、自己の技術を応用した安全な滑走ができる。					
C	冬季の自然と、スキーの持つ本質的な危険を理解して、安全に滑走できる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	アロマテラピー [Aromatherapy]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・ アクティブ・ラーニング	新井 ひろ子			NSM-S3134		
この授業に関係する資格						
日本アロマ環境協会 アロマテラピー検定 1 級						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
アロマテラピーの基礎を学び、正しく活用できるように知識を身に付け、より豊かな生活を送れるように自分や家族の心と身体の健康に役立てることを目的とする。						
学習の到達目標						
アロマテラピーを正しく理解することで、健康に過ごす知識や技術を習得し、研究小論文と発表を行い、授業に積極的に参加し宿題や小試験を全提出し、発言や質問などを活発にすることが出来る。						
回	授業内容		キーワード			AL
1	アロマテラピーの定義について		アロマテラピーの基礎			
2	植物化学の基礎について		植物、精油の化学			
3	古代から中世のアロマテラピーの歴史、精油学習 1、香水作り		アロマテラピーの歴史①			○
4	アロマテラピーを利用する方法を学ぶ、精油学習 2、アロマスプレー作り		アロマテラピーの利用法			○
5	近世から現代のアロマテラピー歴史、精油学習 3		アロマテラピーの歴史②			
6	精油についての定義や安全性について、精油学習 4.化粧品作り		精油の定義			
7	精油を安全に使用するための精油の希釈濃度と素材を学ぶ、精油学習 5		アロマテラピーを楽しむ			○
8	精油の選び方や香りの試し方について、精油学習 6		精油の選び方			
9	精油を安全に使用するための心得や保管方法、精油学習 7、ハンドトリートメント		アロマテラピーの安全性			○
10	精油の製造法について学ぶ、精油学習 8		精油の抽出法			
11	精油の伝わり方を理解する、精油学習 9		アロマテラピーのメカニズム			
12	美容と健康にアロマテラピーを活用する方法を学ぶ、精油学習 10		ビューティー&ヘルス			
13	アロマテラピーを楽しむための法律を学ぶ		アロマテラピーに関する法律			
14	ナチュロパシーを学ぶ		ナチュロパシー			
15	研究発表		プレゼンテーション			○
教科書及び参考図書						
教科書 (購入) : 日本アロマ環境協会発行 アロマテラピー検定公式テキスト 1 級・2 級 精油等教材費費用 7,000 円 (昨年度参考)						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 1.5 時間) : 次回のテーマに関するテキストを読んでおくこと。 事後学習 (週 1.5 時間) : 毎回の授業内容を復習し、宿題を完成すること。						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして前回の小試験の解答や宿題の解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
小論文と発表 60%、宿題 20%、小試験 10%、受講態度 10%						
評価	成績評価別の到達度					
S	アロマテラピーについて十分に理解した研究小論文と発表を行い、授業に積極的に参加し宿題、小試験を全提出、発言や質問などを特に活発にしている。					
A	アロマテラピーについて理解した研究小論文と発表を行い、授業に積極的に参加し宿題、小試験を全提出、発言や質問などを活発にしている。					
B	アロマテラピーについて理解した研究小論文と発表を行い、授業への参加、宿題、小試験を提出、発言、質問が平均的である。					
C	アロマテラピーについて理解した研究小論文と発表を行い、授業への参加、宿題、小試験を提出、発言、質問が消極的である。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	スポーツマッサージ [Sports Massage]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング	村田 向春		実	NSM-S3135		
この授業に関係する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
スポーツマッサージはコンディション調整だけでなく、障害の予防・治療、リハビリテーション等に用いられている物理療法の一つである。本授業ではスポーツマッサージの理論や作用、施術時の注意事項等を理解し、基本的な手技の習得を目指す。						
学習の到達目標						
スポーツマッサージの基本的な手技の習得を目指す。						
回	授業内容	キーワード		AL		
1	定義、概要(講義形式)	スポーツマッサージの理論や注意点		○		
2	基本的な手技	各手技の説明、二人一組で実技		○		
3	うつぶせマッサージ	背部のマッサージ		○		
4	うつぶせマッサージ	腰背部、臀部のマッサージ		○		
5	うつぶせマッサージ	下肢のマッサージ		○		
6	仰向けのマッサージ	上肢、頸部のマッサージ		○		
7	仰向けのマッサージ	下肢のマッサージ		○		
8	仰向けのマッサージ	その他のマッサージ		○		
9	側臥位のマッサージ	上肢のマッサージ		○		
10	側臥位のマッサージ	下肢、臀部のマッサージ		○		
11	側臥位のマッサージ	腰背部、肩背部のマッサージ		○		
12	全身のマッサージⅠ	腰痛へのアプローチ		○		
13	全身のマッサージⅡ	肩こりへのアプローチ		○		
14	全身のマッサージⅢ	全身のマッサージ		○		
15	まとめ	全体の総括		○		
教科書及び参考図書						
必要に応じてプリントを配布する。 参考図書：改訂版 身体運動の機能解剖(医道の日本社)、改訂版 ボディ・ナビゲーション(医道の日本社)						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：マッサージについて、シラバス、参考図書等でマッサージのイメージを持つようにすること。 事後学習（週 1.5 時間）：授業で行ったマッサージ解剖・手技の復習。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
授業内で随時確認し、対応する。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 50% 授業態度（実技に取り組む姿勢） 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	スポーツマッサージの理論や注意点を良く理解し、主訴によって手技を使い分け全身のマッサージができる。					
A	スポーツマッサージの理論や注意点を理解し、応用しながら全身のマッサージができる。					
B	スポーツマッサージの理論や注意点を理解し、全身のマッサージができる。					
C	スポーツマッサージの理論や注意点を理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	ヨガ・ピラティス [Yoga/Pilates]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実技・演習・ アクティブ・ラーニング	池田 美知子		国	NSM-S5136		
この授業に関する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
<p>ヨガ・ピラティスを体験する事で、呼吸法、ストレッチング、コアトレーニング、リラクゼーションのスキルを獲得し、自分自身のコンディショニング方法を身に付ける。</p> <p>ヨガ・ピラティスの基本を毎回、テーマを決めて学び、体調、実技内容、感想を毎回演習ノートに記入する。</p>						
学習の到達目標						
<p>幾つかのヨガのポーズ、ピラティスエクササイズをプログラミングし目的・効果・ポイントを説明しながら指導できるようになる。</p> <p>毎回の演習ノートを総括し考察することで、自分自身の心身の健康状態を把握しバランスの取れた毎日を送れるようになる。</p>						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	オリエンテーション	ヨガ・ピラティスの概論(歴史)とこの授業の目的				
2	姿勢（アライメント）	姿勢チェック(方法について知り、実際にチェックすることでせを知る)			○	
3	呼吸法	様々な呼吸法を知る(特に腹式呼吸を理解して行えるようになる)			○	
4	リラクゼーション	体ほぐし(足もみから始める準備と終わりの体のリラックスが出来る)			○	
5	ヨガの基本1	座って行うアサナ(ポーズ)			○	
6	ヨガの基本2	うつ伏せで行うアサナ(ポーズ)			○	
7	ヨガの基本3	立って行うアサナ(ポーズ)			○	
8	ピラティスエクササイズ基本1	基本姿勢・基本動作(センタリング)			○	
9	ピラティスエクササイズ基本2	エクササイズ（ローリングライカボール、ロールアップハンドレッド他）			○	
10	ピラティスエクササイズ基本3	エクササイズ（ハンマー、シザース、ハンドレッド他）			○	
11	プログラミング1	ヨガの太陽礼拝を手本に軽減法を学んでプログラミングが出来る			○	
12	プログラミング2	目的に合わせたピラティスエクササイズをプログラミングが出来る			○	
13	プログラムの指導法1	ヨガの太陽礼拝(自分のプログラム)を指導しながら発表できる			○	
14	プログラムの指導法2	ピラティスエクササイズを指導しながら発表出来る			○	
15	総まとめ	演習ノートを分析することで自分の健康状態について知る				
教科書及び参考図書						
<p>適宜、必要な資料を配布する、</p> <p>参考図書：図解 yoga アナトミー（筋骨格編、アーサナ編）、医師が教えるヨガの機能解剖学、yoga books、かんたんピラティス</p>						
準備学習・事後学習						
<p>準備学習（週 1.5 時間）：ヨガ・ピラティスについて、シラバス、参考図書等でヨガ・ピラティスのイメージを持つようにする。</p> <p>事後学習（週 1.5 時間）：授業で獲得した事を日々の生活に取り入れるようにし、自分の身体の変化を観察し記録する。</p>						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
<p>基本は授業内で随時対応し、確認する。</p> <p>Google Classroom を通して個人または必要があれば、全体にフィードバックする。</p>						
成績評価の方法・基準						
受講態度：50% 実技発表：30% 演習ノート：20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	ヨガ・ピラティスの課題を正確に示し、対象者を観察し、修正しながら指導することが出来る					
A	ヨガ・ピラティスの課題を正確に示し、指導することが出来る					
B	ヨガ・ピラティスの課題を正確に示すことが出来る					
C	ヨガ・ピラティスの課題を最低限示すことが出来る					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	キャリアデザイン [Career Design Program]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・演習・アクティブ・ラーニング	岡崎 英規・川井 明・太田 あや子			NSM-S9138		
この授業に関係する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
<p>進路に関するインターネットでのアクセス方法（ナビ登録の仕方、エントリーシートでの応募の仕方など）、就職（及び編入学、進学）活動に必要な書類の作成、面接試験対策（模擬個人・グループ面接）などを行い、進路決定する力を身につけることを目的とする。</p> <p>自分の適性を知り、各自の能力が活かせるような企業（進路先またはキャリア）を探す方法を学ぶ。</p>						
学習の到達目標						
社会人として自立できるよう職業に対する意識を高め、適した進路を選択し、決定するために必要な知識、技能を身につけることを目標とする。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	受講上の注意、授業内容と進行方法、心構え、評価方法について	オリエンテーション				
2 ~ 15	就職活動に必要な PDCA について学ぶ	就職活動情報収集（企業説明会・採用状況他）			○	
	就職活動情報収集（企業説明会・採用状況他）	履歴書				
	◎週のテーマに関わらず、下記の①～⑬の内容から、各自希望の項目を選び、受講又は作業、活動する	エントリーシート				
	① 企業検索とエントリー（パソコン利用法とエントリー方法）	個人面接				
	② 魅力的な履歴書のための書き方とポイント	グループ面接				
	③ 魅力的な履歴書のための書き方とポイント	オンライン面接（ZOOM）				
	④ 個人面接講座	作文・小論文 編入学試験				
	⑤ グループ面接講座	SPI3、一般常識・時事問題対策				
	⑥ オンライン面接講座	ビジネスマナー				
	⑦ グループディスカッション・グループワーク対策での役割やポイントなど	業界研究セミナー				
	⑧ 作文・小論文対策	企業説明会				
	⑨ 筆記試験対策	就活スキルアップ				
	⑩ ビジネスマナー（電話・メール・手紙のマナーなど）	書類作成				
	⑪ 業界研究セミナー、企業説明会	まとめ、振り返り				
⑫ スキルアップ・パソコン講習（情報処理室）						
⑬ 就職活動の終了と内定後に備えて（お礼・お詫び状の書き方と最終意思確認など）						
⑭ その他（メイクアップ講座等）						
教科書及び参考図書						
教科書：就職活動テキスト その他、必要に応じて教材用のプリントを配布						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： 各自のテーマに関する章を読み、自身で必要と思う情報を集め、まとめる。						
事後学習（週 1.5 時間）： 中途半端で終わった場合にそのままにせず課題をしっかりと終わらせ、復習する。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
提出物を添削して返却する。						
成績評価の方法・基準						
提出物（毎回の感想文、調べた資料など）80% 受講態度 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	自分に適した進路を決定する応用力を身につけている。					
A	自分に適した進路を決定する力を身につけている。					
B	自分に適した進路を決定する力のある程度身につけている。					
C	自分に適した進路を決定するために努力を要する。					

教職に関する専門教育科目

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	教職概論 [Introduction to Teacher Training]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・ アクティブ・ラーニング	伊藤 えつ子		国	NS-T2201		
この授業に関する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（中学校2種・保健体育、栄養教諭2種） ・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） ・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
教育の基礎的理解に関する科目として、教職の意義や教員の役割、職務内容について正しく理解し、教育現場に関する様々な知見を獲得するとともに、求められる教師像をイメージし教職への意欲を高める。						
学習の到達目標						
1 教職の意義、教員の役割、職務内容について十分理解している。 2 教育現場に関する様々な知見を十分獲得している。						
回	授業内容	キーワード				AL
1	教育の理念、教職の意義	教育の目的、教育基本法、教育に関する法律、教職の概念、教職の意義				
2	教職観の変遷、理想の教師像	教職観、聖職者、労働者、専門職、理想の教師像				○
3	教員の役割・職務内容	学校教育法、学習指導、生徒指導、学級経営、校務分掌				
4	教員の任用と服務	教員免許、教員配置、職種、教員の身分、職務上の義務、身分上の義務、研究と修養、法定研修等、非違行為、ハラスメント、懲戒、				
5	教員採用試験	教員採用試験の現状、筆記試験、口頭試験、論文試験、自己の試験対策計画立案				
6	教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメント)	学習指導要領、学校教育目標、学校全体の取組、計画、実施、評価、改善、各教科等指導計画、全体指導計画				
7	授業づくり、よい授業	年間指導計画、単元計画、学習指導案、教材研究、易しい内容、難しい内容、興味関心、つけさせたい力、チームティーチング、模擬授業、教育実習、ICT活用				○
8	指導と評価、学習形態	指導と評価の一体化、診断的評価、形成的評価、総括的評価、観点別評価、評定、一斉指導、グループ指導、ペア指導、個別指導、アクティブラーニング、反転授業、ジグソー法				
9	学級経営、課外活動	学校教育目標、学級目標、生徒集団、生徒一人一人の特性、生徒指導、長所を伸ばす				
10	特別支援教育	特別支援教育の理念、通常の学級の発達障害傾向の児童 6.5%、多様な学びの場、障害特性に応じた支援、自閉スペクトラム症、ADHD、学習障害、学級経営				
11	学校組織の運営（チーム学校運営）	校務分掌、教職員間の連携、共通理解、教員の専門性、マネジメント機能、管理職				
12	学校安全、学校保健、学校と地域との連携	学校保健安全計画、学校事故防止、ヒヤリハット報告、地域との連携、学校支援活動、土日の教育活動、地域の人材活用				
13	教員の心身の健康と安全	人的資源、福利厚生、メンタルヘルス、勤務時間、会議時間、休暇制度、交通安全				
14	場面指導	ロールプレイ				○
15	教職概論まとめ	集団討論				○
教科書及び参考図書						
参考図書：佐藤晴雄著、教職概論 教師を目指す人のために 第5次改訂版、学陽書房 2018 ※その他、教材プリント配布						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：各回の授業内容について参考書やインターネット等を活用して考えを整理して授業に臨む。 事後学習（週 1.5 時間）：各回実施の課題のレポートを作成する。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
次の回に課題を解説し、優良なレポートを紹介する。						
成績評価の方法・基準						
各回の課題 40%、講義への参加態度 30%、グループ活動の参加度、貢献度 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	教職の意義等について十分理解し、教育現場に関する様々な知見を十分獲得できる。					
A	教職の意義等について概ね理解し、教育現場に関する様々な知見を概ね獲得できる。					
B	教職の意義等について少し理解し、教育現場に関する様々な知見をある程度獲得できる。					
C	教職の意義等についての理解や、教育現場に関する様々な知見の獲得に継続的な努力を要する。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	教育原理 [Principles of Education]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・ アクティブ・ラーニング	村井 輝久			NS-T2202		
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（中学校2種・保健体育、栄養教諭2種） ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） ・「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」を含む。						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
本講義の目的は、教育に関する歴史および思想についての基礎的な知識と、教育に関する制度的および経営的事項について基本的な知識を習得し、教師として学校現場で教育活動に従事する際に必要と思われる教育の原理を理解し、自身の考えを述べるができるようになることである。						
学習の到達目標						
教育の理念や学校教育の意義と課題などについての学習を通して、教育や学校教育の在り方についての自身の考えを分かりやすく説明することができる。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	オリエンテーション	講義の進め方、教育の意義、教育学を学ぶ意義				
2	学校の歴史	学校の歴史、近代学校、学校教育の意義			○	
3	西洋教育史 1	コメニウス、ロック、ルソー、カント、ペスタロッチ				
4	西洋教育史 2	フレーベル、ヘルバルト、デューイ、モンテッソーリ				
5	現代の学校教育の課題を考える 1	いじめ、不登校			○	
6	現代の学校教育の課題を考える 2	モンスターペアレント、英語教育			○	
7	現代の学校教育の課題を考える 3	道徳教育、SNS			○	
8	教育制度の歴史と基本原理	上構型、下構型				
9	学校教育制度の概要	教育基本法、学校教育法				
10	学校経営の在り方 1	学校教育目標、学校づくり			○	
11	学校経営の在り方 2	開かれた学校づくり、学校評価			○	
12	チーム学校 1	同僚性、協働			○	
13	チーム学校 2	学校と地域との協働				
14	学校安全	学校安全計画、危機管理			○	
15	ふりかえり	近代学校			○	
教科書及び参考図書						
参考図書：木村元ほか『教育学をつかむ』有斐閣、2019年、改訂版。 中内敏夫『教育学第一歩』岩波書店、1988年。 その他：必要に応じて、プリントを配布する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週1.5時間）：次回のキーワードの意味や関連する知識を事前に調べ学習すること。 事後学習（週1.5時間）：講義内容に関して分からなかった点については図書館等を利用して調べ、復習すること。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
学生に対するフィードバックは、オフィスアワー、または Google Classroom 等を通して行う。						
成績評価の方法・基準						
最終レポート 40%、各回に課す小レポートの内容 30%、授業課題 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	教育の理念や学校教育の意義と課題などに言及しながら、教育や学校教育の在り方についての自身の考えを分かりやすく説明することができる。					
A	教育や学校教育の在り方などについて、自身の考えを説明することができる。					
B	教育や学校教育の意義と課題などについて、調べたことを整理することができる。					
C	教育の理念や学校教育制度の種類などについて、要点を説明することができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	発達と学習の心理学 [Psychology of Learning and Development]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・ アクティブ・ラーニング	高橋 勇一			NS-T2203		
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（中学校2種・保健体育、栄養教諭2種） ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
幼児、児童及び生徒の心身の発達はどのようになされるか、発達に影響を及ぼす要因、各発達段階の特徴、発達課題等について理解する。また、学習に影響を及ぼす要因、学習の動機づけ、集団づくり、学習評価、学級経営のあり方等について、教育実践に役立つ力を身に付ける。						
学習の到達目標						
1.発達の過程及び特徴について理解する。2.学習のメカニズムを理解する。3.発達と学習の諸理論について理解する。以上の3点を基に、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を考察する。						
回	授業内容	キーワード				AL
1	発達について	教育心理学、発達観、発達・発育曲線				
2	心と記憶	心と脳、記憶の仕組み、忘却曲線、メタ記憶				
3	発達に関する諸理論	ハヴィガーストの発達課題、ピアジェ理論、エリクソン理論				
4	幼児期の発達	基本的信頼、マッシュマロテスト、愛着（アタッチメント）				
5	学童期の発達	小1プロブレム、勤勉性、社会性の発達、9（10）歳の壁				
6	青年期の発達① 青年期の特徴と課題	中1ギャップ、自我の芽生え、反抗期、アイデンティティの確立				
7	青年期の発達② 青年期の学説	モロトリアム、マージナルマン、孤独感、10代の脳と心				
8	生涯発達・ライフサイクル	ライフサイクル、中年の危機、アイデンティティの再確立				
9	知性・パーソナリティ	知性の発達、タイプ論と特性論、パーソナリティ心理学				
10	学習意欲・動機づけ	動機づけ、学習性無力感、期待効果（ピグマリオン効果）				○
11	学習理論と学習方法	S-R理論、分散と集中、自己調整学習、学習形態				○
12	学習評価	IQ、絶対評価と相対評価、ポートフォリオ、コンピテンシー				○
13	発達障害と学習	発達障害、学習障害、学習支援				○
14	学級集団と人間関係	学級集団、人間関係の測定法、学級経営、PM論				○
15	総合・まとめ	発達過程、学習と記憶				
教科書及び参考図書						
参考図書・参考資料等 和田万紀 編『Next 教科書シリーズ 教育心理学』弘文堂、外山紀子・外山美樹 著『やさしい発達と学習』有斐閣 アルマ、安藤寿康・鹿毛雅治 編『教育心理学』慶応義塾大学出版会						
準備学習・事後学習						
準備学習（週1.0時間）：参考図書やインターネット・配付資料等を通して、予習をしておくこと。 事後学習（週2.0時間）：授業の内容をよく復習するとともに、生きた知識として活用するために、さらなる探究や調べ学習を行うこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
提出された課題などにコメントを返信する。共通の内容については授業内でフィードバックを行う。						
成績評価の方法・基準						
授業参加態度・小レポートの内容 50%、授業内課題 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	発達と学習の心理学についての知識を十分に理解し、教育実践に応用できる力を身に付けている。					
A	発達と学習の心理学についての知識を理解し、実践的方法を概ね身に付けている。					
B	発達と学習の心理学の概略について理解し、実践的方法の一部を身に付けている。					
C	発達と学習の心理学の概略について最低限は理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	特別支援教育 [special needs education]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・ アクティブ・ラーニング	伊藤 えつ子		国	NS-T3204		
この授業に係る資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（中学校2種・保健体育、栄養教諭2種） ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
教職課程の科目として、特別支援教育に関する基礎的な内容を扱い、必要な知識を獲得するとともに、教員として障害のある子ども等に必要な支援や配慮を行えるようにする。						
学習の到達目標						
1. 特別支援教育の理念や現状について理解する。 2. 特別支援教育の仕組みと制度、特別支援学校の目標等を理解する。 3. 障害種ごとの特性を理解し、それに応じた必要な支援を理解する。						
回	授業内容	キーワード				AL
1	特別支援教育の理念と歴史	障害のとらえ方、ICF、ICIDH、特別支援教育に関する法的根拠、学校教育法、特別支援教育の歴史、ケース検討				○
2	特別支援教育の仕組みと制度①	障害者施策に関わる国内外の動向、障害者の権利条約、中央教育審議会報告、インクルーシブ教育システムの構築、合理的配慮、障害者差別解消法、就学基準				
3	特別支援教育の仕組みと制度②	個別の教育支援計画、個別の指導計画、校内委員会、センター的機能、特別支援教育コーディネーター、交流及び共同学習				
4	特別支援教育の仕組みと制度③	特別支援学校の学習指導要領、特別支援学校の目標、教育課程の編成、準ずる教育、自立活動、特別支援学校の学級経営				
5	障害種ごとの特性と支援①	視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、生活上学習上の困難さ、必要な支援、ICT活用、ケース検討				
6	障害種ごとの特性と支援②	知的障害、病弱、重複障害、医療的ケア児、生活上学習上の困難さ、必要な支援、ICT活用、ケース検討				
7	障害種ごとの特性と支援③	発達障害、自閉スペクトラム症、ADHD、学習障害、生活上学習上の困難さ、必要な支援、ICT活用、ケース検討				
8	特別支援教育の今後の展望	共生社会の実現に向けて、特別支援教育の課題、今後の展望、討議、発表、整理				○
教科書及び参考図書						
参考図書：特別支援教育の基礎・基本 新訂版―共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築―、独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所、2015						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：特別な支援を必要とする児童生徒が学校でどのような支援を受けているか、現在どのような障害者施策が行われているか、学校生活を振り返ったり、参考書やインターネット等を活用したりして考えを整理して授業に臨む。 事後学習（週 1.5 時間）：授業の内容を復習し、特別な支援を必要とする児童生徒に対しどのような支援が必要か、様々な視点から整理しておく。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
各回の課題や小テストについては、フィードバックとして、次回に返却し、課題や解答の解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
提出物 40%、授業参加の意欲・態度 30%・小テスト 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	特別支援教育についての知識を身につけ、十分に理解を深め、教育実践に活用できる力を身につけている。					
A	特別支援教育についての知識を身につけ、理解を深めている。					
B	特別支援教育についての概略を理解することができる。					
C	特別支援教育の概略を部分的に理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	道徳教育の理論と実践 [Moral Education and Teaching Methods]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・ アクティブ・ラーニング	高橋 勇一 ・ 村井 輝久			NS-T3205		
この授業に関する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（中学校 2 種・保健体育、栄養教諭 2 種） ・道徳の理論及び指導法						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
本講義では、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育、およびその要となる道徳科の目標や内容の要点を説明することができるようになることと、指導計画を立案できるようになることを目的とする。						
学習の到達目標						
「考え、議論する道徳」の要点をもとにしながら、道徳の授業の指導計画を立案することができる。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	オリエンテーション	講義の進め方、成績判定の方法				
2	道徳教育の歴史	教育勅語、修身、徳目主義				
3	特別の教科 道徳	考え、議論する道徳				
4	学習指導案 1	指導計画			○	
5	学習指導案 2	発問、評価			○	
6	学習指導案 3	学習指導案の作成			○	
7	模擬授業 1	模擬授業、授業研究			○	
8	模擬授業 2	模擬授業、授業研究			○	
教科書及び参考図書						
参考図書：中学校学習指導要領、小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月公示） 中学校学習指導要領解説 道徳編、小学校学習指導要領解説 道徳編（文部科学省） * 文部科学省ホームページ 中学校学習指導要領解説よりダウンロードすることができる						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：次回のキーワードの意味を事前に調べること。 事後学習（週 1.5 時間）：授業で分からなかった内容を調べること。学習指導案の作成に取り組むこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
学生に対するフィードバックは、オフィスアワー、または Google Classroom 等を通して行う。						
成績評価の方法・基準						
最終レポート 40%、グループワーク 30%、毎回課す小レポートの内容 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	「考え、議論する道徳」の要点を理解した上で、発問等を工夫した道徳の学習指導案を作成することができる。					
A	「考え、議論する道徳」の要点を理解した上で、学習指導案を作成することができる。					
B	道徳の学習指導案を作成することができる。					
C	「考え、議論する道徳」の要点を説明することができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	特別活動指導法 [Special Activities]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・ アクティブ・ラーニング	福島 邦男			NS-T3206		
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（中学校2種・保健体育、栄養教諭2種） ・特別活動の指導法						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
教員免許状取得に向けて、小学校及び中学校学習指導要領における特別活動の領域について、その特質・活動内容を学習しながら、学校教育全体における特別活動の意義について学ぶ。さらに、児童・生徒が集団や社会における役割と責任を自覚して、人間形成し自己実現して行くうえで必要となる教師の役割を十分に果たすための基礎的知識と具体的指導内容・方法を、実際例をあげながら学習し、実践する。						
学習の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育全体における特別活動の意義を理解して正しく解釈できる。 ・「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点で捉えることができる。 ・学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。 						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	授業の進め方、特別活動の目標と内容	学習指導要領				
2	特別活動と他の教科等との関連について	特別活動の位置づけ				
3	学級活動について 学級活動のねらい	学級活動、話し合い活動、合意形成			○	
4	児童会活動、生徒会活動の特質とねらい	児童会活動、生徒会活動			○	
5	クラブ活動、学校行事それぞれの特質について	クラブ活動、学校行事			○	
6	特別活動の指導の在り方について	取り組みと評価				
7	合特別活動における、家庭・地域、関係諸機関との連携について	地域との連携				
8	特別活動における取り組みの評価・改善活動	評価と改善活動				
教科書及び参考図書						
参考図書：小学校学習指導要領、中学校学習指導要領 その他：必要に応じて配布する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：授業内容とキーワードとテーマに関する情報（新聞、雑誌、インターネット等）を入手し、毎回のミニレポートに生かせるように目を通しておく。 事後学習（週 1.5 時間）：授業内容をふりかえり、復習しておくとともに、毎回配付する資料は保管しておき、いつでも確認できるようにしておく。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、毎時ミニレポートを回収し、次時に返却をする。						
成績評価の方法・基準						
毎時間の提出物・レポート 60% 筆記試験 30% 授業への積極的な取り組み 10%						
評価	成績評価別の到達度					
S	特別活動の理論を活かした指導法を十分に身に付けて、実践できる。					
A	特別活動の理論と指導法を良く理解して、実践できる。					
B	特別活動の理論と指導法を理解して、実践できる。					
C	特別活動の理論と指導法に対して基礎的な内容を理解し、実践できる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	総合的な学習の時間指導法 [Teaching Methods for the Period for Integrated Studies]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・ アクティブ・ラーニング	福島 邦男 ・ 高橋 勇一			NS-T3207		
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（中学校2種・保健体育、栄養教諭2種） ・総合的な学習の時間の指導法						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
総合的な学習の時間の意義を理解し、探究的な見方・考え方による横断的・総合的な学習とその方法について、実践的に学ぶ。実社会・実生活を踏まえた課題を決め、課題解決に向けて多角的な調査を行う為に、計画を立てて課題解決に取り組むことの重要性を理解した上で、総合的な学習の時間の指導計画の立案や評価に必要な知識・技能を身につけることを目指す。						
学習の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決して、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育むための指導計画が立てられる。 ・各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉えるための授業づくりができる。 ・総合的な学習の時間における具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価方法を説明できる。 						
回	授業内容		キーワード			AL
1	総合的な学習の時間の意義と役割		この授業の目標及び内容			
2	総合的な学習の時間の目標及び内容の定めかた		総合的な学習の時間の位置づけ			
3	学習計画の立案と指導計画について		学習計画 指導計画			
4	学習計画の具体的事例について		学習計画 取り組みの事例			
5	主体的で対話的な学びについて		アクティブ・ラーニング			○
6	探究的な学習の過程と具体的手立てについて		取り組みと評価			
7	総合的な学習の時間の評価について		地域との連携			
8	授業のまとめ		まとめ			
教科書及び参考図書						
参考図書：小学校学習指導要領、中学校学習指導要領 その他：必要に応じて配布する。						
準備学習・事後学習						
<p>準備学習（週 1.5 時間）：授業のキーワードとテーマに関する情報（新聞、雑誌、インターネット等）を入手し、毎回のミニレポートに生かせるように目を通しておく。</p> <p>事後学習（週 1.5 時間）：授業内容をふりかえり、復習しておくとともに、毎時間配付する資料は保管しておき、いつでも確認できるようにしておく。</p>						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、毎時ミニレポートを回収し、次時に返却をする。						
成績評価の方法・基準						
毎時間の提出物 60% レポート 30% 授業への積極的な取り組み 10%						
評価	成績評価別の到達度					
S	総合的な学習の時間について、その理論を活かした指導法を十分に理解している。					
A	総合的な学習の時間について、その指導法を良く理解している。					
B	総合的な学習の時間について、その指導法を理解している。					
C	総合的な学習の時間について、その指導法に対して基礎的な内容を理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	教育方法の理論と実践 [Theory and Practice of Educational Method]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・ アクティブ・ラーニング	村井 輝久			NS-T3208		
この授業に関する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（中学校2種・保健体育、栄養教諭2種） ・教育の方法及び技術						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
本講義では、授業づくりに関する知見の学習を通して、子どもの学びを深めるための授業の在り方について、自身の考えを説明することができるようになることを目指す。						
学習の到達目標						
授業づくりに関する知見をもとにしながら、子どもの学びを深めるための授業の在り方について、自身の考えを説明することができる。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方、成績判定の方法				
2	目標づくり	教育目標の分類学			○	
3	カリキュラム編成	工学的アプローチ、羅生門的アプローチ			○	
4	教育内容の意義と課題	教材研究、学校知				
5	主体的・対話的で深い学び	知識の構造化、教科の本質			○	
6	教育評価 1	絶対評価、相対評価、目標に準拠した評価				
7	教育評価 2	診断的評価、形成的評価、総括的評価				
8	まとめ	授業づくり			○	
教科書及び参考図書						
参考図書：石井英真『授業づくりの深め方』ミネルヴァ書房、2020年。 中内敏夫『教育学第一歩』岩波書店、1988年。 その他：必要に応じて、プリントを配布する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週1.5時間）：本講義のキーワードやテーマを参考にしながら、各自、教育方法論や学び論を調べ、その特徴を整理すること。 事後学習（週1.5時間）：授業の中で紹介した文献の熟読や映像資料の鑑賞を通して、授業のあり方についての自身の考えをまとめること。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
学生に対するフィードバックは、オフィスアワー、または Google Classroom 等を通して行う。						
成績評価の方法・基準						
定期試験 60%、授業課題 40%						
評価	成績評価別の到達度					
S	授業づくりに関する知見をもとにしながら、子どもの学びを深めるための授業の在り方について、自身の考えを分かりやすく説明することができる。					
A	授業づくりに関する知見をもとにしながら、授業の在り方について、自身の考えを説明することができる。					
B	目標づくりやカリキュラム編成の方法など授業づくりに関する知見の要点を説明することができる。					
C	自身が理想とする授業の在り方を説明することができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	ICT 活用の理論と実践 [Theory and practice of ICT utilization]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・ アクティブ・ラーニング	村井 輝久 ・ 八板 将明			NS-T2209		
この授業に関する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（中学校 2 種・保健体育、栄養教諭 2 種） ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
本講義では、教育における情報通信技術の活用について、その歴史的経緯、現状、今後の方向性を理解することを目指す。それとともに、本科目では、教育における情報通信技術の活用方法を学習するとともに、その技術を活用した授業や校務の在り方について立案できるようになることを目的とする。						
学習の到達目標						
教育における ICT 活用の意義と課題を考慮しながら、その技術を活用した授業や校務の在り方を立案することができる。						
回	授業内容	キーワード		AL		
1	オリエンテーション、現代社会における ICT の役割	ICT				
2	授業における ICT の活用 1	個別最適な学び、学習履歴、教育評価		○		
3	授業における ICT の活用 2	協働的な学び、学習履歴、教育評価		○		
4	特別支援における ICT の活用	視覚的な理解、入出力支援		○		
5	校務における ICT の活用	校務の情報化、情報管理		○		
6	学びを支える情報活用能力	情報活用能力、リテラシー		○		
7	情報モラルの重要性	情報モラル、セキュリティ		○		
8	ふりかえり	授業、授業づくり、ICT		○		
教科書及び参考図書						
参考図書：文部科学省「教育の情報化に関する手引き―追補版―」令和 2 年 6 月。 その他：必要に応じて、プリントを配布する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：次回のキーワードの意味を、インターネットや書籍等で調べる。 事後学習（週 1.5 時間）：授業内容について分かった点と分からなかった点を整理し、分からなかった内容について復習すること。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
学生に対するフィードバックは、オフィスアワー、または Google Classroom 等を通して行う。						
成績評価の方法・基準						
最終レポート 60%、授業課題 40%						
評価	成績評価別の到達度					
S	教育における ICT 活用の意義と課題を考慮しながら、その技術を活用した授業や校務の在り方を立案することができる。					
A	ICT を活用した授業や校務の在り方を立案することができる。					
B	教育における ICT 活用の意義と課題を説明することができる。					
C	教育における ICT 活用の意義を説明することができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	生徒・進路指導論 [Student and Career Guidance]		1			
授業形態	担当教員名				ナンバリング	
講義・ アクティブ・ラーニング	村井 輝久・内藤 郁芳			NS-T3210		
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（中学校 2 種・保健体育、栄養教諭 2 種） ・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
本講義では、学校教育における生徒指導と進路指導のよりよい在り方について、それらの意義と課題を考慮しながら、自身の考えを分かりやすく説明することができるようになることを目指す。						
学習の到達目標						
生徒指導と進路指導のよりよい在り方について、それらの意義と課題を考慮しながら、自身の考えを分かりやすく説明することができる。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	オリエンテーション(担当：村井、内藤)	授業の概要と進め方、成績判定の方法				
2	生徒指導のあり方(担当：村井)	児童生徒理解、学校の社会化			○	
3	生徒指導の事例検討(担当：内藤)	体罰、懲戒			○	
4	SNS 利用の指導(担当：村井)	情報モラル、情報リテラシー			○	
5	いじめ問題(担当：内藤)	いじめ			○	
6	学校における集団生活(担当：村井)	望ましい人間関係づくり			○	
7	キャリア教育および進路指導の理論(担当：村井)	基礎的・汎用的能力、キャリア・パスポート			○	
8	進路指導のあり方(担当：内藤)	キャリア教育の課題、キャリア教育の事例検討			○	
教科書及び参考図書						
参考図書：生徒指導提要（平成 2 2 年 3 月 文部科学省）。 江川政成編『生徒指導の理論と方法』三訂版、学芸図書、2010 年。 その他：必要に応じて、プリントを配布する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：各テーマに関する新聞記事やニュースを共有できるように準備すること。 事後学習（週 1.5 時間）：各回で使用する資料を再度熟読し、小レポートを作成すること。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
学生に対するフィードバックは、オフィスアワー、または Google Classroom 等を通して行う。						
成績評価の方法・基準						
レポート課題 50%、授業課題 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	生徒指導と進路指導のよりよい在り方について、それらの意義と課題を考慮しながら、自身の考えを分かりやすく説明することができる。					
A	理想とする生徒指導と進路指導の在り方を説明することができる。					
B	生徒指導と進路指導の意義と課題について、例を挙げながら整理することができる。					
C	生徒指導と進路指導の要点を説明することができる。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	教育相談 [School Counseling]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・ アクティブ・ラーニング	高橋 勇一			NS-T3211		
この授業に関する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（中学校2種・保健体育、栄養教諭2種） ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
教職員は児童生徒の相談役となり、学習・生活支援をはじめ、いじめ問題等の解決に向けて助言などを行っていく必要がある。この授業では、児童生徒の課題解決に向けて、助言、支援、指導していくための知識を学習し、望ましい方向に導いていく実践的方法を身に付けることを目指す。						
学習の到達目標						
1.教育相談の意義と理論を理解する。2.カウンセリングマインドを理解し、カウンセリングの基礎的技法を身につける。3.問題行動への対処の方法を学び、学級・学校全体の取り組みの方略について修得する。以上の3点を基にして教育相談に応用できる能力とスキルを身に付ける。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	イントロダクションとしての教育相談	教育相談、生徒指導との違い、学校教育相談の利点と課題				
2	教育相談に関わる心理学	人間理解、人間成長、ユング心理学、アドラー心理学、ロジャーズのカウンセリング、フロイトのフロイトセラピー				
3	カウンセリングについて	カウンセリング、カウンセリングマインド、受容、傾聴			○	
4	カウンセリングの技法・構成的グループエンカウンター	リレーションづくり、共感的理解、解決支援、構成的グループエンカウンター（SGE）			○	
5	いじめ問題の現状とその対応	発生と認知、いじめの構造、いじめ防止対策推進法				
6	不登校問題の現状とその対応	問題行動、不登校問題、養育態度				
7	学校体制づくり	教育相談体制、連携のトライアングル				
8	総合・まとめ	教育相談のまとめ				
教科書及び参考図書						
参考図書・参考資料等：文部科学省『生徒指導提要』教育図書、河村茂雄編著『教育相談の理論と実際』図書文化						
準備学習・事後学習						
準備学習（週1.0時間）：書籍（参考図書）やインターネット・配付資料等を通して、予習をしておくこと。 事後学習（週2.0時間）：授業の内容をよく復習するとともに、生きた知識として活用し、さらに探究の学習を行うこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
提出された課題などにコメントを返信する。共通の内容については授業内でフィードバックを行う。						
成績評価の方法・基準						
授業参加態度・小レポートの内容 50%、授業内課題 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	教育相談の全般について十分に理解し、教育実践に応用できる力を身に付けている。					
A	教育相談の全般について理解し、実践的方法を概ね身に付けている。					
B	教育相談の概略について理解し、実践的方法の一部を身に付けている。					
C	教育相談の概略について最低限は理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	保健体育科教育法 [Teaching Theory & Methods Physical Education]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・ アクティブ・ラーニング	杉山 仁志・辻 将也			S-T3212		
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（中学校 2 種・保健体育） ・各教科の指導法						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
中学校の教育における「保健体育科」の意義を理解し、保健体育教員としての心構えから指導計画（案）の作成、保健体育授業の内容・方法を身に付け、実践できるようになることを目的とする。						
学習の到達目標						
学習指導要領を中心とした中学校の保健体育科教員に必要な知識を理解し、習得する。						
回	授業内容	キーワード	AL			
1	体育分野 1 第 1 章 総則	総則				
2	体育分野 2 第 1 章 総則 保健体育の目標	総則 目標				
3	体育分野 3 第 1 学年及び第 2 学年 目標	体づくり運動、器械運動				
4	体育分野 4 第 1 学年及び第 2 学年	陸上競技、水泳、球技				
5	体育分野 5 第 1 学年及び第 2 学年	武道、ダンス、体育理論				
6	体育分野 6 第 3 学年 目標	体づくり運動、器械運動				
7	体育分野 7 第 3 学年	陸上競技、水泳、球技				
8	体育分野 8 第 3 学年	武道、ダンス、体育理論				
9	体育分野 9 内容の取扱い	体づくり運動、器械運動、陸上競技、水泳				
10	体育分野 10 内容の取扱い 情報機器・教材の活用法	球技、武道、ダンス、体育理論、情報機器操作	○			
11	保健分野の目標・内容	健康な生活と疾病の予防				
12	保健分野の内容	心身の機能の発達と心の健康				
13	保健分野の内容及び取扱い	傷害の防止、健康と環境				
14	指導案作成 1	保健分野、指導案	○			
15	指導案作成 2 情報機器・教材の活用法	保健分野、指導案、情報機器操作	○			
教科書及び参考図書						
教科書：中学校学習指導要領、中学校学習指導要領解説、中学体育実技、中学校保健体育						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：授業の内容に関する情報（教科書、インターネット等）を事前に読んで学習しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：毎回授業の初めに前回授業の内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
理解度確認テストを回収後、解答の解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
筆記テスト 80%、小テスト 10%、平常点（意欲・態度） 10%						
評価	成績評価別の到達度					
S	中学校学習指導要領における保健体育分野の内容を十分に理解している。					
A	中学校学習指導要領における保健体育分野の内容を理解している。					
B	中学校学習指導要領における保健体育分野の内容を概ね理解している。					
C	中学校学習指導要領における保健体育分野の内容を最低限理解している。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	授業研究 [Study of Class Teaching]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・ アクティブ・ラーニング	福島 邦男 ・ 川井 明 ・ 内藤 郁芳		国	S-T3213		
この授業に関する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（中学校 2 種・保健体育） ・大学が独自に設定する科目						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
<p>体育授業を展開するための諸条件について実践的に探究する。模擬授業担当以外の学生は生徒役となって授業を分析、検討する。グループは教員側で割り振る（部活等で経験していないものの模擬授業を担当する）。模擬授業時は各種目の専門実技教員がサポートする。</p>						
学習の到達目標						
<p>学習指導案を作成することができる。模擬授業を実践することができる。模擬授業の反省会では自分の意見を持って参加することができる。体育の教材について理解し、授業実践に活かせる。</p>						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	オリエンテーションと指導案作成の準備	学習指導要領 指導案				
2	指導案作成 1	学年、単元計画				
3	指導案作成 2	本時のねらい 発問				
4	集団行動の基本の確認と実践	集団行動 号令 指示			○	
5	体育分野領域 A 体づくり運動の模擬授業	体づくり運動の模擬授業			○	
6	体育分野領域 B 体操器械運動の模擬授業	マット・跳び箱の模擬授業			○	
7	体育分野領域 C 陸上競技の模擬授業（短距離・リレー）	短距離走・リレーの模擬授業			○	
8	体育分野領域 C 陸上競技の模擬授業（ハードル走）	ハードル走の模擬授業			○	
9	体育分野領域 E 球技の模擬授業 1（サッカー）	サッカーの模擬授業			○	
10	体育分野領域 E 球技の模擬授業 2（バレーボール）	バレーボールの模擬授業			○	
11	体育分野領域 E 球技の模擬授業 3（バスケットボール）	バスケットボールの模擬授業			○	
12	体育分野領域 E 球技の模擬授業 4（ハンドボール）	ハンドボールの模擬授業			○	
13	体育分野領域 F 武道の模擬授業	剣道の模擬授業			○	
14	反省会と今後の課題の検討 1	模擬授業の反省 採用に向けて			○	
15	反省会と今後の課題の検討 2	教員採用試験について			○	
教科書及び参考図書						
<p>参考図書：文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』平成 29 年 7 月 その 他：適宜資料を配布する</p>						
準備学習・事後学習						
<p>準備学習（週 1.5 時間）：模擬授業実施のための準備を行う。また、自分の担当以外の模擬授業からも自分の授業に活かせる点を見つけ、実際に活かすことで授業研究全般について理解を深める。 事後学習（週 1.5 時間）：模擬授業後に内容を改めて検討し、改善策を明示する。模擬授業の指導案は保管しておき、改善していく。</p>						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
各教員が授業中にコメントする他、オフィスアワーを利用して対応する。						
成績評価の方法・基準						
指導案 35% 模擬授業 35% 各回に課す小レポート 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	学習指導案を作成し、授業実践を行い、反省を通じて、授業研究全般について十分理解し、実践に活かしている。					
A	学習指導案を作成し、授業実践を行い、反省を通じて、授業研究全般についておおむね理解している。					
B	学習指導案を作成し、授業実践を行い、反省することはできるが、授業研究全般について理解できるよう努力を要する。					
C	学習指導案を作成し、授業実践を行うことはできるが、反省を通じて授業研究全般について理解できるよう継続的な努力を要する。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	教職実践演習 (中学校) [Seminar on Teaching Practice]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
演習・ アクティブ・ラーニング	福島 邦男・川井 明・村井 輝久・内藤 郁芳・伊藤 えつ子		国	S-T5214		
この授業に関する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許 (中学校 2 種・保健体育) ・教育実践に関する科目 (教職実践演習)						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
実践的指導者の育成という観点から、教職履修学生の教員としての資質・能力を育成する。そのため実習での経験や体験をもとに演習を進める。具体的には、教育実習の振り返りを行い、教員の職務・職責、学校の役割、カリキュラム開発、教科指導、学級経営の方法等について議論を深める。						
学習の到達目標						
本演習の到達目標は、①教師としての使命感や責任感を持つことができる、②教育的愛情をもって生徒を指導できる、③社会性を身につけ、他者とコミュニケーションを図ることができる、④円滑な学級経営ができる、⑤カリキュラム開発と授業を一体化して実践できる、の5つである。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	オリエンテーション	教育実習 ふりかえり			○	
2	学級活動の運営方法	学校運営			○	
3	チーム学校に必要なスキル	学校運営			○	
4	体罰をめぐる諸問題	生徒指導			○	
5	保健体育の授業分析と指導方法 (保健)	授業分析 教材研究			○	
6	保健体育の授業分析と指導方法 (実技)	授業分析 教材研究			○	
7	道徳教育における問いの立て方	授業分析 教材研究			○	
8	特別活動における対話的主体的な学び	授業分析 教材研究			○	
9	学外講師による特別授業 1	特別支援教育			○	
10	学外講師による特別授業 2	教員採用試験対策			○	
11	指導案作成	単元計画			○	
12	模擬授業およびロールプレイ発表会 1	体育実技 発問 評価			○	
13	模擬授業およびロールプレイ発表会 2	体育理論 発問 評価			○	
14	模擬授業およびロールプレイ発表会 3	保健 発問 評価			○	
15	模擬授業およびロールプレイ発表会 4	道徳 発問 評価			○	
教科書及び参考図書						
参考図書：特になし 必要な資料は適宜配布する。						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 0.5 時間) : 教育実習先での学びを反省すること、また学習指導案作成及び模擬授業の準備を行うこと。 事後学習 (週 0.5 時間) : 模擬授業を反省し、学習指導案の改善を試みる。						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
各教員が授業中にコメントする。						
成績評価の方法・基準						
レポート課題 40% 演習への参加態度 30% 模擬授業の発表 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	これまで履修してきた教職課程科目を振り返り、中学校教諭の役割や意義を理解し、教員としての資質を十分に得ている。					
A	これまで履修してきた教職課程科目を振り返り、中学校教諭の役割や意義を十分理解している。					
B	これまで履修してきた教職課程科目を振り返り、中学校教諭の役割や意義を理解している。					
C	これまで履修してきた教職課程科目を振り返り、中学校教諭の役割や意義を理解したものの、継続的な努力を要する。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	保健体育教育実習 [Teaching Practice of Physical Education]		5			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実習・ アクティブ・ラーニング	福島 邦男・村井 輝久・内藤 郁芳・伊藤 えつ子		国	S-T9215		
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（中学校2種・保健体育）、レクリエーション・インストラクター ・教育実践に関する科目（教育実習）						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
中学校において原則3週間の教育実習を受ける。そのための事前指導、事後指導を含む。事前指導では、教育実習の心構え、学校制度の理解、授業における生徒の指導方法、生徒に接する基本的な態度や技術をしっかり身に付ける。事後指導においては、実習を経験しての反省点・今後の課題を検討する。						
学習の到達目標						
学校現場において教育実習を遂行できる。学校における具体的な指導方法や指導技術を身につける。今後の課題を明らかにできる。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	教育実習の内容、及び教育実習の意義と目的	教育実習				
2	学校組織の理解	中学校の組織、役割、地域との関連、教師の仕事			○	
3	中学校の実態と教育実習生の心構え	特別授業			○	
4・5	中学校の授業参観	特別授業 学外授業			○	
6	教材と授業	教材研究			○	
7	授業計画、単元計画の立案	授業実習の方法			○	
8～10	指導計画の立案、指導案作成	学習指導案の作成			○	
11～72	中学校における教育実習（事前打ち合わせ、事後反省を含む）	教育実習 教材研究 指導案作成 研究授業			○	
73	討論	教育実習の振り返り			○	
74・75	今後の課題の検討	教員採用試験に向けて			○	
教科書及び参考図書						
教科書：教育実習の手引き（初回の授業内で配布する） その他：必要に応じて資料を配布する						
準備学習・事後学習						
準備学習：実習校の特色や教育目標など、実習校に関する情報をくまなく調べ、頭に入れて実習に臨むこと。 事後学習：毎回行った内容を授業後に整理すること。 教育実習後は、実習を通しての収穫と今後の反省点について自分で振り返り、感想文としてまとめて提出すること。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
各教員が授業中にコメントする。						
成績評価の方法・基準						
実習校における評価 50% 事前・事後指導や教職関連行事におけるレポートの内容、および提出物など 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	教育実習やその事前・事後指導を通して、具体的な指導方法や指導技術を修得し、創意工夫ある授業実践ができる。					
A	教育実習やその事前・事後指導を通して、具体的な指導方法や指導技術を十分に修得している。					
B	教育実習やその事前・事後指導を通して、具体的な指導方法や指導技術を修得している。					
C	教育実習やその事前・事後指導を通して、具体的な指導方法や指導技術を修得したものの、継続的な努力を要する。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	食教育実践論 [School Nutrition Guidance]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義 アクティブ・ラーニング	小坂 由美子			N-T3216		
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（栄養教諭2種） ・栄養に係る教育に関する科目						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
栄養教諭に必要な基礎知識を習得するとともに、児童・生徒の食行動の現状と課題について把握し、適切な指導を行うための総合的な指導力を身につける。また、給食の時間や特別活動において各教科との関連性を踏まえた学習指導案を作成し、実際の授業に活かせることができる。						
学習の到達目標						
食教育に係る全体的な計画の作成と模擬授業を実施し、教育の効果的評価方法を学ぶとともに、栄養教諭としての資質能力を身に付ける。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	食教育の意義 食育の歴史	栄養教育の目的 法規 食育政策				
2	栄養教諭の職務と給食 教師の役割	栄養教諭 給食			○	
3	児童・生徒の食教育 教科および特別活動との関わり	学習指導要領 ライフステージ			○	
4	法令・行政・諸制度 学級活動および総合的な学習の時間との関わり	学習指導要領			○	
5	児童・生徒に係る課題 学校組織の理解	学校 家庭 地域			○	
6	食生活の歴史・文化 栄養に関する指導の意義と位置づけ	栄養 専門的知識			○	
7	食に関する指導 1 栄養教育実習の課題別指導計画の立案 1	テーマ 児童・生徒の実態			○	
8	食に関する指導 2 栄養教育実習の課題別指導計画の立案 2	学習指導案 教材研究			○	
9	食に関する指導 3 指導計画案に基づいた教材作り	媒体 教材研究 ICT			○	
10	実習演習 1 教育実習の報告会	模擬授業			○	
11	実習演習 2 模擬授業	指導計画 評価規準			○	
12	実習演習 3 模擬授業	指導計画 評価規準			○	
13	実習演習 4 模擬授業	指導計画 評価規準			○	
14	実習演習 5 研究授業指導案作成・今後の課題の検討	学習評価 改善			○	
15	まとめ	栄養教諭の位置付けと役割			○	
教科書及び参考図書						
参考図書：小学校学習指導要領解説（家庭編、総合的な学習の時間編） 中学校学習指導要領解説（技術・家庭編、総合的な学習の時間編） 文部科学省 授業用プリントの配布						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：資料をもとに指導案作成、媒体作成の準備。学習指導要領を事前に必ず一読しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：評価シートの内容を指導案構成に反映させる。研究授業を想定し、学習指導案作成及び模擬授業を実施する。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
模擬授業で実施した評価シートをもとに指導案の再構成を行う。添削後グループディスカッションを行い学習効果について確認。						
成績評価の方法・基準						
平常点 40% 筆記試験 30% 指導案及び模擬授業 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	栄養教諭としての知識を活かし、指導案にそった模擬授業が展開され、指導成果について理解している。					
A	栄養教諭としての知識を活かし、指導案にそった模擬授業をする方法を身につけている。					
B	栄養教諭としての基礎的な知識を活かした指導方法を身につけている。					
C	栄養教諭としての基礎的な知識を身につけている。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	教職実践演習 (栄養教諭) [Seminar on Teaching Practice]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング	小坂 由美子・村井 輝久・伊藤 えつ子		国	N-T5153		
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許 (栄養教諭 2 種) ・教育実践に関する科目 (教職実践演習)						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
実践的指導者の育成という観点から、教職履修学生の教員としての資質・能力の育成を目的とする。そのため実習での経験や体験をもとに演習を進める。具体的には、教育実習の振り返りを行い、教員の職務・職責、学校の役割、学校栄養指導の方法、栄養指導と各教科内容との関連、カウンセリング等について議論を深める。						
学習の到達目標						
本演習の到達目標は、①教師としての使命感や責任感を持つことができる、②教育的愛情をもって生徒を指導できる、③社会性を身につけ、他者とコミュニケーションを図ることができる、④カウンセリングマインドをもって生徒を理解できる、⑤円滑な学級経営ができる、⑥カリキュラム開発と授業を一体化して実践できる、の6つである。						
回	授業内容	キーワード			AL	
1	オリエンテーション	教育実習の振り返り			○	
2	生徒理解・カウンセリング	生徒理解の方法・学校相談とカウンセリングマインド			○	
3	栄養教育 1 学校栄養指導の方法 (小学校、中学校)	学校栄養 指導法			○	
4	栄養教育 2 各教科での指導と栄養指導との関連	学校教育			○	
5	教員・学校 教員の職務と職責・学校の意味	教員の職務			○	
6	教育の最新事情 1 学校をめぐる諸問題	教育 諸問題			○	
7	教育の最新事情 2 教育改革の動向	教育改革			○	
8	教員という仕事の現状 1 学外講師による特別授業 1	教員の仕事			○	
9	教員という仕事の現状 1 学外講師による特別授業 2	教員の仕事			○	
10	発表会準備 模擬授業およびロールプレイ発表のための媒体作り	模擬授業 指導計画			○	
11	発表会準備 模擬授業およびロールプレイ発表のための媒体作り	模擬授業 指導計画			○	
12	発表会 1 模擬授業およびロールプレイ発表会 1	模擬授業			○	
13	発表会 2 模擬授業およびロールプレイ発表会 2	模擬授業			○	
14	発表会 3 模擬授業およびロールプレイ発表会 3	模擬授業			○	
15	発表会 4 模擬授業およびロールプレイ発表会 4	模擬授業			○	
教科書及び参考図書						
参考図書：原田恵理子・森山賢一編著『自己成長を目指す教職実践演習テキスト』北樹出版						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 1.5 時間)：その内容に関する図書や最新動向について入念に調査した上でレポートを作成すること。 事後学習 (週 1.5 時間)：模擬授業の評価を踏まえて指導案の再構成を行う。 この演習では、それぞれの担当教員の専門分野に関する講義を踏まえて、各回でレポートを課す。						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
教育実習で実施した研究授業及び見学した授業の内容をまとめ提出。添削後グループディスカッションを行う。						
成績評価の方法・基準						
レポート課題 40% 演習への参加意欲 30% 模擬授業の発表 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	これまで履修してきた教職課程科目を振り返り、栄養教諭の役割や意義を理解し、教員としての資質を十分に得ている。					
A	これまで履修してきた教職課程科目を振り返り、栄養教諭の役割や意義をとともよく理解している。					
B	これまで履修してきた教職課程科目を振り返り、栄養教諭の役割や意義を十分に理解している。					
C	これまで履修してきた教職課程科目を振り返り、栄養教諭の役割や意義を理解したものの、継続的な努力を要する。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	栄養教育実習 [Teaching Practice of Nutritional Education]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実習・ アクティブ・ラーニング	小坂 由美子・村井 輝久・伊藤 えつ子		国	N-T9155		
この授業に関する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（栄養教諭2種） ・教育実践に関する科目（教育実習）						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
授業の目的と概要						
学校給食を実施している小・中学校において、1週間の栄養教育実習を受け、実践的な経験を目的とする。（事前指導、事後指導を含む。）事前指導においては教育実習の心構えや児童生徒に接するための基本的態度、技術を身に付け、事後指導においては、実習を経験しての反省点・今後の課題を検討する。						
学習の到達目標						
学校現場において教育実習を行うことにより、学校教育に参加することによりその実際を知る。あわせて自らの教職に対する適性を測り、今後の課題を明らかにして、知識を深めることを目標とする。						
回	授業内容		キーワード		AL	
1	事前指導 1 栄養教育実習の意義と目的		栄養教育		○	
2・3	事前指導 2 教師の役割、仕事、近隣校長先生による講和		教師 心得		○	
4	事前指導 3 教科および特別活動との関わり		特別活動		○	
5	事前指導 4 学級活動および各教科との関わり		給食の時間 他教育活動		○	
6	事前指導 5 学校組織の理解		小・中学校組織 家庭 地域		○	
7	事前指導 6 栄養に関する知識の意義と理解		栄養 ねらい		○	
8	事前指導 7 栄養教育実習の課題別指導計画の立案 1		指導計画		○	
9	事前指導 8 栄養教育実習の課題別指導計画の立案 2		指導計画		○	
10~12	事前指導 9 指導計画案に基づいた教材作り		媒体 ICT		○	
13	事前指導 10 模擬授業		模擬授業 実践		○	
14~35	教育実習 小学校または中学校における栄養教育実習		教育実習		○	
36	事後指導 1 栄養教育実習を振り返っての反省		栄養教育		○	
37	事後指導 1 反省・問題点を踏まえての指導案作成		課題 検討		○	
38	事後指導 1 反省・問題点を踏まえての指導案作成		課題 改善点		○	
39~40	まとめ・報告会 レポート作成および教育実習の報告会		実践授業の振り返り		○	
教科書及び参考図書						
参考図書：栄養教育実習の手引き（初回の授業内で配布） 小学校、中学校学習指導要領解説（家庭編、技術・家庭編、総合的な学習の時間編） 文部科学省						
準備学習・事後学習						
準備学習：実習校の特色や教育目標など、実習校に関する情報をくまなく調べ、頭に入れて実習に臨む 事後学習：実習を通しての収穫と今後の反省点について自分で振り返り、感想文としてまとめて提出						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
教育実習で実施した研究授業及び見学した授業の内容をまとめて提出。添削後グループディスカッションを行う。報告会として1年生への発表。						
成績評価の方法・基準						
実習校における評価 50% 事前・事後指導や教職関連行事におけるレポートの内容および提出物 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	教育実習やその事前・事後指導を通して、具体的な指導方法や指導技術を修得し、創意工夫ある授業実践ができる。					
A	教育実習やその事前・事後指導を通して、具体的な指導方法や指導技術をとてもよく修得している。					
B	教育実習やその事前・事後指導を通して、具体的な指導方法や指導技術を十分に修得している。					
C	教育実習やその事前・事後指導を通して、具体的な指導方法や指導技術を修得したものの、継続的な努力を要する。					

 MUSASHIGAOKA
COLLEGE